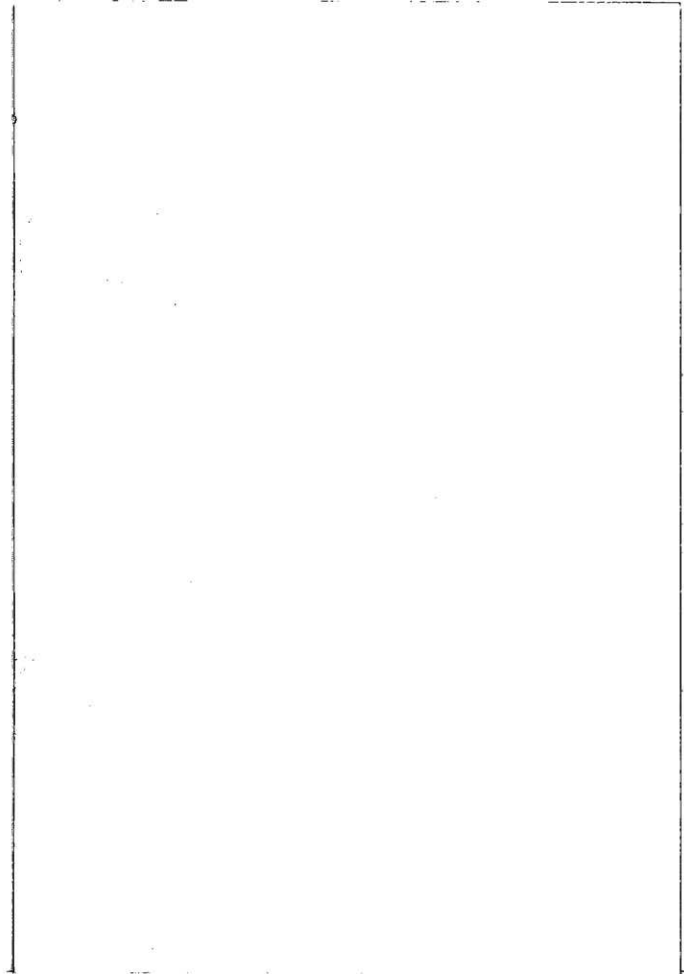


マ マ チ 遺 跡

— ママチ川障害防止工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

昭 和 57 年 度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター





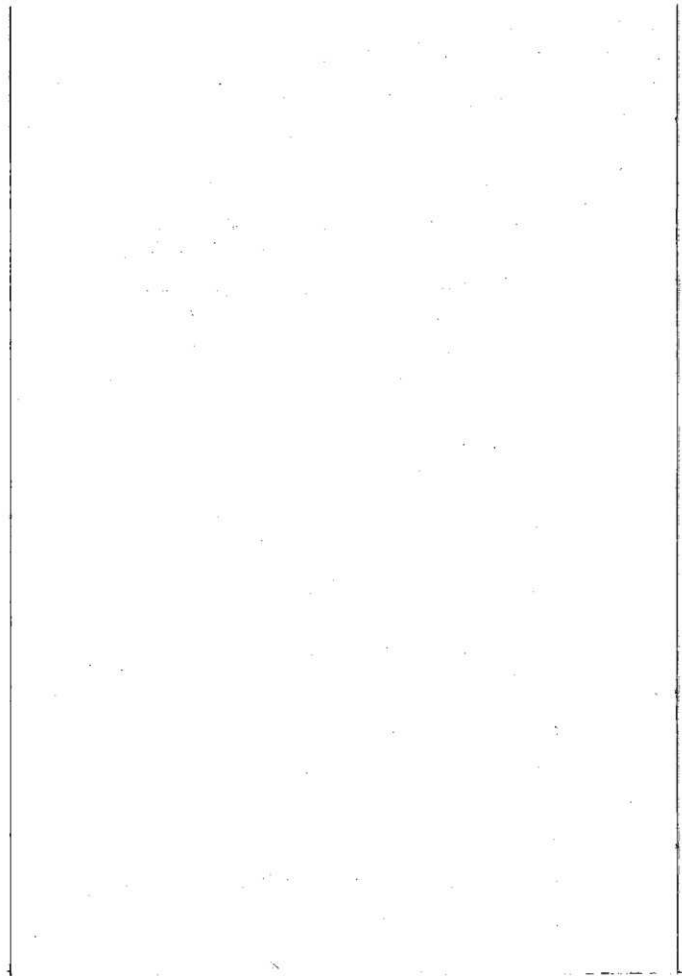
舟形土器

マ マ チ 遺 跡

— ママチ川障害防止工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

昭 和 57 年 度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



目 次

例言

I. 調査の概要	
1. 調査要項	3
2. 調査体制	3
3. 調査の概要	4
II. 遺跡の位置と環境	9
III. 発掘調査の方法と層序	
1. 発掘調査の方法	11
2. 層序	12
IV. 縄文時代の遺構と遺物	
1. 遺構	16
2. 遺物	19
V. 統縄文時代の遺構と遺物	
1. 遺構	21
2. 遺物	22
VI. 縄文時代の遺構と遺物	
1. 中期・後期	23
2. 晩期	24
1) 遺構	24
i II 黒層の遺構	24
ii I 黒層の遺構	63
2) 遺物	199
i 土器	199
ii 石器等	250
VII. まとめ	
1. 土器について	292
2. 石器について	303
付編 ママチ遺跡出土の動物遺存体	307
ママチ遺跡出土の花粉分析	311
写真図版	319

例 言

1. この報告書は、千歳市ママチ川障害防止工事用地内埋蔵文化財包蔵地の発掘調査に関するものである。

2. 本書の作成は、種市幸生（発掘担当者）・増川栄一・田口尚があたり、執筆は次のように分担して行なった。編集は、種市幸生が担当した。

I-1~3・VI-2-1)-i、-2)-i・VII-1 種市幸生

II・III 1~2・VI-2-1)-ii、-2)-ii・VII-2 増川栄一

IV・V・VI-1 田口 尚

なお、遺構・遺物の写真は、伊野正之・水上英之が担当し、図の作成は、小林雅子・工藤義衛があたった。

3. 付箋の執筆は次の方がたに依頼した。1-山田悟郎、2-西本豊弘

4. 報告書を作成するにあたり、坪井清足、沢四郎、米村哲英、藤本強、林謙作、野村崇、佐藤一夫、高橋正勝、金盛典夫、久保勝範、石本省三、石橋孝夫の諸氏には種々の御教示を頂いた。

5. 本文・図表中では以下の略号を使用した。

遺構——H：住居跡、I P：I 黒層のピット、II P：II 黒層のピット、I F：I 黒層の焼土、II F：II 黒層のピット、SP：小ピット。

岩質——Aga-Sh.：メノウ質頁岩、And.：安山岩、Bl-Mud.：黒色泥岩、Bl-Sch.：黒色片岩、Che.：珪岩、Gr-Mud.：緑色泥岩、Gr-Sch.：緑色片岩、Mud.：泥岩、Obs.：黒曜岩、Per.：カンラン岩、Pum.：軽石、Sa.：砂岩、Sh.：頁岩、Ta.：滑石、Tu.：凝灰岩。

6. 挿図の縄文時代の住居跡実測図縮尺 60 分の 1、縄文時代晩期住居跡・ピット・土器塚実測図縮尺 40 分の 1。

土器実測図縮尺 4 分の 1、土器拓影図縮尺 3 分の 1、土・石製品実測図縮尺 2 分の 1、石器実測図縮尺 2 分の 1・3 分の 1。

これ以外の縮尺のものに関しては、スケールを附した。

7. 石器の実測図で、側縁に沿って実線を入れたのは、その部分が刃つぶれ・摩滅を生じていることを示している。また図中の器面に細い線で示した部分は、調整痕あるいは使用による擦痕を示したものである。

8. 挿図中のスクリーントーンの内訳は以下の通りである。



ベングラ

焼土

骨

I 調査の概要

1. 調査要項

事業名 : ママチ川障害防止工事用地内埋蔵文化財発掘調査
事業委託者 : 北海道札幌土木現業所
事業受託者 : 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
遺跡名 : ママチ遺跡 (北海道教育委員会登録番号 A-03-79)
所在地 : 北海道千歳市真々地 4 丁目 389-138、878-6
調査面積 : 昭和 56 年度-1,370 m²、昭和 57 年度-1,630 m² 計 3,000 m²
調査期間 : 昭和 56 年度-昭和 56 年 7 月 1 日～昭和 57 年 3 月 31 日
昭和 57 年度-昭和 57 年 7 月 1 日～昭和 58 年 3 月 25 日

2. 調査体制

財団法人 北海道埋蔵文化財センター 理事長 浅井理一郎
業務部長 馬場治夫 (昭和 56 年度)
皆川富三 (昭和 57 年度)
調査部長 藤本英夫
文化財保護主事 種市幸生 (発掘担当者)
〃 増川栄一
〃 田口 尚 (昭和 57 年度)
調査補助員 大利俊夫 (昭和 56 年度)
〃 水上英之 (〃)
〃 小林雅子 (〃)
〃 伊野正之 (昭和 57 年度)

3. 調査の概要

この調査は、北海道札幌土木現業所によるママチ川の洪水防止工事に伴って実施されたものである。昭和54年、北海道教育委員会による範囲確認調査の結果、工事用地内に3,000㎡の埋蔵文化財包蔵地が確認されたが、計画変更が困難なことから事前に発掘調査が行われることになった。調査は、当センターが札幌土木現業所の委託を受けて、56年～57年の2か年で実施した。

遺跡は、ママチ川の右岸、標高17～18mの川岸の低平地にある。その一部は、昭和45年に道々千歳インター線建設時に千歳市教育委員会・千歳考古学研究会によって発掘調査が実施され、縄文時代の住居跡、縄文時代晩期の土壇臺等が発見されている⁴⁾。今回の調査区は、昭和45年の調査区の北に隣接していることから、これらに続く一連の遺構の検出が予想された。ただし、昭和45年度の調査では、Ta-c層直下の第II黒色土層に関しては、水はけが悪く調査不能であった。

層序は、図3模式柱状図のとおりで、遺物包含層は、第I黒色土層(以下I黒層)、第II黒色土層(以下II黒層)である。I黒、II黒両層から、縄文時代晩期中葉から末葉にかけての多数の遺構が検出された。その他に、わずかながら縄文時代、続縄文時代の遺構、遺物、縄文時代中期・前期の遺物がある。

1) II黒層出土の遺構と遺物

遺構は、縄文時代晩期の土壇が155基検出されている。住居跡はない。遺構の分布は、調査区の東半分(10ライン以東)限られ、遺物の分布とはほぼ一致する。

土壇は、大多数が円形をなし、その規模によって大小に分けられる。大小の土壇は、入り組んだ状態で分布するが、土壇どうしの切り合いはまったくない。これらの土壇は、Ta-C層を除去するとすり鉢形のくぼみとして確認することができる。

とくに、大型の土壇(径1m前後、深さ80cm)は、その落ち込みが著しい。このグループには、落ち込みの傾斜に沿ってII黒層上面に土器が密着して出土する例が多い。この大型土壇は、完形になる土器および石器の出土例が少なく、壇底からの出土遺物もないが、その大きさと土壇内に埋め戻したと思われる黄褐色ロームが堆積していること、形状がTビットとは異なる点などから、墓の可能生をもつものである。なお、この大型土壇の周辺にII黒層上面から数cm下で土壇を掘った際の排土(以下揚土)と推定される黄褐色ロームのブロックが検出されている。

小型の土壇は、遺物の出土数は少ないが、獣骨片が出土するのが特徴である。このグループのなかには、焼骨片を含む焼土を壇底に入れている例もみられる。

小型の土壇の用途は、今のところはっきりしないが、土壇のまわりに点在する焼土との関係を考慮する必要があるだろう。

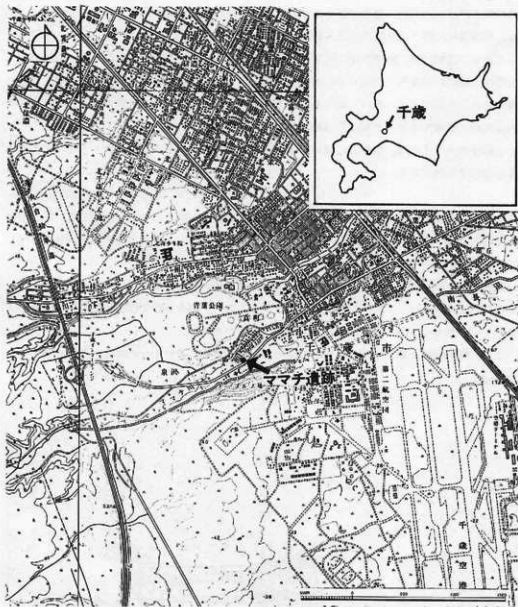


図1 遺跡の位置

(この図は国土地理院発行の2万5千分の1の地形図『恵庭・寿都・胆振・蘭越・千歳』を複製したものである。)

焼土は、48か所で検出され、すべて石組みをもたないもので、その分布範囲は1m内外である。焼土中に含まれる骨片は、シカ、ヒグマなどで、イノシシの骨は発見されなかった。当遺跡の焼土群は、土壌内に焼土が放りこまれていること、動物の骨が検出されていることなどから、葬送儀礼に伴う可能性も考えられる。

これらの遺構には、晩期中葉に位置づけられるⅠ群・Ⅱ群土器が伴出している。遺構に伴う土器は、墳口に密集して分布するが接合した結果、復元できる例は極めて少なかった。また、復元された土器のほとんどは、底部を欠いている。このように、出土状態と復元された土器のあり方から推測すると、土器は意図的に割られているようである。

土器片のまとまりは、土壌群の間から2か所検出されたが、そのなかには、土壌内出土の土器と接合する例がある。

土器は、在地系の縄線文・円弧文に代表される土器と亀が岡系の土器が出土している。前者が圧倒的に多く、その器種組成は深鉢・鉢・浅鉢で、壺はない。後者は壺・鉢・浅鉢で、粗製の土器はない。

石器は、土壌外は少なく、土壌内から出土する量が多いが、土器に比して相対的に少ない。土壌内出土の石器は、剥片石器と礫石器の比が5:2で、剥片石器には不定形の剥片およびスクレイパーが多く、礫石器には石斧の欠損したものが多い。

なお、縄文時代前期、中期の遺物は、極めて少量であり、それぞれの時期の遺構も検出されなかった。

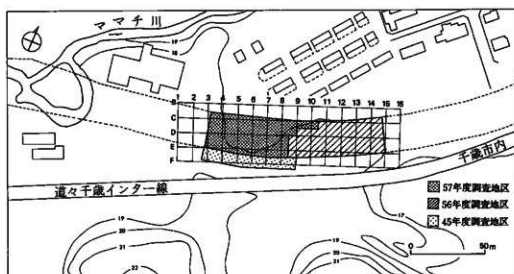


図2 遺跡周辺の地形と調査地区

2) 第Ⅰ黒色土層の遺構と遺物

遺構は、縄文時代の住居跡1軒、土壇1基、縄文時代の土壇1基、縄文時代晩期の住居跡1軒、土器塚が1か所、土壇が500基検出された。

縄文時代晩期の遺構は調査区全域に分布するが、低平地の舌状部（調査区の中央部）にとくに密集する。土器塚は密集する土壇群に接しており、その東側の一定範囲からは土壇がまったく検出されていない。以下、Ⅱ黒層との対比で、Ⅰ黒層晩期の遺構・遺物について述べる。

① Ⅰ黒層上面は、Ⅱ黒層と異なっており、調査区の大部分が攪乱を受けている。プライマリな層は、E-8・9区に限られる。

② 土壇の分布に関していえば、Ⅱ黒層においてはまったく検出されなかった調査区の西側（10ライン以西）に、おびただしい数の土壇が出土していること。

③ 遺構に伴う土器は、Ⅱ黒層出土の縄線文・円弧文をもつ土器が極端に減少し、平行沈線文および蛇行沈線文をもつ土器が主体を占めている。後者は、それぞれタンネットウL式・鳩山式に相当する土器である。その器種組成は、深鉢・鉢・浅鉢に加えて、舟形土器が出現してくる。

なお、これら在地系の土器以外に亀が陶系土器が出土している。

④ Ⅰ黒層では、住居跡と土器塚とが新たに検出されている。土器塚には、数多くの焼けた獣骨片がみられ、土壇出土の土器と接合する例もあることから祭祀的な性格をもつものであろう。

⑤ 土壇は、Ⅱ黒層と同じように大中小の規模のものがある。新たに、柱穴状の小ピットが検出されたが、その性格は不明である。大型土壇は、その規模もⅡ黒層のもつものと同じである。揚土の存否はⅠ黒層の大部分が攪乱を受けていたことによって不明である。小型土壇もⅡ黒層のものと大差はない。

⑥ 石器の器種組成は、基本的にはⅡ黒層と同じであるが、Ⅱ黒層には少数であった無茎の石鏃・ナイフ状石器・厚手の石斧が多くなる。

注) 「ママチ遺跡」北海道千歳考古学研究会、北海道千歳市教育委員会 昭和46年

表1 遺構数一覧表

	住居跡	土壇墓	土壇	土器塚	小ピット	焼土跡
I 黒層	2	1	530	1	229	33
II 黒層			155			48

表2 出土遺物一覧表

名称	分類	I 黒層		II 黒層		名称	分類	I 黒層		II 黒層	
		遺構	包含層	遺構	包含層			遺構	包含層	遺構	包含層
土 器	縄文中期				16		III B 3	141	276	2	20
"	晩期I群			47	68		III B -	504	380	3	23
"	" II群			119	241	石 斧	WA 1 a	11	15		1
"	" III群	421	921				WA 1 b	5	10	2	4
"	" IV群	341	736				WA 2 a	3	14	1	3
"	" V群	56	141				WA 2 b			2	3
"	続縄文	12	6				IV A -	2		2	2
"	縄文	4	13			石 の み	IV B	1	2		
	不 明	23,643	56,119	6,211	2,344	たたき石	V A 1	10	16		2
	小 計	24,477	57,936	6,377	2,669		V A 2	4	8	1	2
石 鍬	IA 1 a	46	147		2		V A 3		6		1
	IA 1 b	72	169		1		V A -	1	12	1	3
	IA 2	20	39			台 石	V B	1	4		
	IA 3	26	41	14	28	すり石	VI A	2	4		4
	IA -	40		1			VI A -			2	
石 槌	IB 1	1	1	2		石 罫	VII A -				1
	IB 2		1		2	砥 石	VIII B 1	13	8		
	IB -		3		3		VIII B 2	4	9		
石 鏃	II A 1	9	25	3	4		VIII B -	4	8	3	1
	II A 2	2	3			石 鏃	VIII A A	1			
	II A 3	1				石 槌	IX A	12	124		2
	II A -		4			フレイク・チップ	IX B	5,255		218	902
ナイフ状石	III A 1	12	25	2	1	加工痕・使用痕のあるフレイク	X A	284	625	23	80
	III A 2	2	3			加工痕・使用痕のある電	X B			3	
	III A 3	1			1	標		530		335	7
	III A -		4	1	3	土 製品		1	1		
フレイバー	III B 1	4	12		1	石 製品		1	2	1	
	III B 2	40	31		18	棒状原石		18	20		

II 遺跡の位置と環境

ママチ遺跡のある千歳市は、道央ベルト地帯とも呼ばれる、札幌～苫小牧低地帯のほぼ中央に位置し、交通・運輸上の拠点都市である。市域の西部は、洪積世の火山砕屑岩台地で、東部には沖積平野が広がり、支笏湖を水源とする千歳川が、平野部に出るところに市街地が発達している。

千歳川は、火山砕屑岩台地を開折しながら、ほぼ真東に流路をとり、上流部で苗別川、市街地付近でママチ川、祝樽川等を集め、平野部に出ると北に流路を変え、夕張川、石狩川と合流して日本海に注ぐ。一方、千歳市南部に水源をもつ美々川は、ほぼ直線的に南流して太平洋に注ぎ、勇払川、安平川などとともに、低地帯南部の勇払原野を形成している。

千歳川と美々川との最接近箇所は、わずか数 km 距っているだけで、江戸時代においても、「シコツ越」、「ユウフツ越」等と呼ばれ、日本海と太平洋を結ぶ内陸交通路として重要な位置を占めていた⁸⁾。

また、長見義三の「ちとせ地名散歩」によれば、ママチは、メモチ (mem-ot-i) の訛ったもので、泉地だらけのもの (川) という意味があり、サケ、マスの好漁場で、シコツ 16 場所に数えられた上、下ママチの 2 場所があったという。

先史時代にあっても、河川が身近にあることは、交通の面からも、食料確保の面からも必須の条件であり、それは、これらの河川の流域に先土器時代から近世にいたる数多くの遺跡が残されていることからわかる。

ママチ遺跡は、千歳市南西部の山地に源を発するママチ川の、標高 17~18 m の低平地にあり、後背は標高 30 m ほどの丘陵である。遺跡のあるところは、千歳川との合流点から約 2 km さかのぼった地点で、ママチ川が平野部に出る直前にあたる (図 1, 2)。

また、この地域は、西方約 20 km にある支笏火山等の噴出物に厚く覆われたところである。洪積世末期の支笏カルデラ形成時の軽石流堆積物が地形の骨格を形づくり、その上層をカルデラの外輪山である恵庭岳、樽前山等の噴出物が覆っている。このうちの樽前山は、現在も活動を続けている活火山で、江戸時代には少なくとも 2 度の大噴火があったことが記録に残されている。また、縄文時代末期にも多量の火山灰を降らせており、ママチ遺跡では、層厚約 30 cm の樽前 c (Ta-c) 層によって、晩期後半～末葉の遺物包含層が二分されている (図 4)。

ママチ遺跡は、後述のように晩期後半の墓地である。調査の限りでは、居住地との関係は明らかでないが、土壌墓の数からみて、近くに大きな集落があったものと思われ、人びとはママチ川に頼って生活していたにちがいない。興味深いのは、氾濫の危険のある低地に墓がつくられたこと、そして、多量の降灰で集落が破壊された後も、再び同じ場所が墓地として選ばれたことである。

注)「津軽一統志」享保 6 年 (1731) 等による

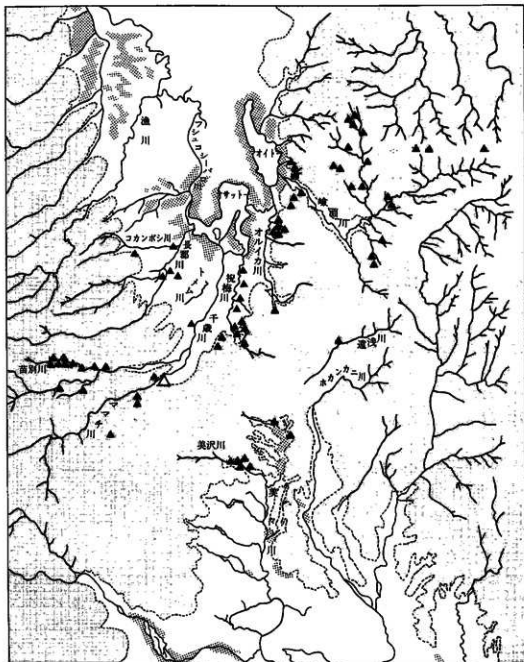


図3 千歳市における縄文時代晩期遺跡の分布
(千歳市文化財調査報告(1979)の図1から抜粋し、手を加えたものである。破線は標高20mのコンター)

III 発掘調査の方法と層序

1. 発掘調査の方法

2か年に亘る発掘調査は次の手順で行なった。①発掘区の設定 ②包含層トレンチ調査 ③包含層調査 ④遺構調査 である。この順で調査内容を説明する。①発掘区の設定にあたっては、帯状に伸びる工事用地の南北両境界線のうちL-6とR-5とを結ぶ線を中心線として基準とした。L-6からR-5に向って、10 m間隔に直交させた線には、アルファベットを付し、中心線に対し平行な線には算用数字をもって表わした。発掘区の設定にあたっては、遺跡の広がりや予測して、調査区域のほぼ中央にあたるL-6をCラインと9ラインの交点とし、全体的には10~20 m広げてメッシュをかけた。具体的には、ほぼ南北方向の中心線を9ラインとして、西から東へ1, 2, ..., 16, これに対し直交する線は北から南へB・C...Fとした。これら2直線の交点を、それぞれのアルファベット・算用数字を冠して、例えばD-9区とし、その東側の10 m×10 m方眼を大発掘区とした。更に、これを5 m×5 mの方眼に小分割し、逆時計まわりに、a, b, c, dと表わし、調査の基本単位である小発掘区とした。

包含層調査に入る前に、本遺跡が水位が高く、また地盤がロームで排水しにくいことから、旧河道を利用して、排水溝を設け、調査区外の東側160 mほど伸ばして現ママチ川に排水するようにした。これは、昭和45年度調査で包含層が冠水し水位が下がらなかったため、II黒層調査ができず、I黒層調査でも困難をきわめたことと、また今回の調査期間が夏期~秋期であるため気候的に降水量の増加が予想されたため準備したものである。排水溝の設置により今回の調査は大きな障害もなく、I黒層・II黒層調査が行うことができた。

②包含層トレンチ調査は、予想外にI黒層がプライマリーに存在していないことから、トレンチによってI黒層の厚さと遺物の濃淡を把握するために実施した。その結果、火山灰が混じり固くしまっているにもかかわらず遺物が多いことと、遺構がI黒層の下位か火山灰層上面で確認されることが判り、極力I黒層中での遺構の検出できるよう注意しながら、包含層調査にはいった。II黒層はプライマリーのため、トレンチ調査は行なわなかった。

③包含層調査では、遺物の出土状態に応じて、一括出土のものは遺構との関連を考慮し、散出するものは小発掘区単位で取り上げ、必要に応じて出土状況図・写真撮映を行った。

④遺構調査では、I黒層が先述した状態のため、大半がTa-c層上面でプランを確認したものである。

なお、II黒層では、土壌のプランがII黒層上面で陥没した状態で確認でき、I黒層のそれとは大きく異なる。これは、土壌が完全に埋め戻されていないために凹地となっていると思われる、出土遺物もI黒と比べて少ない。土壌は、II黒層中かEn-aローム層中まで掘り込まれ、その揚土が土壌周囲に広がり、一部土壌内に流れこんでおり、複数の土壌が隣接するところ

はこの揚土の堆積状態（重複・上下関係）より、それらの新旧関係がわかると考え、調査はあげ土に重点を置いて行った。なお、土壌・遺物出土状況の実測に試験的に簡易ステレオカメラを導入した²¹⁾。

以上、調査の流れは①～④の手順で行なった。

2. 層序

先に述べたように本遺跡は川岸の低平地に位置する。従って図 1 に示すような標準層序をとりながら、水の影響または人為的改変により攪乱を受け、帯状の発掘区でも層序のあり方が一様ではない。図 4 の土層図は調査区南側の境界線と、4・6・8ライン西側のものであり、各図を見てわかる通り土層は変化に富み、旧河道へ向う斜面の土層（6ライン）は特に層序の混乱が著しい。従って、標準層序を基本にして調査から知り得た若干の知見を加味し、人為的な盛土・攪乱等を除去して上位からⅠ～Ⅶ層に区分して扱った。なお、遺構・遺物は主としてⅢ層・Ⅵ層中から検出された。

以下上位より各層の特徴を簡単に記載する。

第Ⅰ層 表土（10～20 cm）；表層の腐植土層および一部二次堆積土を含む。

第Ⅱ層 Ta-a（10～30 cm）；白色の軽石層。噴出年代は 1739 年（元文 4 年）と考えられる。プライマリーなところは少なく、上下の土層に混在している。縄文時代の堅穴住居跡を覆っている。

第Ⅲ層 Ⅱ黒（20～30 cm）；黒色と腐植土層。本遺跡では、縄文時代・縄文時代中期および縄文時代晩期の遺構・遺物が検出されている。

第Ⅳ層 Ta-c₁（10～25 cm）；乳白色の細粒軽石層。約 2,000 年前に噴出されたと考えられる。旧河道付近では、水の影響により赤褐色に変質しているところがある。

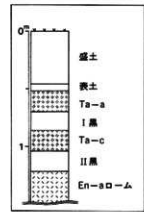
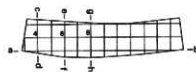
第Ⅳ層 Ta-c₁（5～10 cm）；淡橙色の軽石。第Ⅳ層上位にあり、縄文時代晩期の土壌周辺に多くみられる。調査区の中央から東側に広がり、Ta-c₁が火熱の影響を受けたものと思われる。

第Ⅴ層 Ta-c₂（10～15 cm）；暗褐色の硬い岩片とスコリアから成る。Ta-c₁との間に時間間隙はないと考えられる。

第Ⅴ層 Ta-c₂；Ta-c₂が水の影響により赤褐色に変化したものと考えられる。従って、旧河道付近に広がり、特に調査区西側にみられる。

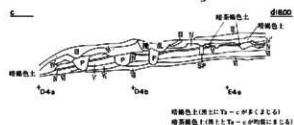
第Ⅵ層 Ⅱ黒（10～20 cm）；本遺跡の中で最もプライマリーな状態で存在している黒色の腐植土。縄文時代晩期の遺構・遺物と縄文時代中期・前期の遺物が出土している。

第Ⅶ層 En-a ローム漸移層（5～10 cm）；暗黄褐色を呈する粘質土。第Ⅵ層との境は明確ではないためこのような名を付した。なお、本層中には赤褐色に変化して軟質な Ta-d が微量混じる。この Ta-d 層は、千歳地方の台地上に分布するが、平野部では分布していない。これは、降下年代が約 9,000 年前で、当時の海面は現在より低



横断線状図

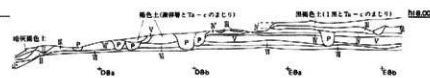
4 ライン



6 ライン



8 ライン



- I 表土
- II Ta-a
- III I 層
- IV Ta-c
- V Ta-c
- VI Ta-c
- VII 日黒
- VIII En-a ローム層
- IX En-a ローム

図4 土層図

く、平野部に堆積した Ta-d 層は、その後の縄文海進等により侵食され、その結果消失したものと考えられている²²⁾からであり、本層中の Ta-d は何らかにより残ったものと思われる。

第Ⅶ層 En-a ローム層；本遺跡の基盤をなす。En-a 降下軽石層がローム化したものである。層厚は不詳であるが 6 ラインの旧河道へ向う斜面の土層観察より 1.5 m～2 m ぐらいと思われる。なお、En-a 降下軽石の噴出年代は 13,000 年～15,000 年前と考えられている。

以上が本遺跡における土層の概略である。なお、後出する I 黒層・II 黒層より出土した土壌のセクション図の右側あるいは左側に付したローマ数字は、本文で説明した各層序に順ずるものであり、遺構の掘りこみ等を明確にする目的で表示しているものである。

注) 1. その成果については「北海道の文化」48 号 大井論文参照。

2. 千歳地域の地質 曾根・佐藤 昭 55 地質調査所 P 51-52

IV 擦文時代の遺構と遺物

1. 遺構

H-1住居跡 (図5、図6)

E-6-c, d, E-7-a, b区に位置する。平面形は、東、西両辺は3.92 mで、南辺は4.05 m、北辺3.79 mのややゆがんだ隅丸方形である。壁高は西壁の約65 cmを最高とし平均約50 cmである。南壁のはば中央にカマドをもつ。カマドを通る住居跡の軸はN-20°-Wである。

竪穴は、I黒層下位からTa-c層、II黒層、En-a層に掘り込まれ、En-a層中に床面がつくられている。また、縄文

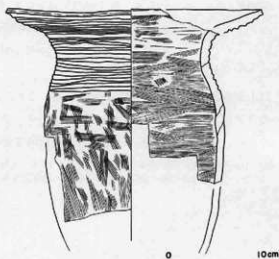


図5 H-1出土土器

時代晩期末葉の遺構P-425、P-459、P-460、P-461を切って構築されている。床面には径約10~40 cmの大小のくぼみが一面にあり、床面中央やや北寄りに深さ10~20 cmの小ピットが集中している。主柱穴は認められなかったが、壁面に添って小柱穴が存在する。上屋構造との関係が想定できる。床面にはこれらのほか炭化材と焼土、灰白色粘土をのせている。炭化材は床より5~10 cmほど高いレベルから出土しており、丸材、割材、板材に分類できる。板材と丸材が多く、北壁、西壁付近に集中している。炭化材は、住居跡中央に向けて分布する傾向がみられ、そのレベルは、壁際が高く中央が低い。このほかに、アシ状の炭化植物の集中が西側炭化材集中域とカマド横付近から検出されている。出土状況からみて床面に直接敷かれていたものではなく、上屋構造の一部(屋根材)と考えられる。また壁面に平行して出土した板材は、Ta-c層を壁としていることや小柱穴が壁に沿って存在することから土止めの板と想定できる。焼土は、5か所で検出されているがいずれも炭化材に伴うもので、床面が直接焼けたものではない。

カマドは主に灰白色粘土を用材としている。焚口部、袖部は崩壊が著しいが、焚口には焼土、袖部には灰白色粘土が確認された。左側袖部上には屋根材の一部と考えられる炭化材が見出されている。焚口部は、灰白色粘土が2枚になっており、その間に赤黒褐色で炭化物を多く含む層が存在する。2枚目の灰白色粘土の下には焼土がレンズ状に堆積している。カマド火床部は床面より低くなっている。煙道は南壁から南へ長さ1.25 m、幅0.55 mの溝を掘開して構築されたものである。溝底は床より低く、南へ向うにしたがい深くなる。南端では、床面と27 cmの

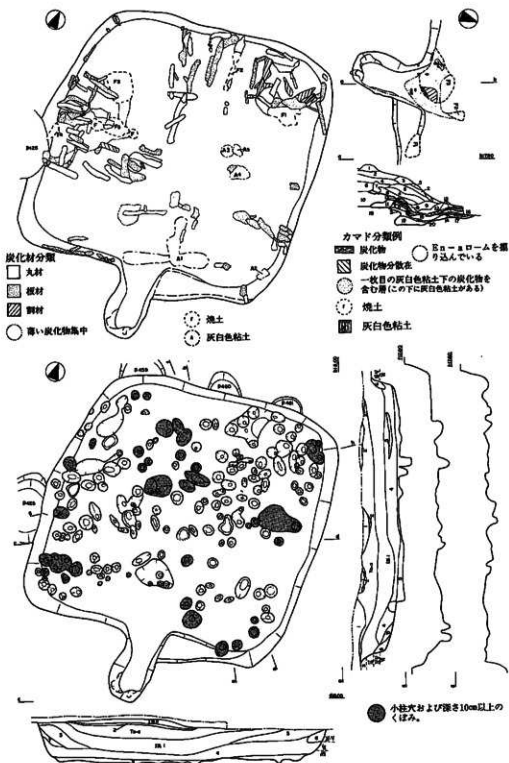


図6 H-1住居跡

差がある。このカマドは、溝状に掘開したのち灰白色粘土等を用いて煙道、天井部をふさぎ構築されたものである。焚口部においては、2枚の灰白色土の状況と2分される煙道部下位の炭化物層の状況により改築が行なわれたと想定できる。

住居跡覆土、I 黒1層（プライマリーである。）、I 黒2層（Ta-a 混じる。固くしまっている。）、1：黒褐色土層（盛土。Ta-a、I 黒が混じる。固くしまっている。）、2：Ta-a 層（やや赤味がかっている。細粒で固くしまっている。）、3：褐色土層（Ta-a、Ta-c II 黒、En-a ロームが混じる。固くしまっている。粘性がある。）、4：茶褐色土層（黒色土、漸移層土に Ta-c が混じる。粘性はない。）、5：黒色土（炭化物含む。）、6：黄茶褐色土層（Ta-c に黒色土が混じる。粘性はない。）、7：暗茶褐色土層（II 黒と Ta-c が混じる。P-425 の流れ込み。)

カマド土層、1：褐色土層（I 黒に Ta-a が多量に混じる。固くしまっている。）、2：黒褐色土層（II 黒に Ta-c₂ が多量に混じる。固くしまっている。）、3：茶褐色土層（II 黒に En-a ロームと微量の Ta-c が混じる。）、4：暗茶褐色土層（Ta-c₂ に II 黒が混じる。ボロボロしている。）、5：I 黒層、6：黄褐色土層（En-a に Ta-c₂ が混じる。粘性は少ない。）、7：En-a ロームブロック、8：Ta-c₂ 層流れ込み、9：黒褐色土（II 黒に Ta-c₂ が混じる。）、10：II 黒層、11：茶褐色土層（En-a に II 黒が混じる。）、12：黄茶褐色土層（En-a 漸移層土に Ta-c₂ が混じる。炭化物を含む。）、13：灰白色粘土層、14：赤黒褐色土層（やや焼けた Ta-c₂ が混じる。多量の炭化物を含む。）、15：灰茶褐色土（II 黒、En-a、灰白色粘土が混じる。多量の炭化物を含む。）、16：焼土①（炭化物、獸骨多量含む。）、17：焼土②（焼けた En-a）、18：褐色土層（Ta-c₂ に En-a ロームが混じる。炭化物含む。）、19：En-a ローム、20：黒色土（炭化物混じる。)

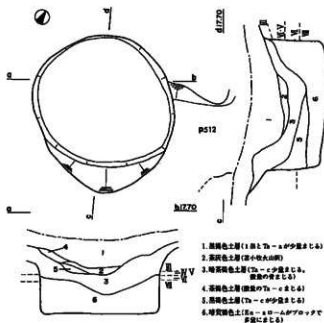


図7 P-465

遺物 (図5) は、住居跡南東隅の炭化材とはほぼ同位置、同レベルから土師器系土器が一括出土。住居跡に伴う遺物は土器1点だけである。口縁部の一部と底部は欠損している。口縁は強く外反し、頸部はくびれている、口縁部から頸部にかけては段状の横走沈線が19-21条つけられている。口唇部にも横走沈線が施され、断面は凹である。整形は胴部上部で縦横の刷毛目整形、胴部下部は縦の刷毛

目整形である。内面は、横位の刷毛目整形である。体部は、有稜であり、成形は粘土紐積み上げである。

ママチ遺跡出土の縄文時代住居跡は、昭和45年度調査においても1軒確認されている²⁾。本住居跡と同方向のカマドを持ち、時期、規模、形態もほぼ同じである。確認地点も本住居跡と近く、旧河川の湾曲部の付近であることから生業との関係も考えられる。

なお、炭化材のC¹⁴年代測定は京都産業大学に依頼し、1210±40 y.B.P. が得られた。

P-465 (図7)

E-4-a区に位置する。規模は塙口、長軸1.65 m、短軸1.28 mで、長軸方向はN-83°-Eである。やや不整な楕円形。確認面からの深さは87 cm。壁の立ち上がりはほぼ垂直である。土壌はI黒層下位から、Ta-c層、II黒層を掘り込んで作られ、En-aローム中に底面がある。また東側で縄文時代晩期の土壌P-512を切っている。本土壌に伴う遺物は確認されていない。埋土の上には茶灰色土(苫小牧火山灰)が堆積しており、末広遺跡の縄文期の土壌やウサクマイ遺跡N地点の縄文期の墓に類似した土層を呈している³⁾²²⁴。

2. 遺物

包含層出土の縄文土器(図8)

住居跡西側、旧河川岸のD-4-a、D-5-c、d区から出土した土師器系土器。1、3、5は同一個体の甕。口縁部は外反し、5~6条の横走沈線が施されている。頸部、胴部は刷毛目で縦横に整形されている。内面は刷毛目整形ののち匳けずりが施されている。2、4、6も同一の別個体で口縁部は強く外反し、頸部がくびれる甕である。口縁部から頸部にかけて9~10条の段状の横走沈線が描かれている。胴部は縦位の刷毛目によって整形され、内面は刷毛目整

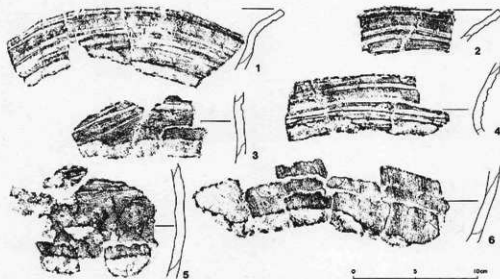


図8 包含層出土の縄文土器

形ののち横位に竈なでが施されている。これらは、住居跡出土の土器と同時期のものである。

- 注) 1. 石川 徹、佐藤 一夫 昭和 45 年 「ママチ遺跡」
2. 新井 房夫 1982 年 「末広遺跡における考古学的調査(下)」第 6 節 千歳市末広遺跡における
ごく明粒白色火山灰(富小牧火山灰)
3. 大谷 敏三、田村 俊之 1982 年 「末広遺跡における考古学的調査(下)」
4. 石附喜三男 1977 年 「ウサクマイ遺跡-N 地点発掘調査報告」

V 続縄文時代の遺構と遺物

1. 遺構

P-116 (図9、図10)

C-13-a区の南よりに位置する。Ta-c上面で確認された。規模は、墳口の長軸1.0m、短軸0.87m、墳底の長軸0.54m、短軸0.45mで長軸方向は、N-27°-E。平面形は楕円形である。

埋土は次の通り。

1：I黒層、2：黒褐色層（I黒にTa-c少量混じる。焼獣骨、炭化物含む。）、3：黄褐色土層（Ta-c₁に微量の黒土が混じる。）、4：黄褐色土層（Ta-c₂に微量の黒土が混じる。）、5：暗茶褐色土層（II黒にTa-cが少量混じる。）、6：Ta-c層（崩落土）、7：Ta-c層（崩落土）。

掘り込み面は、I黒層下位と考えられ、Ta-c層、II黒層を掘り込み、底面はII黒層にある。底面はほぼ平らである。墳口の黒褐色土は踏み固められたように硬くしまっている。規模や埋土の状態から墓墳とも考えられるが、遺体は確認されていない。



図10 P-116出土土器

仕切られた中には三角列点文が施されている。胎土には雲母、石英等の砂が多く含まれている。

続縄文時代の遺構は、昭和45年調査時にも2か所確認されている。いずれも土壌上部に土器破片がみられる。

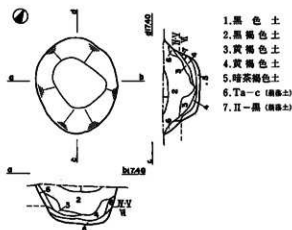


図9 P-116

遺物(図10)は、墳中やや北側に偏って1点出土。後北B式の吊耳付の壺形土器で、口縁部破片である。口唇断面はやや鋭角をなし、薄く細い擬縄貼付文が口縁に平行して3本と頸部の文様を構成する2本が付られている。

またその2本の貼付文を境に半弧を描く擬縄貼付文が対象に描かれている。半弧によって

2. 遺物

包含層出土の統縄文土器 (図11-1~4)

E-8-a、E-9-b区を中心に統縄文期の土器が出土しているが量的には非常に少ない。

1. 恵山式の土器である。直立する頸部から口縁部がやや外反し、肩部の張り出しの弱い比較的大型の甕形土器である。口唇断面は平らで外角に刻み目が巡っており、頂部には溝の刻まれた突起がある。口縁部は2本の沈線文が突起を結ぶゆるやかな弧を描き、口唇部に平行してつけられている。沈線内には刺突文が連続している。頸部には3本、肩部には1本、胴部には4本の横走沈線が施されている。胴部の沈線は横走する縄文を上2本、下2本でかこっている。全体の施文は縦走する縄文である。

2、3、4は別の同一個体である。後北C₂~D式である。口唇断面は鋭角であり、刻み目がつけられ、波状口縁の頂部に溝の刻まれた突起をもつ。口縁部には2本の擬縄貼付帯がつけられ突起を結ぶゆるやかな弧を描く。体部は三角形の列点文と帯状縄文による弧ないし、円が描かれている。

統縄文時代の遺物は、昭和45年度調査と同様に少ない。石器は統縄文的要素をもつものもあるが明確ではない。

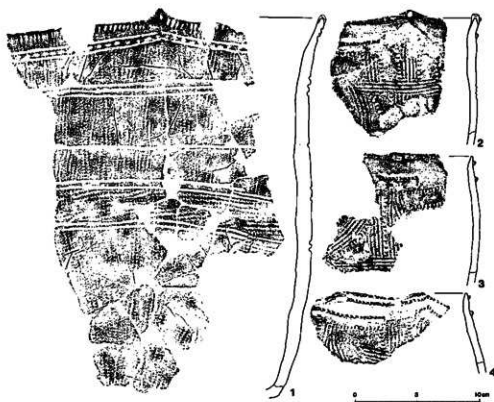


図11 包含層出土の統縄文土器

VI 縄文時代の遺構と遺物

1、中期・後期

包含層出土土器 (図12、図13-1~12)

同時期の住居跡や墓墳など遺構類は一切確認されていない。土器はII黒層下位から出土している。

図12の土器は、P-333の底面下のEn-aの漸移層中からまとまって出土。P-333構築の際に口縁部、胴部の半分は破壊されたものと思われる。口縁部には貼付文をもち羽状縄文が施文された円筒式土器である。焼成良好、砂粒を含み、黄褐色を呈する。

図13の1は、口縁部に刻み目が施された貼付帯が斜めに付けられた円筒上層式土器

である。焼成は良好。胎土に砂粒を多く含み、茶褐色を呈する。図13の2は、口縁部に2本の貼付体をもち、連続する突引文が施された円筒上層式土器である。焼成は良好。胎土は砂粒を

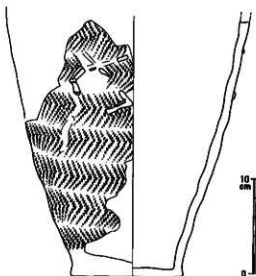


図12 包含層出土土器 (1)

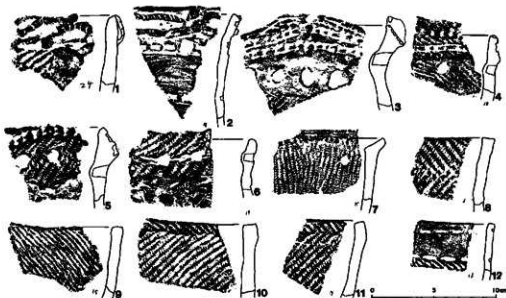


図13 包含層出土土器 (2)

含んでおり、黒褐色を呈する。図13の3、4、5、6は、口縁部に肥厚帯をもち、肥厚帯上に連続の押引文がつけられている。肥厚帯には凹形刺突文が巡る。北筒式土器群である。焼成は良好。砂粒を含み、褐色を呈する。図13の7、8、9は、平らな口縁部をもち、斜行縄文が施された糸口式、入江式に類する土器群である。焼成良好。黒褐色を呈する。図13の10は、平縁で幅3cmの無文帯をもつ口縁部には押引文が施されている。焼成良好、多量の砂粒を含み、褐色を呈する。

2、晩期

1) 遺構

i. II黒層の遺構

本層から出土した遺構の主なもの、プランが大部分円形あるいはそれに近い形で径1.5m～0.3mの規模におさまる土壌である。その深さは、0.6mを超えるものはない。その他に、焼土が48か所検出されている。住居跡は、ない。

土壌は、径、1m前後のものを大型土壌と呼び、それ以下のものを小型土壌とする。大型土壌は、大部分がTa-c層除去後の鉢状の凹みをなし、II黒層を特徴づけるものなので、他から区別して取り扱うことにした。なお、この両者の埋土の層名についてふれておきたい。土壌内に埋め戻された土は、Ta-c層直下に堆積するII黒層、漸移層、En-aローム層を掘り起こした後再度埋め戻されたものである。そこで、一担掘り上げられた土（以下揚土という）は、II黒（黒色土）とEn-aローム（黄色土）とを別々に置かないかぎり、両者が入りまじる可能性が大きい。そこで、En-aロームの含有量の多い順から黄色土、黄褐色土、茶褐色土、黒褐色土、黒色土とした。それらの土に異質なものが含まれる場合は、()に獸骨片、木炭片、ベンガラ等を記載することにした。なお土壌の凹みに堆積する黒色土で自然堆積とわかるものについては、()にII黒と記載し、埋め戻された黒色土とは区別した。

遺構の分布は、概要で述べた通り、調査区11ライン以東に分布は限られる。大型土壌は、揚土の分布と一致するが大きくとらえると2つのグループにわかれて分布する（図194参照）。ひとつは、縦軸13ライン以東に環状につらなって分布する。もうひとつは、横軸Eライン以南に分布すると思われるものである。しかし、調査区以外にその分布が広がっているのものでその全容は不明である。前者の環状に囲まれた空間には焼土が12か所、「一括土器」が10か所に点在する。他方、縦軸12ライン以西には、土壌の分布は疎であるが焼土および「一括土器」がやや密に分布する。そして、縦軸13ライン以東の大型土壌群と縦軸12ライン以西に分布する焼土群との間にはさまれた空間には主に小型土壌が分布する。

大型土壌（図14～19）

本土壌は、先に述べたようにTa-c層を除去した時点で大部分が大きな凹みを残していた。その土壌の周辺には、揚土と考えられる黄褐色土のブロックが分布する（写真図版1）。

土壌内の埋土の堆積状態を観察すると、傾向として中央部がへこみ、墳底に黄色土あるいは

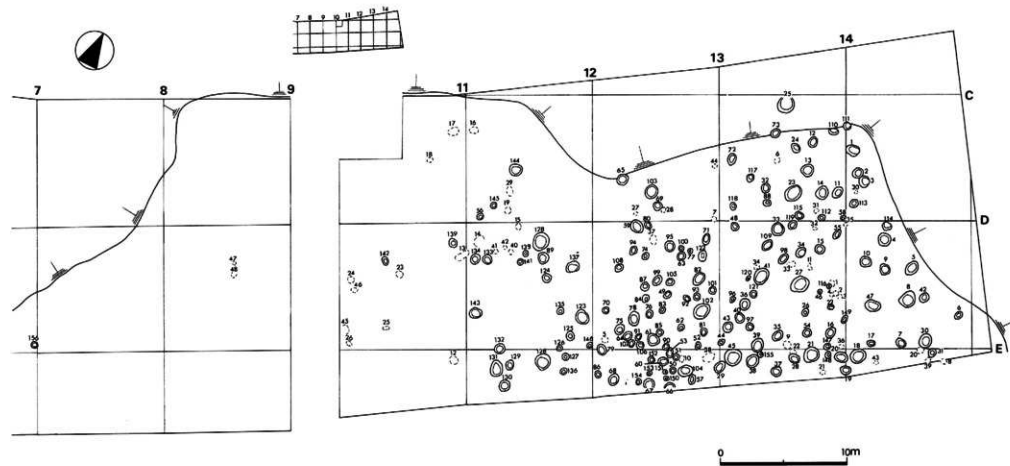


図14 II黒層の遺構位置図

黄褐色土が厚く堆積し、その上に茶褐色土または黒褐色土が、そして最後に黄褐色土が土壌の両層あるいは一方の層から流れ込んでいる。中央のくぼみに里色土（Ⅱ黒）薄く堆積している例が多い。その他では、ⅡP-9のように墳底に厚さ20cmの黄褐色土がほぼ水平に堆積し、その上に揚土と連続する黄褐色土が両層から流れこんでいる例、あるいは、ⅡP-25のように黒褐色土が堆積する例などがある。この埋め戻しの土と遺物の出土状態は次の通りである。

遺物は、主に土器片である。ひとつは、土壌の壁のへりに土器片がかたまつて出土するもの（ⅡP-10、-20、-39、-41）もうひとつは、墳口中央に土器片が密集するもの（ⅡP-128）である。これ以外の土壌は、少量の土器片がバラバラと散布する例が多い。墳底から出土する例はない。

前者・後者とも上層の黒褐色土あるいは茶褐色土から出土する傾向をもつ。例えば、ⅡP-45のようにTa-c層直下の黒色土上面に土器片が貼り付いた状態で出土している（写真図版）。

このケースは、Ta-c層を除去するとすぐ顔をのぞかせていたので單位位置をとめている可能性が高い。なお、墳口、墳中から出土する土器は、底部が極めて少なく、口縁、胴部破片が圧倒的に多い。さらに、これらの土器片は接合作業を通じてわかったことであるが復元出来た例は少ない。

これらは土器片とともに獣骨片、炭化物が見られる。獣骨片は大多数の本土壌の埋土中（特に黒褐色土、茶褐色土中に含まれるのが多く、黄褐色土、黄色土には少ない）に含まれるが、その量は少ない。獣骨片は、火を受けて白くなったシカの骨で大きい破片は少なく、破片が多い。その出土状態は、黒色土上面あるいは黒褐色土中に混じって出土する。黄褐色土、黄色土には含まれていない。また、獣骨片が大量にかたまつて出土する例もない。なお、稀に土壌の壁に棚状になった骨片が付着して出土した例（ⅡP-128、-131）がある。骨片が、人骨片なのかどうかは鑑定できなかった。

炭化物は、粉末状のもので炭化材状の例は検出されなかった。主に黒褐色土上面に散布し、かたまつて出土する例はない。なお、大型土壌の墳底にベンガラが敷かれている例はひとつも検出されなかった。最後に、大型土壌と焼土との関係について述べる。

大型土壌と焼土との関連が明瞭にわかる例は、ⅡP-144のみである。当土壌は、墳底から焼土のブロックが検出された。焼土は、墳底一面に広がり、その厚さは10cmで固くしめる。焼土中には、獣骨片、土器片、石片などは含まれていない。焼土と墳底との間に一枚黄褐色土が薄く堆積している。また、墳底は焼成を受けていない。なお、当土壌は、プロフィールがやや浅皿状になる点、他の大型土壌と異なる。

大型土壌のうち、ⅡP-144を除く他のもので、墳口が焼けている例は検出されなかった。ただ、大型土壌の傍の黄褐色土（揚土）の上面に焼骨片、炭化物が散布している例があるので、あるいは、土壌の傍で火を使用した可能性も考えられる。

大型土壌のなかで、明瞭な凹みをもたない例（ⅡP-23、-33、-47、-59、-61、-102、-

103、-123、-143)がある。これらは掘り込みが浅く、出土遺物は少ない。埋土は、3～4層からなり、比較的水平的な堆積をなす。土壌内に焼土が堆積する例はない。

小型土壌 (図 20～36)

本土壌も、横口部が凹むものと平坦なものがある。前者は、そのプロファイルがU形で浅皿状になる例はない。壁は、ほぼ直立する。底面は、平坦なものが多い。埋土の堆積状態は、凹みをもつ大型土壌のそれと変わらない。そのなかでも、II P-12は、一垣黒色土 (II 黒) が凹みに堆積した後、他の土壌が流れ込んで積み重なっている。II P-12は、埋土の中央に木炭片を多量に含んだ薄い黒色バンドが水平に堆積する。II P-11、-12の傍には、揚土が分布する。

横口部に凹みをもつ土壌は、土器片が散発的に分布する例 (II P-3、-7、-19)が見られる程度でまとも出土する例はない。土壌から遺物が出土する例が少ない。II P-95は、横底近くから円礫が1点出土した稀な例である。円礫には、ベンガラは付着していない。

横口部が平坦な土壌は、プロファイルが一定していない。ほぼ直立する。底面は、平坦なものが多い。浅く掘り込まれているため、ローム層まで横底が達している例は少ない。埋土は、2～3層からなり、単純な堆積をなす。本土壌は3つのグループにわけられる。第1は、土壌内に焼土が含まれている例 (II P-34、-98、-139) 第2は土器片が横口部にまとも出土した例 (II P-20、-27、-52、-75)、第3は土壌内に余り遺物を含まないもので、もっともその数が多い。

①: II P-34、-139は、粉末状の獣骨片を含む焼土が横底部にレンズ状に堆積する。横底と焼土の間には黒褐色土がはさまる。II P-98は、プラン長円形で土器片が北東壁の壁から横底にかけてまとも出土し、その土器片の上に獣骨片を含んだ焼土が堆積する稀な例である。土器は、浅鉢で火を受けた痕跡はない。

②: 土器片がまとも出土したものは、復元が可能となった例が多い。これらの土器の出土位置は、土壌の肩部から出土するもの (II P-75、-137)、横口中央から出土するもの (II P-20、-27、-52) とがある。前者のうち、II P-75は深鉢が砕かれた状態で出土、復元できたのは1/3程度で底部はない。II P-137は、東壁の肩部に折り重って出土した。後者は、折り重って出土する例はなく、バラまかれた状態で出土する傾向をもつ。

小型土壌のなかでもさらに小さい規模のもの (径 40 cm 内外) がある。この土壌も、横口に凹みをもつものと平坦なものがある。両者は、いずれもプロファイルがU字形になるものが多い。石斧が入っている例あるいは焼土、ベンガラが堆積している例はない。

「一括土器」と土壌出土の土器との関係

「一括土器」は、22か所に分布し、土壌、焼土、揚土の上面から検出される例は割合多い。しかし、土壌の傍に置かれている例は少ない。これら「一括土器」は、同一個体の破片があたまって出土する例は少い。大半は、別個体の胴部破片が寄り集って構成しているもの、同一個体ではあるが底部・胴部を欠いた口縁部破片に限られるものなどである。一個体がそのまま残っ

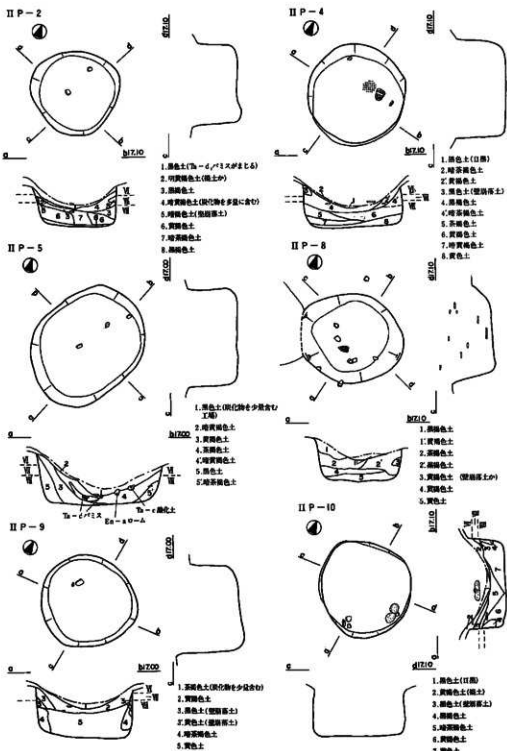
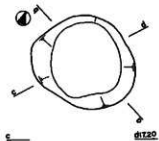


図15 II黒層の土壤 (1)

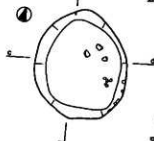
II P-13



0 100

1. 棕色土 (炭化物を多量に含む)
- 1'. Ta-c (ブロック)
2. 黄褐色土 (腐土)
3. 黄褐色土 (炭化物を多量に含む)
4. 黄褐色土
- 4'. En-a-ローム (ブロック)

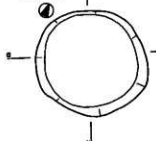
II P-14



0 100

1. 赤褐色土 (腐土がまじり炭化物を少量含む)
2. 赤褐色土 (口腐炭化物を少量含む)
3. 黄褐色土
4. 腐土 (腐敗腐土)
5. 黄褐色土
6. 黄褐色土
7. 黄褐色土

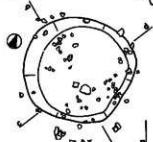
II P-18



0 100

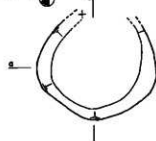
1. 赤褐色土 (口腐)
2. 黄褐色土
- 2'. En-a-ローム (ブロック)
3. 黄褐色土
4. 黄褐色土 (腐敗腐土)
5. 赤褐色土 (Ta-d-パイプが多量にまじり)
6. 黄褐色土

II P-21



0 100

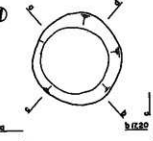
II P-25



0 100

1. 黄褐色土 (腐土が)
2. 赤褐色土 (口腐が)
3. 黄褐色土

II P-36



0 100

1. 赤褐色土 (口腐)
2. 黄褐色土
3. 黄褐色土
4. 黄褐色土
5. 黄褐色土
6. 黄褐色土

図16 II黒層の土壌 (2)

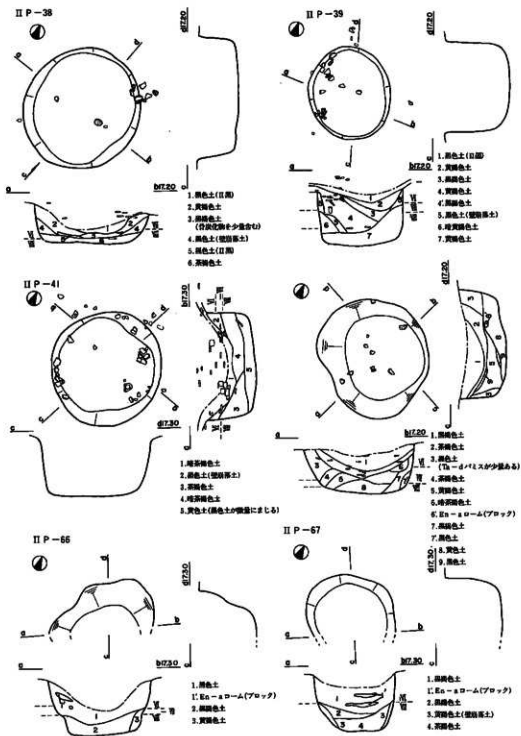


図17 II黒層の土壌 (3)

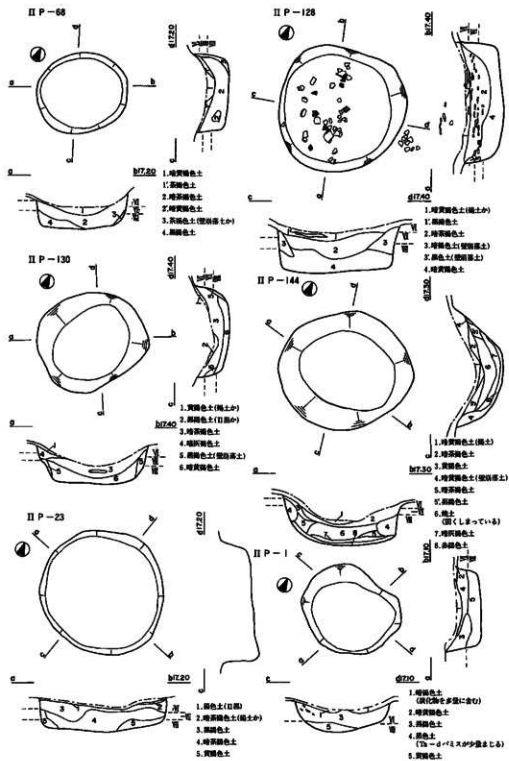


図18 II 黒層の土壌 (4)

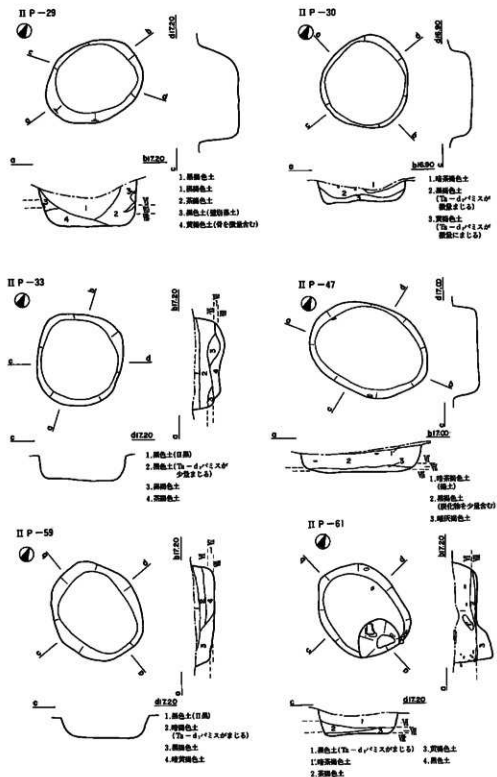


図19 II黒層出土の土塊(5)

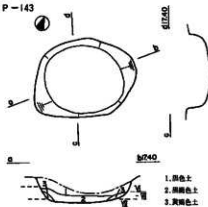
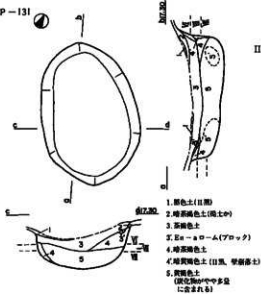
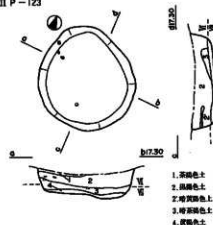
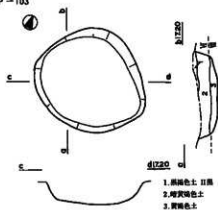
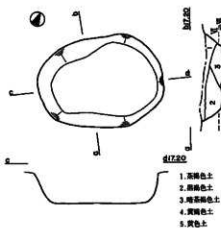
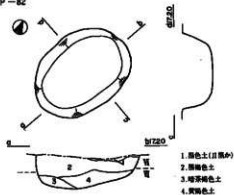


図20 II黒層の土壌(6)

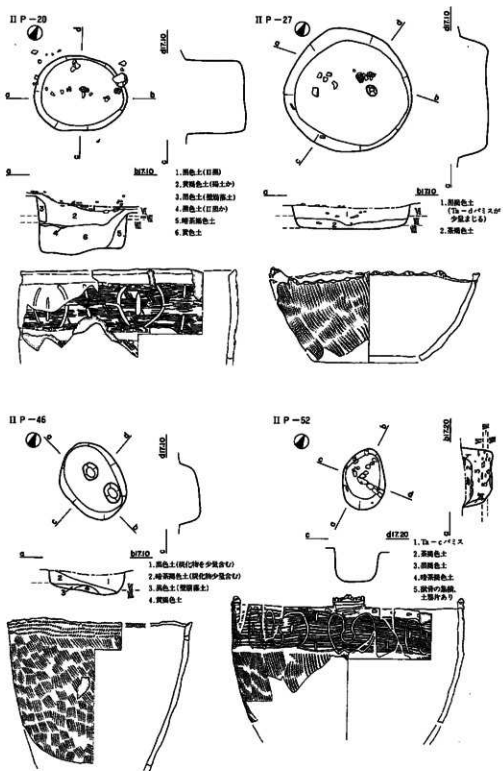


図21 II黒層の土壌 (7)

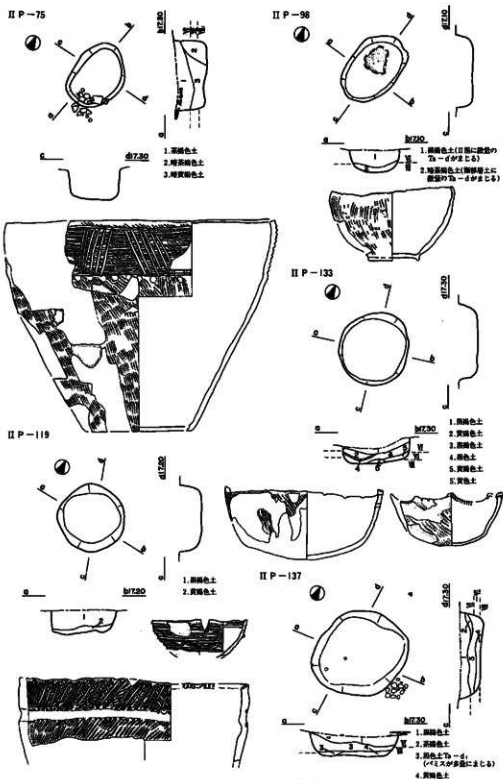
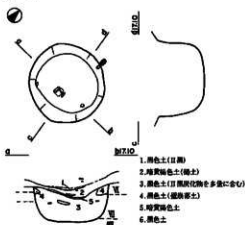
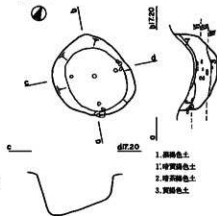


図22 II黒層出土の土壌(8)

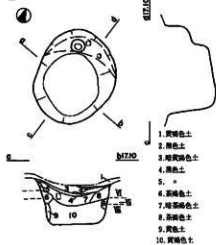
II P-3



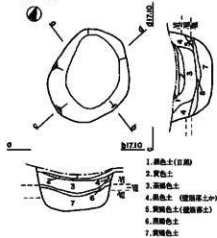
II P-7



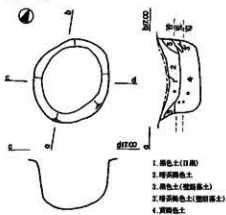
II P-11



II P-12



II P-16



II P-19

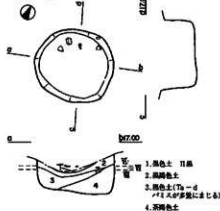
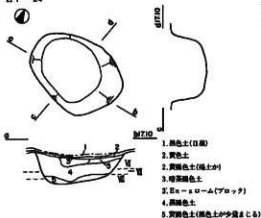
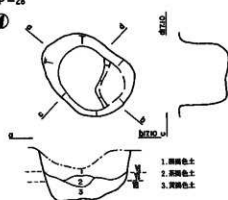


図23 II 黒層出土の土壌 (9)

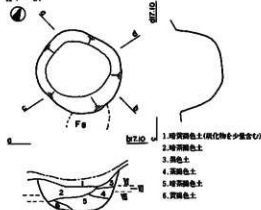
II P-24



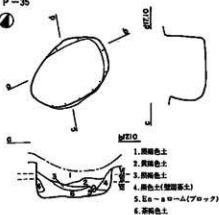
II P-28



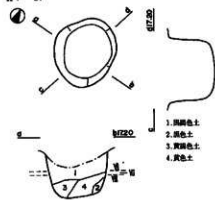
II P-31



II P-35



II P-37



II P-40

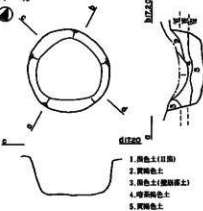


図24 II黒層出土の土壌 (10)

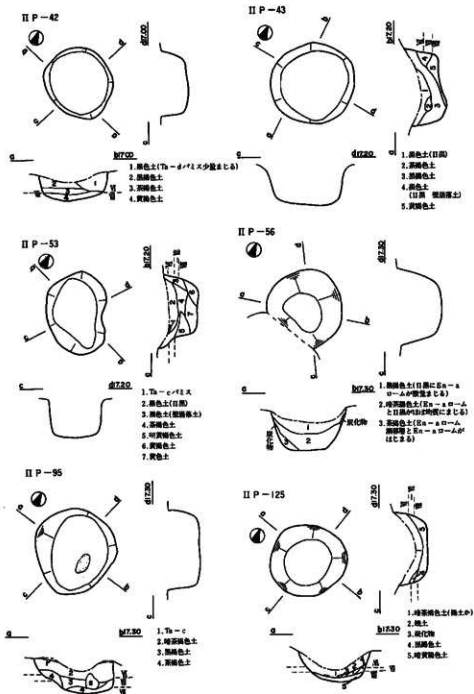


図25 II 黒層出土の土壌 (11)

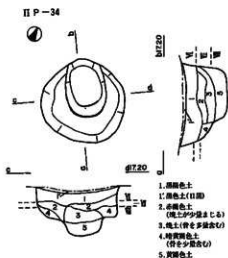
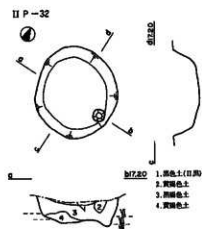
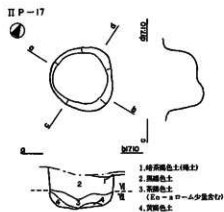
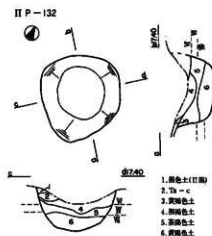
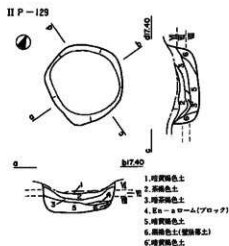
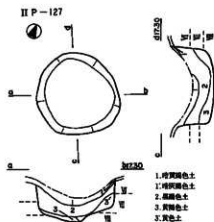
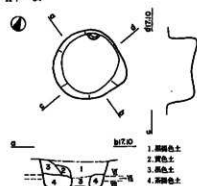
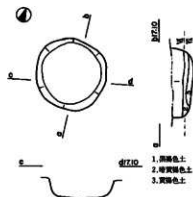


図26 II 黒層出土の土壌 (12)

II P-54



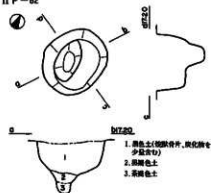
II P-55



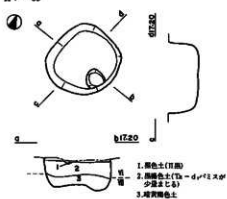
II P-60



II P-62



II P-63



II P-64

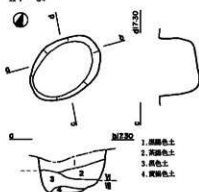
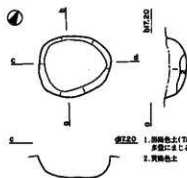
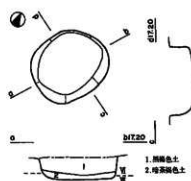


図27 II 黒層出土の土塊 (13)

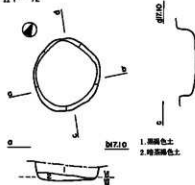
II P-65



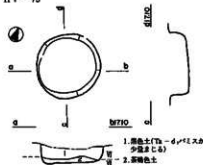
II P-71



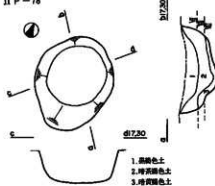
II P-72



II P-73



II P-78



II P-79

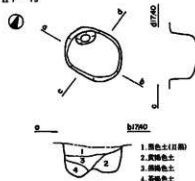
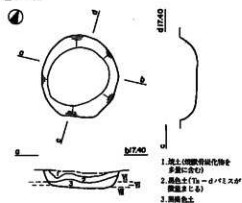
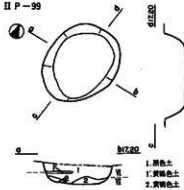


図28 II 黒層の土壌 (14)

II P-89



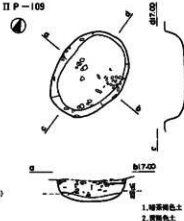
II P-99



II P-104



II P-109



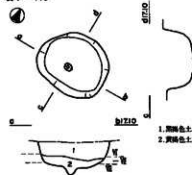
II P-104

1. 黒色土(日露)

2. 黒褐色土

3. 暗茶褐色土

II P-110



II P-112

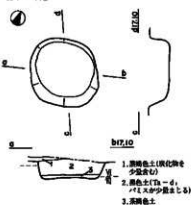


図29 II 黒層出土の土坑 (15)

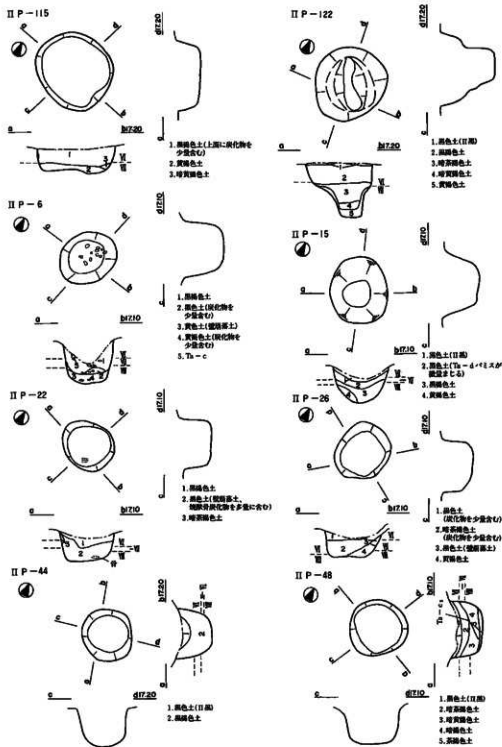


図30 II黒層の土壌 (16)

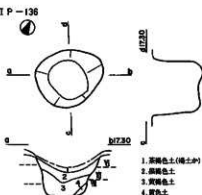
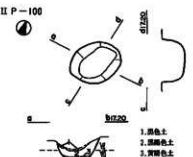
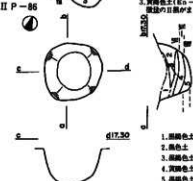
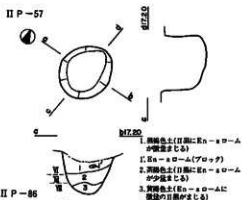
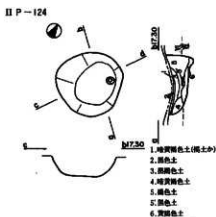
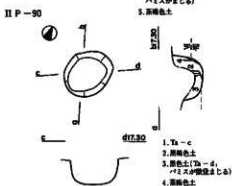
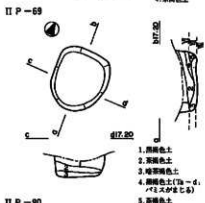
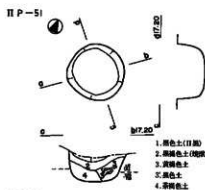
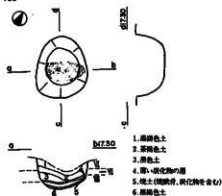
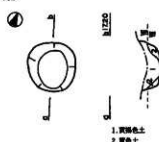


図31 II 黒層の土壌 (17)

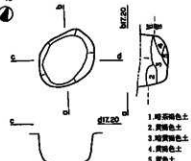
II P-139



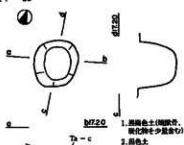
II P-152



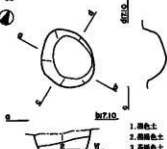
II P-49



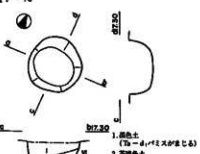
II P-50



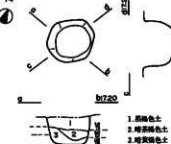
II P-58



II P-70



II P-74



II P-76

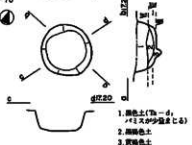
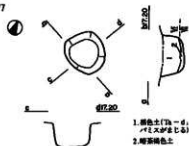


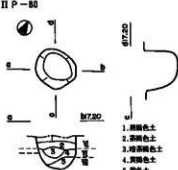
図32 II黒層の土壌 (18)

II P-77



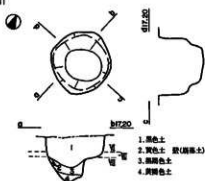
1. 褐色土 (7a-d, ノミスガ少まじる)
2. 暗茶褐色土

II P-80



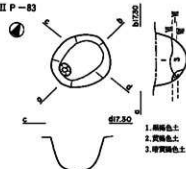
1. 黒褐色土
2. 茶褐色土
3. 暗茶褐色土
4. 黄褐色土
5. 黄土

II P-81



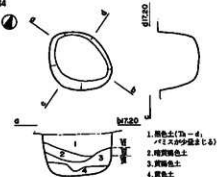
1. 黒色土
2. 黄土 (腐葉土)
3. 黒褐色土
4. 黄褐色土

II P-83



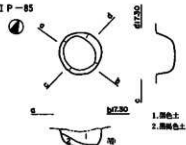
1. 黒褐色土
2. 黄褐色土
3. 暗黄褐色土

II P-84



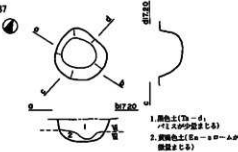
1. 褐色土 (7a-d, ノミスガ少まじる)
2. 暗黄褐色土
3. 黄褐色土
4. 黄土

II P-85



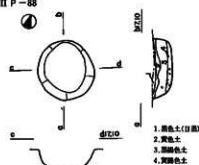
1. 褐色土
2. 黒褐色土

II P-87



1. 黒色土 (7a-d, ノミスガ少まじる)
2. 黄褐色土 (7a-d, ノミスガ少まじる)

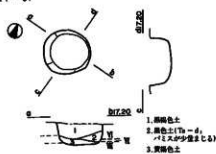
II P-88



1. 褐色土 (7a-d)
2. 黄土
3. 黒褐色土
4. 黄褐色土

図33 II 黒層の土壌 (19)

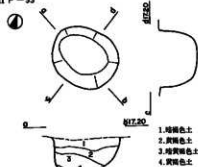
II P-91



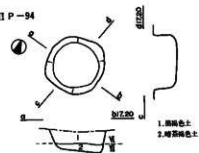
II P-92



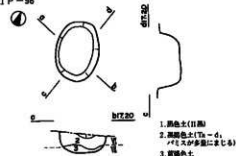
II P-93



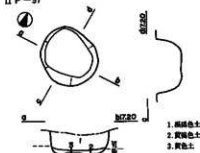
II P-94



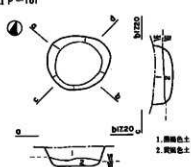
II P-96



II P-97



II P-101



II P-105

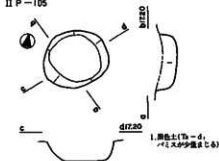


図34 II 黒層の土坑 (20)

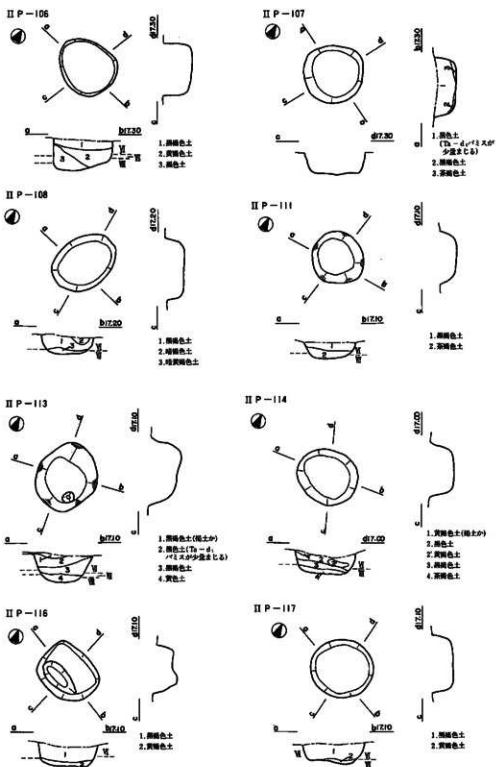


図35 II黒層の土壌 (21)

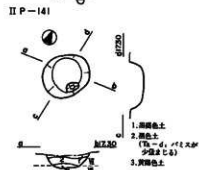
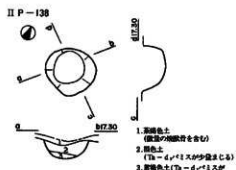
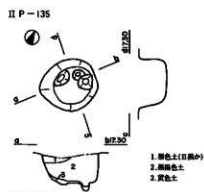
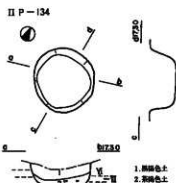
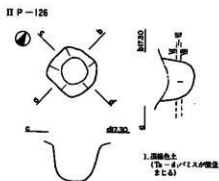
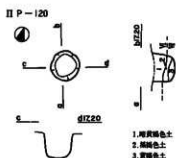
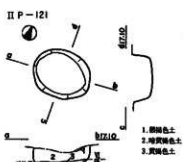
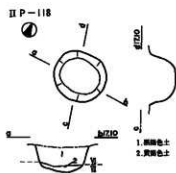
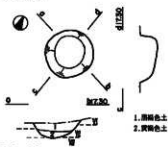


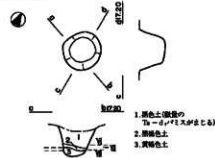
図36 II 黒層の土塊 (22)

II P-142



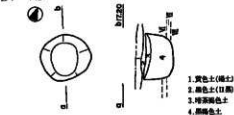
1. 黒褐色土
2. 黄褐色土

II P-146



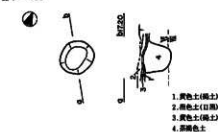
1. 黒色土(微量のTa-d/P2Sが含まれる)
2. 黒褐色土
3. 黄褐色土

II P-148



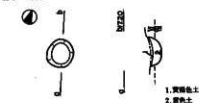
1. 黄褐色土(粘土)
2. 黒色土(目黒)
3. 増深褐色土
4. 黒褐色土

II P-150



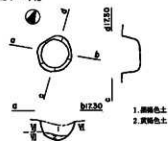
1. 黄褐色土(粘土)
2. 黒色土(目黒)
3. 黄褐色土(粘土)
4. 黒褐色土

II P-153



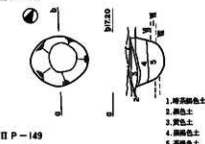
1. 黄褐色土
2. 黒色土

II P-145



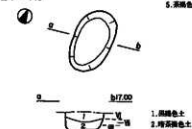
1. 黒褐色土
2. 黄褐色土

II P-147



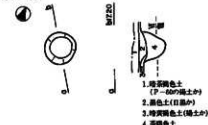
1. 増深褐色土
2. 黒色土
3. 黄褐色土
4. 黒褐色土
5. 黄褐色土

II P-149



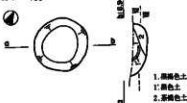
1. 黒褐色土
2. 増深褐色土

II P-151



1. 増深褐色土 (P-00の粘土の)
2. 黒色土(目黒の)
3. 増深褐色土(粘土の)
4. 黒褐色土

II P-155



1. 黒褐色土
2. 黄褐色土
3. 黒褐色土

図37 II黒層の土壌 (23)

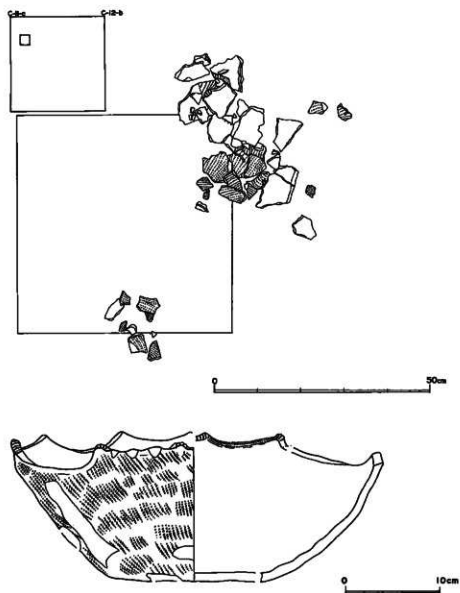


図38 II黒層の土器出土状況図

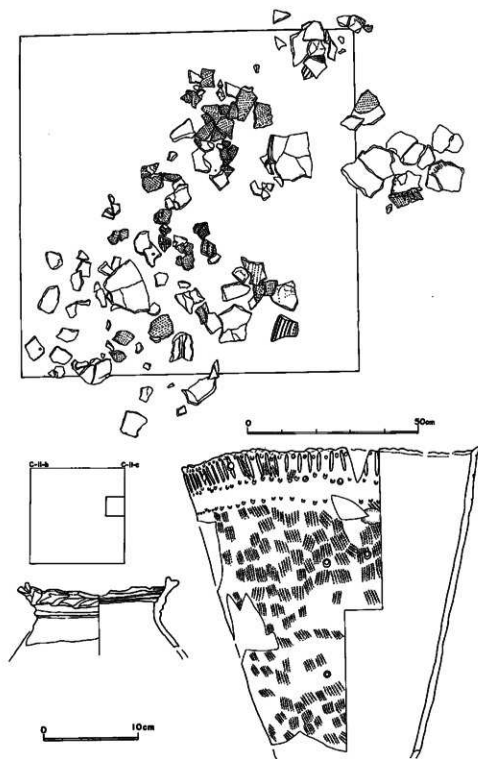


図39 II黒層の土器出土状況図

表 3 II 类围道桥一览表

道桥序号	围道区	渠 口 渠 宽 (m)		渠 深 (m)	渠 底 方 向	出 土 建 物	备 考
		渠 口	渠 宽				
1	C-13-d	1.1 × 0.95	0.9 × 0.7	0.25	N-83.5°-W (土 质) (石 砌等) 渠3		
2	C-14-b	0.95 × 0.9	0.8 × 0.75	0.35	N-64.5°-E (土 质) (石 砌等)		
3	C-14-b	0.83 × 0.78	0.65 × 0.57	0.4	N-48.5°-W (土 质) (石 砌等)		
4	D-14-a	1.05 × 1.0	0.95 × 0.9	0.38	N-27.5°-W (土 质) (石 砌等) 渠1		
5	D-14-a	1.35 × 1.0	1.1 × 0.95	0.45	N-16.5°-E (土 质) (石 砌等)		
6	D-14-c	0.65 × 0.5	0.4 × 0.35	0.35	N-28.5°-E (土 质) (石 砌等) 渠2		
7	D-14-b	0.9 × 0.75	0.7 × 0.6	0.25	N-84.5°-E (土 质) (石 砌等) 渠8, 渠12		
8	D-14-b	1.12 × 0.9	0.8 × 0.68	0.34	N-88.5°-E (土 质) (石 砌等) 渠B-1, 渠B1, 渠1		
9	D-14-a	1.05 × 0.95	0.9 × 0.8	0.5	N-85.5°-W (土 质) (石 砌等) 渠1, 渠11		
10	D-14-a	1.05 × 0.95	0.95 × 0.9	0.35	N-56.5°-W (土 质) (石 砌等) 渠B2, 渠A1		
11	C-13-c	1.0 × 0.75	0.65 × 0.55	0.45	N-12.5°-W (土 质) (石 砌等) 渠B3, 渠1		
12	C-13-d	1.0 × 0.8	0.78 × 0.55	0.4	N-25.5°-W (土 质) (石 砌等) 渠B1		
13	C-13-c	1.15 × 0.94	0.8 × 0.7	0.45	N-86.5°-W (土 质) (石 砌等) 渠A1, 渠V, 渠A1, 渠B1, 渠B2		
14	C-13-c	1.15 × 0.95	0.97 × 0.8	0.45	N-31.5°-W (土 质) (石 砌等) 渠1, 渠B2		
15	D-13-d	0.7 × 0.6	0.3 × 0.28	0.25	N-59.5°-W (土 质) (石 砌等) 渠1		
16	D-13-c	0.9 × 0.8	0.75 × 0.6	0.38	N-13.5°-E (土 质) (石 砌等) 渠1, 渠11		
17	D-14-b	0.7 × 0.65	0.57 × 0.5	0.38	N-73.5°-W (土 质) (石 砌等) 渠2		

测点编号	测点区	桩 基 (m)			桩 基 方 向	出 土 速 度	备 考
		桩 口	桩 底	桩 长			
11 P-18	D-14-b	1.2 × 1.05	1.0 × 0.95	0.54	N-83.5°-E	(土 砂) 浸林 (石砂等) ⅡB3.1, ⅡB3.2	
- 19	E-13-d	0.83 × 0.75	0.7 × 0.65	0.34	N-80.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.1, ⅡB3.2	
- 20	E-13-d	1.0 × 0.75	0.88 × 0.65	0.6	N-78.5°-E	(土 砂) 林 1 (石砂等) ⅡA3.1, ⅡA-1.1, VA-1.1, XA3.1, ⅡB3.2	
- 21	D-13-c	1.2 × 1.1	0.95 × 0.85	0.28	N-54.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.4, ⅡB3.1, ⅡB3.2	
- 22	D-13-c	0.58 × 0.5	0.45 × 0.4	0.28	N-57.5°-W	(土 砂) (石砂等)	
- 23	C-13-c	1.35 × 1.3	1.25 × 1.15	0.3	N-69.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.1	
- 24	C-13-d	1.0 × 0.7	0.7 × 0.55	0.3	N-79.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.1, ⅡB3.2	
- 25	C-13-a	1.25 × 1.15	1.03 × 0.9	0.38	N-72.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.1, ⅡB3.1, XA3.1	
- 26	D-13-c	0.6 × 0.55	0.48 × 0.4	0.26	N-5.5°-W	(土 砂) 林 1 (石砂等) ⅡB3.1, XA3.1, ⅡB3.2	
- 27	D-13-c	1.35 × 1.25	1.2 × 1.05	0.24	N-37.5°-W	(土 砂) 浸林 1, 浸林 1 (石砂等) ⅡB3.5, XA3.2, ⅡB3.1, ⅡB3.2	
- 28	E-13-d	1.0 × 0.7	0.73 × 0.55	0.42	N-79.5°-W	(土 砂) 浸林 1 (石砂等)	
- 29	E-12-d	1.05 × 0.8	0.85 × 0.7	0.32	N-46.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.1, ⅡB3.2, ⅡB3.1	
- 30	D-14-c	0.95 × 0.9	0.88 × 0.8	0.2	N-33.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.1	
- 31	D-14-c	0.9 × 0.8	0.7 × 0.6	0.34	N-55.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.2	
- 32	D-13-b	0.95 × 0.8	0.85 × 0.65	0.28	N-23.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.1	
- 33	C-13-b	1.0 × 0.9	0.88 × 0.8	0.3	N-57.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.3, ⅡB3.2	
- 34	D-13-d	0.89 × 0.8	0.7 × 0.6	0.45	N-36.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.1, ⅡB3.1, XA3.1, ⅡB3.13	
- 35	D-13-b	0.9 × 0.6	0.85 × 0.58	0.43	N-26.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.4	

测点号	调查区	概 概 (m)		长轴方向	出土建筑物	备 考
		填 口	填 底			
IP-36	D-13-b	0.95×0.9	0.7×0.68	0.3 N-27.5°-W	(土 器) (石 器)	
-37	E-13-a	0.75×0.6	0.6×0.5	0.35 N-5.5°-W	(土 器)	
-38	E-13-a	1.3×1.2	1.18×0.95	0.33 N-7.5°-E	(土 器) 浅钵 2 (石 器) ⅡB1, X A1, 罐 5	
-39	D-13-b	1.0×0.85	0.9×0.75	0.6 N-41.5°-W	(土 器) (石 器) ⅠA31, X A1, 罐 2	
-40	D-13-b	0.88×0.85	0.7×0.6	0.34 N-55.5°-W	(土 器) (石 器) ⅠB11, ⅡB31, W A11, W A21, ⅡA-1, ⅡB11, X A1, 罐 7	
-41	D-13-a	1.22×1.15	1.0×0.9	0.5 N-3.5°-E	(土 器) (石 器) ⅡB6, 罐 5	
-42	D-14-c	0.65×0.53	0.42×0.3	0.25 N-18.5°-E	(土 器) (石 器)	
-43	D-13-b	0.9×0.85	0.75×0.65	0.3 N-26.5°-E	(土 器) (石 器) ⅡB3, 罐 2	
-44	D-12-c	0.6×0.5	0.45×0.4	0.32 N-65.5°-W	(土 器) (石 器)	
-45	D-13-b	1.25×1.1	0.9×0.8	0.43 N-46.5°-W	(土 器) (石 器) ⅡA21, W B-1, 罐 9	
-46	D-13-c	0.85×0.65	0.75×0.45	0.2 N-28.5°-W	(土 器) 浅钵 1 (石 器) ⅠB11	
-47	D-14-b	1.3×0.95	1.15×0.8	0.27 N-84.5°-W	(土 器) (石 器) ⅡA-1, ⅡB3, 罐 2	
-48	C-13-b	0.63×0.6	0.5×0.45	0.28 N-8.5°-E	(土 器) (石 器) 罐 1	
-49	D-12-c	0.65×0.5	0.55×0.4	0.3 N-6.5°-E	(土 器) (石 器) 罐 9	
-50	E-12-d	0.5×0.45	0.35×0.28	0.36 N-13.5°-E	(土 器) 浅钵 1 (石 器) ⅡB1, X A1	
-51	E-12-d	0.6×0.55	0.5×0.45	0.25 N-63.5°-W	(土 器) ⅡA11, X B1	
-52	D-12-c	0.65×0.45	0.48×0.35	0.32 N-8.5°-W	(土 器) 浅钵 (石 器) ⅡB-1, ⅡB6, X A1, 罐 1	
-53	D-12-c	0.85×0.6	0.75×0.45	0.34 N-21.5°-W	(土 器) (石 器)	

测点序号	测点区	埋 深 (m)			展 布 方 向	出 土 建 物	备 考
		埋 口	埋 深	埋 宽			
IP-54	D-13-e	0.8 × 0.7	0.65 × 0.55	0.3	N-75.5°-E	(土 器) (石器等) I A3.1, W-1, 罐3	
- 55	D-13-d	0.75 × 0.7	0.65 × 0.6	0.23	N-61.5°-W	(土 器) (石器等) I A-1.1, III B3.1, II B5, X A2, 罐1	
- 56	C-11-b	0.8 × 0.75	0.43 × 0.3	0.3	N-85.5°-E	(土 器) (石器等) III A1.1, IV A2.1, X A-1	
- 57	E-12-d	0.6 × 0.5	0.5 × 0.35	0.35	N-16.5°-E	(土 器) (石器等)	
- 58	C-13-e	0.65 × 0.55	0.47 × 0.4	0.25	N-58.5°-W	(土 器) (石器等) III B3.1, II B3.1, 罐2	
- 59	C-12-b	1.05 × 0.9	0.9 × 0.65	0.2	N-65.5°-W	(土 器) (石器等) 罐1, X A1.1, 罐1	
- 60	E-12-d	0.85 × 0.6	0.8 × 0.4	0.35	N-71.5°-E	(土 器) (石器等) II B1.1, 罐1	
- 61	D-12-b	1.08 × 0.85	0.92 × 0.7	0.24	N-75.5°-W	(土 器) (石器等) 罐1, X B4, X B1.1, 罐13	
- 62	D-12-e	0.73 × 0.6	0.55 × 0.4	0.5	N-23.5°-E	(土 器) (石器等)	
- 63	D-12-d	0.8 × 0.7	0.65 × 0.55	0.3	N-65.5°-E	(土 器) (石器等) 罐1	
- 64	D-12-b	0.8 × 0.65	0.7 × 0.45	0.4	N-16.5°-E	(土 器) (石器等)	
- 65	C-12-b	0.78 × 0.65	0.65 × 0.5	0.18	N-79.5°-E	(土 器) (石器等)	
- 66	E-12-d	-	-	0.4	N-48.5°-E	(土 器) (石器等)	
- 67	E-12-d	0.95 × 0.8	0.75 × 0.7	0.45	N-83.5°-W	(土 器) (石器等) 罐1	
- 68	E-12-a	0.95 × 0.85	0.85 × 0.7	0.28	N-80.5°-E	(土 器) (石器等)	
- 69	C-12-b	0.7 × 0.55	0.55 × 0.5	0.2	N-21.5°-E	(土 器) (石器等)	
- 70	D-12-b	0.58 × 0.55	0.45 × 0.35	0.25	N-23.5°-E	(土 器) (石器等)	
- 71	D-12-d	0.83 × 0.7	0.73 × 0.55	0.25	N-62.5°-E	(土 器) (石器等) II B3.1, 罐5	

造桥序号	调查区	渠 口 渠 底 渠 宽 (m)			长 轴 方 向	出 土 建 物	编 号
		渠 口	渠 底	渠 宽			
— 72	C-13-a	0.78×0.7	0.7 ×0.6	0.18	N-10.5°-W	(土 牆) (石牆等) 礎2	
— 73	C-13-a	0.7 ×0.65	0.6 ×0.65	0.2	N-1.5°-E	(土 牆) (石牆等) ⅡB.1	
— 74	D-12-a	0.5 ×0.45	0.4 ×0.3	0.28	N-51.5°-E	(土 牆) (石牆等) ⅡB.1, 礎2	
— 75	D-12-b	0.7 ×0.5	0.6 ×0.4	0.33	N-3.5°-W	(土 牆) 渠林1 (石牆等) 礎7	
— 76	D-12-b	0.56×0.55	0.45×0.4	0.25	N-57.5°-W	(土 牆) 礎9	
— 77	D-12-d	0.45×0.4	0.3 ×0.28	0.22	N-81.5°-W	(土 牆) (石牆等)	
— 78	D-12-b	1.0 ×0.75	0.65×0.6	0.33	N-13.5°-E	(土 牆) (石牆等)	
— 79	D-12-b	0.63×0.5	0.55×0.43	0.33	N-78.5°-W	(土 牆) (石牆等)	
— 80	C-12-b	0.45×0.4	0.33×0.25	0.34	N-72.5°-W	(土 牆) (石牆等)	
— 81	D-12-c	0.8 ×0.6	0.55×0.53	0.48	N-5.5°-E	(土 牆) (石牆等)	
— 82	D-12-d	1.1 ×0.78	0.95×0.55	0.34	N-31.5°-E	(土 牆) (石牆等) 礎6	
— 83	D-12-c	0.63×0.55	0.48×0.3	0.34	N-21.5°-E	(土 牆) (石牆等)	
— 84	D-12-b	0.72×0.6	0.63×0.45	0.44	N-76.5°-W	(土 牆) (石牆等) 礎4	
— 85	D-12-c	0.45×0.43	0.35×0.32	0.2	N-60.5°-W	(土 牆) (石牆等)	
— 86	E-12-a	0.65×0.55	0.4 ×0.35	0.3	N-13.5°-E	(土 牆) (石牆等) ⅡB.1, 礎3	
— 87	D-12-a	0.55×0.48	0.35×0.3	0.25	N-53.5°-W	(土 牆) (石牆等) ⅡA.1, 礎1	
— 88	C-13-b	0.65×0.6	0.53×0.45	0.2	N-13.5°-W	(土 牆) (石牆等) 礎4	
— 89	D-11-d	0.88×0.8	0.65×0.58	0.15	N-6.5°-E	(土 牆) (石牆等) ⅡB.3, ⅡA.1, 礎1	

测点号	调查区	宽 (m)			展 转 方 向	出 土 遗 物	备 考
		渠 口	渠 底	渠 宽			
II P-90	D-12-e	0.55×0.45	0.43×0.3	0.3	N-6.5°-E	(土 器) (石器等)	
-91	D-12-b	0.5×0.45	0.4×0.35	0.22	N-83.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB.2	
-92	D-12-c	0.73×0.5	0.65×0.38	0.25	N-56.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB.2	
-93	D-12-c	0.7×0.6	0.55×0.37	0.38	N-52.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB.2	
-94	D-12-a	0.65×0.6	0.48×0.48	0.23	N-55.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB.1, ⅡB.7	
-95	D-12-d	0.93×0.8	0.8×0.6	0.3	N-8.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB.8, ⅡB.4	
-96	D-13-b	0.63×0.45	0.52×0.35	0.2	N-1.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB.1	
-97	D-13-b	0.6×0.55	0.53×0.4	0.25	N-60.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB.5	
-98	D-13-a	0.8×0.53	0.7×0.45	0.23	N-16.5°-E	(土 器) ⅡB.1 (石器等) ⅡB.3, ⅡB.3	
-99	D-12-a	0.9×0.7	0.75×0.55	0.2	N-19.5°-E	(土 器) (石器等) ⅡB.1	
-100	D-12-d	0.55×0.4	0.42×0.25	0.15	N-46.5°-E	(土 器) (石器等) ⅡB.1	
-101	D-12-c	0.68×0.55	0.5×0.45	0.2	N-57.5°-E	(土 器) (石器等) ⅡB.1, ⅡB.2	
-102	D-12-c	1.33×0.95	1.1×0.8	0.3	N-78.5°-E	(土 器) (石器等)	
-103	C-12-b	1.25×1.05	1.13×0.9	0.23	N-80.5°-E	(土 器) (石器等)	
-104	E-12-d	0.95×0.75	0.8×0.6	0.4	N-47.5°-E	(土 器) (石器等) I A3.3, ⅡB.7, ⅡB.5	
-105	D-12-d	0.7×0.6	0.55×0.5	0.16	N-26.5°-E	(土 器) (石器等) ⅡB.10	
-106	D-12-b	0.65×0.48	0.6×0.45	0.32	N-76.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB.1, ⅡB.5	
-107	D-12-b	0.65×0.6	0.52×0.45	0.2	N-68.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB.2	

观测号	测区	基 座 (m)			长轴方向	出土建筑物	备 考
		横 口	横 底	深 度			
II P-108	D-12-a	0.7 × 0.5	0.58 × 0.4	0.2	N-51.5°-E	(土 壁) (石壁等)	
-109	D-13-a	0.95 × 0.7	0.85 × 0.55	0.2	N-7.5°-W	(土 壁) (石壁等) ⅡB2, ⅡB3	
-110	C-13-d	0.75 × 0.65	0.65 × 0.5	0.34	N-75.5°-W	(土 壁) (石壁等) ⅡB3	
-111	C-13-d	0.55 × 0.5	0.4 × 0.35	0.15	N-75.5°-W	(土 壁) (石壁等)	
-112	C-13-c	0.75 × 0.7	0.65 × 0.58	0.23	N-75.5°-W	(土 壁) (石壁等) ⅡB1	
-113	C-14-b	0.75 × 0.6	0.48 × 0.4	0.3	N-17.5°-W	(土 壁) (石壁等) ⅡB3	
-114	C-14-b	0.65 × 0.55	0.5 × 0.4	0.2	N-88.5°-W	(土 壁) (石壁等) ⅡB2, ⅡB4	
-115	C-13-c	0.85 × 0.75	0.75 × 0.65	0.26	N-36.5°-W	(土 壁) (石壁等) ⅡB2, X A-1	
-116	D-13-c	0.68 × 0.5	0.58 × 0.4	0.22	N-88.5°-W	(土 壁) ⅡB1 (石壁等) ⅡB17	
-117	C-13-b	0.65 × 0.6	0.57 × 0.5	0.2	N-64.5°-W	(土 壁) (石壁等) ⅡB5, X A-1, ⅡB1	
-118	C-13-b	0.55 × 0.5	0.4 × 0.35	0.25	N-62.5°-W	(土 壁) (石壁等)	
-119	C-13-c	0.7 × 0.68	0.6 × 0.5	0.25	N-26.5°-W	(土 壁) ⅡB1 (石壁等) ⅡA1, ⅡB4, ⅡB12	
-120	D-13-a	0.32 × 0.3	0.25 × 0.22	0.22	N-55.5°-W	(土 壁) (石壁等)	
-121	D-13-b	0.63 × 0.5	0.55 × 0.4	0.18	N-83.5°-W	(土 壁) (石壁等)	
-122	D-12-d	0.8 × 0.73	0.55 × 0.1	0.55	N-29.5°-E	(土 壁) ⅡB1, ⅡB1, ⅡB4	
-123	D-11-c	1.1 × 0.95	0.95 × 0.8	0.25	N-32.5°-W	(土 壁) ⅡA1, ⅡB1, ⅡB1	
-124	D-11-d	0.7 × 0.6	0.5 × 0.35	0.3	N-78.5°-W	(土 壁) (石壁等) ⅡB1	
-125	D-11-c	0.83 × 0.7	0.53 × 0.45	0.2	N-68.5°-E	(土 壁) (石壁等)	

测点序号	测点区	渠 口 渠 底 (m)		渠 宽 (m)	渠 深 (m)	渠 向	出 土 通 物	备 考
		渠 口	渠 底					
1126	D-11-c	0.52×0.45	0.28×0.25	0.25	N-45.5°-W	(土 器)		
1127	E-11-d	0.9 ×0.83	0.75×0.65	0.3	N-56.5°-W	(土 器)		
1128	E-11-d	1.4 ×1.25	1.15×1.1	0.45	N-28.5°-E	(土 器) 残片 3 (石 器) 残片 10		
1129	E-11-a	0.85×0.78	0.75×0.65	0.25	N-1.5°-E	(土 器)		
1130	E-11-a	1.18×0.97	0.9 ×0.65	0.3	N-70.5°-E	(土 器)		
1131	E-11-a	1.5 ×1.0	1.3 ×0.8	0.4	N-27.5°-W	(土 器)		
1132	D-11-b	0.95×0.8	0.55×0.5	0.32	N-9.5°-E	(土 器)		
1133	D-11-a	0.8 ×0.7	0.7 ×0.6	0.22	N-22.5°-E	(土 器) 残片 1, 残片 2 (石 器) 残片 6, 残片 7, 残片 8, 1		
1134	D-11-a	0.68×0.6	0.55×0.5	0.2	N-27.5°-W	(土 器)		
1135	D-11-c	0.62×0.52	0.43×0.35	0.36	N-62.5°-E	(土 器) 残片 1 (石 器) 瓦片 1, 瓦片 2		
1136	E-11-d	0.72×0.6	0.45×0.37	0.35	N-41.5°-E	(土 器)		
1137	D-11-d	1.05×0.9	0.93×0.7	0.25	N-51.5°-E	(土 器)		
1138	D-11-a	0.53×0.48	0.33×0.3	0.2	N-81.5°-E	(土 器)		
1139	D-10-d	0.65×0.55	0.4 ×0.35	0.25	N-34.5°-W	(土 器)		
1141	D-11-a	0.5 ×0.45	0.35×0.3	0.13	N-16.5°-E	(土 器) 残片 1 (石 器) 残片 2		
1142	D-10-a	0.5 ×0.48	0.35×0.3	0.15	N-2.5°-W	(土 器)		
1143	D-11-b	1.15×0.8	0.85×0.66	0.22	N-42.5°-E	(土 器)		
1144	C-11-b	1.45×1.2	1.05×0.75	0.33	N-71.5°-E	(土 器) 残片 1, 瓦片 1, 瓦片 2, 残片 3		

测线号	调查区	展 示		展 示 尺 寸 (m)	展 示 方 向	出 土 文 物	备 考
		碑 口	碑 底				
HP-145	C-11-b	0.4 × 0.35	0.3 × 0.27	0.15	N-25°-E	(土 器) (石器号)	
-146	D-11-e	0.4 × 0.35	0.28 × 0.25	0.26	N-05°-W	(土 器) (石器号)	
-147	D-13-c	0.6 × 0.5	0.3 × 0.28	0.4	N-64.5°-E	(土 器) 缺 1 (石器号)	
-148	E-13-d	0.55 × 0.45	0.35 × 0.27	0.4	N-69.5°-E	(土 器) (石器号) 缺 1	
-149	D-13-c	0.65 × 0.4	0.33 × 0.3	0.2	N-05°-W	(土 器) (石器号) II A.1	
-150	E-12-d	0.38 × 0.3	0.25 × 0.17	0.32	N-32.5°-E	(土 器) (石器号)	
-151	E-12-d	0.34 × 0.32	0.23 × 0.21	0.35	N-66.5°-W	(土 器) (石器号)	
-152	D-12-b	0.55 × 0.5	0.4 × 0.32	0.15	N-66.5°-W	(土 器) (石器号)	
-153	E-12-a	0.3 × 0.25	0.22 × 0.2	0.12	N-36.5°-W	(土 器) (石器号)	
-155	E-13-a	0.58 × 0.53	0.4 × 0.35	0.16	N-51.5°-E	(土 器) (石器号)	

ている例は全くない。「一括土器」は、底部を欠いているのが特徴である。そして、石器を伴出する例はない。なお、II P-18・II P-20 出土の土器片と北方向に直線距離にして 17 m の地点にある「一括土器」(II P-24 に一部覆いかぶさる)のなかの土器片とが接合する。この事実から判断すると「一括土器」は、土壌出土の土器との関連を考えるべきなのかもしれない。

焼土について

焼土は、24 か所に点在する。その形状は、長円形をなし、その広がりはいくつもの 2 m 前後、小さいもので 50 cm 前後である。掘り込み、石組みをもつ例はない。焼土は、粉末状になった獣骨片を含んでおり、それを含まない焼土はわずか 1 例である。大きい骨片が多量に含まれる例はない。

ii. I 黒層の遺構

ここでは I 黒層出土のうちの大部分を占める晩期の土壌・土壌墓のうち遺物の出土状況が特徴的なものや、土器塚、小ピットおよび焼土について述べる。なお、土壌墓出土の遺物については次節でふれるため簡単な説明にとどめることとする。

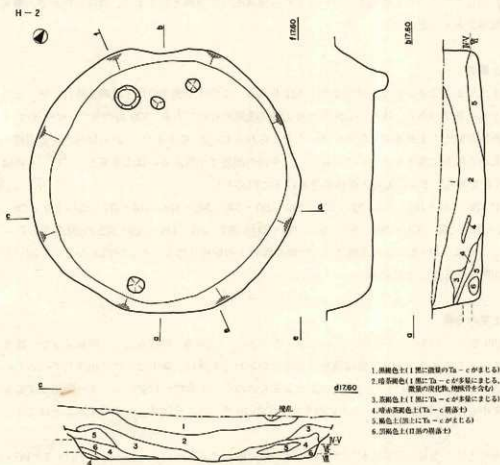


図40 住居跡 (II-2)

住居跡 (H-2)

H-2は調査区の西側隅に位置し、C-3-cとE-3-cの両発掘区にまたがる。I黒層の下位で、わずかな凹みとして確認され、Ta-c層上面で円形の平面形が確認されたものである。直径が3m程であり、床はEn-aローム層中につくられ、ほぼ平坦である。壁は全周にわたり急傾斜で立ちあがるが、東・西側の一部が攪乱のため不明瞭となっている。床面の北西隅に3個、南隅に1個小ピットがあるがいずれも深さ5cm程のもので断面形・底面の形状から柱穴とは言い難い。床面から何も出土していないが、周囲に広がる土壌の掘り込み面との比較や、覆土中の遺物から晩期に構築されたものと考えられる。覆土はそのあり方から自然堆積層であり、他の遺構との重複はない。1層は黒褐色土でI黒に微量のTa-cがまじる。2層は暗茶褐色土でI黒にTa-cが多量にまじり、炭化物、焼けた獣骨片を微量に含む。3層は茶褐色を呈する。5層は褐色土で黒土にTa-cがまじる。6層は黒褐色土でII黒層の崩落したものである。

晩期の住居跡は本例だけであり、昭和45年度の調査からは検出されていない。柱穴・炉跡などが発見されず、また遺物も少ないことから恒常的な生活跡としてより、周囲に広がる土壌墓と関連があると思われる。

土壌等

I黒層から発見された土壌は全部で531基ある。このうち縄文時代・統縄文時代に属するものが各1基ずつあり、残りの529基は縄文時代晩期のものである。529基の中で、規模・埋め土の堆積状態から土壌墓の可能性が薄いと考えられるものが30基あり、これらは後出する遺構一覧表から除き欠番となっている。従って、今回の調査で土壌あるいは土壌墓として扱うものは499基である。まず、欠番の遺構番号を以下に列記する。

P 126・134・169・194・237・274・285・287・308・309・310・316・317・330・337・338・342・346・357・376・380・382・386・393・394・397・401・449・479・521の30基である。

ここでは、499基のうち遺物の出土状態や埋め土の堆積状態などから特徴的なものを選び出し説明を加えることとする。

土壌の分類

499基ある土壌のうち遺物が全く出土していないもの30基、墳底もしくは墳底直上から出土しているもの6基であり、他は遺物の多少にかかわらず墳口～墳中にかけて出土しているものである。墳口～墳中にかけて遺物が出土するものの中でも遺物が比較的まとまって出土するものを中心に52基選出し、その特徴を③～⑩の10タイプに分けて各々説明することにする。

③タイプ：多量の土器片がプランのほぼ全面に散在するもの（1・19・212・153・3・145・415・201）



圖41 I 黑層遺構位置圖

- ⑤タイプ：「一括土器」あるいは土器片が偏在するもの（215・478・474・2）
- ⑥タイプ：④と⑤とがみられるもの（10・213・318）
- ④タイプ：焼獣骨が多量に伴うもの（251・113・339）
- ⑦タイプ：石器が主として出土するもの（416・198・412・467・186・3343・356・414・178・211）
- ⑧タイプ：En-a ロームが埋め土にみられるもの（67・72・79・86・223・233・234）
- ⑨タイプ：墳底にベニガラが敷かれているもの（202・196・125）
- ⑩タイプ：変質した Ta-c₂ が敷かれているもの（151・96・197）
- ⑪タイプ：墳口あるいは墳中に焼土が入るもの（58・14・17）
- ⑫タイプ：鉢形・舟形・つば形土器が出土したもの（13・529・62・72・79・86・234・127・232・420・4・444・106・524）

以上のうち④～⑦・⑪が遺物、⑧～⑫が埋め土からみたタイプであり、両者の特徴を合せものもあり、必ずしも各タイプが独立して存在するものではない。以下、各タイプの土壌について説明を加える。

⑧タイプ

P-1（図 44・写真図版 13-①）

本土壌が出土した E-9-a 区は、I 黒層が比較的プライマリーな状態で存在しており、プランは I 黒層下位で確認された。形状は不整楕円形であり北西-南東方向に長軸をもつ。底面は En-a ローム層中につくられ、ほぼ平坦であり、壁の立ち上がりもしっかりしている。遺物は 1～2 層にかけて分布し、土器片が 140 点ほど出土している。個々の遺物は土壌中央に向かって傾いており、1 層と 2 層の境界線に沿うようにゆるやかに凹んでいる。墳底中央部より糠状に腐植した人骨がわずかに確認できた。

P-19（図 45）

調査地区のほぼ中央部の D-9-a 区より出土。Ta-c 層上面よりプランを確認する。プラン周囲の Ta-c 層は火熱をうけて焼きしまっている。形状は壁面の Ta-c が崩落したためか楕円形である。底面は En-a ローム漸移層中につくられ、ほぼ平坦である。埋め土は、Ta-c まじりの黒褐色土からなる。遺物は確認面段階から出土し、墳底近くまでの間に土器・石器あわせて約 220 点もある。遺物の集中はないが、やや南東側に片寄り、壁際にはあまりみられない。

P-3（図 46・写真図版 13-②）

D-9-6 区より出土。P-1 から北へ 3 m のところに位置する。I 黒層下位よりプランを確認する。北西壁の一部が P-217 に切られている。形状は楕円形で、南-北方向に長軸をもつ。

底面は En-a ローム層中につくられ、ほぼ平坦である。壁は全局にわたり急傾斜に立ち上がるが上部の Ta-c 層の崩落のため、中間で段がつくように見える。埋め土は 6 つに分かれ、1 層は I 黒の 2 次堆積層である、2 層以下が本来の埋め土である。遺物は土器片がほとんどで、約 340 点出土している。そのうちでも比較的大型の土器片は、北西側の壁面から 10-20 cm ほど離れたところに、壁面に沿うように傾斜して出土している。これらは、深鉢形土器の口縁および胴部破片からなり、大部分が内面を上にして押しつけられたような状態である。また、土器片とはほぼ同レベルから焼獣骨片・炭化物も少量出土している。出土遺物は主として 3 層からのものであり、ほぼこの層と同じ傾きをもって出土している。なお、深鉢形土器の破片は、復元たりうるほどではなく、また多数の土器片も復元までは至らない。

P-153 (図 46・写真図版 13-⑥)

D-9-c 区より出土。I 黒層中より、わずかな凹みと周囲との色調が異なることからブランが確認されたものである。南東側の IP-154 に切られているが、壕口部では埋め土が同質であり判然としていない。長径が 1.7 m ほどの大型であり、北西-南東方向を長軸とするタマゴ形に近い形状である。遺物は土器・石器あわせて 350 点ほどであるが大部分が土器片である。主として 1・2 層から出土し、IP-154 側にやや片寄る。土器片は小さく割れたものであり、壕底へ向ってすり鉢状に傾斜している。人骨は明瞭ではないが、a-b セクション図の両側の壕中付近から糊状に腐植した状態で確認されている。なお、切り合い関係にある IP-154 は、P-153 と比べて規模は差さないものであるが出土遺物が 50 点あまりと少なく対照的である。

P-145 (図 46)

E-9-a 区より出土。I 黒層下位よりブランが確認されたものである。円形に近い形状で、底面は II 黒層中につくられ、ほぼ平坦である。埋め土のあり方が IP-3 と類似するが、遺物は特に集中は見られず、約 350 点の土器片が壕口-壕中にかけて散在している。壕外の北東側にある土器片は、その出土状況から本遺構に伴うと考えられるものである。壕中より出土した土器片は、壕尖に向かってゆるやかに傾斜している。また、4 層は粘性があり、埋め土全体の堆積状態から遺体腐植層に相当するものと考えられる。

P-201 (図 47・写真図版 14-①)

D-9-C 区より出土。IP-153 の北側 2 m のところに位置する。IP-153 などと同様に大形の土墳墓であり、径 1.6 m ほどの不整円形を呈する。底面は En-a ローム層中につくられ、ほぼ平坦である。埋め土は 9 つに分けられ、ラミナ様の堆積を示している。8 層だけが黒色土を主体とし粘性のあるもので、他は Ta-c を多量に含むものである。出土遺物は 400 点あまりで、土器片が大半を占める。北側にやや片寄る遺物は壕尖に向かって傾斜し、同タイプの他の土墳墓と同様の傾向を示す。なお、埋土の堆積状態が多様であるのは、埋め戻す土を何回にも分

けて入れたためであり、墳底にある8層は土の性質から遺体腐植層と考えられる。

P-212 (図45)

D-9-b区より出土。Ta-c₂上面でプランが確認されたものである。不整円形のプランで、底面はEn-a-ローム層中につくられ、ほぼ平坦である。壁は全周にわたりほぼ垂直に立ち上がっている。埋土はTa-cを主体とするものであり、墳底は広がる5層はTa-c₂からなる。埋め土の全体にわたって焼獣骨片が散在し、これらは火熱を受け淡い橙色を呈するTa-cからなる3層付近にやや多くみられる。遺物には、土器・石器・石製品があり、このうち土器が170点あまり出土し、出土遺物の大半を占める。石器の中には全体に火熱を受けた石鏃片が1点出土している。遺物は、墳口部に集中しており、このうち復元された浅鉢形土器はプランの西側から出土したものである。また、本遺跡では数少ない垂飾が出土しており、土墳墓に伴う唯一のものである。

P-415 (図48・写真図版12-③~⑥)

E-6-a区より出土する。Ta-c層上面でプランが確認されたものである。不整円形を呈し、底面はII黒層中につくられ、ほぼ平坦である。壁は全周にわたり急傾斜で立ち上がり、全体にしっかりした構造となっている。本土墳墓は、埋土と遺物の出土状態を平面的に検討するために、Ta-c層の確認面から墳底まで平面的にスライスするように掘り下げてみたものである。図にある平面的な遺物の出土状況図は、上から順に墳口・墳中・墳底近くの3段階に便宜的に分けてあるものである。従って、平面図には遺物の出土状態は図示しておらず、セクション図は3つの出土状況図から復元したものである。調査の結果は意図に反してセクションが単純であり、遺物の大半が2層中から出土し、かつ、墳口から墳底近くまで散在し、特定の層に伴って遺物が流れ込むものではなかった。しかし、本土墳墓はこれまでのものと同様に多数の土器片が出土してはいるが、それらが埋土の中に混じったように出土する点で異なっている。このことは、逆に、土墳墓とそれに伴う遺物のあり方が多様である本遺跡の性格を示すものであると考えられる。

⑤タイプ

P-2 (図47・写真図版14-④)

D-8-c区より出土。Ta-c層上面からプランが確認されたものであり、周囲のTa-cは火熱を受けて赤橙色を呈している。形状は不整円形であり、底面はII黒層中につくられている。埋土は4つに分けられ、1~3層はTa-cを、4層は黒色土が主体となっている。このうち、2層には火熱をうけたTa-cに混って焼獣骨片・炭化物が多量に含んでいる。遺物は確認段階で、プランの北東側墳外に浅鉢形土器が、上から押し潰されたような状態で発見された。この土器は、Ta-c層より若干高いレベルにあることから、埋め戻された後に長軸の一端である

位置に完形の状態で置かれたものであり、土圧で破損したものと考えられる。なお、石器は出土していない。

P-215 (図 48・写真図版 14-③)

E-9-a区より出土。Ta-c層上面からプランが確認されたものである。だ円形を呈し、底面はEn-aルーム層中につくられれば平坦である。壁はほぼ全局にわたって急傾斜であり、立ち上がりははっきりしている。埋土はTa-cが少量まじる黒色土が大半を占め、焼獣骨片・炭化物が全体に混じり、集中はみられない。遺物は、土器が圧倒的に多く約120点あり、その一部は南側の域外にまぎって出土しており、IP-2と出土状態が類似している。なお、埋土のあり方から推測すると、6層が遺体腐植層と考えられる。

P-474 (図 47・写真図版 15-⑤)

D-3-d区より出土。Ta-c層上面よりプランが確認されたものである。旧河道の近くに位置するが、水の影響による擾乱はみられない。形状は不整形円形であり、底面はEn-aルーム層中につくられれば平坦である。埋土の1層はI黒の2次堆積層であり、2層以下が本来の埋土である。層の堆積状態から中央より西側に埋土の移動がみられ、a-bセクションにある2・4および6層の傾きがそのことを示していると考えられる。遺物には土器が多く、200点近く出土し、主として2層から出土している。とくに、2層と4層にかけての南壁付近からは、底部を欠いた深鉢形土器が破片となって一括出土している。この一括土器は2層の下位にあり、4層にのるように出土していることから、4層を埋め戻した後に横倒した状態で打ち割り、更に2層の土をかぶせたものと思われる。遺体は明瞭な形で検出されていないが、埋め土のあり方や遺物の出土状況から8層が遺体腐植層であり、一括土器の出土位置に近い墳底に遺体があったと思われる。

P-478 (図 48)

D-4-b区より出土。Ta-c層上面からプランが確認されたものである。形状はほぼ円形で、底面はII黒層中につくられている。壁は全局にわたり急傾斜であり東・西側の立ち上がりやや不明瞭になっている。遺物は、土器片が70点出土し、北壁際の4層からまぎって出土している。土器片は胴部破片がほとんどで復元するまでには至っていない。

◎タイプ

P-10 (図 44・写真図版 13-③)

D-8-c区より出土。Ta-c層上面よりプランを確認する形状は不整形円形で、北西-南東方向に長軸をもつ。底面はEn-aルーム漸移層中につくられ、多少の凹凸があり北側にゆるやかに傾むく。埋土は1層が黒土を主体とし、2・3層はTa-cが主体となる。遺物には土器・

けて入れたためであり、墳底にある8層は土の性質から遗体腐植層と考えられる。

P-212 (図 45)

D-9-b区より出土。Ta-c₂ 上面でプランが確認されたものである。不整円形のプランで、底面はEn-a-ローム層中につくられ、ほぼ平坦である。壁は全周にわたりほぼ垂直に立ち上がっている。埋土はTa-cを主体とするものであり、墳底は広がる5層はTa-c₂からなる。埋め土の全体にわたって焼獣骨片が散在し、これらは火熱を受け淡い橙色を呈するTa-cからなる3層付近にやや多くみられる。遺物には、土器・石器・石製品があり、このうち土器が170点あまり出土し、出土遺物の大半を占める。石器の中には全体に火熱を受けた石鏃片が1点出土している。遺物は、墳口部に集中しており、このうち復元された浅鉢形土器はプランの西側から出土したものである。また、本遺跡では数少ない垂飾が出土しており、土墳墓に伴う唯一のものである。

P-415 (図 48・写真図版 12-③-⑥)

E-6-a区より出土する。Ta-c層上面でプランが確認されたものである。不整円形を呈し、底面はII黒層中につくられ、ほぼ平坦である。壁は全周にわたり急傾斜で立ち上がり、全体にしっかりした構造となっている。本土墳墓は、埋土と遺物の出土状態を平面的に検討するために、Ta-c層の確認面から墳底まで平面的にスライスするように掘り下げてみたものである。図にある平面的な遺物の出土状況図は、上から順に墳口・墳中・墳底近くの3段階に便宜的に分けてあるものである。従って、平面図には遺物の出土状態は図示しておらず、セクション図は3つの出土状況図から復元したものである。調査の結果は意図に反してセクションが単純であり、遺物の大半が2層中から出土し、かつ、墳口から墳底近くまで散在し、特定の層に伴って遺物が流れ込むものではなかった。しかし、本土墳墓はこれまでのものと同様に多数の土器片が出土しているが、それらが埋土の中に混じったように出土する点で異なっている。このことは、逆に、土墳墓とそれに伴う遺物のあり方が多様である本遺跡の性格を示すものであると考えられる。

⑮タイプ

P-2 (図 47・写真図版 14-④)

D-8-c区より出土。Ta-c層上面からプランが確認されたものであり、周囲のTa-cは火熱を受けて赤橙色を呈している。形状は不整円形であり、底面はII黒層中につくられている。埋土は4つに分けられ、1-3層はTa-cを、4層は黒色土が主体となっている。このうち、2層には火熱をうけたTa-cに混って焼獣骨片・炭化物が多量に含んでいる。遺物は確認面段階で、プランの北東側墳外に浅鉢形土器が、上から押し潰されたような状態で発見された。この土器は、Ta-c層より若干高いレベルにあることから、埋め戻された後に長軸の一端である

位置に完形の状態で置かれたものであり、土圧で破損したものと考えられる。なお、石器は出土していない。

P-215 (図 48・写真図版 14-③)

E-9-a 区より出土。Ta-c 層上面からプランが確認されたものである。だ円形を呈し、底面は En-a ローム層中につくられほぼ平坦である。壁はほぼ全周にわたって急傾斜であり、立ち上がりはしっかりしている。埋土は Ta-c が少量まじる黒色土が大半を占め、焼酎骨片・炭化物が全体に混じり、集中はみられない。遺物は、土器が圧倒的に多く約 120 点あり、その一部は南側の境外にまとも出土しており、IP-2 と出土状態が類似している。なお、埋土のあり方から推測すると、6 層が遺体腐植層と考えられる。

P-474 (図 47・写真図版 15-⑤)

D-3-d 区より出土。Ta-c 層上面よりプランが確認されたものである。旧河道の近くに位置するが、水の影響による攪乱はみられない。形状は不整円形であり、底面は En-a ローム層中につくられほぼ平坦である。埋土の 1 層は I 黒の 2 次堆積層であり、2 層以下が本来の埋土である。層の堆積状態から中央より西側に埋土の移動がみられ、a-b セクションにある 2・4 および 6 層の傾きがそのことを示していると考えられる。遺物には土器が多く、200 点近く出土し、主として 2 層から出土している。とくに、2 層と 4 層にかけての南壁付近からは、底部を欠いた深鉢形土器が破片となって一括出土している。この一括土器は 2 層の下位にあり、4 層にのるように出土していることから、4 層を埋め戻した後に横倒した状態で打ち割り、更に 2 層の土をかぶせたものと思われる。遺体は明瞭な形で検出されていないが、埋め土のあり方や遺物の出土状況から 8 層が遺体腐植層であり、一括土器の出土位置に近い墳底に遺体があったと思われる。

P-478 (図 48)

D-4-b 区より出土。Ta-c 層上面からプランが確認されたものである。形状はほぼ円形で、底面は II 黒層中につくられている。壁は全周にわたり急傾斜であり東・西側の立ち上がりやや不明瞭になっている。遺物は、土器片が 70 点出土し、北壁際の 4 層からまとも出土している。土器片は胴部破片がほとんどで復元するまでには至っていない。

◎タイプ

P-10 (図 44・写真図版 13-③)

D-8-c 区より出土。Ta-c 層上面よりプランを確認する形状は不整楕円形で、北西-南東方向に長軸をもつ。底面は En-a ローム漸移層中につくられ、多少の凹凸があり北側にゆるやかに傾むく。埋土は 1 層が黒土を主体とし、2・3 層は Ta-c が主体となる。遺物には土器・

石器および焼獣骨があり、中でも土器片は復元されたものを含めて650点あまり出土している。土器に比べて石器は4点と少ない。多数の土器は出土状況から2つに大別できる。ひとつは、小さく割れた土器片が墳口から墳中にかけて集中し、プランの中央に向ってすり鉢状に傾斜しており、他方は、北壁の遺構確認面から3層にのるように墳底近くまで土器が一括出土するものである。2つの出土状態は、前者が㊸タイプ、後者は㊹タイプの遺物のあり方と類似しており、c-dラインから見透した遺物出土状況図からも両者の違いがわかる。出土状況から一括土器は、遺体を覆うだけ埋め戻した後、壁にもたせるように完形土器を置き、掘り上げた土を全部埋め戻した後に、小さく割った土器片をプラン全体に散布したと考えられる。また、両者の間に土が入り込み、調査の過程で小さな土器片が先にあり、それらを取り上げた後に一括土器が発見されたことから、両者は意識的に区別されたものであることが窺える。

P-213 (図49・写真図版16-③)

D-9-b区より出土。Ta-c層の中心からプランが確認できたものである。西側にP-214があることと、確認面上部のI黒層・Ta-c₁層が攪乱されていることから形状が著しく不整なものとなっている。平面図に示したIP-213の範囲は、2層の土と同質のものが広がるところを意味し、土壌墓の広がりの意味するものではない。プランが明瞭な形で確認できたのはTa-c層下位である。形状は不整形で、底面はEn-aローム層中につくられ、ほぼ平坦である。遺物は、Ta-c層の中頃の段階で曲線文の深鉢形土器の一部が横倒しで潰れた状態で発見され、その北側のほぼ同レベルから舟形土器が一括出土していた。1・2層からは、沈線文の深鉢土器が大形破片となって出土し、多量の焼獣骨を伴っていた。復元される3つの土器は完形にまでは至らず、深鉢形土器は底部を欠いており、上半分だけである。出土状況を見ると、上部で発見された深鉢と舟形はいずれも土圧で潰れたものと考えられる。一方、2層出土の深鉢土器は、プラン中央の墳中に置かれたもので、土器片は立っているものがあり、焼獣骨を入れていたことが考えられる。

P-318 (図51・写真図版15-③)

C-8-d・C-9-a区にまたがって出土。II黒層上面からプランが確認できたものである。不整形円形を呈し、底面はEn-aローム漸移層中につくられている。遺物は土器片が120点ほど出土しており、そのうちの大半は墳中から出土した一括土器の破片である。一括土器は胴部下方と底部を欠いており、2層と3層の境界線くらいから出土している。出土状況から、あらかじめ割っておいたものをプランの半分くらいカバーできるほどに置いたものと考えられる。土器片と同レベルで焼獣骨が少量出土している。

㊸タイプ

P-113 (図50・写真図版15-①)

E-13-aより出土。南側の境界線近くに位置し、南側はIP-112と切り合うため壁の立ち上がりか不明瞭である。残存している形状から東-西方向を長軸とする楕円形を呈するものと考えられる。底面はII黒層中につくられほぼ平坦である。埋め土は3つに分かれ、1・3層は黒色土が、2層はTa-cがそれぞれ主体となっている。遺物は墳口から墳中にかけてあり、1層の下位プラン中央部では、鉢形土器を横倒しにして押し潰したような状態で100点あまりの土器が一括出土している。土器片とはほぼ同レベルから焼獣骨多量に出土しており、P-213のように土器に焼獣骨がはいっている可能性がある。なお、一括土器は、完形まで至らず底部から胴部にかけての破損品であった。また、一括土器以下からは遺物はほとんど出土していない。

P-251 (図 51)

E-13-a区より出土する。南側の境界の土層でII黒層を掘りこむ凹みを確認され、墳中にあたるところから多量の焼獣骨が一括土器といっしょに出土することから遺構として扱うことにした。プランの一部が排水のトレンチと重なるために底面のごく一部分しか確認できず、形状・規模は不明である。一括土器はセクション図に示すように、東側の壁面近くに内面を上にし、墳口に対して水平な状態で出土している。土器は深鉢形であり、復元しても完形まで至らない。

P-339 (図 50・写真図版 15-④)

E-7-d区より出土。Ta-c層上面でプランが確認できたものである。東壁の張り出しは壁面のTa-cが崩落したことによるものであり、従って形状は円形に近いものになると思われる。周囲のTa-cは火熱を受けて淡橙色を呈し、しまっている。底面はEn-aローム漸移層中につくられ南東方向へゆるやかに傾斜している。埋め土は5つに分かれるが1層はI黒の2次堆積層であり、2層以下が本来の埋土である。遺物は土器・炭化したミルク・焼獣骨があり、石器は出土していない。土器は2層から3層にかけて多くみられ、器内面を上にして墳口に対してほぼ水平な状態で出土している。また、一括土器の分布と重なるようにその下位からは焼獣骨・炭化したクルミが出土する。獣骨はヒグマ・シカの指骨があり、白くなるほど強く焼かれている。

◎タイプ

石器の器種のうち石鏃・ナイフ・石斧などが出土し、出土遺物の中で石器が主体と考えられるものを◎タイプとする。

P-198 (図 52・写真図版 17)

D-11-a区。Ta-c層上面でプランが確認できたものである。東側にあるP-197を切っているため東側の構造は一部不明である。形状は北東-南西に長軸をもつ楕円形を呈し、底面

石器および焼獣骨があり、中でも土器片は復元されたものを含めて650点あまり出土している。土器に比べて石器は4点と少ない。多数の土器は出土状況から2つに大別できる。ひとつは、小さく割れた土器片が竈口から墳中にかけて集中し、プランの中央に向けてすり鉢状に傾斜しており、他方は、北壁の遺構確認面から3層にのるように墳底近くまで土器が一括出土するものである。2つの出土状態は、前者が㊸タイプ、後者は㊹タイプの遺物のあり方と類似しており、c-dラインから見透した遺物出土状況図からも両者の違いがわかる。出土状況から一括土器は、遺体を覆うだけ埋め戻した後、壁にもたせるように完形土器を置き、掘り上げた土を全部埋め戻した後に、小さく割った土器片をプラン全体に散布したと考えられる。また、両者の間に土が入り込み、調査の過程で小さな土器片が先にあり、それらを取り上げた後に一括土器が発見されたことから、両者は意識的に区別されたものであることが窺える。

P-213 (図49・写真図版16-③)

D-9-b区より出土。Ta-c層の中位からプランが確認できたものである。西側にP-214があることと、確認面上部のI黒層・Ta-c₁層が攪乱されていることから形状が著しく不整なものとなっている。平面図に示したIP-213の範囲は、2層の土と同質のものが広がることを意味し、土壌墓の広がりの意味するものではない。プランが明瞭な形で確認できたのはTa-c層下位である。形状は不整円形で、底面はEn-aローム層中につくられ、ほぼ平坦である。遺物は、Ta-c層の中頃の段階で曲線文の深鉢形土器の一部が横倒して潰れた状態で発見され、その北側のほぼ同レベルから舟形土器が一括出土していた。1・2層からは、沈線文の深鉢土器が大形破片となって出土し、多量の焼獣骨を伴っていた。復元される3つの土器は完形にまでは至らず、深鉢形土器は底部を欠いており、上半分だけである。出土状況を見ると、上部で発見された深鉢と舟形はいずれも土圧で潰れたものと考えられる。一方、2層出土の深鉢土器は、プラン中央の墳中に置かれたもので、土器片は立っているものがあり、焼獣骨を入れていたことが考えられる。

P-318 (図51・写真図版15-③)

C-8-d・C-9-a区にまたがって出土。II黒層上面からプランが確認できたものである。不整楕円形を呈し、底面はEn-aローム漸移層中につくられている。遺物は土器片が120点ほど出土しており、そのうちの大半は墳中から出土した一括土器の破片である。一括土器は胴部下方と底部を欠いており、2層と3層の境界線くらいから出土している。出土状態から、あらかじめ割っておいたものをプランの半分くらいカバーできるほどに置いたものと考えられる。土器片と同レベルで焼獣骨が少量出土している。

㊸タイプ

P-113 (図50・写真図版15-①)

E-13-aより出土。南側の境界線近くに位置し、南側はIP-112と切り合うため壁の立ち上がりが不明瞭である。残存している形状から東-西方向を長軸とする楕円形を呈するものと考えられる。底面はII黒層中につくられほぼ平坦である。埋め土は3つに分かれ、1・3層は黒色土が、2層はTa-cがそれぞれ主体となっている。遺物は墳口から墳中にかけてあり、1層の下位プラン中央部では、鉢形土器を横倒しにして押し潰したような状態で100点あまりの土器が一括出土している。土器片とはほぼ同レベルから焼獣骨多量に出土しており、P-213のように土器に焼獣骨がはいっている可能性がある。なお、一括土器は、完形まで至らず底部から胴部にかけての破損品であった。また、一括土器以下からは遺物はほとんど出土していない。

P-251 (図 51)

E-13-a区より出土する。南側の境界の土層でII黒層を掘りこむ凹みは確認され、墳中にあたるところから多量の焼獣骨が一括土器といっしょに出土することから遺構として扱うことにした。プランの一部が排水のトレンチと重なるために底面のごく一部分しか確認できず、形状・規模は不明である。一括土器はセクション図に示すように、東側の壁面近くに内面を上にし、墳口に対して水平な状態で出土している。土器は深鉢形であり、復元しても完形まで至らない。

P-339 (図 50・写真図版 15-④)

E-7-d区より出土。Ta-c層上面でプランが確認できたものである。東壁の張り出しは壁面のTa-cが崩落したことによるものであり、従って形状は円形に近いものになると思われる。周囲のTa-cは火熱を受けて淡橙色を呈し、しまっている。底面はEn-a room漸移層中につくられ南東方向へゆるやかに傾斜している。埋土は5つに分かれるが1層はI黒の2次堆積層であり、2層以下が本来の埋土である。遺物は土器・炭化したミルク・焼獣骨があり、石器は出土していない。土器は2層から3層にかけて多くみられ、器内面を上にして墳口に対してほぼ水平な状態で出土している。また、一括土器の分布と重なるようにその下位からは焼獣骨・炭化したクルミが出土する。獣骨はヒグマ・シカの指骨があり、白くなるほど強く焼かれている。

◎タイプ

石器の器種のうち石鏃・ナイフ・石斧などが出土し、出土遺物の中で石器が主体と考えられるものを◎タイプとする。

P-198 (図 52・写真図版 17)

D-11-a区。Ta-c層上面でプランが確認できたものである。東側にあるP-197を切っているため東側の構造は一部不明である。形状は北東-南西に長軸をもつた円形を呈し、底面

は En-a ローム層中につくられておりほぼ平坦である。遺構のプランが確認された段階で、南壁の上部にベンガラまじりの Ta-c がブロック状に検出され、その中からヒトの臼歯歯冠部 3~4 ケが墳底方向へ並んで出土した。ベンガラまじりの Ta-c は a-b セクション図の 2 層に相当するものであり、その下位の 4 層は乳白色を呈する Ta-c で遺体の腐植層であることがわかった。このことから遺体は頭を南西方向にして、南側の壁面に沿うように埋葬されたと考えられる。また、a-b セクションで 3 層が 4 層によってせき止められる状態は、埋土が遺体にさざぎられていることを示すものであろう。遺物は、土器片、石器・剥片・焼けた獣骨片・炭化物が出土している。中でも石器は、石鏃・ナイフ状石器・スクレイパー・石斧・石製の有溝砥石・黒曜石の棒状原石などが墳底より出土し、いずれもベンガラが付着している。これら石器は、遺体に沿うように配置されており、積み重なった状態で出土している。

墳底から石器がまとめて出土したのは本例だけである。

P-178 (図 56)

C-12-b 区から出土。I 黒層中でプランが確認できたものである。北東-南西方向を長軸とする楕円形で、東側の IP-165 を切っている。両土墳墓の切り合い関係は、両者を結ぶセクション図の層堆積から明瞭に観察できる。このような例は本遺跡では数少ない。底面は II 黒層中につれほぼ平坦である。遺物は、図示したナイフ状石器の他に、石斧の破損品が 1 点出土している。このうちナイフ状石器は墳底直上から出土したものである。縦長剥片を素材とする両面加工で、打面近くに太い柄を作り出している。

P-186 (図 55)

D-12-a 区から出土。Ta-c 層上面でプランが確認できたものである。北東-南西方向を長軸とする不整楕円形で、底面は En-a ローム層中につくられ、ほぼ平坦である。規模の割には遺物は少ない。遺物は、石鏃 1 点、スクレイパー 1 点、石斧 2 点、黒曜石の棒状原石 1 点があり、墳口-墳中にかけて出土している。

P-211 (図 56)

D-9-b、D-9-c 区にまたがって出土。Ta-c 層上面からプランが確認できたものである。直径 50 cm、深さ 15 cm 程の小規模なもので底面は盆状である。遺物は石鏃・スクレイパー・石斧・各 1 点ずつ出土しており、器種の内容からみると他の土墳墓と類似している。しかし、規模・埋土のあり方から本土墳は墓墳の可能性はうすく、周囲に広がる土墳墓群と結びつけてその性格を考えた方がよいと思われる。

P-343 (図 55)

E-7-a 区より出土。Ta-c 層上面からプランが確認されたものである。形状は不整楕円形

である。底面は En-a ローム漸移層中につくられ、ほぼ平坦である。遺物は墳口から墳中にかけて出土している。石器は、石鏃、スクレイパー、たたき石・軽石製の有溝砥石などがある。石器は特に集中して出土していない。遺物は土器・石器とも、墳底へ傾斜して出土している。遺体は確認されていないが、6層を遺体腐植層と考え、遺物は遺体の腐植に伴う埋土の変動によって、傾きを持って出土するようになったと考えられる。

P-414 (図 56・写真図版 16-②)

E-5-d 区より出土。Ta-c 層上面よりプランを確認したものである。形状は隅丸方形であり、本遺跡では唯一のものである。底面はⅡ黒層中につくられ多少の凹凸がある。埋土は、Ta-c の混じる割合により3つに分けられる。遺物は、埋土の1・2層から多く出土し、出土位置は西側半分に片寄っている。遺物には土器・石器および石器の素材ともなりうる大きさのフレイクがあり、これらと共に多量の焼獣骨片が出土している。中でもフレイクは、黒曜石の棒状原石と同じ風化面を残るものが多いことから、この原石を打ち欠いたものを墳中に散りばめたと考えられる。なお、墳底の北側に翻状に腐植した人骨がわずかに検出された。

P-467 (図 57)

D-3 区より出土。Ⅰ黒層中よりプランが確認されたものである。平面図で破線で示した部分はトレンチ調査と重複する箇所である。形状は楕円形であり、北東-南西方向を長軸とするものである。底面は En-a ローム層上面に達し、壁は底面からはほぼ垂直に立ち上がる。埋土は、墳口から墳中にかけては、黒色土と Ta-c が混ったものが厚く堆積し、墳底付近ではやや粘性のある黒色土が薄く堆積している。墳口部にある1・2層はⅠ黒層の2次堆積層であることから、本来の埋め土は3~6層になる。遺物は主として3・4層から出土し、土壌基全体に広がる。また、北西壁の3層中には、微細な焼骨の集中があり、魚類の椎骨片が1点出土している。土壌基から魚骨が出土したのは本例だけである。また、多数の土器・石器に混じって、原石面が残るフレイクが30点あまり出土している。これらを接合すると、黒曜石の棒状原石となり、30点あまりのフレイクは、この原石を連続して打ち欠いたものであることがわかった。これは P-414 でも述べたように、土器・石器と同じように原石片が土壌基の副葬品として扱われていたと考えられる。

P-416 (図 60・写真図版 16-①)

E-5-a 区。Ta-c 層上面よりプランが確認されたものである。形状は北西-南東方向を長軸とする楕円形で、底面はⅡ黒層上面につくられている。埋土は、墳口から墳底近くまで黒土と Ta-c まじりの褐色が厚く堆積している。遺物は手のひら大の黒曜石剥片が14ヶ出土しており、長軸の一端にあたる南東壁に押しつけられた状態で発見された。これらの剥片は原石面を残し、平均重量は86gであり、全部で1200gである。P-414・467と同様に14ヶの剥片

も同じ原石から剥ぎ取られたものと思われるが、接合・復元することは出来なかった。

④タイプ

④タイプの中で、P-223は墳口を覆うように En-a ロームがブロック状にみられるもので、これ以外のものは、主として墳中の埋め土に混じるものである。

P-223 (図 59・写真図版 16-④)

P-9-c 区より出土。Ta-c₂ 層上面よりプランが確認された段階で、En-a ロームが発見された。En-a ロームは墳口の東側半分を覆っており、ここから遺物は出土していない。このロームはセクション図の 2 層であり、その上にのる 1 層は I 黒の 2 次堆積層である。従って、ロームは本来の埋土の最上部にあたる。遺物は土器が多く、ロームの位置と重複しないかのように西側の墳中に集中しており、浅鉢形土器 1 個が復元された。その出土状況から、4 層を埋め戻した後、土器を割って入れたものと思われる。

P-233 (図 59)

D-10-b・E-10-a 区にまたがって出土。Ta-c₂ 層上面よりプランが確認されたものである。形状は不整形である。底面は En-a ローム層中につくられほぼ平坦である。En-a ロームは東壁の墳口部にブロック状に出土している。また図示した A~D は、焼骨が集中している範囲を示している。

P-67 (図 58)

D-9-a 区。C 層上面よりプランが確認できたものである。南西壁の掘りこみ部が張り出し形状が不整になっている。底面には En-a ローム層中につくられほぼ平坦である。En-a ロームは、埋め土の 2~4 層にまじり、中でも 4 層は En-a ロームが多量に含まれる。このロームは、その出土量からみて本土墳墓から掘りあげられたものだけではなく、他から持ち込まれたものもあると思われる。

この他、En-a ロームがはいる土墳墓は IP-72 (図-58)・79 (図-58)・86 (図-58)・234 (図-58) などがあり、墳口部にレンズ状に出土する P 234 を除き、全て墳中から墳底にかけての埋土に混じるものである。

⑤タイプ

本タイプに属する土墳墓は全て 11 ライン以東に位置し、径 1 m 以上の大型のものである。また遺物出土量が規模の割に少ない点も共通する。IP-202 (図-60) は、墳底のほぼ全面に敷かれている。IP-125 (図-61) と IP-196 (図-61) は、墳底の中央部に薄く残っているだけである。墳底からベンガラが明瞭に検出されたのは 3 例だけであり、他は粒状に埋土に少量混じ

るだけである。

⑩タイプ

P-96 (図 61)

C-10-b区より出土。Ta-c層上面よりプランが確認されたものである。墳底はEn-a
ルーム層中につくられ、ほぼ平坦である。埋め土の6・7層がTa-c₂スコリアである。6層の
スコリアは表面にススが付着して黒色を呈する。7層は赤褐色を呈する。赤褐色のスコリアは
調査区の西側の3～5ラインにかけて自然堆積状態で発見されており、水の影響により酸化し
たものである。本土墳墓の位置するところでは、このようなTa-c₂層は見られないことから、
他から持ちこまれたものであり、その色調からベンガラに替わるものとして利用したと思われ
る。

P-197 (図 61)

C-11-b・D-10-a区にまたがって出土。I黒層中よりプランが確認されたものである。
両側のP 198に切られている。7・8層がTa-c₂であり、両層はそれぞれIP 96の6・7層と
同じものである。また7・8層は墳底全体を覆っており、両層は明瞭に区分できる。

P-151 (図 50)

D-9-c区より出土。I黒層中よりプランを確認する。北西-南東方向を長軸とする楕円
形で墳底はEn-aルーム層中につくられておりほぼ平坦である。Ta-c₂は、埋め土の5・6層
であり、IP-67・197と同様に黒色・赤褐色の順に墳底を覆うように敷かれている。

以上3基の土墳墓の他にTa-c₂が埋め土のに前述のような状態ではいるものが6基ありい
ずれも調査区中央の9ラインより東側に位置し、自然堆積層としての赤褐色のTa-c₂層がみ
られなところである。

⑪タイプ

P-14 (図 60)

E-8-a・d区にまたがって出土する。Ta-C層上面よりプランが確認できたものである。
埋め土のうち1層が焼土であり、2層にも少量混じっている。

P-17 (図 60)

D-9-a区より出土。Ta-c層上面よりプランが確認できたものである。北-南方向を長
軸とする楕円形である。焼土は、長軸の一端である北壁の壁面に沿って分布している。火熱を
うけたTa-cに黒土が混じったものが焼けたものであり、焼獣骨・炭化物を含んでいる。遺構
周囲のTa-c層も火熱を受けていることから、本土墳墓周辺で何らかの火の使用があったと

思われる。

P-58 (図 60)

D-9-b区より出土する。Ta-c層上面よりプランが確認されたものである。焼土はプランの確認された段階で発見され、墳口の東側にある。IP-14と同様の出土状態で墳口部で火を焚いたものと思われる。また墳口中には炭火物が薄く広がる。

①タイプ

土墳墓出土の土器片で復元されたものは29個である。深鉢・浅鉢・壺・舟形土器がある。このタイプにあげた先の土墳墓14基は②~④タイプのように多量の土器が出土するものではない点異なる。また、完形に至るまでのものではなく胴部以下がかけているものやIP-232出土の鉢のように半分が欠けているものが多く、この点では②~④タイプに類似している。①タイプの中でIP-4出土の舟形土器も半分に割られたような状態で出土し、器面にベンガラがぬられている。ベンガラが付いた土器は少なく、IP-4はその構造とともに他と性格を異にする土墳墓のようである。

土器塚 (写真図版 19)

調査区中央よりやや東側に位置し、D-10-a・b・c・dにまたがっており主体部はD-10-cにある。Ta-c層上面を浅く掘り下げくんだところに多量の遺物が集積した遺構で、形状は不整形円形で、規模は長径5m、短径3m、深さ40cmほどである。覆土のTa-cが少量まじるI黒はかたくしまっており、上位から下位まで間断なく遺物が集積している状態であった。

遺物は、土器片・石器・剥片・礫が8,214点出土し、このうち土器片が全体の97%を占める。他に焼けた獣骨片・炭火物がある。土器片は全部で8,012点出土し、鉢形土器が8個体、舟形土器1個体復元され、そのうち4個体は胴部下半部あるいは底部がない。多量の土器片は小さな破片となっており、土墳墓や包含層中から出土するような大きな破片はほとんどない。部位毎の内訳は口縁部676点(8%)、胴部7,207点(90%)、底部130点(2%)である。

石器は、剥片・礫を含めて201点出土している。剥片・礫が多く、石鏃・ナイフ・スクレイパーなどは少ない。また礫石器はたたき石が1点出土している。

これらの遺物出土位置を平面図におとしたのが図43である。土器片の出土レベルを[A]~[F]の6段階に便宜的に分け、出土位置を模式的に示したものである。平面形は土器片を取り上げた結果確認されたものであるため、[A]・[B]の段階では平面形の外に広がっている。[A]・[B]の段階では小さな土器片が散在し、土器片の集中はみられない。[C]・[D]の中位では重なりあうように土器片が立った状態で出土するものが多くなる。また、平面内に分布するようになり、土器片の集中が若干みられる。下位の[E]・[F]の段階では上位のものに比べ大きな土器片が多く、かたまって出土する傾向がある。個々の土器片の出土状態をみると、傾きのあるものとなしものと

があり、前者では直立するものが多い。後者では器内面を上にはほぼ水平な状態のものが表面を上にするものに比べ約1.5倍ある。このように、土器片の出土状況は上位～下位まで一様ではないことから判断すると、本遺構出土の土器片は一挙に集積されたものとは思われない。

また、土器片の一部は土墳墓出土の土器片と接合し、復元に至ったものがある。土墳墓群も出土積物から一時に構築されたものでないことから、本遺構は周辺に広がる土墳墓群と関連を持ちながら徐々に形成されたものと思われる。土器は、IV群土器が大部分であるが、遺構の上面近くではV群土器が少量出土している。

小ピット

土墳の中でも、横径20cm、深さ10cm前後のものを土墳墓・土墳と区別して小ピットとした。すべてTa-c層中あるいはII黒層上面でプランが確認されたものであり、縄文時代晩期につくられたものである。図42は、小ピットの分布をあらわしたもので、他の遺構との関連を考えて土墳墓および住居跡の輪郭も記載した。小ピットのうち番号が付けされているのは、遺物が出土するものであり、230か所ある。遺物のないものを含めると約600か所になる。

図42にあるように小ピットは土墳墓が密集するところに多く、調査区中央より西側に分布が濃くなる。また、土墳墓の周囲にあるものと、離れて集中するものがあり、前者は遺物はいっていないものが多い。

遺物には、土器片・石器・剥片・焼獣骨片・炭化物などがある(表7)。土器片は復元できるものはなく、1か所から10点以下とごくわずかである。石器は、石鏃・ナイフ・スクレイパー・石斧・たき石などがあり、礫石器は破損品が多い。出土遺物の内容は土墳墓のものと類似する。

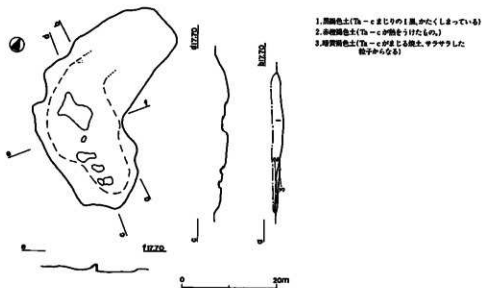


図42 土器塚

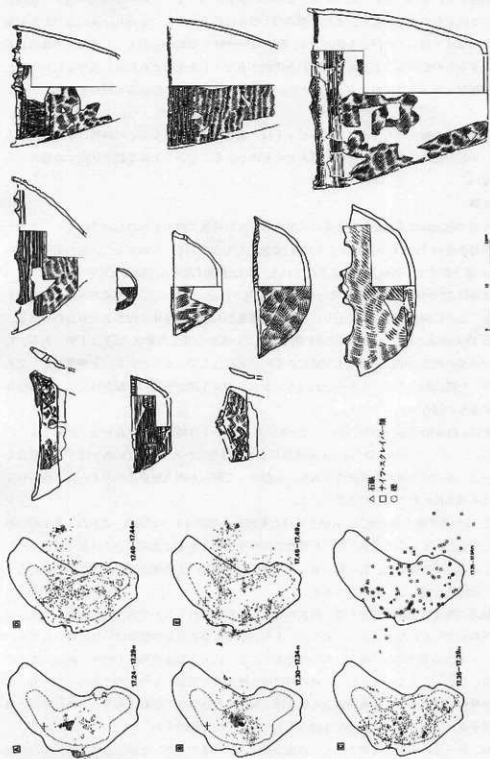


図43 土器窯の遺物出土様式図

土墳墓とその周囲にある小ピットは、掘め土の性質が同じものであり土墳墓の構築と同時に掘りこまれたものと思われる。また、両者の土器片は接合するものもあり、先に述べた土器集積跡と同様に土墳墓との関連を窺わせる。他に、P-198で墳底から出土した黒曜石の棒状原石が出土するものがあることから、副葬品を埋納するピットとも考えられる。またこれらとあわせて焼獣骨・ベンガラが出土することから、葬送儀礼的な行為に係わる可能性をもつものである。

土墳墓群から離れたところにある小ピットは、遺物がほとんどなくその性格は不明な点が多い。しかし一部には直線的な配列を思わせるものがあることから土墳墓群を区画する施設かもしれない。

焼土跡

I 黒層の焼土跡は黒土が火熱を受けて焼きしまった状態で検出されたものではなく、主としてI 黒層下位のTa-cが火熱により変質・変色したものである。したがって、他の遺構同様にTa-c層上面で焼土の輪郭が確認されている。また遺物はほとんど出土していない。

焼土跡は32か所あり、検出位置から2つに大別される。ひとつは、土墳墓の外側に土墳墓と切り合うように隣接するものであり、他方は土墳墓から離れて単独で検出されるものである。前者は13か所あるが、土墳墓の墳口が削平されているから焼土の形状・厚さは不明である。ただ、土墳墓の埋土の中にこの焼土が混在あるいは流れ込んでいることから、土墳墓の近くで火を使用した際に形成されたものと思われる。なおこの焼土跡は墳外の一部だけで、土墳墓全体にめぐむものはない。

後者は、19か所ある。このうちE-11-aにあるIF-1は周囲に小さなピットがめぐむものである。このピットの中にはTa-cが微量にまじる黒色土が入り、また底面が細くなる断面形であることから柱穴である可能性がある。したがって何らかの上屋構造が考えられ、他の焼土跡とはその性格が異なるものと思われる。

以上32か所の焼土跡の他に、火熱を受けた範囲が不明瞭なものがある。これは、黒土が赤茶褐色に変色し、その中に細かく砕けた焼獣骨片や炭化物を多量に含んでいる状態で検出されたものである。その位置は、E-10-a・d、D-13の南側・土器塚の周囲などで、いずれも土墳墓が確認されていないところである。

広範囲に残る焼土跡は獣骨を焼く儀式の場として利用されたものであり、したがってそこには土墳墓がつくられなかったのであろう。また、そこに残る多量の獣骨は一度に焼かれたものでなく、その必要に応じて焼かれたものである。とくに大きな広がりをもつ焼土跡は調査区中央東側にしかみられないことから、その周囲の土墳墓群と関連をもつものであろう。一方、土墳墓の墳外の焼土跡も、広範囲にある焼土跡と同じく葬送儀礼に係わるものと思われるが、焼土が削平されているために獣骨片はほとんどなく、不明な点が多い。

なお、H-2の北側に隣接する2つの焼土跡は、H-2のプランが確認された時に検出されたものである。他の焼土跡と同じく土墳墓に近い位置にあるが、その出土状況からH-2と関

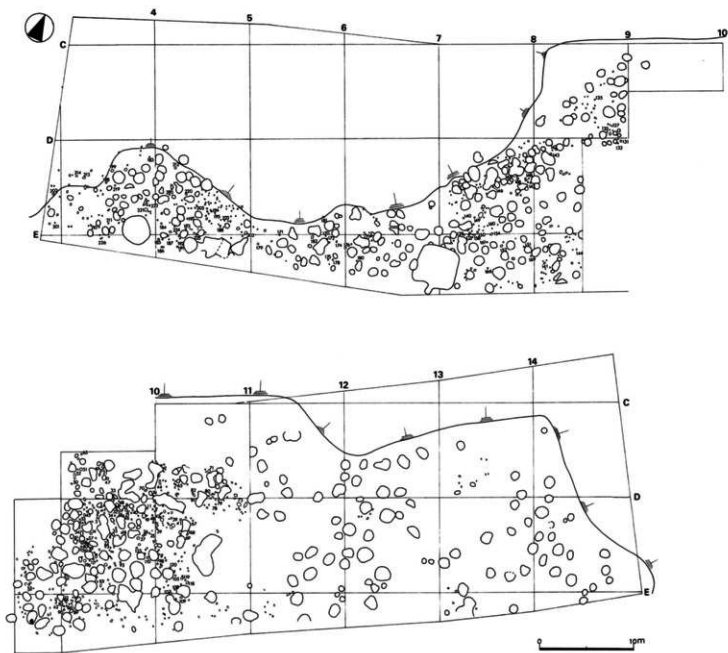
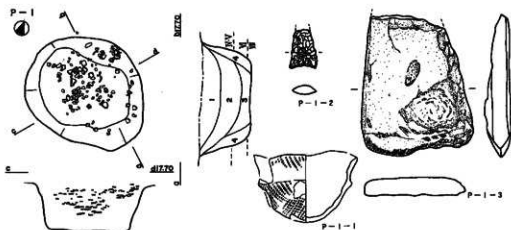
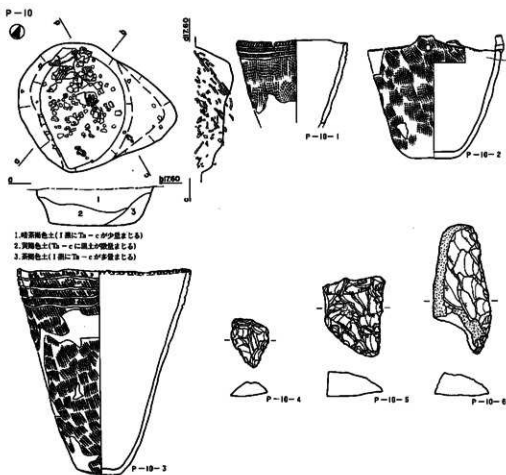


図44 I 黒層の小ピット (SP) 位置図



1. 黒褐色土 (I 層に増けた $Ta-c$ が顕著まじる)
2. 茶褐色土 (黒色土と $Ta-c$ がほぼ等量まじる)
3. 茶褐色土 (黒色土に多数の $Ta-c$ がまじる)
4. 暗茶褐色土 (黒色土に $Ta-c$ が少量まじる)



1. 暗茶褐色土 (I 層に $Ta-c$ が少量まじる)
2. 茶褐色土 ($Ta-c$ に黒土が顕著まじる)
3. 茶褐色土 (I 層に $Ta-c$ が多数まじる)

図45 I 黒層の土壌 (1)



図46 I 黒層の土壌 (2)

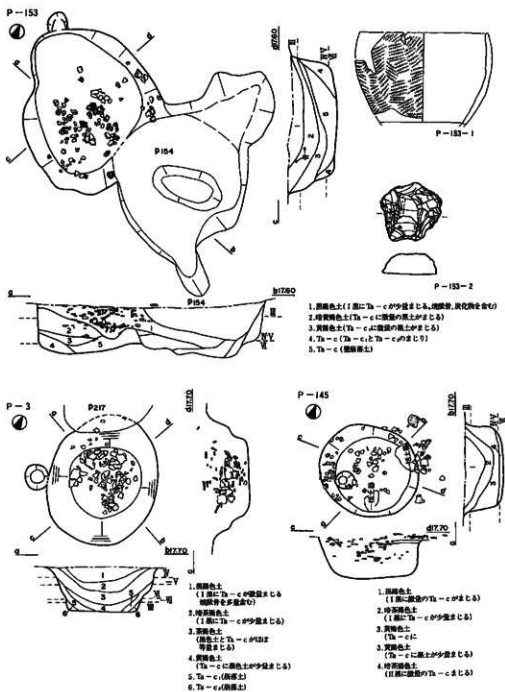
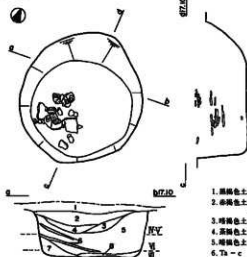


図47 I 黒層の土坑 (3)

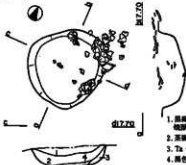
P-474



P-474-1

1. 黒褐色土 (I 層の再層積)
2. 赤褐色土 (黒土に赤褐色に変化したTa-cが多数にまじる)
3. 暗褐色土 (黒土に塊状赤、黄褐色が多量にまじる)
4. 赤褐色土 (Ta-cが少量にまじる)
5. 暗褐色土 (黒土とTa-cがほぼ均等にまじる)
6. Ta-c
7. Ta-c (塊状赤土)
8. 黒褐色土 (黒土にTa-cが少量にまじる)

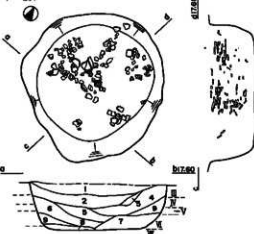
P-2



P-2-1

1. 黒褐色土 (I 層にTa-cが少量にまじる塊状赤、ベニダツ状を含む)
2. 赤褐色土 (I 層にTa-cが多量にまじる)
3. Ta-c (暗赤土)
4. 黒色土 (I 層)

P-201



1. 暗赤褐色土 (I 層にTa-cが多量にまじる)
2. 赤褐色土 (Ta-cに散在の黒土がまじる)
3. Ta-c
4. 赤褐色土 (粒性のある黒土に散在のTa-cがまじる)
5. 赤色土 (Ta-cと黒土がほぼ均等にまじる)
6. 黄褐色土 (Ta-cに散在の黒土がまじる)
7. 暗赤褐色土 (Ta-cに散在の黒土がまじる)
8. 黒色土 (黒土に散在のTa-cがまじる粒性がある)

図48 I 黒層の土坑 (4)

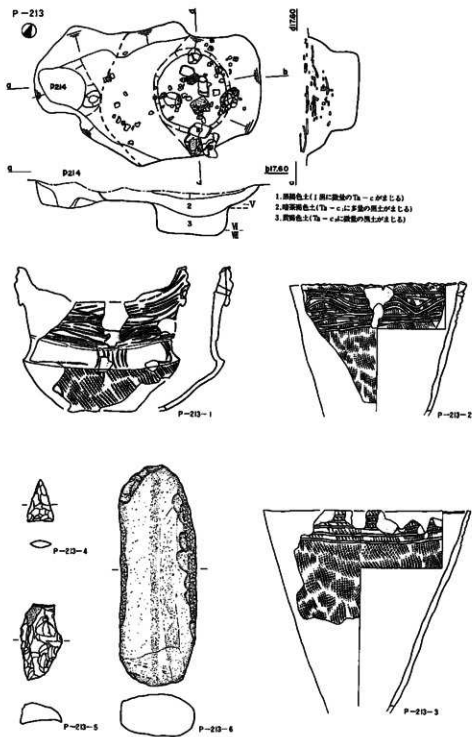


図50 I 黒層の土壌 (6)

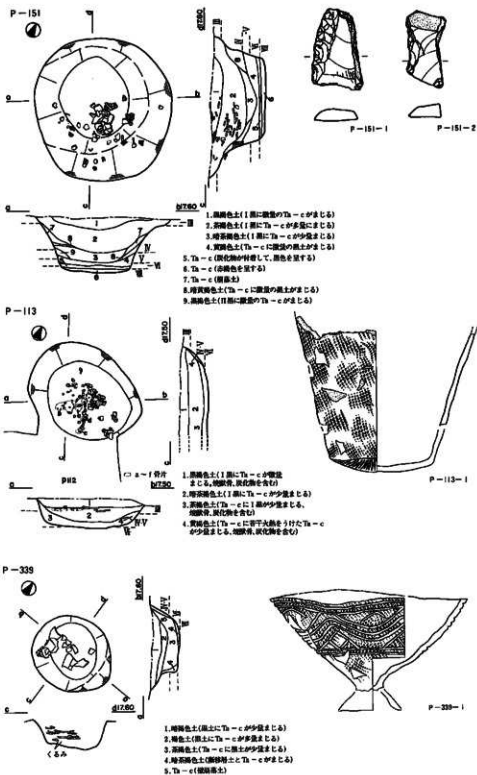


図51 I 黒層の土質 (7)

P-251

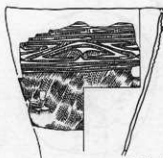


q

b1760



1. 赤褐色土 (1層にTa-cが微量まじる)
2. 暗灰褐色土 (Ta-cに1層が少量まじる)
3. 赤褐色土(Ta-cに黒色土が少量まじる。焼灰骨を少量含む)
2. 赤褐色土(焼土にTa-cが多量にまじる)
3. 赤褐色土(焼土とTa-cがほぼ等量まじる。焼灰骨を多量に含む)
4. 赤褐色土(Ta-cに微量の黒土がまじる)
5. Ta-c (焼灰骨土)
6. Ta-c
7. 暗灰褐色土(口周にEn-aロームが少量まじる)
8. 暗灰褐色土(En-aローム焼灰骨土と口周がまじる)
9. 赤褐色土(口周に多量のEn-aロームがまじる)
10. 暗灰褐色土(口周にEn-aロームが微量まじる)



P-251-1

P-318



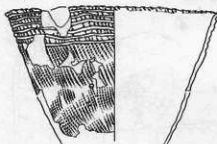
q1720

q

b1720

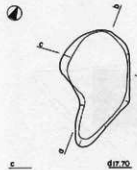


1. 赤褐色土(Ta-cとスフィア粒が変色したものと、焼灰骨を含む)
2. 赤褐色土(Ta-cと口周がまじる)
3. 赤褐色土(焼灰骨に微量のTa-cがまじる)
4. 暗灰褐色土(口周と焼灰骨土がまじる)



P-318-1

P-13



q1720

c

q1720



1. 赤褐色土 (1層にTa-cが微量まじる)
2. 暗灰褐色土 (Ta-cに1層が少量まじる)



P-13-1

図52 I 黒層の土壌 (8)

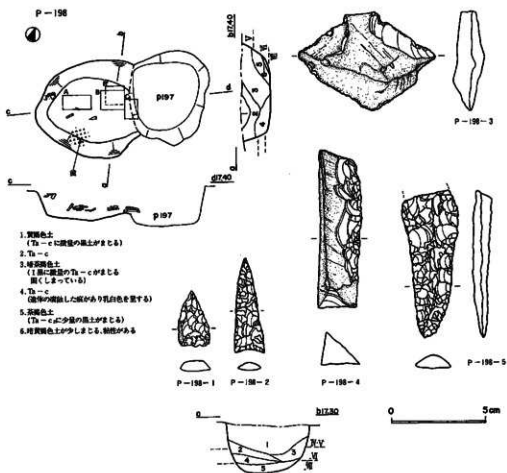


図53 I 黒層の土壌 (P-198) (9)



図54 P-198の出土遺物

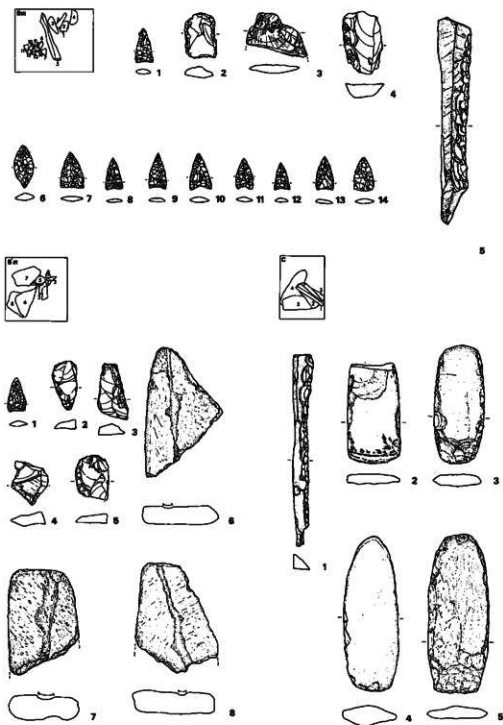


図55 P-198の出土遺物

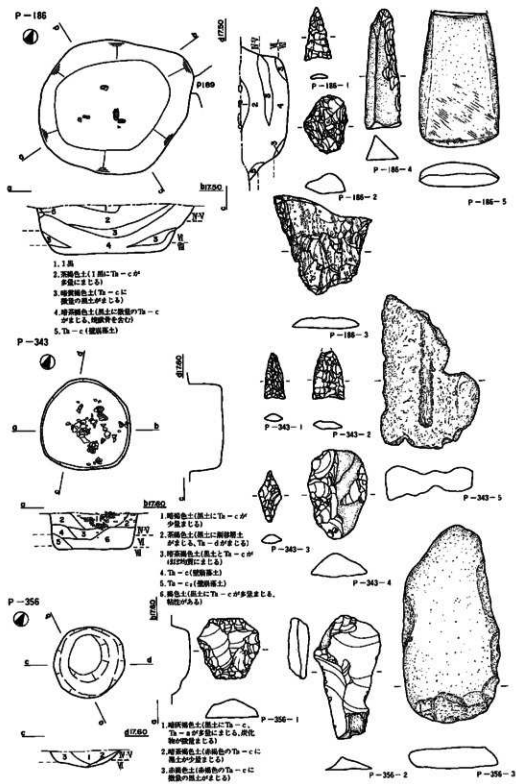


図56 I 黒層の土壌 (10)

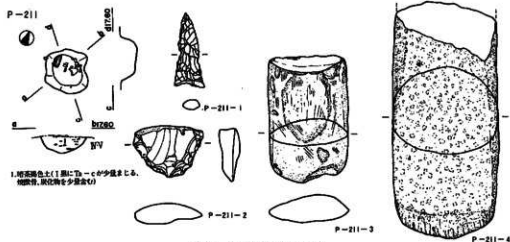
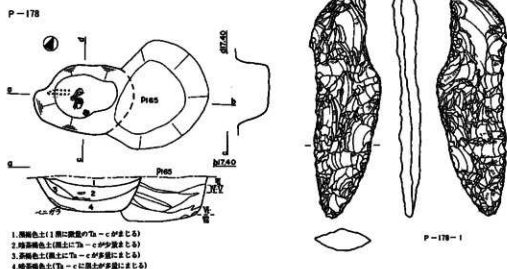
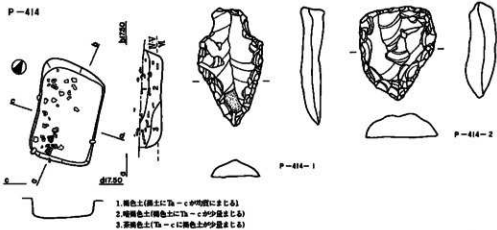


図57 I 黒層の土壌 (11)

P-412



P-412-1



P-412-2



P-412-3



P-412-4



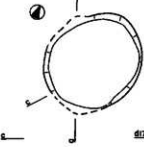
P-412-5



P-412-6

1. 褐色土(黒土にTa-cが少量まじる)
2. 褐色土(黒土に赤褐色を写すTa-cが少量まじる)
3. 褐色土(黒土にTa-cが少量まじる)
4. 褐色土(黒土にTa-cが少量まじる)

P-467



P-467-1



P-467-2



P-467-3



P-467-4



P-467-5

1. 褐色土(黒土に赤褐色のTa-cが少量まじる)
2. 褐色土(黒土にTa-cが少量まじる)
3. 褐色土(黒土とTa-cが少量まじる)
4. 褐色土(黒土にTa-cが少量まじる、褐色土が少量まじる)
5. 褐色土(黒土にTa-cが少量まじる)
6. 褐色土(黒土にTa-cが少量まじる)
7. Ta-c(褐色土)



P-467-6



P-467-7



P-467-8



P-467-9



P-467-10



P-467-11



P-467-12

図58 I 黒層の土塊 (12)

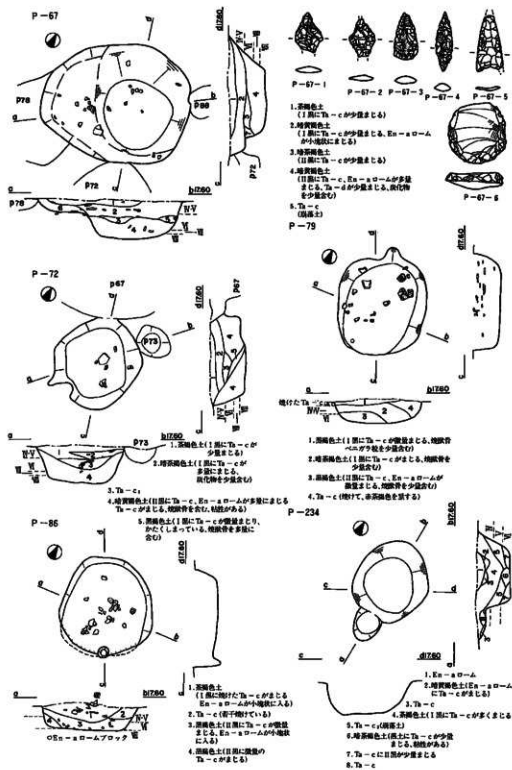


図59 I層の土壌 (13)

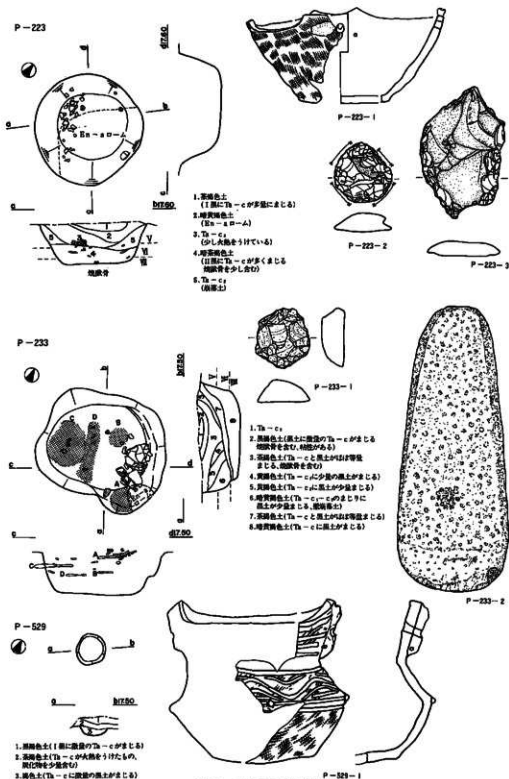
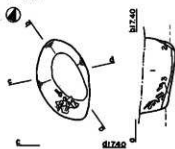


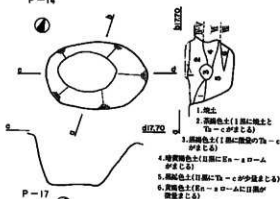
図60 I 黒層の土壌 (14)

P-416



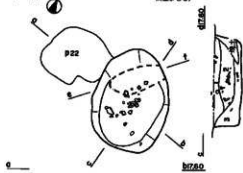
- 1.増殖色土(黒土にTa-cが明確にまじる)
- 2.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 3.Ta-c(腐植土)

P-14



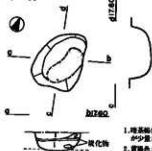
- 1.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 2.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 3.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 4.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 5.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 6.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)

P-17



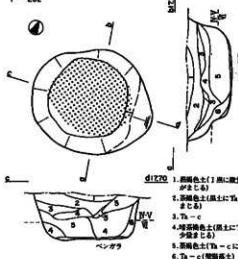
- 1.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 2.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 3.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 4.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 5.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 6.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 7.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 8.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)

P-58



- 1.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 2.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)

P-202



- 1.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 2.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 3.Ta-c
- 4.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 5.増殖色土(黒土にTa-cがまじる)
- 6.Ta-c(腐植土)



P-202-1



P-202-2

図61 I 黒層の土質 (15)

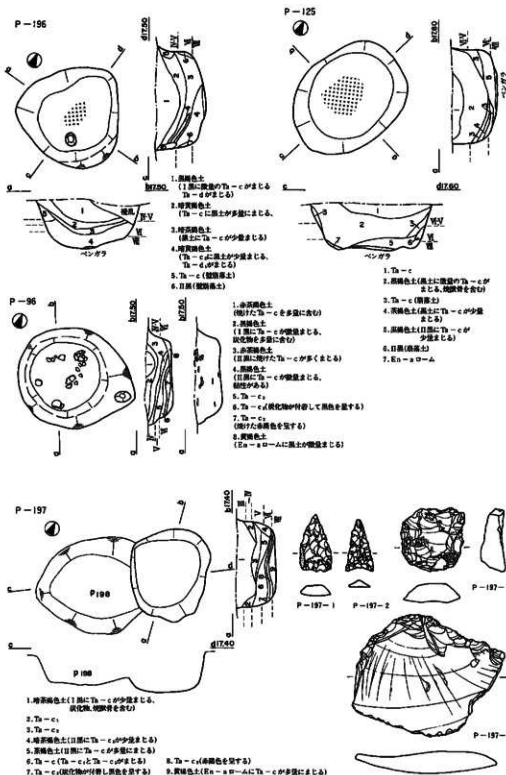


図62 I 黒層の土壌 (16)

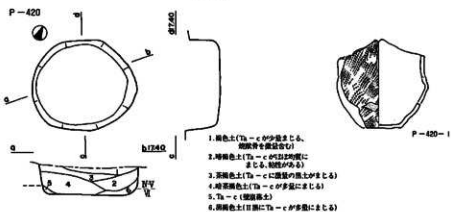
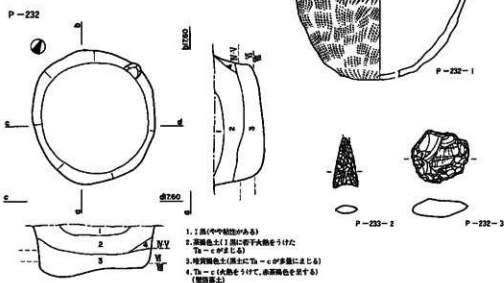
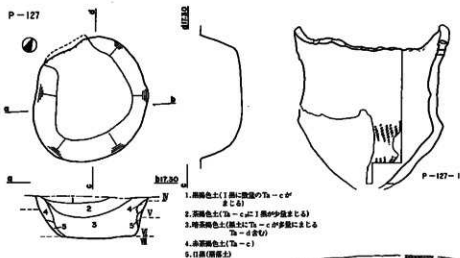


図63 I 黒層の土壌 (17)

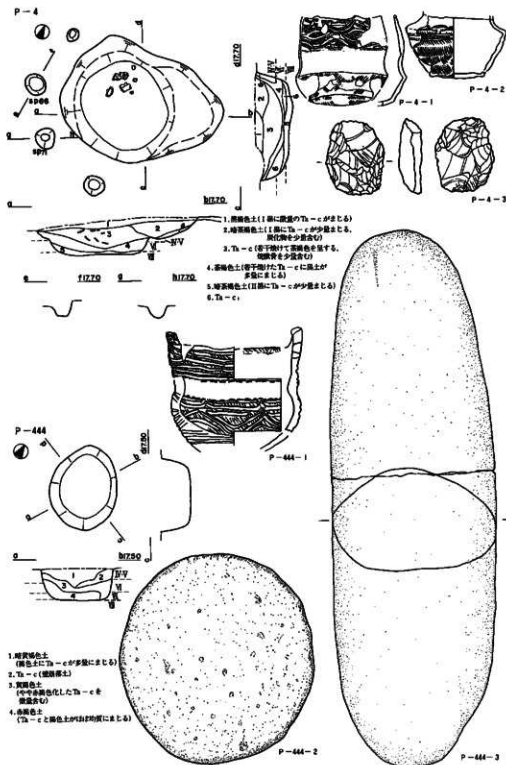
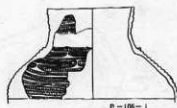
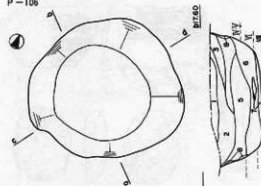


図64 I 黒層の土質 (18)

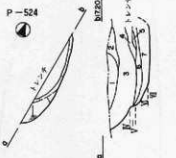
P-106



1. 黒褐色土 (1 部に少量の Ta-c がまじる)
2. 赤褐色土 (Ta-c に少量の黒土がまじる)
3. 暗赤褐色土 (黒土に Ta-c が少量まじる)
4. 黄褐色土 (Ta-c に黒土が少量まじる)
5. 暗褐色土 (黒土に Ta-c が少量まじる)
6. 黄褐色土 (Ta-c に黒土が少量まじる)
7. 黒褐色土 (黒土に少量の Ta-c がまじる)
8. Ta-c (焼酎土)



P-524



1. 黄褐色土 (Ka-a ロームに少量の炭化物がまじる)
2. 暗赤褐色土 (Ka-a ロームと黒土がまじる)
3. 褐色土 (Ta-c と黒土が均等にまじる、
焼酎土を少量含む)
4. 赤褐色土 (Ta-c に少量の黒土がまじる)
5. 黒褐色土 (黒土のブロック)
6. Ta-c (赤褐色を呈する)
7. 黄褐色土 (Ta-c に黒土が少量まじる)



P-524-1

図65 I 黒層の土壌 (19)

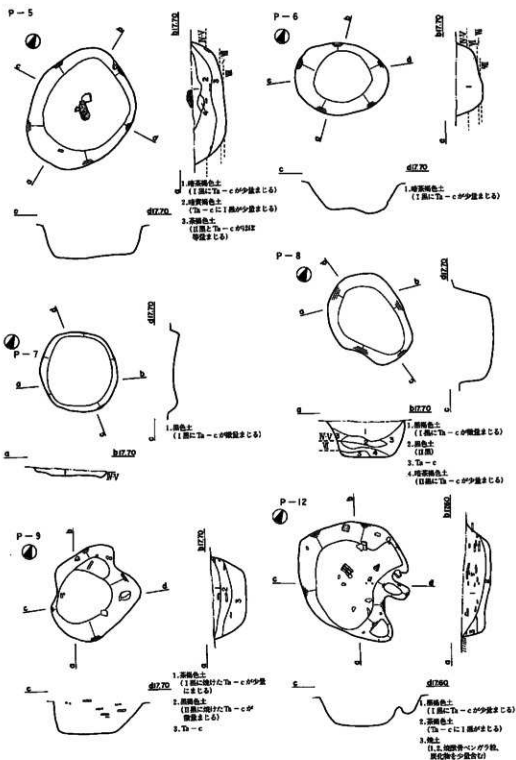


図66 I 黒層の土壌 (20)

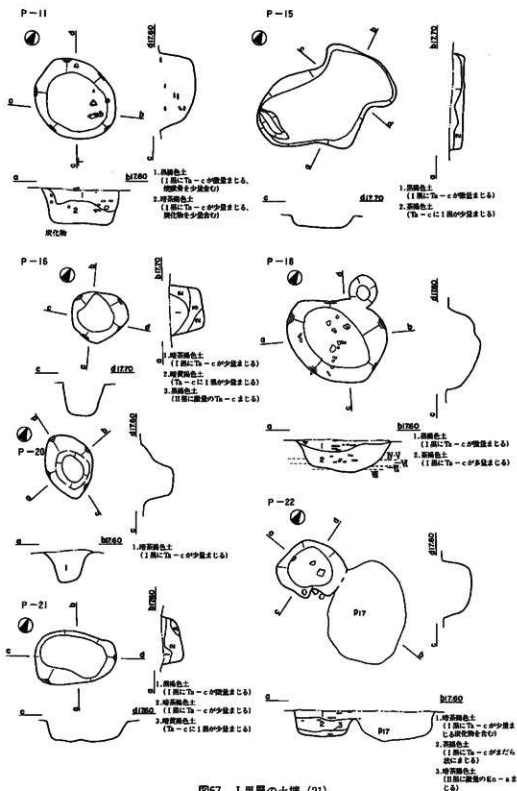


図67 I 黒層の土壌 (21)

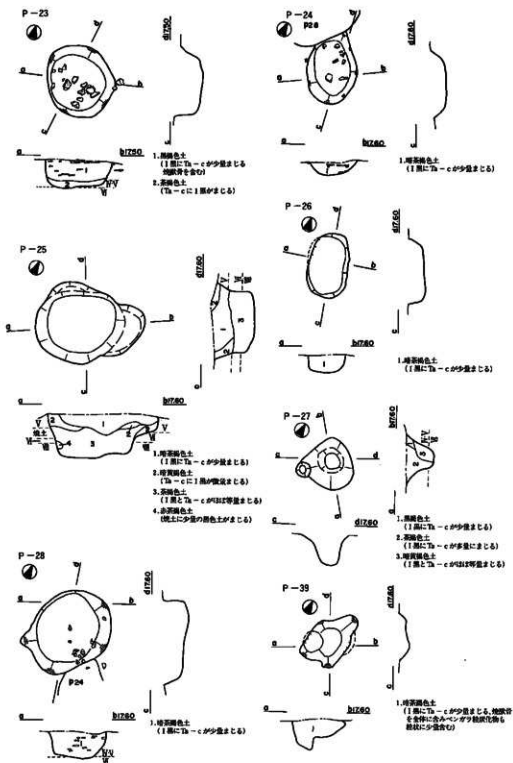


図68 I 黒層の土壌 (22)

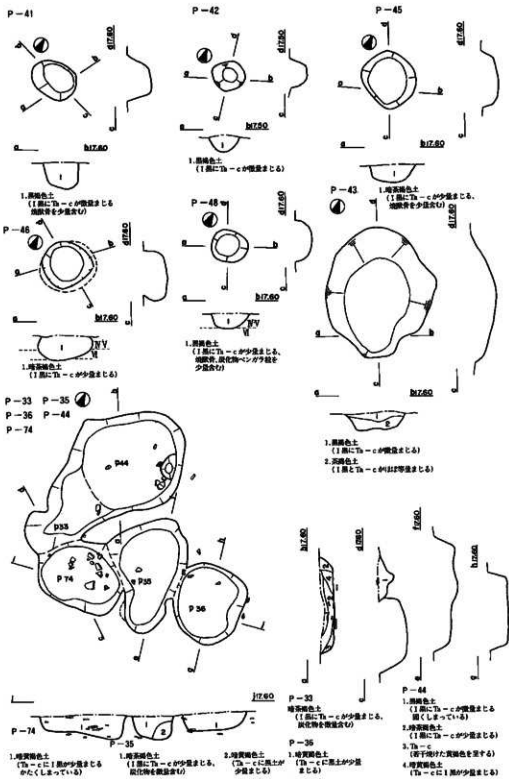


図70 I 黒層の土壌 (24)

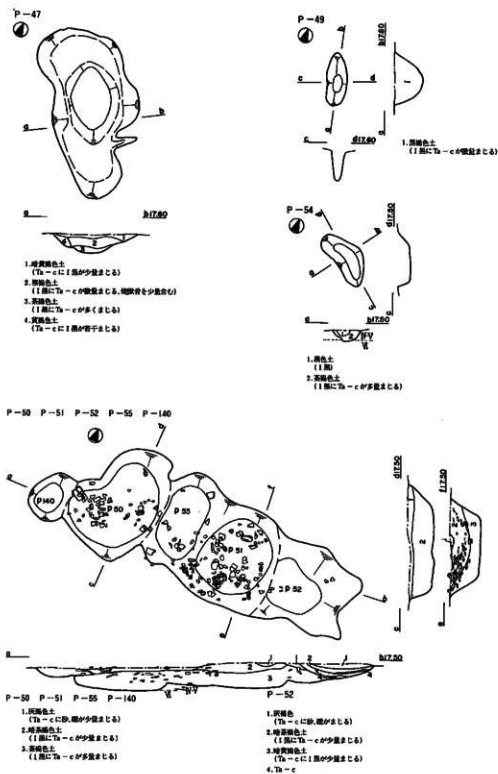


図71 I 黒層の土壌 (25)

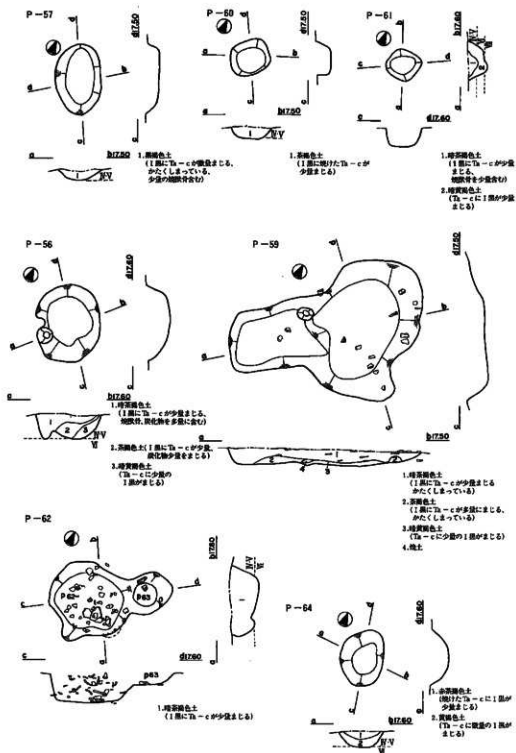


図72 I 黒層の土壌 (26)

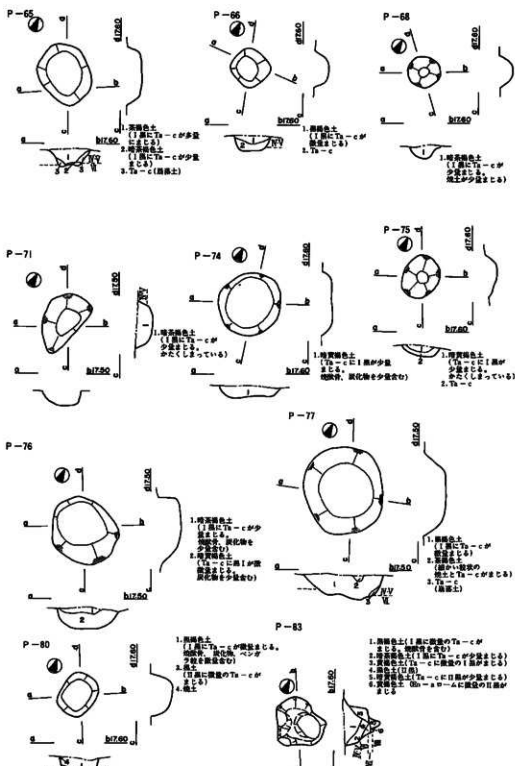


図73 I層の土壌 (27)

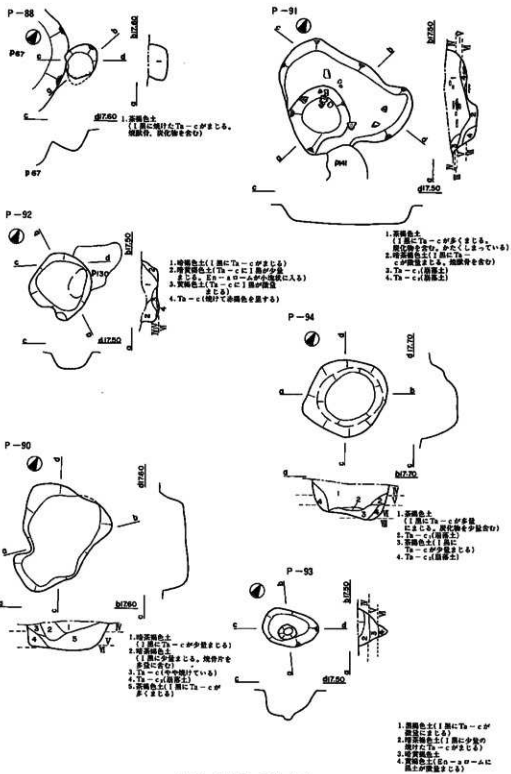
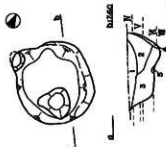


図75 I 黒層の土壌 (29)

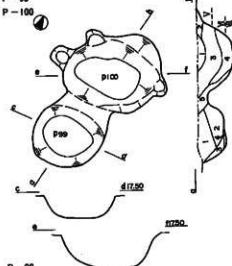
P-95



- 1.増殖褐色土(1層)にTa-cが多量にまじる。ベンガラ粒を散見含む。
- 2.増殖褐色土(Ta-c)に(1層)が少量まじる。
- 3.黄褐色土(1層)にTa-cの増けたものが少量まじる。
- 4.Ta-c(腐葉土)
- 5.Ta-c(増けて赤茶褐色を呈する)

P-99

P-100



- 1.増殖褐色土(1層)にTa-cが少しまじる。ベンガラ粒を散見含む。
- 2.増殖褐色土(1層)にTa-cが多量にまじる。
- 3.茶褐色土(Ta-c)に腐土が少量まじる。
- 4.黄褐色土(1層)にTa-cが少量まじる。

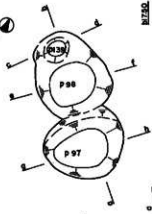
P-100

- 1.増殖褐色土(1層)にTa-cが少量まじる。
- 2.茶褐色土(1層)にTa-cが多量にまじる。
- 3.増殖褐色土(1層)にTa-cが(1層)で少量まじる。
- 4.黄褐色土(Ta-c)に腐土が少量まじる。
- 5.増殖褐色土(Ta-c)に腐土が少量まじる。

P-97

P-98

P-139



P-97

- 1.茶褐色土(1層)にTa-cが多量にまじる。炭化粒を少量含む。
- 2.増殖褐色土(1層)にTa-cが少量まじる。固くしまっている。
- 3.Ta-c(腐葉土)
- 4.Ta-c(腐葉土の強い黄褐色を呈する)
- 5.Ta-c(炭化粒が付着し黒色を呈する)

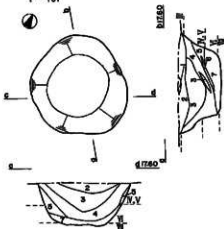
P-98

- 1.茶褐色土(1層)にTa-cが多量にまじる。
- 2.増殖褐色土(1層)にTa-cが少量まじる。固くしまっている。
- 3.Ta-c(腐葉土)
- 4.Ta-c(腐葉土の強い黄褐色を呈する)
- 5.Ta-c(炭化粒が付着し黒色を呈する)

P-139

- 1.茶褐色土(1層)にTa-cが多量にまじる。炭化粒を少量含む。
- 2.Ta-c(腐葉土)
- 3.増殖褐色土(1層)にTa-cが少量まじる。固くしまっている。

P-101



- 1.黒色土(1層)
- 2.茶褐色土(1層)にTa-cが少量まじる。
- 3.Ta-c(炭化粒を少量含む)
- 4.増殖褐色土(黒土)にTa-cが少量まじる。
- 5.Ta-c(腐葉土)
- 6.茶褐色土(黒土)にTa-cが少量まじる。
- 7.黄褐色土(黒土)に炭化粒のTa-cが多量にまじる。

図76 I 黒層の土壌 (30)

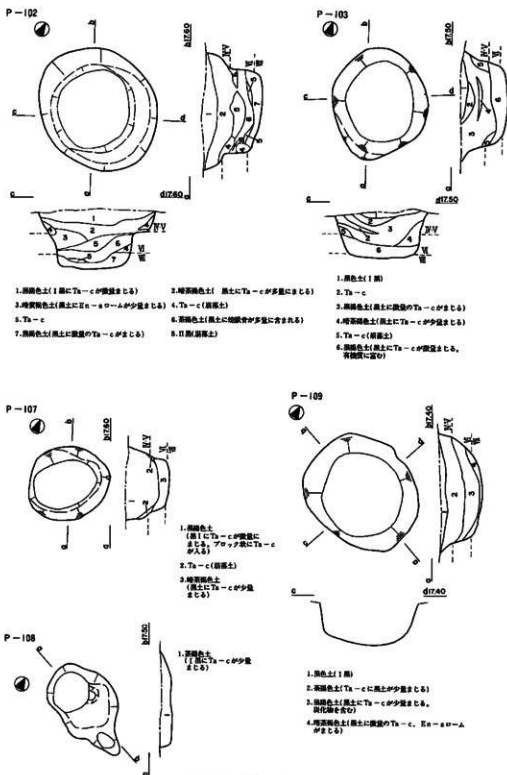
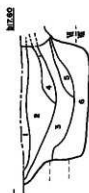
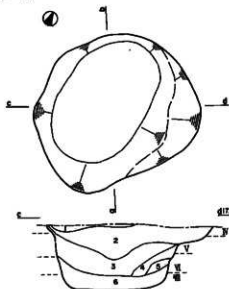


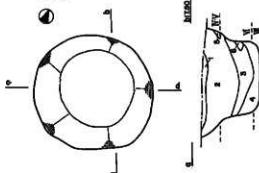
図77 I 黒層の土壌 (31)

P-104



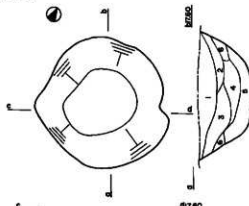
- 1.黒色土(1層にTa-cが微量まじる。深くしよってある)
- 2.黒褐色土(1層にTa-cが少量まじる)
- 3.暗茶褐色土(1層にTa-cが少量まじる。Ta-aを少量含む)
- 4.暗茶褐色土(1層にTa-cが少量まじる)
- 5.暗茶褐色土(1層にTa-cが少量まじる)
- 6.黄褐色土(Ta-cに日風。Ta-aを少量含む。Ta-dが1入が微量まじる)

P-110



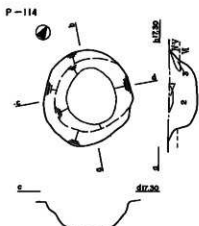
- 1.黒色土(1層にTa-cが微量まじる)
- 2.暗茶褐色土(1層にTa-cが少量まじる。日風。黄褐色を含む)
3. Ta-c
- 4.茶褐色土(Ta-cに風土が少量まじる)
5. Ta-c (黄褐色土)
6. 日風 (黄褐色土)

P-105

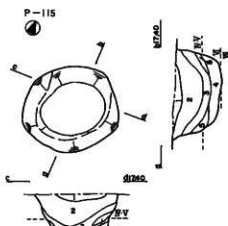


- 1.黒色土(1層にTa-cが微量まじる)
- 2.黄褐色土(Ta-cに微量の風土がまじる)
3. Ta-c
- 4.暗茶褐色土(Ta-cに風土が少量まじる)
- 5.黒褐色土(風土に微量のTa-cがまじる)
6. Ta-c (黄褐色土)

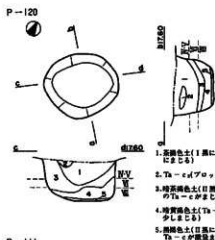
図78 I 黒層の土壌 (32)



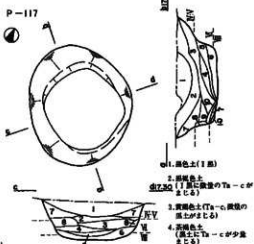
- 1.黒色土(1層)
- 2.茶褐色土(黒土にTa-cが少量まじる)
- 3.Ta-c(腐葉土)



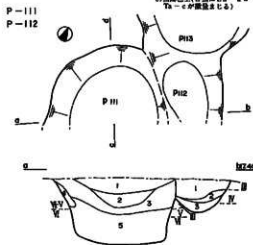
- 1.黒色土(1層)
- 2.茶褐色土(1層にTa-cが少量まじる)
- 3.茶褐色土(Ta-cに黒土が少量まじる)
- 4.茶褐色土(黒土にTa-cが少量まじる。炭化物を含む)
- 5.茶褐色土(Ta-cに黒土が少量まじる)



- 1.茶褐色土(1層にTa-cが少量まじる)
- 2.Ta-c(プロック)
- 3.茶褐色土(1層に炭化物のTa-cがまじる)
- 4.茶褐色土(Ta-cに黒土が少量まじる)
- 5.茶褐色土(黒土にTa-cが少量まじる)



- 1.黒色土(1層)
- 2.茶褐色土(1層に炭化物のTa-cがまじる)
- 3.茶褐色土(Ta-cに炭化物の黒土が少量まじる)
- 4.茶褐色土(黒土にTa-cが少量まじる)
- 5.Ta-c
- 6.茶褐色土(黒土にTa-cが少量まじる)
- 7.Ta-c(腐葉土)
- 8.1層(腐葉土)
- 9.Ta-c, 10.茶褐色土(1層にTa-cが少量まじる)



- P-111
- 1.黒色土(1層)
- 2.茶褐色土(1層にTa-cが少量まじる)
- 3.茶褐色土(1層に炭化物を含いたTa-cがまじる。炭化物を含む)
- 4.Ta-c(腐葉土)
- 5.茶褐色土(黒土に炭化物のTa-cがまじる)

- P-112
- 1.茶褐色土(1層に炭化物のTa-cがまじる)
- 2.Ta-c
- 3.Ta-c

図79 I 黒層の土壌 (33)

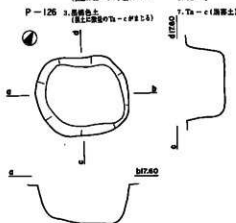
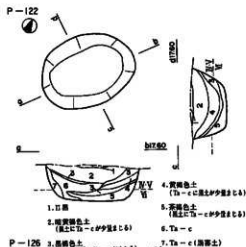
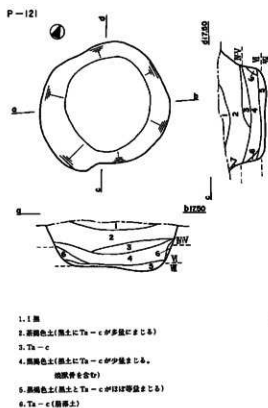
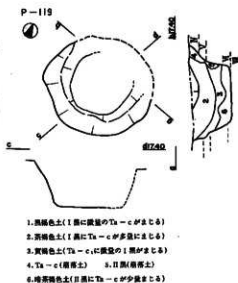
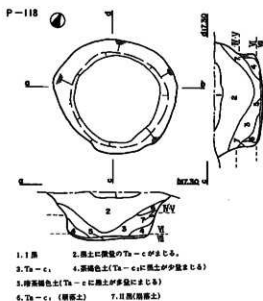


図80 I 黒層の土壌 (34)

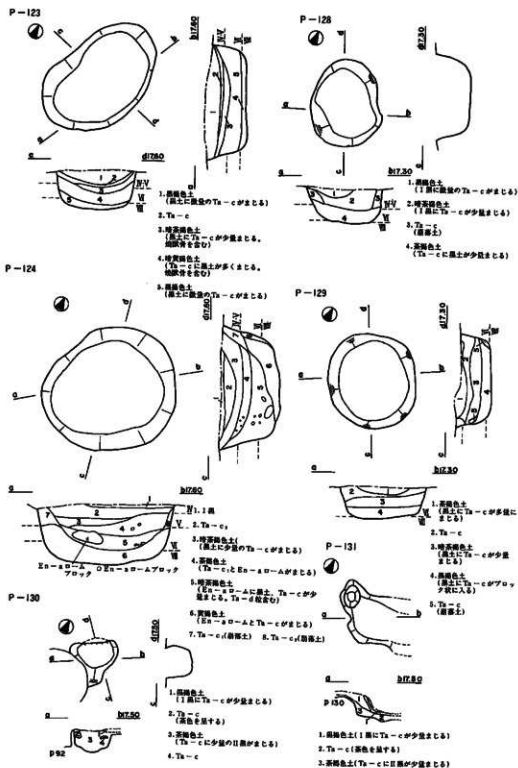


図81 I 黒層の土質 (35)

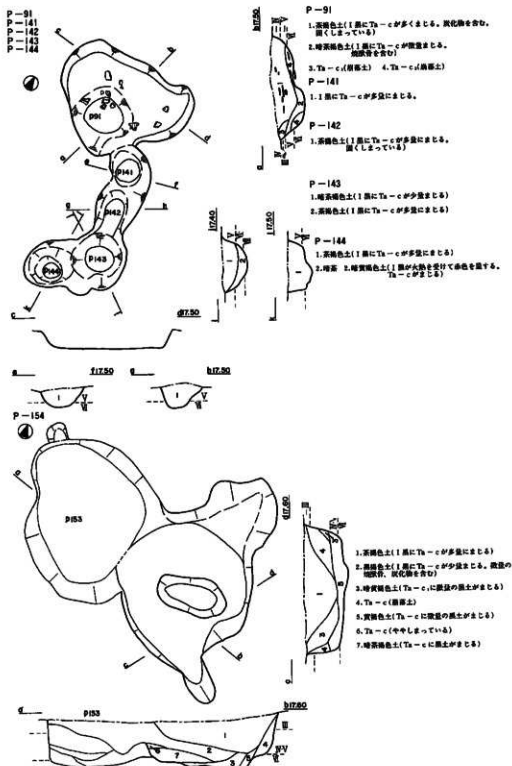


図82 I 黒層の土壌 (36)

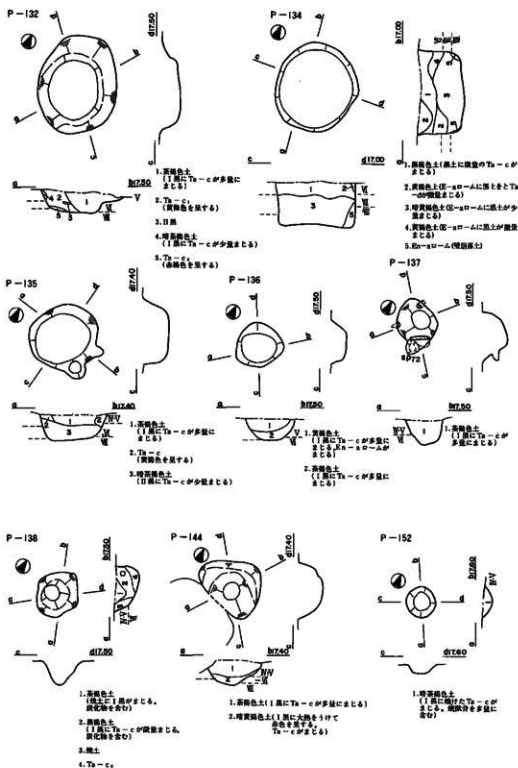
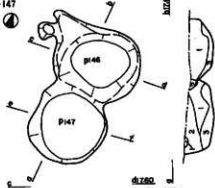


図83 I 黒層の土壌 (37)

P-146
P-147



0.5m
P-146

1. 黒褐色土(1層に散在のTa-cがまじる)
2. 黒褐色土(Ta-c)1層が多量にまじる

0.5m
P-147

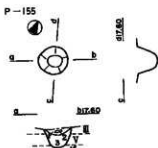
1. 黒褐色土(1層に散在のTa-cがまじる)
2. 黒褐色土(Ta-c)に1層が多量にまじる
3. 暗黒褐色土(Ta-c)に1層が少量まじる

P-148



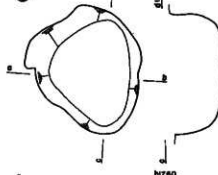
1. 黒褐色土(1層に散在のTa-cがまじる)
2. 黒褐色土(1層にTa-cが多量にまじる)
3. 暗黒褐色土(1層にTa-cが少量まじる)

P-155



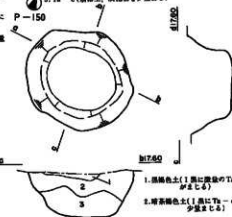
1. 黒褐色土(1層にTa-cが多量にまじる)
2. 細かく砕けた焼骨を多量に含む、灰青色を呈する。
3. 灰褐色土(Ta-c、炭灰の1層がまじる)

P-149



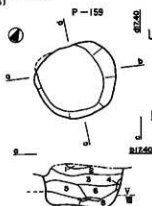
1. 黒褐色土(1層に散在のTa-cがまじる)
2. 黒褐色土(1層にTa-cが少量まじる)
3. 暗黒褐色土(1層にTa-cが少量まじる)
4. 黒褐色土(Ta-c)に炭灰の1層を含む
5. Ta-c(腐植土、炭化物を少量含む)

P-150



1. 黒褐色土(1層に散在のTa-cがまじる)
2. 暗黒褐色土(1層にTa-cが少量まじる)
3. 灰褐色土(Ta-c)に炭灰の1層がまじる

P-159



1. 黒褐色土(1層の焼灰されたもの、炭化物が全体に含まれる)
2. 暗黒褐色土(1層にTa-cが少量まじる)
3. 黒褐色土(1層にTa-cが多量にまじる、炭化物、炭を含む)
4. Ta-c(腐植土)
5. 灰褐色土(1層にTa-cが多量にまじる)
6. 黒褐色土(2層にTa-cが少量まじる)
7. Ta-c(ブロック状)
8. 暗黒褐色土(目玉にTa-cが少量まじる、Ea-aロームがまじる、炭灰がある)

図84 I 層の土壌 (38)

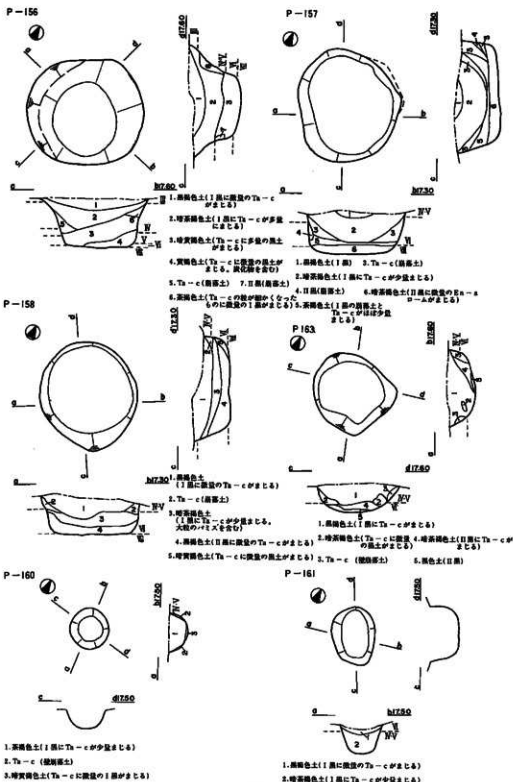


図85 I 黒層の土壌 (39)

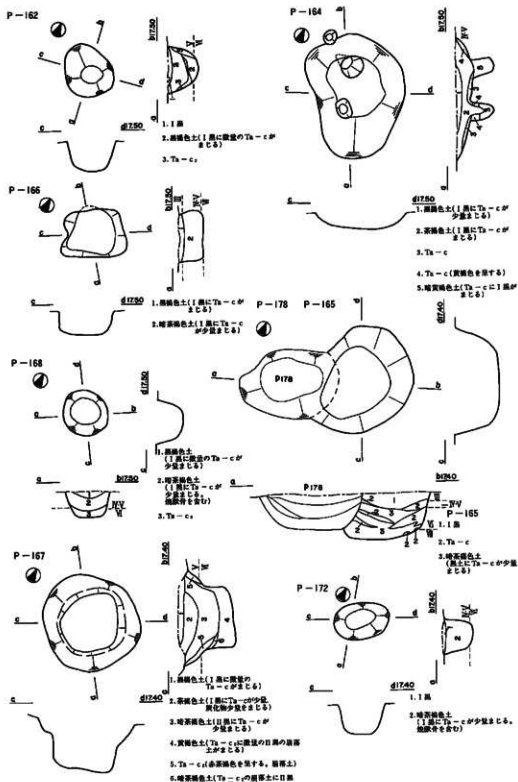


図86 I 黒層の土壌 (40)

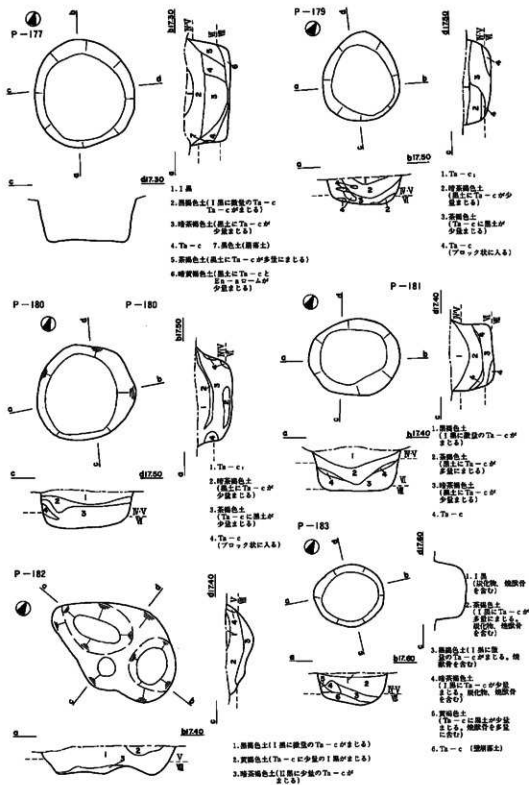
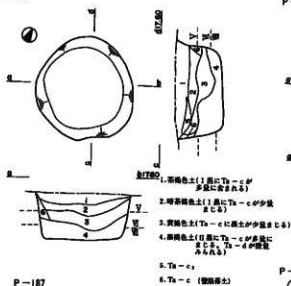
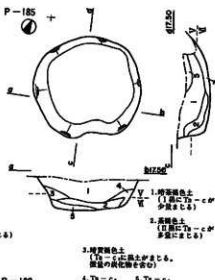


図88 I 黒層の土壌 (42)

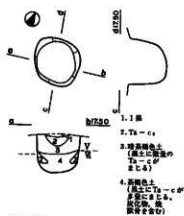
P-184



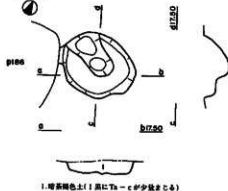
P-185



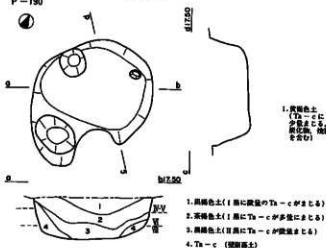
P-187



P-189



P-190



P-188

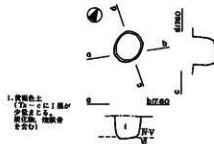


図89 I 黒層の土壌 (43)

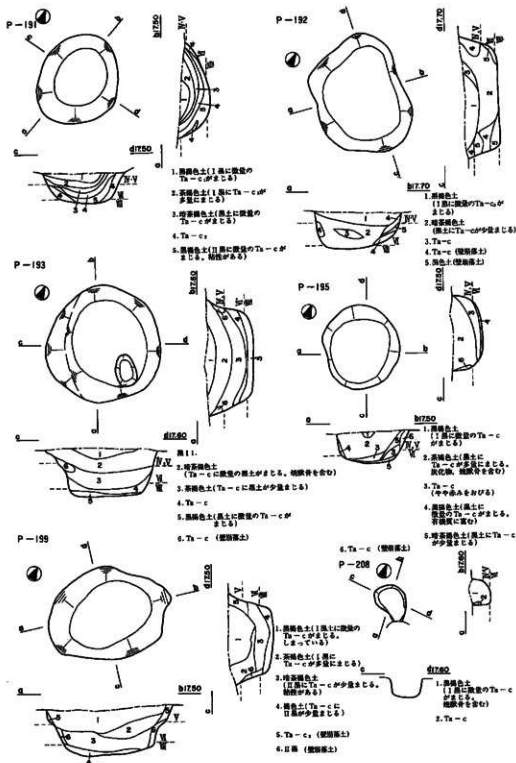


図90 I 黒層の土壌 (44)

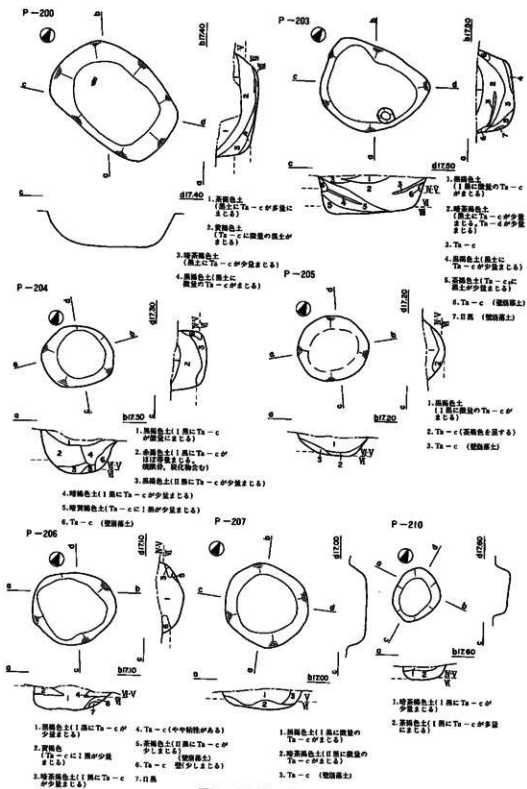


図91 I 黒層の土壌 (45)

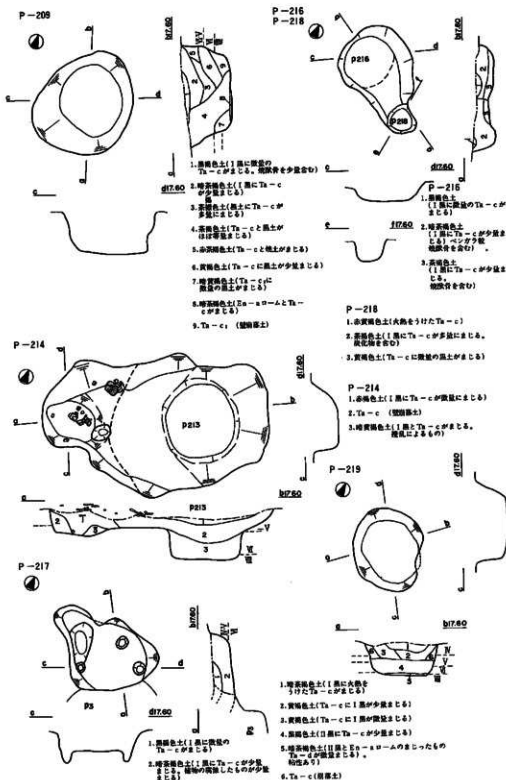


図92 I 黒層の土壌 (46)

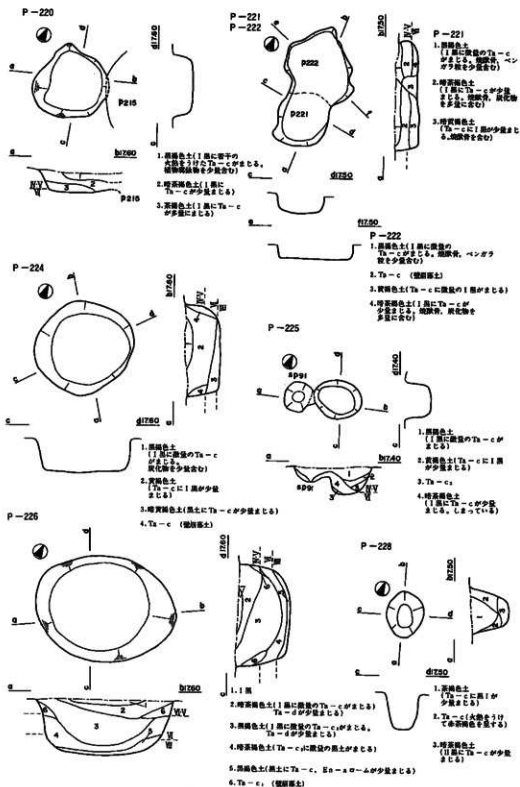


図93 I 黒層の土壌 (47)

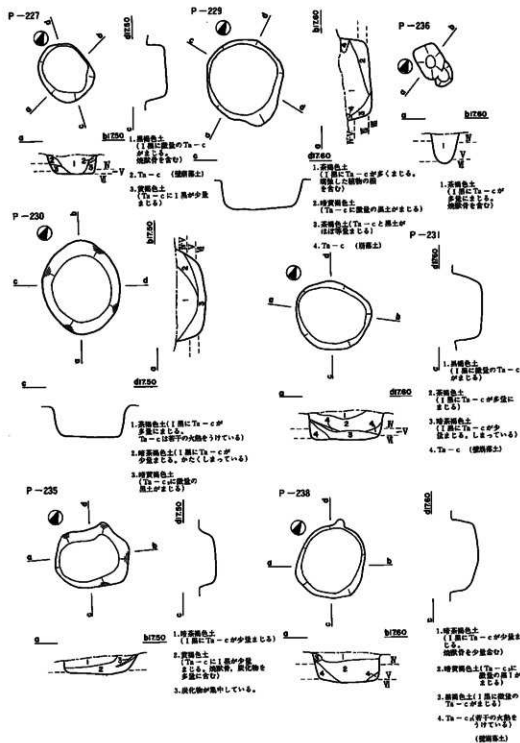


図94 I 層の土質 (48)

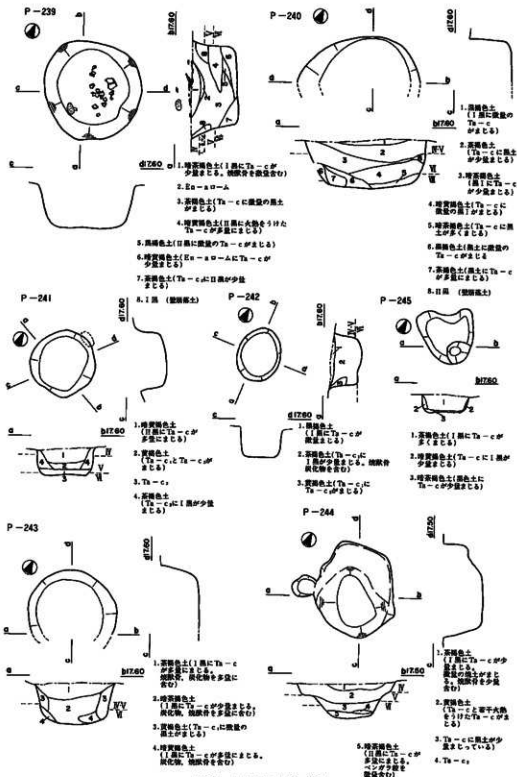


図95 I 層の土壌 (49)

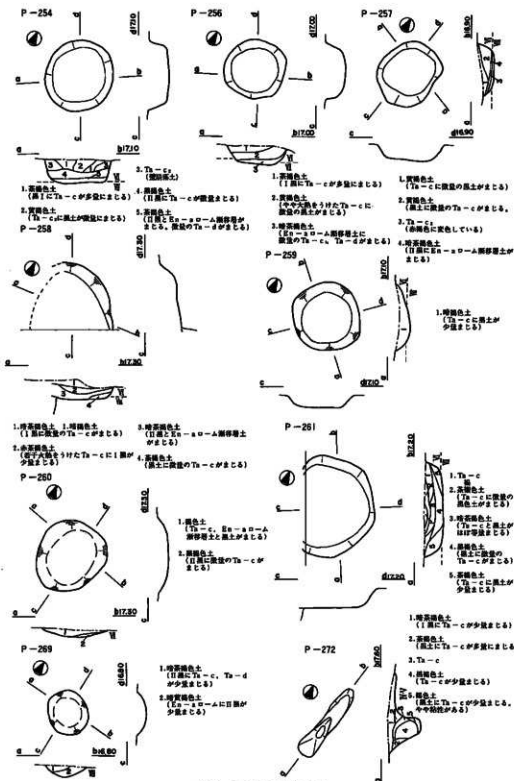


図97 I 黒層の土壌 (51)

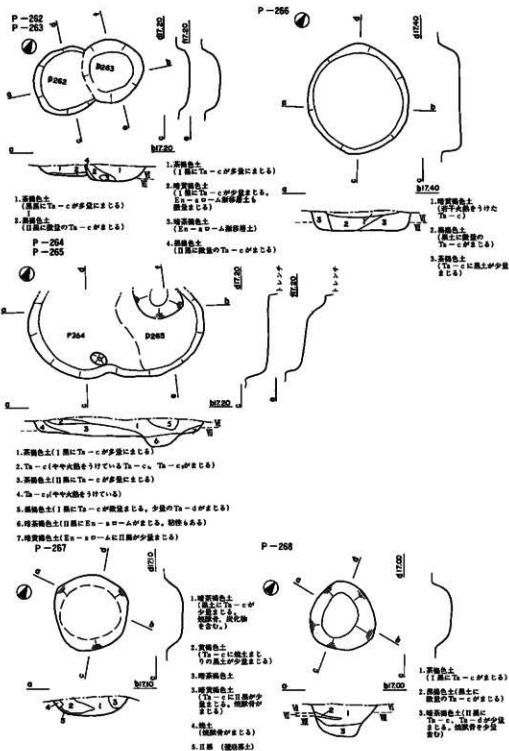


図98 I 層の土壌 (52)

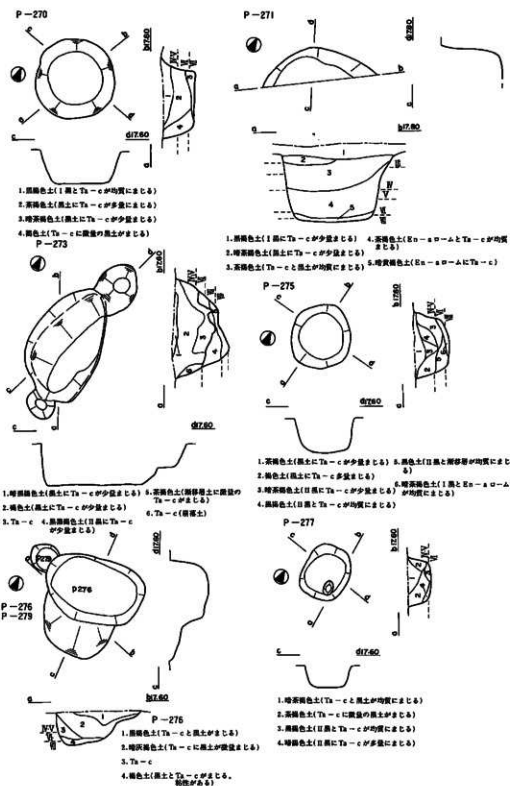


図99 I 黒層の土壌 (53)

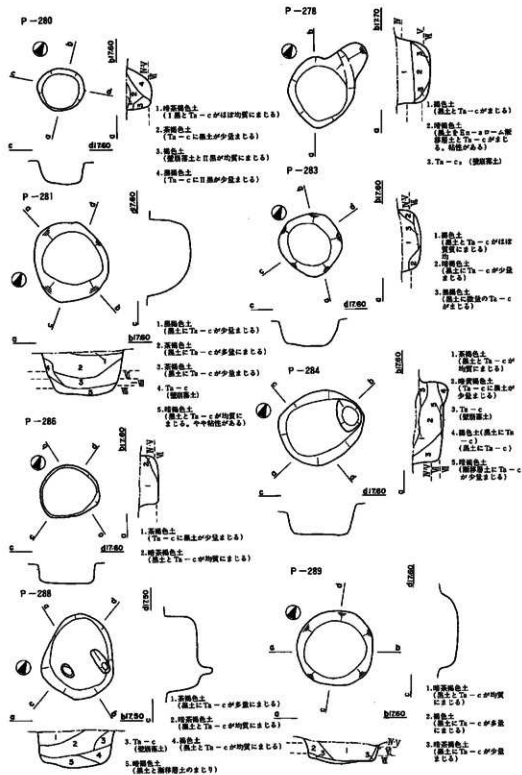


図100 I 黒層の土壌 (54)

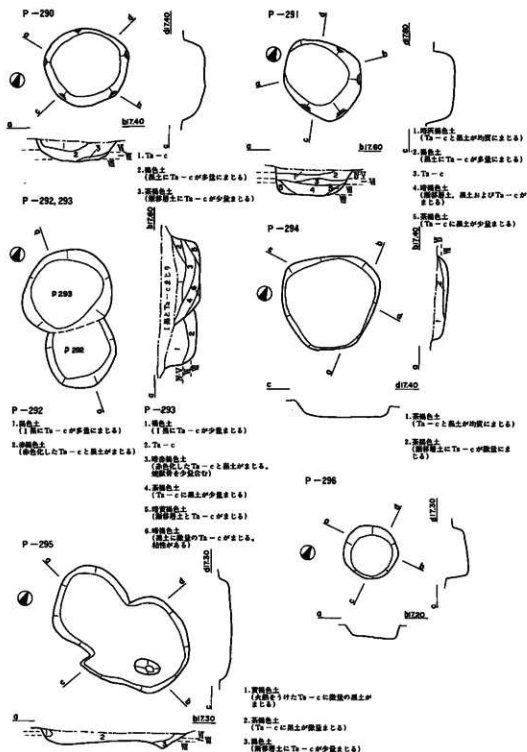


図101 I 黒層の土壌 (55)

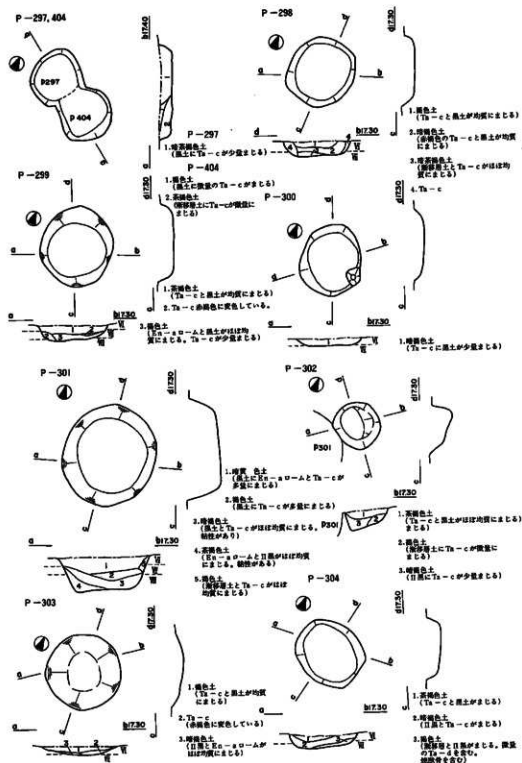


図102 I 黒層の土壌 (56)

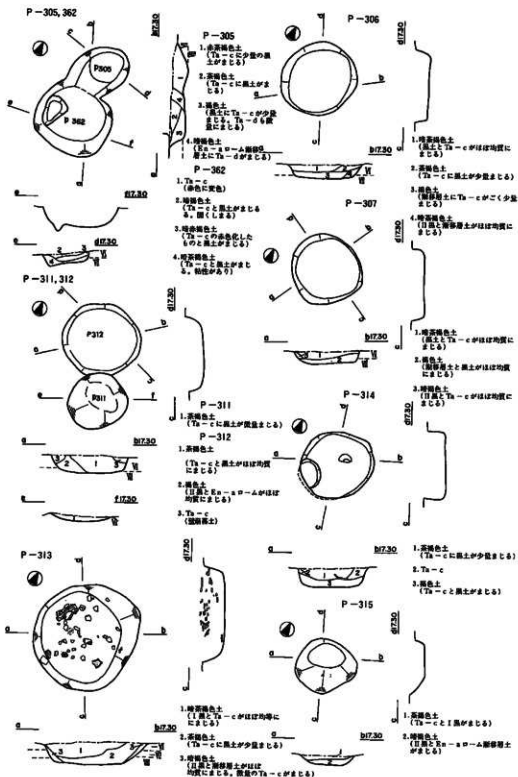


図103 I 黒層の土壌 (57)

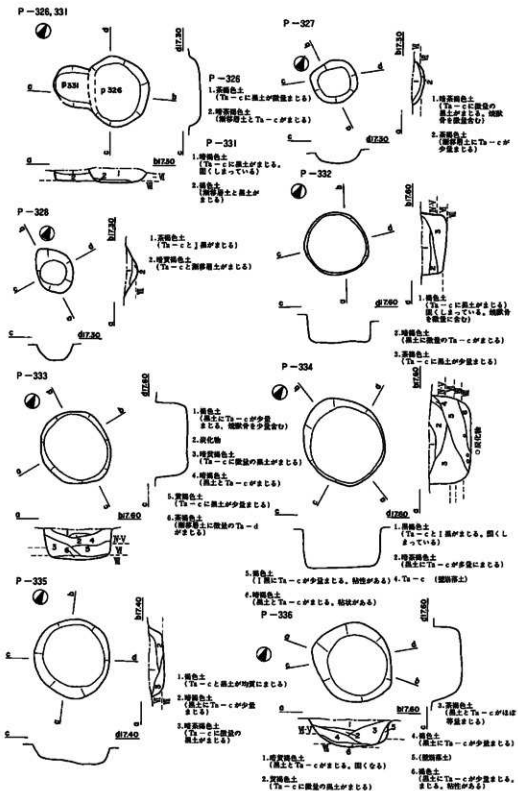


図105 I 黒層の土壌 (59)

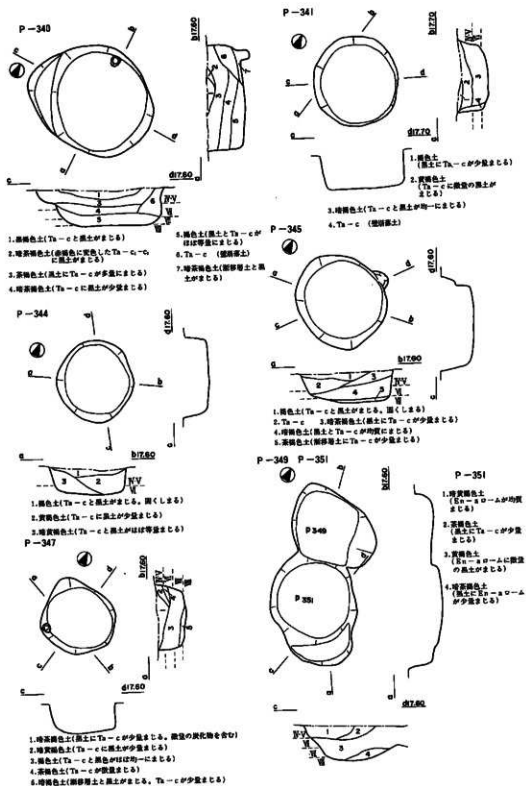
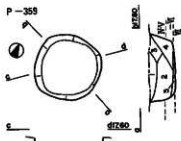
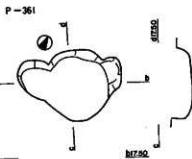


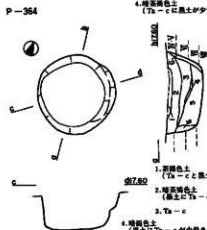
図106 I 黒層の土壌 (60)



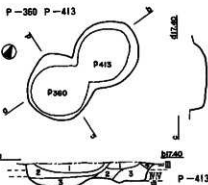
- 1.褐色土
($Ta-c$ と黒土がまじる、腐敗物を少量含む)
- 2.黄褐色土
($Ta-c$ に黒土が少量まじる)
- 3.暗黄褐色土
(黒土に $Ta-c$ が少量まじる)
- 4.茶褐色土
(黒土に $Ta-c$ が少量まじる)
- 5.暗褐色土
(腐敗物と黒土がまじる)



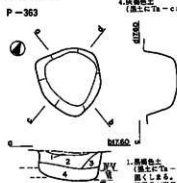
- 1.褐色土
($Ta-c$ と黒土がまじる、固くしめる)
- 2.暗茶褐色土
($Ta-c$ と黒土が均等にまじる)
- 3.茶褐色土
(腐敗物と $Ta-c$ がまじる)
- 4.暗黄褐色土
($Ta-c$ に黒土が少量まじる)



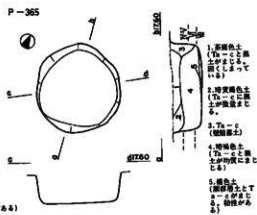
- 1.茶褐色土
($Ta-c$ と黒土がまじる)
- 2.暗茶褐色土
(黒土に $Ta-c$ が少量まじる)
3. $Ta-c$
- 4.暗褐色土
(黒土に $Ta-c$ が少量まじる、やや粘性がある)
- 5.褐色土
(黒土と $Ta-c$ がほぼ均一にまじる)
- 6.茶褐色土
(腐敗物と $Ta-c$ が少量まじる)



- 1.茶褐色土
(黒土に茶褐色をした $Ta-c$ が散在する)
- 2.褐色土
(黒土に散在の $Ta-c$ がまじる腐敗物がある)
- 3.暗黄褐色土
(黒土に散在の $Ta-c$ 、 $Ta-a$ がまじる)
- 4.暗褐色土
(黒土と腐敗物がまじる)
- 5.茶褐色土
(黒土に $Ta-c$ が少量まじる、固くしめる、腐敗物の $Ta-a$ もまじる)
- 6.暗黄褐色土
(黒土に散在の $Ta-c$ 、 $Ta-a$ がまじる)
- 7.暗褐色土
(黒土に散在の $Ta-c$ に腐敗物の黒土がまじる)
- 8.茶褐色土
(黒土に $Ta-c$ が少量まじる)



- 1.茶褐色土
(黒土に $Ta-c$ が少量まじる、腐敗物が散在する)
- 2.茶褐色土
($Ta-c$ に腐敗の黒土がまじる)
3. $Ta-c$
(腐敗物)
- 4.暗黄褐色土
($Ta-c$ と黒土がほぼ均等にまじる)



- 1.茶褐色土
($Ta-c$ と黒土が均等にまじっている)
- 2.暗黄褐色土
($Ta-c$ に黒土が少量まじる、 $Ta-c$ (腐敗物))
- 3.褐色土
($Ta-c$ と黒土が均等にまじる)
- 4.暗褐色土
(黒土に $Ta-c$ が少量まじる)
- 5.褐色土
(腐敗物と $Ta-c$ がまじる、粘性がある)

図108 I 風層の土壌 (62)

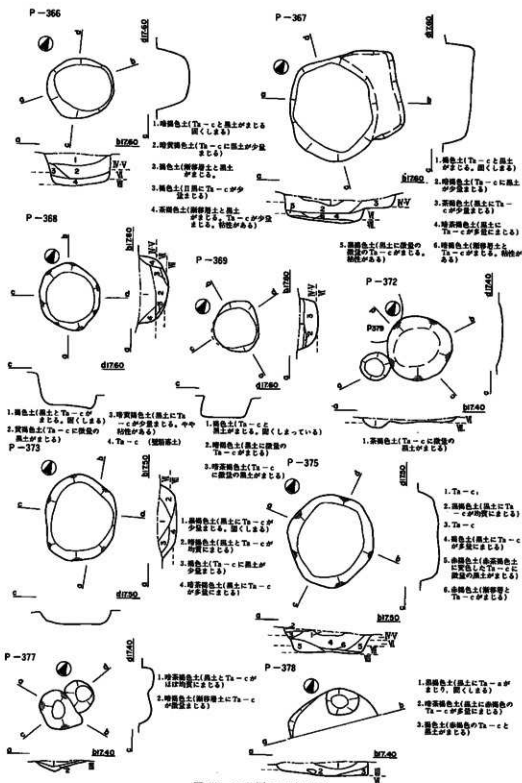


図109 I 黒層の土塊 (63)

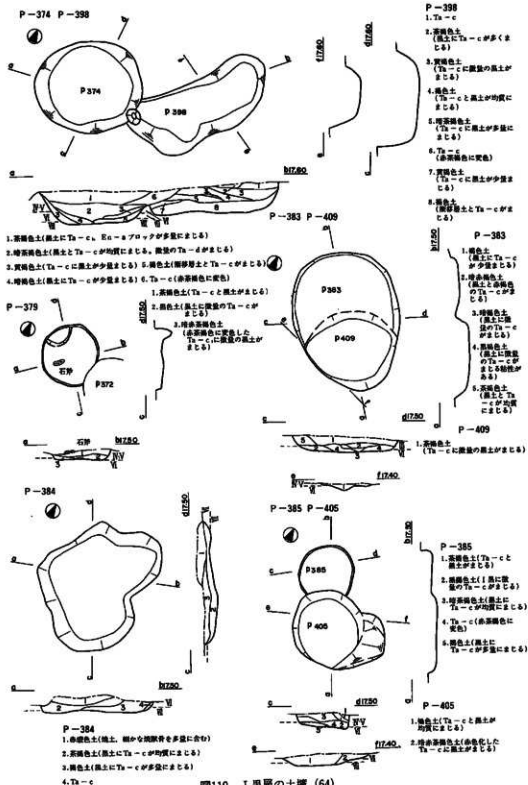


図110 I 黒層の土壌 (64)

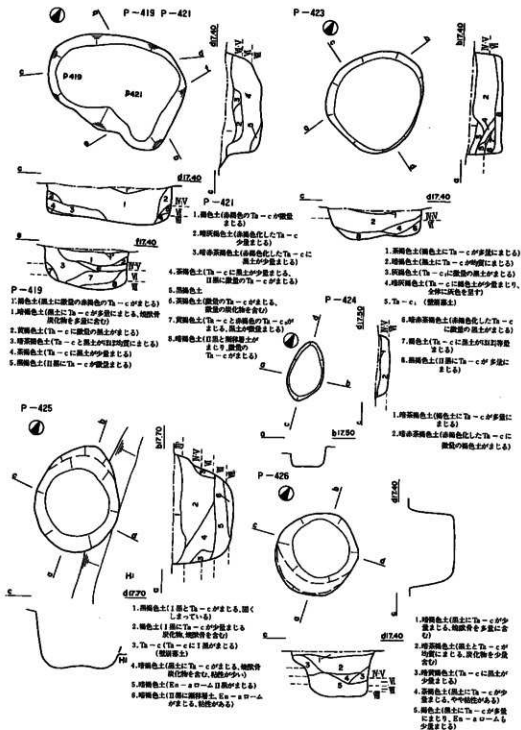


図113 I 黒層の土壌 (67)

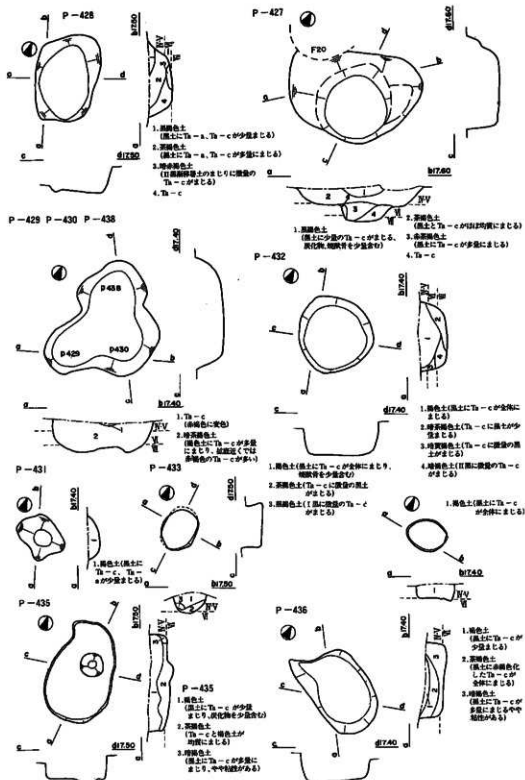


図114 I 黒層の土壌 (68)

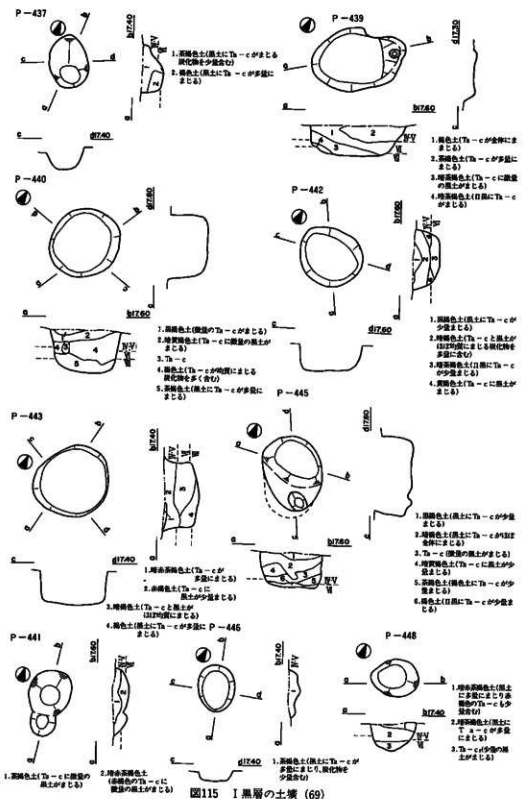


図115 I 黒層の土壌 (69)

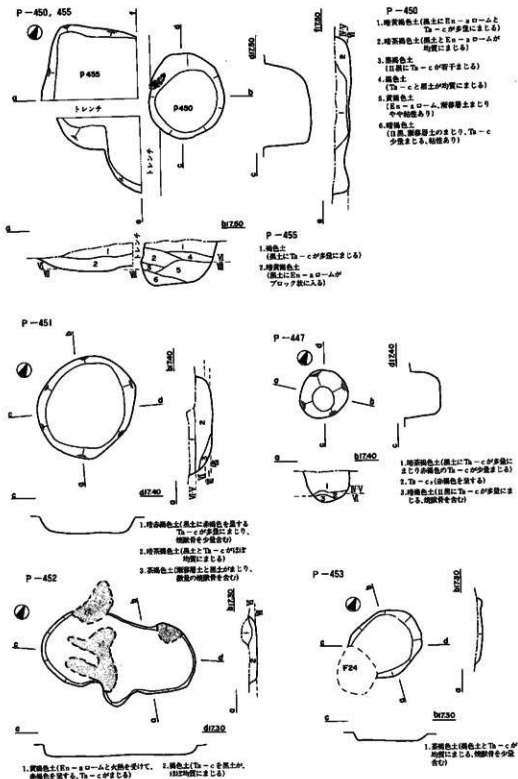


図116 1 風層の土壌 (70)

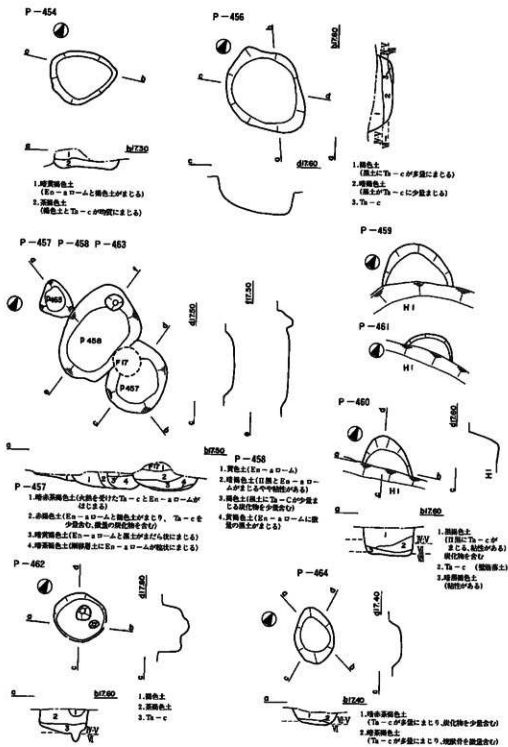


図117 I 黒層の土壌 (71)

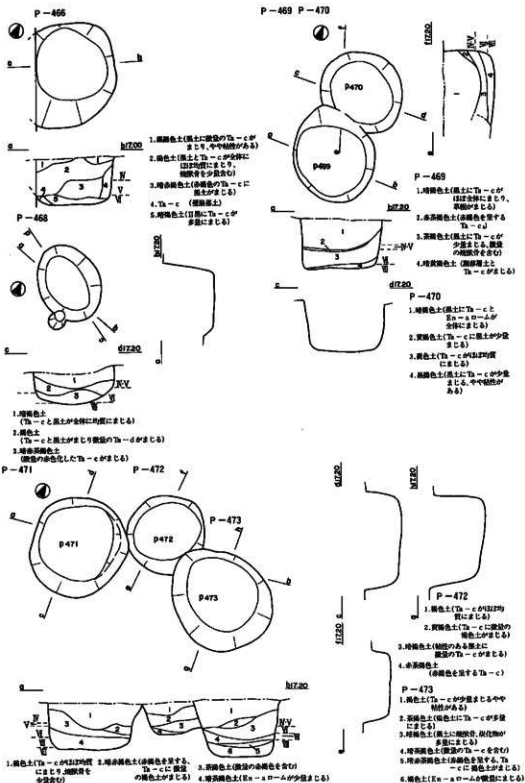


図118 I 黒層の土壌 (72)

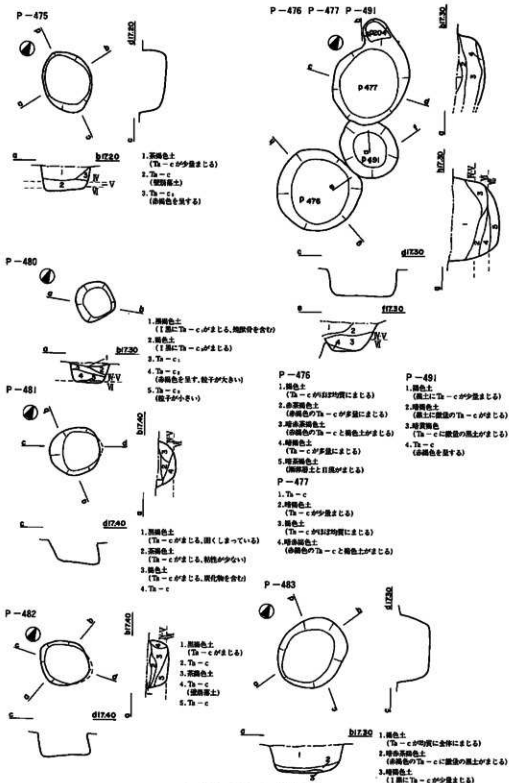


図119 I 黒層の土壌 (73)

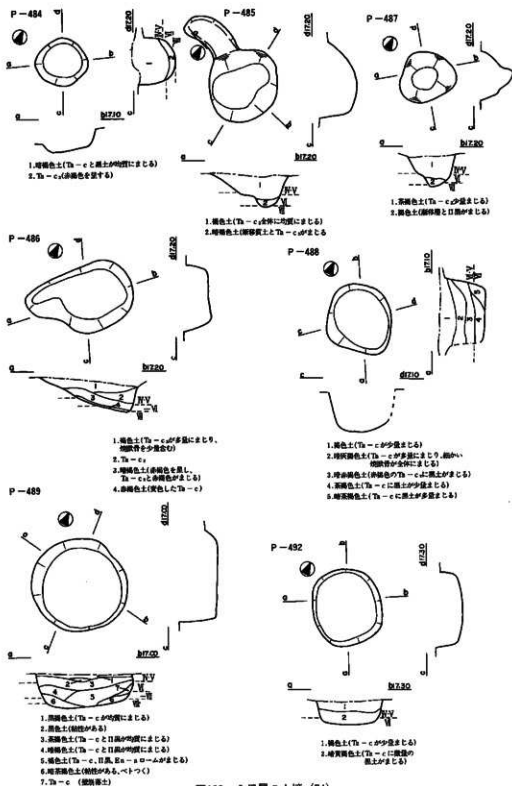


図120 I 層の土壌 (74)

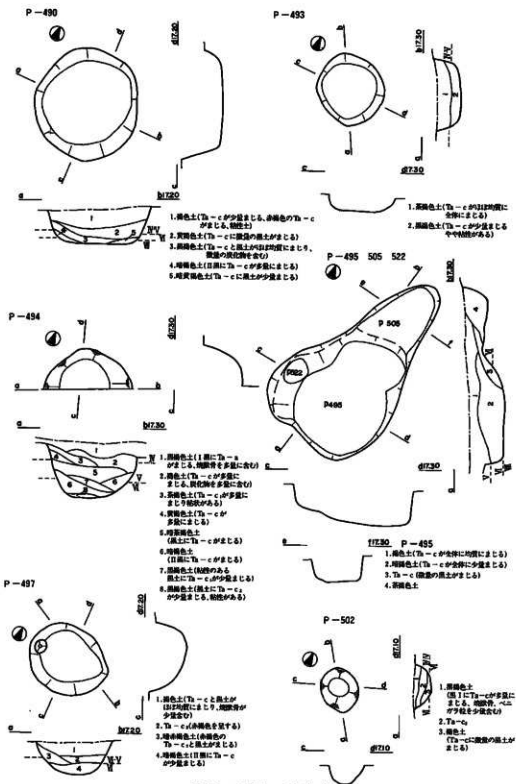


図121 【黒瀬の土墳 (75)】

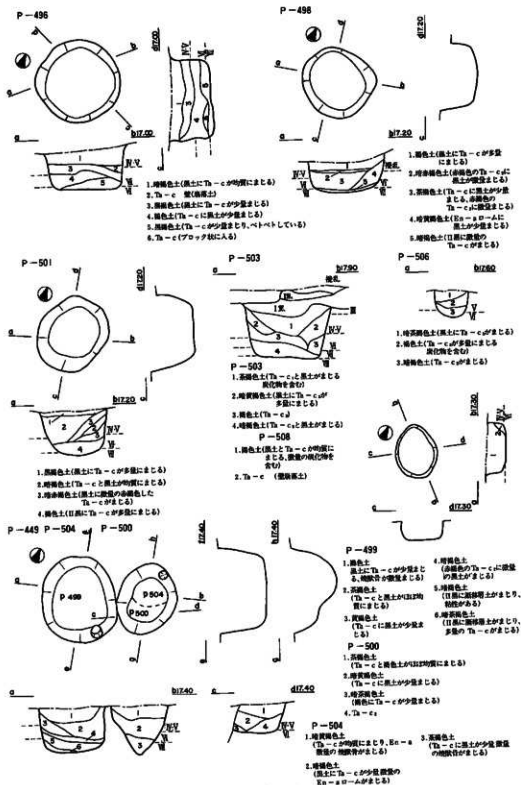


図122 I 黒層の土層 (76)

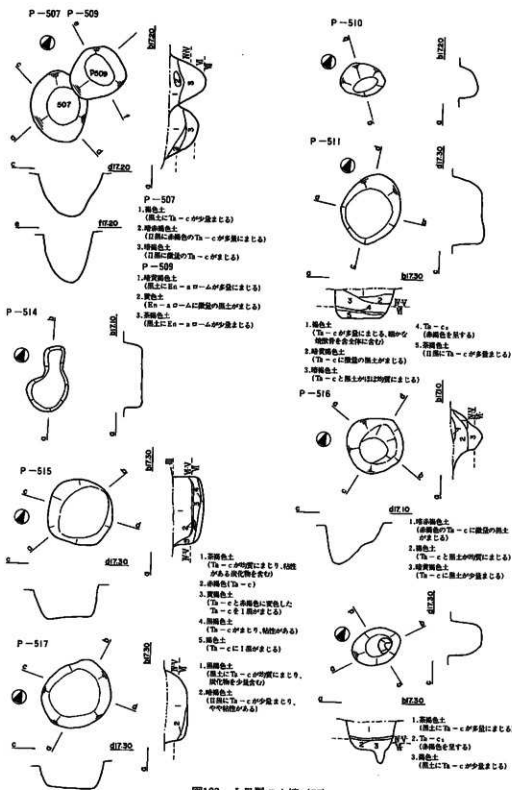
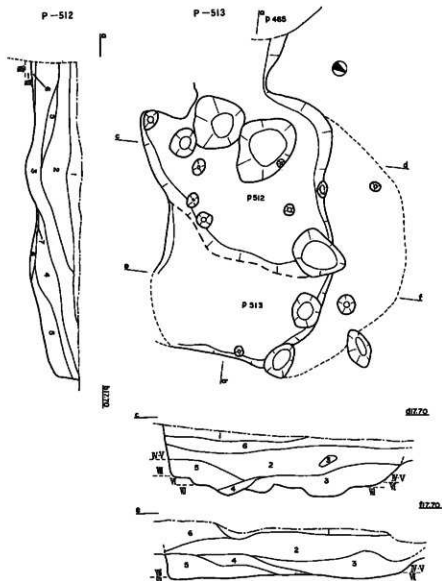


図123 I 黒層の土質 (77)



1. 増成色土 (Ta-c が全体に少量まじり、
固くしめる)
2. 基層色土 (Ta-c が少量に全体にまじり、
増成層を含む)
3. 増成層色土 (Ta-c が少量まじり)
4. 増成層色土 (Ta-c が少量にまじり
増成層を含む)
5. 増成層色土 (Ta-c が少量と黒土がまじり)
6. 基層色土 (I 層に数箇所の Ta-c がまじり)
7. Ta-c

図124 I 層の土壌 (78)

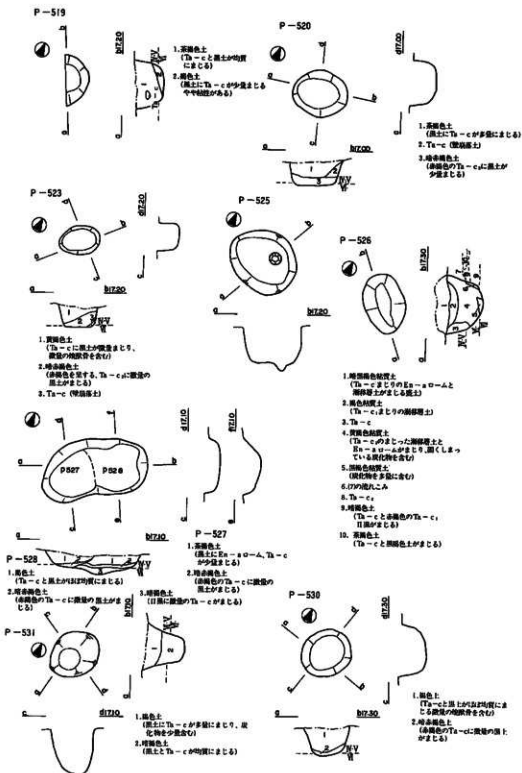


図125 I 黒層の土壌 (79)

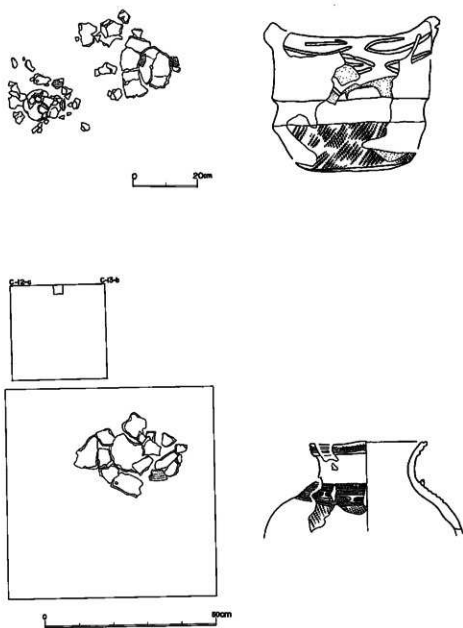


図126 I 黒層の土器出土状況 (1)

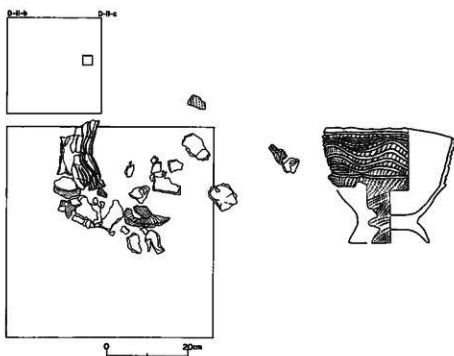


図127 I 黒曜の土器出土状況（2）

表4 I 點附近溝渠一覽

路線號	調查區	渠 幅 (m)			長 軸 方 向	出 土 遺 物	備 考
		渠 口	渠 底	渠 寬			
IP-1	E-9-a	1.33×1.12	1.0×0.65	0.54	N-73.5°-W	(土 器) 鉢2 (石 器) I A-1, I A1b1, I A2a1, I B2a1, X A4, 罐3 (土 器) 酒鉢1 (石 器)	
-2	D-8-c	0.88×0.53	0.72×0.7	0.22	N-46.5°-E	(土 器)	
-3	D-9-b	1.38×1.5	0.75×0.7	0.48	N-5°-W	(土 器)	
-4	D-8-c	1.74×1.1	0.96×0.73	0.38	N-74.5°-E	(土 器) 蓋? (石 器) I B31, X A4, 罐2	
-5	E-8-d	1.33×0.95	1.0×0.7	0.34	N-4.5°-W	(石 器) I A1c1, I A21, I B44, X A1, 罐1 (石 器)	
-6	E-8-d	0.98×0.66	0.6×0.5	0.3	N-78.5°-E	(土 器)	
-7	D-8-e	0.89×0.8	0.78×0.65	0.09	N-55.5°-W	(土 器)	
-8	D-8-e	1.0×0.6	0.63×0.5	0.38	N-70.5°-W	(土 器) I B2	
-9	D-8-e	1.03×0.7	0.75×0.5	0.33	N-10.5°-W	(土 器) I A-1, I B38, X A1, X B1, 罐2 (石 器) 酒鉢3	
-10	D-8-e	1.7×1.25	1.2×0.66	0.4	N-19.5°-W	(石 器) 罐B33, I A-1, I B1101, X A1, 罐6 (土 器)	
-11	D-8-d	0.92×0.76	0.69×0.5	0.36	N-54.5°-W	(石 器) I A1b1, I B37, X A1	
-12	D-9-d	1.4×0.85	1.0×0.6	0.3	N-29.5°-W	(土 器)	
-13	E-8-d	1.25×0.54	1.15×0.4	0.2	-	(土 器) 酒鉢 (石 器) 罐B31, I B111, X A2, 罐2 (石 器) I A1c1, 罐B12	
-14	E-8-a	1.75×0.68	0.82×0.4	0.54	N-66.5°-E	(土 器) 罐B4	
-15	E-8-d	1.5×0.65	1.43×0.55	0.14	N-52.5°-E	(土 器) 罐B1	
-16	D-8-e	0.6×0.45	0.4×0.3	0.39	N-82.5°-E	(土 器) 罐B5 (石 器)	
-17	D-9-a	1.08×0.8	0.9×0.6	0.32	N-61.5°-E	(土 器) I A1c2, I B46, 罐2 (石 器)	

[illegible]

测点号	调查区	渠 口 渠 底 渠 宽 (m)			渠 轴 方 向	出 土 资 物	备 考
		渠 口	渠 底	渠 宽			
1 P-36	D-8-c	0.85×0.73	0.74×0.55	0.18	N-34.5°-W	{土 器} {石器等} I A1a.1, Ⅱ B3.1, Ⅲ B5.6, X A.1	
- 37	D-8-c	0.7 ×0.6	0.55×0.45	0.36	N-36.5°-E	{土 器} {石器等}	
- 38	D-9-a	0.73×0.59	0.45×0.4	0.34	N-84.5°-W	{土 器} {石器等}	
- 39	D-9-d	0.68×0.4	0.3 ×0.25	0.32	-	{土 器} {石器等} Ⅱ A1.1, Ⅲ B.19, X A.1	
- 40	C-9-c	0.47×0.4	0.35×0.2	0.12	N-68.5°-E	{土 器} {石器等} Ⅲ B.13	
- 41	D-9-d	0.48×0.38	0.35×0.25	0.28	N-56.5°-W	{土 器} {石器等} Ⅲ A3.1	
- 42	D-9-d	0.35×0.3	0.15×0.14	0.18	N-86.5°-E	{土 器} {石器等} Ⅲ B.11	
- 43	C-9-b	1.37×0.7	1.0 ×0.5	0.2	N-23°-W	{土 器} 钵 1 {石器等} Ⅲ B-1.1, Ⅲ B.55, X A.1, Ⅲ B.1	
- 44	C-9-c	2.0 ×0.8	1.0 ×0.85	0.12	-	{土 器} {石器等} Ⅲ B2.1, Ⅲ B-1.1, Ⅲ B.45	
- 45	C-9-b	0.6 ×0.5	0.5 ×0.3	0.2	N-27.5°-W	{土 器} {石器等} Ⅲ B.6	
- 46	C-9-b	0.53×0.45	0.35×0.33	0.28	N-69.5°-E	{土 器} {石器等} Ⅲ B.19, X A.1	
- 47	C-9-b	1.8 ×0.5	0.65×0.4	0.2	-	{土 器} 钵 1 {石器等} Ⅲ A.1, Ⅲ B.42	
- 48	D-9-d	0.38×0.33	0.25×0.23	0.18	N-76.5°-W	{土 器} {石器等} Ⅲ B.2, X A.1, Ⅲ B.3	
- 49	D-9-a	0.55×0.2	0.2 ×0.1	0.3	N-18.5°-W	{土 器} {石器等}	
- 50	C-10-b	1.25×0.8	0.9 ×0.62	0.28	-	{土 器} {石器等} I A1a.1, Ⅲ A.1.1, Ⅲ B3.1, Ⅲ B.20, X A.1, Ⅲ B.4	
- 51	D-10-a	-	0.88×0.65	0.3	-	{土 器} 钵 钵 {石器等} Ⅲ B3.3, Ⅲ B.31, X A.1, X B.1, Ⅲ B.3	
- 52	D-10-a	-	0.6 ×0.4	0.2	-	{土 器} {石器等} Ⅲ B3.2	
- 53	D-9-a	-	0.75×0.5	0.28	-	{土 器} {石器等} Ⅲ B.22	

道槽编号	调查区	规格 (m)			长轴方向	出土建筑物	备注
		洞口	横宽	埋深			
I P-54	D-9-a	0.63×0.25	0.43×0.1	0.12	N-59.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB5	
-55	C-10-b	-	0.8×0.42	0.24	-	(土 器) (石器等) I A1a1, ⅡA1b1, ⅢB3.1, ⅣB3.2, X A1, ⅤB5	
-56	C-9-e	0.82×0.59	0.5×0.43	0.26	N-46.5°-W	(土 器) (石器等) ⅢB3.1, ⅣB3.10	
-57	D-9-d	0.75×0.46	0.59×0.3	0.1	N-25.5°-W	(土 器) (石器等) ⅢB-1, ⅣB4, ⅤB4	
-58	D-9-d	0.69×0.45	0.6×0.35	0.2	N-21.5°-E	(土 器) (石器等) V A1a1	
-59	C-9-e	2.15×1.3	1.1×0.7	0.16	-	(土 器) 漆 (石器等) ⅢB3.2, ⅣB3.107, X A1, ⅤB1	
-60	D-9-d	0.45×0.35	0.32×0.25	0.22	N-15.5°-E	(土 器) (石器等) ⅣB1	
-61	D-9-a	0.4×0.2	0.27×0.2	0.2	N-57.5°-E	(土 器) (石器等)	
-62	D-9-d	-	0.73×0.6	0.3	N-53.5°-W	(土 器) 漆 (石器等) I A1b1, ⅡB3.4, ⅢB3	
-63	D-9-d	-	0.19×0.18	0.18	-	(土 器) (石器等) ⅣA1a1, ⅣB1	
-64	C-9-b	0.63×0.45	0.35×0.25	0.18	N-3.5°-E	(土 器) (石器等) ⅣB1, X A1	
-65	D-9-a	0.65×0.5	0.45×0.35	0.18	N-41.5°-W	(土 器) (石器等) ⅢB-1, ⅣB2	
-66	D-9-a	0.43×0.37	0.28×0.2	0.16	N-64.5°-E	(土 器) (石器等) ⅣB19	
-67	D-9-a	1.6×1.25	0.75×0.7	0.4	N-34.5°-W	(土 器) 漆 (石器等) I A1a1, I A3.2, I A-2, ⅢB3.2, ⅣB-1, ⅤB4, I A1, ⅤB3	
-68	D-9-d	0.23×0.23	0.12×0.1	0.14	N-45.5°-W	(土 器) (石器等) ⅣB1	
-69	D-9-a	-	-	0.36	-	(土 器) (石器等) I A1a1, ⅢB3.1, ⅣB-1, ⅤB4.5, ⅤB7	
-70	D-9-a	1.05×0.83	0.8×0.7	0.39	-	(土 器) (石器等) ⅣB4.5, ⅤB5	
-71	D-9-b	0.65×0.35	0.3×0.17	0.18	N-5.5°-W	(土 器) (石器等) ⅣB4	

测点号	测点区	概 算 (m)			长轴方向	出土遗物	备 考
		渠口	渠底	渠宽			
1 P-72	D-9-a	0.98×0.83	0.75×0.6	0.4	N-9.5°-W	(土器) 鉢1 (石器等) I A1b1, II B21, II B32, X A1	
-73	D-9-a	0.4×0.3	0.2×0.18	0.16	N-68.5°-W	(土器)	
-74	C-9-b	0.65×0.63	0.54×0.46	0.12	N-26.5°-E	(土器)	
-75	C-9-b	0.45×0.35	0.13×0.11	0.1	N-26.5°-W	(石器等) II B-11, II B24	
-76	C-9-b	0.75×0.7	0.55×0.45	0.21	N-71.5°-W	(土器) 鉢1 (石器等) II A31, II B3, 罐1	
-77	C-9-b	0.92×0.8	0.6×0.55	0.24	N-73.5°-W	(土器) 鉢1 (石器等) II B21, II B24, 罐1	
-78	D-9-a	—	0.68×0.5	0.1	N-44.5°-W	(土器) 罐1 (石器等) I A-1, II B5	
-79	D-8-d	1.15×0.9	1.0×0.7	0.25	N-14.5°-W	(土器) 罐鉢 (石器等) I A1b1, II B37, X B1	
-80	C-10-b	0.45×0.35	0.35×0.25	0.2	N-30.5°-W	(土器)	
-81	D-9-a	—	0.68×0.3	0.38	—	(土器) 鉢 (石器等) II B31, II B9, 罐2	
-82	D-9-a	—	—	0.38	—	(土器) 鉢 (石器等) II B7	
-83	D-9-a	0.55×0.4	0.38×0.2	0.38	—	(土器) 鉢 (石器等) II B25	
-84	D-9-a	0.88×0.5	0.5×0.44	0.25	—	(土器) I A1b1, II B18	
-85	D-9-a	0.35×0.3	0.25×0.15	0.08	—	(土器) II B-11, II B17	
-86	D-8-d	1.03×0.9	1.0×0.83	0.3	N-5°-W	(土器) I A-1, II B31, II B-1, II B50, X A1, X B1, 罐1	
-87	D-9-a	0.58×0.5	0.5×0.4	0.2	N-76.5°-E	(土器) II B9, X A2	
-88	D-9-a	0.38×0.32	—	0.2	—	(土器) 鉢 (石器等) II B3, 棒状磨石1	
-89	D-8-d	0.45×0.35	0.2×0.18	0.1	N-41.5°-W	(土器) 鉢 (石器等) II B4	

道納番号	調査区	横 (m)			長軸方向	出土遺物	備考
		開口	幅	高さ			
I P-90	D-10-a	1.13×0.6	1.05×0.5	0.3	N-12.5°-W 〔土器〕 〔石器等〕	ⅡB2.1, ⅡB-1.1, ⅡB2.1, ⅡB4.2, XA.2	
-91	C-9-c	1.38×0.85	0.4×0.35	0.32	N-78.5°-E 〔土器〕 〔石器等〕	I A1b.1, I A-1.1, ⅡA1.1, ⅡB3.1, ⅡB3.2, ⅡB.1	
-92	C-10-b	0.7×0.5	0.55×0.48	0.2	- 〔土器〕 〔石器等〕	ⅡB.1, ⅡB.1	
-93	D-10-a	0.58×0.4	0.43×0.25	0.32	- 〔土器〕 〔石器等〕	ⅡB.6	
-94	D-8-b	0.95×0.8	0.55×0.45	0.38	N-48.5°-E 〔土器〕 〔石器等〕		
-95	C-10-b	0.95×0.75	0.8×0.55	0.34	N-78.5°-W 〔土器〕 〔石器等〕	I A2.1, ⅡB-1.2, ⅡB1.5, XA.2	
-96	C-10-b	1.25×1.05	0.78×0.7	0.3	N-80.5°-W 〔土器〕 〔石器等〕	I A2.1, ⅡB3.1, ⅡB1.3, XA.1, ⅡB.1	
-97	C-10-c	0.85×0.7	0.58×0.35	0.26	N-51.5°-E 〔土器〕 〔石器等〕	ⅡA-1.1, ⅡB.4, XA.1	
-98	C-10-c	0.92×0.8	0.5×0.4	0.26	- 〔土器〕 〔石器等〕	ⅡB.4, XA.1	
-99	C-10-c	0.75×0.6	0.53×0.38	0.36	N-87.5°-E 〔土器〕 〔石器等〕	ⅡB.1	
-100	C-10-c	1.05×0.78	0.7×0.4	0.38	- 〔土器〕 〔石器等〕	I A1b.1, I A-1.1, ⅡB2.1, ⅡB.6, XA.2	
-101	C-12-b	1.08×0.95	0.67×0.6	0.46	N-47.5°-W 〔土器〕 〔石器等〕	ⅡB.6, XA.1, ⅡB.2	
-102	C-11-b	1.4×1.17	0.85×0.75	0.66	N-64.5°-W 〔土器〕 〔石器等〕	ⅡB.1, ⅡB.3	
-103	D-12-a	1.2×0.98	0.83×0.7	0.49	N-10.5°-W 〔土器〕 〔石器等〕	ⅡB.2, ⅡB.3	
-104	D-12-b	1.7×1.45	0.35×0.9	0.7	N-7.5°-E 〔土器〕 〔石器等〕	ⅡB.6, ⅡB.6	
-105	E-12-a	1.42×1.2	0.75×0.6	0.58	- 〔土器〕 〔石器等〕	ⅡB-1.1, ⅡB.1.6, XA.1, ⅡB.1	
-106	D-12-b	1.65×1.45	1.05×0.96	0.56	N-79.5°-E 〔土器〕 〔石器等〕	I A3.1, ⅡB.2.6, ⅡB.1	
-107	C-12-b	0.9×0.75	0.7×0.45	0.46	N-47.5°-E 〔土器〕 〔石器等〕	ⅡB.1	

测点序号	测点区	埋 深 (m)		延伸方向	出土建筑物	备 考
		埋 口	埋 底			
1 P-108	D-12-d	1.08×0.6	—	—	(土 砂) (石砂等)	
—109	C-12-c	1.3 ×1.03	0.9 ×0.85	N-72.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB-5	
—110	D-13-b	1.3 ×1.18	0.85×0.78	N-70.5°-W	(土 砂) (石砂等) I A1a1, ⅡB-17, X A-1	
—111	E-13-a	—	—	—	(土 砂) (石砂等) I A1a1, ⅡB-12	
—112	E-13-a	—	—	—	(土 砂) (石砂等) ⅡB-4	
—113	E-13-a	—	0.95×0.75	N-75.5°-W	(土 砂) ⅡB-1 (石砂等) I A1a1, ⅡB-30, X A-1	
—114	D-13-a	1.02×0.9	0.59×0.53	N-13.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB-1	
—115	C-13-c	1.0 ×0.88	0.63×0.5	N-74.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB-2	
—116	C-13-a	1.0 ×0.83	0.63×0.45	N-28.5°-W	(土 砂) (石砂等)	
—117	C-14-b	1.28×1.02	0.85×0.75	N-31.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB-1, ⅡB-2, ⅡB-12, X A-1	
—118	D-14-a	1.32×1.15	0.92×0.88	N-74.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB-3	
—119	D-13-c	1.17×1.05	0.7 ×0.6	—	(土 砂) (石砂等) ⅡB-2	
—120	D-11-d	0.78×0.65	0.66×0.45	N-75.5°-E	(土 砂) (石砂等)	
—121	C-12-b	1.4 ×1.15	1.02×0.9	N-4.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB-15, X A-2, ⅡB-2	
—122	D-11-d	1.0 ×0.75	0.8 ×0.45	N-46.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB-1	
—123	D-11-c	1.37×0.83	1.1 ×0.65	N-22.5°-E	(土 砂) (石砂等) I A3-1, ⅡB-6, X B-2, ⅡB-4	
—124	D-11-c	1.46×1.2	1.2 ×0.85	N-52.5°-E	(土 砂) (石砂等) I A-1, ⅡB-8, ⅡB-2	
—125	D-11-c	1.33×0.95	0.98×0.8	N-9.5°-E	(土 砂) 彩色土砂 (石砂等) ⅡB-1, X A-1, ⅡB-2	

测站号	测区	展 示 (m)			展 示 方 向	出 土 建 物	备 考
		展 口	展 底	展 深 度			
I P-127	D-14-b	1.35×1.15	1.05×0.8	0.46	N-2.5°-E	(土 器) 杂碎土器1 (石器等) ⅡB1	
-128	D-14-b	0.92×0.7	0.7×0.48	0.36	N-31.5°-W	(土 器) (石器等)	
-129	D-14-a	1.0×0.9	0.8×0.7	0.4	N-54.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB11, 罐2	
-130	C-10-b	-	0.38×0.3	0.22	-	(土 器) (石器等) ⅡB31, ⅡA281, ⅡB14	
-131	C-10-b	-	0.12×0.8	-	-	(土 器) (石器等)	
-132	C-10-c	1.03×0.8	0.6×0.5	0.2	N-3.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB21, ⅡB8, ⅡA2	
-133	C-9-c	-	0.18×0.15	0.26	-	(土 器) (石器等) ⅡA-1, ⅡB20, 罐1	
-135	C-10-c	0.7×0.65	0.6×0.5	0.26	N-1.5°-E	(土 器) (石器等)	
-136	C-9-c	0.5×0.45	0.35×0.28	0.22	N-51.5°-E	(土 器) (石器等) ⅡA11, ⅡB4	
-137	C-10-c	0.55×0.4	0.23×0.18	0.24	N-35.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB1	
-138	C-10-c	0.55×0.43	0.18×0.15	0.25	N-16.5°-E	(土 器) (石器等) ⅡB8	
-139	C-10-c	-	0.2×0.15	0.26	-	(土 器) (石器等) ⅡB31, ⅡB2	
-140	C-9-c	0.57×0.35	0.33×0.25	0.1	-	(土 器) (石器等) ⅡB2	
-141	C-9-c	0.5×0.4	0.25×0.22	0.2	-	(土 器) (石器等) ⅡB7	
-142	C-9-c	-	0.3×0.25	0.26	-	(土 器) (石器等) ⅡB3	
-143	C-9-c	-	0.3×0.25	0.26	-	(土 器) (石器等) ⅡA11, ⅡB7, ⅡA2, 罐1	
-144	C-10-c	0.7×0.5	0.2×0.17	0.26	-	(土 器) (石器等) ⅡB5	
-145	E-9-a	1.05×0.9	0.78×0.75	0.4	N-65.5°-E	(土 器) (石器等) ⅡB11, ⅡA1, 罐2	

测点号	调查区	宽 度 (m)			长 轴 方 向	出 土 遗 物	备 考
		渠 口	渠 底	渠 宽			
I P-146	C-10-b	—	0.64×0.48	0.3	—	(土 器) (石器等) ⅡB-1, ⅡB26, XA1	
-147	C-10-b	0.88×0.75	0.68×0.65	0.3	N-25.5°-W	(土 器) (石器等) I A3.1, ⅡB-1, ⅡB35, XA1, ⅡB1	
-148	C-10-c	0.7 ×0.6	0.55×0.45	0.2	—	(土 器) (石器等) ⅡB2, ⅡB1	
-149	D-9-c	1.35×1.08	1.1 ×0.75	0.52	N-37.5°-W	(土 器) (石器等) I A1.1, ⅡB26, ⅡB4	
-150	D-9-c	1.15×0.95	0.75×0.65	0.48	N-85.5°-E	(土 器) ⅡB1 (石器等) ⅡB1, ⅡB-1, ⅡB26	
-151	D-9-c	1.55×1.43	0.85×0.7	0.6	N-54.5°-W	(土 器) ⅡB1 (石器等) ⅡB2, ⅡA1, ⅡB34, XA4, ⅡB5	
-152	D-10-c	0.33×0.3	0.2 ×0.18	0.1	N-53.5°-W	(土 器) (石器等)	
-153	D-9-c	1.75×1.45	1.47×1.06	0.52	N-26.5°-E	(土 器) ⅡB2 (石器等) ⅡB2, ⅡB19, XA3, ⅡB10	
-154	D-9-c	—	—	0.52	—	(土 器) (石器等) ⅡB4, ⅡB4	
-155	E-9-a	0.3 ×0.3	0.15×0.12	0.2	N-37.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB2.1, ⅡB1	
-156	D-10-b	1.22×1.08	0.75×0.65	0.51	N-78.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡA3.1, ⅡB15, ⅡB2	
-157	D-14-b	1.18×1.0	1.05×0.85	0.5	N-44.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB1, ⅡB1	
-158	D-13-c	1.15×1.0	0.93×0.85	0.42	N-35.5°-W	(土 器) ⅡB1 (石器等) V A1.1, ⅡB1, X B.1	
-159	E-13-d	0.85×0.75	0.7 ×0.63	0.42	—	(土 器) (石器等) ⅡB1, ⅡB1	
-160	C-11-b	0.43×0.4	0.25×0.25	0.2	N-3.5°-W	(土 器) (石器等)	
-161	D-12-c	0.6 ×0.45	0.5 ×0.28	0.26	N-40.5°-W	(土 器) (石器等)	
-162	E-13-a	0.6 ×0.45	0.25×0.17	0.32	N-69.5°-W	(土 器) (石器等)	
-163	D-12-b	0.9 ×0.75	0.7 ×0.55	0.3	N-78.5°-E	(土 器) (石器等) ⅡB1	

测站号	测区	埋 横 (m)			长轴方向	出土 渣 物	备 考
		埋 口	埋 底	埋 高			
I P-16A	D-13-b	1.3 × 0.9	0.55 × 0.5	0.4	-	(土 砂) (石砂等)	
-165	C-12-b	1.15 × 0.95	0.78 × 0.62	0.48	N-6.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB.3	
-166	D-12-b	0.7 × 0.47	0.55 × 0.45	0.25	-	(土 砂) (石砂等) ⅢA.1, ⅡB.2	
-167	D-13-c	1.05 × 0.98	0.7 × 0.55	0.6	N-80.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB.3, ⅡB.1	
-168	D-12-c	0.5 × 0.45	0.3 × 0.27	0.28	N-69.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB.12	
-170	D-12-a	1.4 × 1.15	0.98 × 0.85	0.56	N-3.5°-W	(土 砂) (石砂等) I A-1, ⅡA.2, ⅡB.20	
-171	D-13-b	0.98 × 0.9	0.82 × 0.7	0.2	N-13.5°-W	(土 砂) (石砂等)	
-172	C-13-b	0.6 × 0.38	0.35 × 0.18	0.33	N-38.5°-E	(土 砂) (石砂等)	
-173	C-13-b	0.55 × 0.4	0.35 × 0.25	0.31	N-55.5°-A	(土 砂) (石砂等) ⅡB.7	
-174	C-13-c	0.85 × 0.75	0.52 × 0.4	0.2	N-69.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB.1	
-175	D-14-b	1.15 × 0.8	0.73 × 0.5	0.38	N-14.5°-W	(土 砂) (石砂等) I B.1, ⅡB.1	
-176	D-13-c	1.0 × 0.85	0.78 × 0.7	0.34	N-40.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB.1, ⅡB.2	
-177	D-13-a	1.13 × 1.5	0.9 × 0.8	0.46	N-31.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB.4, ⅡB.1	
-178	C-12-b	1.05 × 0.7	0.65 × 0.4	0.48	N-66.5°-E	(土 砂) 浸林 1 (石砂等) ⅢA.1, ⅡB.4	
-179	C-12-b	0.95 × 0.77	0.78 × 0.6	0.3	N-15.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB.1, X A.1	
-180	C-11-c	1.08 × 0.95	0.85 × 0.7	0.4	N-8.5°-E	(土 砂) (石砂等)	
-181	C-11-c	0.95 × 0.75	0.7 × 0.5	0.46	N-51.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB.1	
-182	D-12-d	1.45 × 0.9	-	0.3	-	(土 砂) (石砂等) ⅡB.4	

道槽序号	调查区	规模 (m)			延轴方向	出土遗物	備考
		开口	埋藏	埋深			
1P-183	D-11-c	0.73×0.65	0.6×0.5	0.32	N-81.5°-E (土器等) ⅡB4		
-184	D-11-c	1.1×1.0	0.85×0.8	0.48	N-10.5°-W (土器等) ⅡB2		
-185	D-11-c	1.13×0.95	0.95×0.8	0.32	N-69.5°-W (土器等)		
-186	D-12-a	1.7×1.35	1.28×0.95	0.5	N-49.5°-E (土器等) I A1b1, ⅡB3.1, W A1a1, W A2a1, N A2b1, ⅡB5.6, 神社前庭石:1		
-187	D-12-b	0.55×0.45	0.43×0.4	0.4	N-56.5°-W (土器等)		
-188	D-11-c	0.33×0.28	0.28×0.25	0.24	N-27.5°-W (土器等) V A1.1, V B.1, ⅡB.1		
-189	D-12-d	0.8×0.65	0.7×0.55	0.14	(土器等) ⅡB.1		
-190	C-11-c	1.2×0.95	1.0×0.8	0.46	(土器等) ⅡB20, ⅡB.1		
-191	C-11-c	1.0×0.83	0.65×0.5	0.32	N-12.5°-E (土器等) ⅡB.1		
-192	D-11-b	1.25×0.9	0.97×0.7	0.4	N-33.5°-W (土器等) ⅡB5, ⅡB.1		
-193	E-11-d	1.2×1.18	0.9×0.75	0.48	N-16.5°-W (土器等) ⅡA.1, ⅡB4, X A.1, ⅡB.1		
-195	C-11-b	0.88×0.75	0.7×0.6	0.32	N-8.5°-W (土器等) I A-1, ⅡB3		
-196	C-11-b	1.1×0.95	0.9×0.65	0.5	N-47.5°-W (土器等) ⅡB3.2, ⅡB5, X A.1		
-197	C-11-a	0.96×0.78	0.78×0.65	0.42	N-9.5°-W (土器等) ⅡA1c1, I A1b1, ⅡB3, X A.1 (石器等) I A1c1, I A1b1, ⅡB3.1, ⅡB4, ⅡB5.7, ⅡB-1, W A1a1, W A1b1, ⅡB2.2, I A2, 神社前庭石:4		
-198	C-10-c	-	-	0.32	(土器等) ⅡA2.1, ⅡB-1, ⅡB.2, ⅡB.1		
-199	C-12-c	1.35×0.95	0.9×0.6	0.48	N-53.5°-E (土器等) ⅡB3.1, ⅡB4		
-200	C-12-c	1.4×0.9	0.98×0.7	0.36	N-75.5°-E (土器等) ⅡB.1, ⅡB4		
-201	D-9-e	1.6×1.35	1.25×1.15	0.5	N-2.5°-W (土器等) I A1c1, ⅡB3.1, ⅡB-2, W A1c1, W A-1, ⅡB1c1, X A.1, ⅡB5.6, ⅡB.10 (土器等) ⅡB.1, ⅡB.1, ⅡB.1		

通称番号	調査区	縦横 (m)		長軸方向	出土遺物	備考
		開口	埋蓋			
I P-202	E-11-a	1.3 × 1.05	0.85 × 0.8	0.5	N-68.5°-W (土器等) ⅢB3.2, ⅢB.1	
-203	D-11-a	1.1 × 0.85	0.95 × 0.85	0.4	N-80.5°-W (土器等)	
-204	D-14-c	0.78 × 0.62	0.8 × 0.48	0.34	N-75.5°-E (土器等)	
-205	D-14-c	0.75 × 0.68	0.55 × 0.45	0.2	N-61.5°-E (土器等)	
-206	E-14-a	0.88 × 0.75	0.75 × 0.6	0.28	N-53.5°-E (土器等) ⅢB.1	
-207	D-14-c	0.9 × 0.8	0.85 × 0.6	0.22	N-65.5°-W (土器等) ⅢB.1, ⅢB.2	
-208	D-9-b	0.4 × 0.25	0.35 × 0.2	0.22	- (土器等) ⅢB.1, ⅢB.2	
-209	E-8-d	1.17 × 0.93	0.75 × 0.65	0.5	N-28.5°-E (土器等) ⅢB.1	
-210	D-9-b	0.55 × 0.45	0.45 × 0.3	0.14	N-12.5°-W (土器等)	
-211	D-8-c	0.5 × 0.4	0.35 × 0.25	0.16	N-66.5°-W (土器等) ⅢB.1, ⅢB.2, ⅢB.3, ⅢB.7, X A.1	
-212	D-9-b	1.05 × 0.85	0.8 × 0.75	0.22	N-86.5°-W (土器等) ⅢB.1, ⅢB.2, ⅢB.3, ⅢB.7, X A.1, ⅢB.22, X A.1, ⅢB.27	
-213	D-9-b	-	0.78 × 0.7	0.44	- (土器等) ⅢB.1, ⅢB.2, ⅢB.3, ⅢB.7, X A.1, ⅢB.22, X A.1, ⅢB.27	
-214	D-9-b	-	0.55 × 0.4	0.42	- (土器等) ⅢB.1, ⅢB.2, ⅢB.3, ⅢB.7, X A.1, ⅢB.22, X A.1, ⅢB.27	
-215	E-9-a	1.0 × 0.83	0.62 × 0.58	0.48	N-44.5°-W (土器等) ⅢB.1, ⅢB.2, ⅢB.3, ⅢB.7, X A.1, ⅢB.22, X A.1, ⅢB.27	
-216	D-8-c	1.2 × 0.6	0.55 × 0.48	0.24	N-44.5°-W (土器等) ⅢB.1, ⅢB.2, ⅢB.3, ⅢB.7, X A.1, ⅢB.22, X A.1, ⅢB.27	
-217	D-9-b	1.2 × 0.7	1.08 × 0.6	0.2	- (土器等) ⅢB.1, ⅢB.2, ⅢB.3, ⅢB.7, X A.1, ⅢB.22, X A.1, ⅢB.27	
-218	D-8-c	0.3 × 0.25	0.23 × 0.2	0.22	- (土器等) ⅢB.1, ⅢB.2, ⅢB.3, ⅢB.7, X A.1, ⅢB.22, X A.1, ⅢB.27	
-219	D-9-b	0.9 × 0.65	0.7 × 0.5	0.36	N-47.5°-W (土器等) ⅢB.1, ⅢB.2, ⅢB.3, ⅢB.7, X A.1, ⅢB.22, X A.1, ⅢB.27	

道槽序号	调查区	渠 口		渠 底 宽 度		渠 底 方 向	出 土 遗 物	备 考
		渠 口	渠 底 宽 度	渠 底 宽 度	渠 底 宽 度			
1 P-220	E-9-a	0.78×0.68	0.6 ×0.53	0.2	N-39.5°-W	(土 器) (石器等) I A1c1, III A11, IV A-1, ⅡB1, ⅡB2		
-221	D-10-a	1.3 ×0.45	-	0.24	-	(土 器) (石器等) ⅡB31, V A11, ⅡA4, ⅡB40, X B2, ⅡB1		
-222	D-10-a	1.3 ×0.45	-	0.24	-	(土 器) (石器等) ⅡB5		
-223	D-9-c	1.15×1.1	0.72×0.7	0.44	N-31.5°-W	(土 器) ⅡB2, ⅡB31, ⅡB32, ⅡB33, ⅡB34, ⅡB35, ⅡB36, X A1, ⅡB1		
-224	D-9-b	1.06×0.96	0.83×0.75	0.38	N-62.5°-E	(土 器) (石器等) ⅡB16, ⅡB1		
-225	D-10-a	0.5 ×0.4	0.4 ×0.35	0.3	N-79.5°-E	(土 器) (石器等) ⅡB1		
-226	E-10-d	1.5 ×1.1	1.05×0.9	0.58	N-89.5°-W	(土 器) (石器等)		
-227	D-9-b	0.6 ×0.5	0.55×0.45	0.2	N-36.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB2		
-228	E-9-d	0.5 ×0.38	0.25×0.15	0.4	N-27.5°-W	(土 器) (石器等)		
-229	E-10-a	0.93×0.8	0.73×0.7	0.32	N-37.5°-W	(土 器) (石器等) X B1		
-230	E-10-a	0.98×0.83	0.7 ×0.65	0.3	N-31.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB1		
-231	D-9-c	0.8 ×0.75	0.72×0.55	0.3	N-82.5°-E	(土 器) (石器等) ⅡB11		
-232	E-10-a	1.4 ×1.25	1.15×1.1	0.56	N-14.5°-W	(土 器) ⅡB1, ⅡB21, ⅡB34, X A1, X B1, ⅡB4		
-233	D-10-b	1.43×1.05	1.05×0.85	0.44	N-44.5°-W	(土 器) ⅡB1, ⅡB21, ⅡB31, ⅡB32, ⅡB33, ⅡB34, ⅡB35, ⅡB36, X A4, ⅡB5		
-234	D-9-c	0.87×0.73	0.63×0.5	0.36	N-10.5°-W	(土 器) (石器等) I A31, ⅡB3, X B1		
-235	D-10-a	0.8 ×0.6	0.5 ×0.4	0.2	N-75.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB31, ⅡB38		
-236	D-9-b	0.38×0.3	0.15×0.1	0.3	-	(土 器) (石器等)		
-238	E-9-a	0.85×0.65	0.7 ×0.6	0.32	N-10.5°-W	(土 器) (石器等) ⅡB21, ⅡB34, ⅡB2		

测点号	测点区	埋 深 (m)			方位角	出土 堆 物	备 考
		埋 口	埋 底	埋 高			
1 P-239	D-9-e	1.1 × 0.95	0.8 × 0.7	0.5	N-47.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB3, XA2, ⅡB1, ⅡB3	
-240	E-11-d	-	-	0.51	-	(土 砂) (石砂等)	
-241	D-9-b	0.69 × 0.65	0.53 × 0.45	0.28	N-44.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.1	
-242	E-11-d	0.58 × 0.45	0.45 × 0.4	0.34	N-13.5°-W	(土 砂) (石砂等)	
-243	E-10-d	0.95 × 0.9	0.78 × 0.7	0.44	-	(土 砂) (石砂等) ⅡB3	
-244	D-10-c	1.05 × 0.8	0.55 × 0.35	0.36	N-13.5°-E	(土 砂) (石砂等)	
-245	E-8-d	0.65 × 0.5	0.45 × 0.35	0.19	-	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.2, ⅡB-1, X B1, ⅡB1	
-246	D-9-b	0.8 × 0.7	0.7 × 0.6	0.26	N-28.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB7	
-247	E-9-a	0.48 × 0.4	0.45 × 0.35	0.28	N-68.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB-1, ⅡB1	
-248	C-14-b	0.85 × 0.8	0.8 × 0.7	0.32	N-1.5°-E	(土 砂) (石砂等)	
-249	C-9-d	-	-	0.26	-	(土 砂) (石砂等) ⅡB3	
-250	C-9-d	-	-	0.28	-	(土 砂) (石砂等) ⅡB3.1, ⅡB3.2, ⅡB3.3, ⅡB3.4, ⅡB3.5	
-251	E-13-a	-	-	0.73	-	(土 砂) (石砂等) ⅡB1	
-252	D-14-a	0.9 × 0.8	0.65 × 0.6	0.36	N-6.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB3, ⅡB1	
-253	D-14-a	0.82 × 0.7	0.68 × 0.6	0.3	N-82.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB1, ⅡB5	
-254	D-13-d	0.75 × 0.7	0.6 × 0.55	0.26	N-13.5°-W	(土 砂) (石砂等) ⅡB4	
-255	D-14-a	-	-	0.2	-	(土 砂) (石砂等) XA1	
-256	C-14-a	0.63 × 0.6	0.5 × 0.45	0.2	N-46.5°-E	(土 砂) (石砂等) ⅡB1	

道槽编号	调查区	规格 (m)			延伸方向	出土器物	备注
		槽口	槽底	深度			
1 P-257	D-14-c	0.72×0.55	0.58×0.45	0.16	N-11.5°-E	(土 器) [石 器] I A3.1, II B.5	
-258	C-10-a	-	-	0.2	-	(土 器) [石 器]	
-259	C-10-d	0.75×0.7	0.55×0.3	0.11	N-83.5°-W	(土 器) [石 器]	
-260	C-10-d	0.8×0.65	0.6×0.45	0.8	N-34.5°-E	(土 器) [石 器]	
-261	C-11-a	-	-	0.2	-	(土 器) [石 器] 漆1	
-262	C-11-a	0.73×0.65	0.65×0.6	0.16	N-9.5°-W	(土 器) [石 器]	
-263	C-11-a	0.67×0.6	0.48×0.4	0.18	N-6.5°-W	(土 器) [石 器等] V A.1	
-264	C-11-a	-	-	0.3	-	(土 器) [石 器等] I A.1, II B.1, X A.1	
-265	C-11-a	-	-	0.3	-	(土 器) [石 器等]	
-266	C-11-b	1.13×1.05	1.0×0.95	0.22	N-9.5°-W	(土 器) [石 器]	
-267	D-13-d	0.87×0.75	0.64×0.55	0.2	N-66.5°-W	(土 器) [石 器等] II B.3	
-268	D-14-a	0.73×0.65	0.47×0.35	0.36	N-38.5°-W	(土 器) [石 器]	
-269	D-14-a	0.48×0.4	0.33×0.3	0.12	N-50.5°-W	(土 器) [石 器等]	
-270	E-8-a	0.86×0.81	0.59×0.55	0.36	N-26°-E	(土 器) [石 器等] II A-1	
-271	E-8-a	1.2×0.35	0.85×0.28	0.61	N-56.5°-E	(土 器) 漆1 [石 器等] II B.3	
-272	E-8-a	0.87×0.2	0.15×0.6	0.35	N-13.5°-E	(土 器) 漆1 [石 器等] III B.1, IV B.2, X A.1	
-273	E-8-a	1.28×0.73	1.13×0.59	0.41	N-0.5°-E	(土 器) [石 器等]	
-275	E-8-a	0.7×0.65	0.5×0.47	0.37	N-5°-E	(土 器) [石 器等]	

测线序号	调查区	坑 (m)			方位角	出土遗物	备注
		坑口	坑底	坑宽			
1 P-276	E-8-a	1.06×0.71	0.9×0.55	0.35	N-0.5°-E	(土器) (石器等)	
-277	E-8-a	0.59×0.49	0.43×0.35	0.25	N-4.5°-E	(土器) (石器等)	
-278	E-8-a	1.0×0.68	0.57×0.52	0.36	N-3.5°-E	(土器) (石器等) ⅡB2	
-279	E-8-a	0.3×0.25	0.24×0.16	0.4	-	(土器) (石器等)	
-280	E-8-a	0.5×0.45	0.39×0.36	0.27	N-76.5°-E	(土器) (石器等)	
-281	D-8-b	0.87×0.77	0.63×0.55	0.46	N-64.1°-W	(土器) (石器等) ⅡB10, ⅡB1, 神奈川石	
-283	D-8-b	0.68×0.62	0.5×0.43	0.2	N-24.5°-W	(土器) (石器等)	
-284	D-8-b	0.91×0.71	0.78×0.51	0.31	N-55.5°-E	(土器) (石器等) ⅡB1	
-285	D-8-b	0.63×0.55	0.57×0.5	0.2	N-18.5°-E	(土器) (石器等)	
-288	D-8-b	0.9×0.65	0.75×0.6	0.4	N-24.5°-W	(土器) (石器等) ⅡB1	
-289	D-8-b	0.82×0.79	0.66×0.59	0.22	N-17.5°-E	(土器) (石器等) ⅡB1	
-290	D-8-b	0.89×0.66	0.71×0.48	0.21	N-21.5°-E	(土器) (石器等) ⅡB1	
-291	D-8-b	0.91×0.64	0.69×0.56	0.28	N-58.5°-W	(土器) (石器等) ⅡB10	
-292	D-7-c	0.82×0.76	0.7×0.63	0.41	N-11.5°-E	(土器) (石器等) ⅡB1	
-293	D-8-a	1.0×0.89	0.77×0.66	0.4	N-82.5°-E	(土器) (石器等) I A3b1, ⅡB1, ⅡB9	
-294	D-8-a	1.07×0.97	0.97×0.9	0.13	N-10.5°-E	(土器) (石器等) ⅡA2.1, X A1, ⅡB2	
-295	D-8-a	1.58×0.69	1.49×0.58	0.16	N-74.5°-W	(土器) (石器等) ⅡB7	
-296	D-8-a	0.58×0.55	0.56×0.42	0.22	N-57.5°-W	(土器) (石器等)	

道槽编号	调查区	桩 口		横 距 (m)		长轴方向	出土遗物	备 考
		顺	横	顺	横			
IP-297	D-7-d	0.65×0.57	0.49×0.47	0.12	N-9.5°-W	(土 器) (石器等) I Ab1, I A21		
-298	D-8-a	0.79×0.68	0.63×0.54	0.15	N-47.5°-E	(土 器) (石器等) 陶1		
-299	D-8-a	0.85×0.72	0.62×0.54	0.17	N-10.5°-W	(土 器) (石器等) II B1		
-300	D-8-a	0.76×0.61	0.62×0.53	0.7	N-13.5°-W	(土 器) (石器等) II B2		
-301	C-8-d	1.06×0.96	0.81×0.73	0.36	N-6.5°-W	(土 器) (石器等) II B6, 陶1		
-302	C-8-b	0.5×0.46	0.34×0.32	0.2	N-40.5°-W	(土 器) (石器等)		
-303	C-8-b	0.8×0.77	0.41×0.34	0.9	N-62.5°-E	(土 器) (石器等) II B2		
-304	C-8-b	0.77×0.55	0.56×0.44	0.13	N-48°-W	(土 器) (石器等) II B2		
-305	C-8-b	0.6×0.47	0.55×0.33	0.17	N-23°-E	(土 器) (石器等) II B1		
-306	C-8-e	0.82×0.73	0.75×0.63	0.15	N-47.5°-E	(土 器) (石器等)		
-307	C-8-e	0.8×0.76	0.68×0.65	0.13	N-55°-E	(土 器) (石器等) II B3		
-311	C-8-e	0.61×0.57	0.4×0.27	0.6	N-17.5°-E	(土 器) (石器等)		
-312	C-8-e	0.83×0.78	0.75×0.64	0.19	N-83.5°-W	(土 器) (石器等)		
-313	C-8-e	1.18×1.10	0.97×0.88	0.24	N-65.5°-E	(土 器) 陶器1 (石器等) I Ab1, II B-1, II B5, I A3, 陶2		
-314	C-8-e	0.79×0.71	0.77×0.64	0.21	N-39°-E	(土 器) (石器等) II B3		
-315	C-8-e	0.65×0.53	0.39×0.26	0.1	N-70.5°-E	(土 器) (石器等)		
-318	C-8-d	0.9×0.79	0.73×0.47	0.17	N-78°-W	(土 器) 陶器1 (石器等) II B5, 陶1		
-319	E-8-a	0.75×0.55	0.47×0.42	0.22	N-65°-W	(土 器) (石器等)		

测站号	测区	展 线 (m)			展 线 方 向	出 土 遗 物	备 考
		展 口	展 距	展 宽			
I P-320	C-8-d	0.8 × 0.76	0.65 × 0.65	0.21	N-15° - W	(土 器) (石器等)	
-321	C-8-d	1.07 × 1.03	0.7 × 0.66	0.33	N-2° - W	(土 器) (石器等) ⅡB:3	
-322	C-8-d	0.8 × 0.74	0.62 × 0.6	0.22	N-12.5° - E	(土 器) (石器等) ⅡB:1	
-323	C-8-d	1.0 × 0.71	0.9 × 0.59	0.2	N-7° - E	(土 器) (石器等) I A:1, ⅡB:1, ⅡB:4, X B:1	
-324	C-8-d	0.76 × 0.65	0.61 × 0.52	0.15	N-28° - E	(土 器) (石器等)	
-325	C-9-a	0.79 × 0.75	0.71 × 0.67	0.17	N-71° - W	(土 器) (石器等)	
-326	D-8-d	0.75 × 0.68	0.6 × 0.57	0.16	N-11° - W	(土 器) (石器等)	
-327	D-8-d	0.5 × 0.45	0.35 × 0.3	0.18	N-86° - W	(土 器) (石器等) ⅡB:1	
-328	D-8-d	0.51 × 0.4	0.29 × 0.25	0.12	N-46° - W	(土 器) (石器等) I A:1, ⅡB-1, ⅡB:3	
-329	D-8-d	0.34 × 0.32	0.25 × 0.2	0.9	N-24° - E	(土 器) (石器等)	
-331	D-8-d	0.45 × 0.4	0.35 × 0.33	0.13	N-32.5° - W	(土 器) (石器等)	
-332	D-7-c	0.67 × 0.64	0.62 × 0.5	0.32	N-69.5° - E	(土 器) (石器等) ⅡB:2	
-333	E-7-d	0.81 × 0.73	0.7 × 0.65	0.32	N-53° - W	(土 器) (石器等) ⅡB:3, ⅡB:1	
-334	E-7-d	0.96 × 0.84	0.8 × 0.79	0.45	N-7° - W	(土 器) (石器等) ⅡB:21, ⅡB:1	
-335	E-7-d	0.84 × 0.8	0.67 × 0.66	0.17	N-4° - W	(土 器) (石器等)	
-336	E-7-d	0.91 × 0.84	0.64 × 0.61	0.29	N-69° - W	(土 器) (石器等) ⅡB:3	
-339	E-7-d	0.9 × 0.78	0.61 × 0.49	0.29	N-58.5° - W	(土 器) 台付鉢 1 (石器等) ⅡB:7, ⅡB:1	
-340	E-7-d	1.19 × 1.09	0.64 × 0.95	0.45	N-11.5° - W	(土 器) (石器等) ⅡA:1, ⅡB:9, X A:1	

道桥序号	调查区	宽 度 (m)			长 轴 方 向	出 土 遗 物	备 考
		渠 口	渠 底	渠 宽			
I P-341	E-7-d	0.95×0.9	0.85×0.8	0.31	N-27.5°-E (土 器) (石器等) ⅡB32, X A2		
-343	E-7-a	0.99×0.93	0.84×0.83	0.38	N-89°-W (土 器) (石器等) I A1a2, I A21, ⅡB31, ⅡB-1, V A21, ⅡB31, ⅡB34, X A3, ⅡB37		
-344	E-7-a	0.86×0.8	0.72×0.68	0.27	N-7°-W (土 器) (石器等) ⅡB1		
-345	E-7-d	1.03×0.97	0.83×0.81	0.33	N-20°-W (土 器) (石器等) ⅡB11, X B1, ⅡB2		
-347	E-7-a	0.85×0.71	0.72×0.63	0.37	N-34.5°-W (土 器) (石器等) ⅡB6, X A2		
-348	C-8-d	0.57×0.47	0.41×0.25	0.12	N-42°-W (土 器) (石器等) ⅡB11		
-349	E-7-a	1.02×0.76	0.87×0.75	0.2	N-41°-W (土 器) (石器等)		
-350	E-7-a	0.92×0.88	0.75×0.65	0.4	N-11°-W (土 器) (石器等) ⅡB9		
-351	E-7-a	1.25×0.9	0.8×0.75	0.36	N-29°-W (土 器) (石器等) I A1a2, I A-1, ⅡB31, ⅡB9, X A1		
-352	D-7-d	0.48×0.41	0.27×0.22	0.9	N-48.5°-W (土 器) (石器等) ⅡB3		
-353	D-7-d	1.6×1.0	1.38×0.65	0.13	- (土 器) (石器等) ⅡB31, ⅡB15, X A1		
-354	D-7-d	1.24×1.12	0.87×0.84	0.15	N-81°-E (土 器) Ⅱ1 (石器等) ⅡB31, ⅡB39, X A1, ⅡB2		
-355	D-7-d	0.7×0.57	0.55×0.48	0.15	N-64.5°-E (土 器) (石器等) ⅡB31, ⅡB1		
-356	D-7-c	0.8×0.73	0.42×0.36	0.17	N-41.5°-E (土 器) (石器等) I A1a1, ⅡB21, IV A1a1, ⅡB19, X A5		
-358	D-7-c	1.13×1.06	0.95×0.89	0.32	N-51°-E (土 器) (石器等) ⅡB31, V A21		
-359	D-7-c	0.73×0.7	0.53×0.61	0.29	N-49°-E (土 器) (石器等) X A4, ⅡB1		
-360	D-7-d	0.75×0.72	0.53×0.55	0.25	- (土 器) (石器等) I A1a2, ⅡA21, ⅡB17, X A1, X B1		
-361	D-7-c	1.08×0.76	0.87×0.67	0.27	N-54.5°-E (土 器) (石器等) ⅡB9		

测站号	调查区	基 线 (m)			长 轴 方 向	出 土 遗 物	备 考
		渠 口	槽 底	渠 宽			
I P-352	C-8-b	0.83×0.64	0.66×0.5	0.17	N-26°-W	(土 器) (石器等)	
-353	E-7-d	0.74×0.67	0.59×0.52	0.3	N-74°-W	(土 器) (石器等) 罐:3	
-354	D-7-c	0.85×0.81	0.7×0.65	0.37	N-2.5°-W	(土 器) (石器等) 瓦:1	
-355	D-7-c	0.95×0.89	0.85×0.79	0.33	N-5°-E	(土 器) (石器等) 瓦:3	
-356	D-7-c	0.71×0.64	0.63×0.5	0.35	N-84°-W	(土 器) (石器等) 罐:4	
-357	D-7-c	1.36×1.06	0.96×0.82	0.27	N-33°-E	(土 器) (石器等) 瓦:2, 瓦:3, 瓦:4, 瓦:2	
-358	D-7-c	0.72×0.64	0.52×0.51	0.3	N-14°-W	(土 器) (石器等)	
-359	D-7-c	0.53×0.48	0.48×0.4	0.21	N-3°-E	(土 器) (石器等) 瓦:1, 瓦:1	
-370	D-7-d	1.03×0.75	0.92×0.7	0.12	-	(土 器) (石器等) 瓦:5	
-372	D-7-b	0.7×0.67	0.5×0.4	0.5	N-64°-E	(土 器) (石器等) 瓦:1, 罐:1	
-373	D-7-b	0.91×0.75	0.72×0.63	0.21	N-3.5°-E	(土 器) (石器等) 瓦:2, 瓦:2, 瓦:2	
-374	D-7-b	1.14×0.99	0.9×0.83	0.35	N-90°-W	(土 器) (石器等) 瓦:10	
-375	D-7-b	0.97×0.88	0.81×0.67	0.25	N-34°-E	(土 器) (石器等) 瓦:2, 瓦:2, 瓦:1	
-377	D-7-d	0.6×0.51	0.19×0.13	0.1	N-25.5°-E	(土 器) (石器等)	
-378	D-7-d	0.96×0.88	0.83×0.35	0.15	-	(土 器) (石器等) 瓦:1, 瓦:1, 瓦:12	
-379	D-7-a	0.65×0.59	0.62×0.57	0.12	N-12°-E	(土 器) (石器等) 瓦:1, 瓦:2, 瓦:4	
-381	D-7-a	0.91×0.9	0.78×0.65	0.13	N-34°-W	(土 器) (石器等) 瓦:1, 瓦:1, 瓦:2	
-383	D-7-a	1.24×1.18	1.14×1.12	0.17	N-58°-W	(土 器) (石器等) 瓦:15, 瓦:3, 罐:2	

测点编号	调查区	埋 深 (m)		延伸方向	出土 遗 物	备 考
		埋 口	埋 深			
I P-384	D-7-b	1.47×1.14	1.21×1.0	N-44°-E	(土 器) (石器等) ⅢB3.1, ⅢB.4	
-385	D-7-a	0.6 ×0.59	0.59×0.58	N-45.5°-E	(土 器) (石器等) ⅢB.6	
-387	D-7-c	0.58×0.86	0.68×0.57	N-53°-E	(土 器) (石器等) ⅢB.2	
-388	D-8-a	0.66×0.5	0.53×0.41	N-3°-E	(土 器) (石器等)	
-389	D-8-a	1.33×0.59	1.21×0.39	N-8°-W	(土 器) (石器等)	
-390	D-7-d	1.22×0.72	1.07×0.61	-	(土 器) (石器等) ⅢB.3	
-391	E-7-d	0.47×0.43	0.28×0.28	N-27°-W	(土 器) (石器等) ⅢB.2	
-392	E-7-a	0.9 ×0.83	0.62×0.54	N-34°-W	(土 器) (石器等) ⅢB.2	
-395	D-7-d	0.8 ×0.7	0.52×0.48	N-12°-W	(土 器) (石器等) ⅢB.2	
-396	D-7-d	0.93×0.82	0.61×0.48	N-0°-W	(土 器) (石器等) I A2.1, ⅢB.5	
-398	D-7-b	1.54×0.68	0.9 ×0.54	N-68°-E	(土 器) (石器等) ⅢB.9	
-399	D-7-d	0.7 ×0.5	0.57×0.41	N-26.5°-W	(土 器) (石器等)	
-400	D-7-d	0.88×0.81	0.64×0.59	N-86.5°-E	(土 器) (石器等)	
-402	D-7-d	1.26×1.03	1.08×0.83	N-34.5°-E	(土 器) (石器等) ⅢB.6, X A.1	
-403	D-7-a	0.87×0.57	0.69×0.5	N-24°-W	(土 器) (石器等) I A2.1, ⅢA1c.1, ⅢB.3	
-404	D-8-a	0.57×0.55	0.47×0.45	N-55.5°-W	(土 器) (石器等)	
-405	D-7-b	1.02×0.76	0.92×0.64	N-56°-W	(土 器) (石器等) ⅢB.1, X A.4	
-406	D-7-d	1.08×0.68	0.66×0.65	N-82°-E	(土 器) (石器等) ⅢB3.1, ⅢB-1.1, ⅢA.1, ⅢB.11, ⅢB.5	

测点号	测区	量 (m)			长轴方向	出土遗物	备注
		洞口	断面	埋入			
I P-407	D-7-a	1.09×0.73	0.45×0.73	0.2	N-27'-W	(土 器) [石器等] ⅡB3.1, ⅡB4, X A.1, 罐:1	
-408	D-7-d	0.63×0.48	0.45×0.35	0.15	N-81.5'-W	(土 器) [石器等] ⅡB2.1, ⅡB.1, 罐:1	
-409	D-7-a	1.0 ×0.85	0.92×0.65	0.7	N-96.5'-W	(土 器) [石器等] ⅡB.1	
-410	D-7-c	0.38×0.37	0.17×0.16	0.15	N-73.5'-E	(土 器) [石器等] ⅡB3.1, ⅡB4	
-411	E-7-d	0.71×0.66	0.48×0.24	0.44	N-15'-E	(土 器) [石器等] ⅡA-1, ⅡB5	
-412	E-5-d	1.31×0.85	0.89×0.74	0.23	N-75.5'-W	(土 器) [石器等] I A16.1, ⅡA1.1, ⅡB2.1, ⅡB-1, ⅡB3.1, ⅡB-1, ⅡB3.1, ⅡA.5	
-413	D-7-d	0.75×0.67	0.59×0.53	0.22	N-80.5'-W	(土 器) [石器等]	
-414	E-5-d	1.15×1.02	1.02×0.97	0.22	N-41.5'-W	(土 器) [石器等] I A-2, ⅡA3.1, ⅡB-4, ⅡB16, X A.1, 罐:1	
-415	E-6-a	0.9 ×0.83	0.76×0.63	0.39	N-28'-E	(土 器) [石器等] ⅡA-1, ⅡB3.2, ⅡB-2, ⅡB27, X A.5, 罐:5	
-416	E-5-a	0.89×0.54	0.55×0.28	0.34	N-46.5'-W	(土 器) [石器等] ⅡB2.1, X A.1	
-417	D-5-b	1.05×0.68	0.97×0.55	0.23	N-35.5'-W	(土 器) [石器等] ⅡB3.1	
-418	E-5-d	0.9 ×0.87	0.82×0.8	0.27	N-81'-E	(土 器) [石器等] ⅡB4, X A.1, 罐:2	
-419	D-5-c	-	-	0.35	-	(土 器) [石器等] ⅡA.1, ⅡB4, X A.1, 罐:1	
-420	E-5-a	1.10×0.96	0.98×0.83	0.29	N-62.5'-E	(土 器) [石器等] ⅡA.2, ⅡB3.1, ⅡA.2, 罐:2	
-421	E-5-b	-	-	0.41	-	(土 器) [石器等] ⅡB-1, ⅡB18	
-422	D-5-c	0.53×0.51	0.43×0.36	0.35	N-67.5'-E	(土 器) [石器等] X A.2, X B.1	
-423	D-5-c	1.10×1.0	0.97×0.89	0.34	N-38.5'-E	(土 器) [石器等] I A2.1, ⅡB2.1, 罐:8	
-424	E-5-d	0.63×0.56	0.55×0.32	0.14	N-9.5'-W	(土 器) [石器等] ⅡB3.3, ⅡB4, 罐:2	

测点号	测区	展 示 图 (m)			展 示 图 (m)	展 示 图 (m)	出 土 建 物	备 考
		展 示 图 (m)	展 示 图 (m)	展 示 图 (m)				
IP-425	E-6-d	1.14×0.9	0.7×0.7	0.63	N-5.5'-W	(土 器) (石器等) I A1a1, I A1b1, ⅢB11, ⅣB14, X A1, ⅤA1, ⅥA1		
-426	E-6-d	0.71×0.84	0.63×0.62	0.49	N-6'-E	(土 器) 条纹文陶片, 瓦 (石器等) ⅤB7, X A2, ⅥA1		
-427	D-6-c	1.42×0.95	0.67×0.66	0.37	N-10.5'-E	(土 器) 陶片 1 (石器等) ⅢB11, ⅣB-4, ⅤA2, ⅥB18, X A1, ⅦA5		
-428	E-6-d	1.0×0.64	0.8×0.5	0.24	N-10.5'-E	(土 器) (石器等) I A1a1, ⅢB11, X A4		
-429	D-6-b	-	-	0.33	-	(土 器) (石器等) I A31, ⅢB3, X A1		
-430	D-6-b	-	-	0.32	-	(土 器) (石器等) ⅤB8, 棒状粗管石1		
-431	D-6-b	0.52×0.43	0.19×0.18	0.13	N-8.5'-W	(土 器) (石器等)		
-432	D-6-b	0.81×0.8	0.67×0.66	0.3	N-4.5'-W	(土 器) 陶片 1 (石器等) I A1a1, ⅢB8, ⅥA3		
-433	E-6-a	0.44×0.36	0.42×0.33	0.22	N-3.5'-E	(土 器) (石器等) ⅤB1		
-434	E-5-d	0.42×0.33	0.4×0.31	0.18	N-8.0'-E	(土 器) (石器等) ⅤB1		
-435	E-5-a	1.08×0.7	1.02×0.63	0.23	N-19.5'-W	(土 器) (石器等) I A1a1, ⅢA-1, ⅢB3.2, V A11, ⅢB11, X A1		
-436	E-5-a	0.91×0.61	0.78×0.53	0.22	N-6.0'-W	(土 器) (石器等) I A21, ⅢB5, ⅥA1		
-437	E-5-a	0.55×0.4	0.23×0.18	0.22	N-23.5'-W	(土 器) (石器等) X A2		
-438	D-6-b	-	-	0.25	-	(土 器) (石器等)		
-439	E-6-a	1.02×0.67	0.68×0.54	0.39	N-5.5'-E	(土 器) (石器等) ⅢB11, ⅢB5, X A2		
-440	E-6-d	0.78×0.70	0.62×0.55	0.45	N-41.5'-E	(土 器) (石器等) ⅢB11		
-441	D-6-c	0.72×0.45	0.21×0.2	0.18	N-3.5'-W	(土 器) (石器等) ⅢB4		
-442	D-6-c	0.71×0.62	0.58×0.43	0.29	N-6.5'-W	(土 器) (石器等) ⅢB-1, ⅢB7, X A1		

道槽编号	调查区	埋 深 (m)		展 转 方 向	出 土 遗 物	备 考
		埋 口	埋 底			
I P-443	D-5-c	0.81×0.73	0.73×0.68	N-38.5°-E	(土 器) ⅢB2-1, ⅢB3-1, XA-2, 棒状黑曜石;1 (石器等)	
-444	E-6-a	0.87×0.71	0.68×0.55	N-18.5°-E	(土 器) 漆林 1, 舟形土器 1 (石器等) ⅢB-2-2, ⅢB3, 曜;3	
-445	E-6-a	0.8 ×0.59	0.5 ×0.34	N-35.5°-W	(土 器) 舟形土器 (石器等) ⅢB3-4, 曜;1	
-446	E-5-a	0.5 ×0.38	0.4 ×0.29	N-18.5°-W	(土 器) (石器等) ⅢB3-1, ⅢB-1, ⅢA-1, ⅢB1-1, ⅢB2, XA-1, XB-1, 曜;4	
-447	E-5-a	0.53×0.48	0.27×0.23	N-41.5°-E	(土 器) 漆 1 (石器等) ⅢB3-1, ⅢB3, 棒状黑曜石;2	
-448	D-5-c	0.5 ×0.38	0.3 ×0.26	N-74.5°-E	(土 器) (石器等) 曜;1	
-450	D-6-c	0.88×0.79	0.71×0.59	N-25°-W	(土 器) (石器等) I A3-1, ⅢB2-1, ⅢA-1, ⅢB7, 曜;1	
-451	E-6-a	1.10×0.97	0.94×0.82	N-29°-E	(土 器) (石器等) ⅢB-1, ⅢB1, XA-2	
-452	E-6-a	1.64×0.97	1.58×0.92	N-88.5°-E	(土 器) (石器等) VA2-1, ⅢB3, XA-2	
-453	E-6-a	0.79×0.7	0.64×0.6	N-83°-W	(土 器) 曜;1, ⅢB2 (石器等) 曜;1	
-454	E-6-a	0.7 ×0.55	0.6 ×0.45	N-1°-W	(土 器) 漆 1 (石器等) X B1, 曜;1	
-455	D-6-b	1.44×1.03	1.6 ×0.89	N-23.5°-W	(土 器) 漆 2 (石器等) I A3-1, ⅢA-1, ⅢB-1, ⅢB1-1, ⅢB2-1, ⅢB3-1, ⅢB-2, ⅢB7, 曜;1	
-456	D-6-c	1.03×0.8	0.75×0.63	N-57.5°-W	(土 器) (石器等) ⅢB3-1, ⅢB-2, ⅢB7, 曜;1	
-457	E-6-a	0.77×0.65	0.5 ×0.42	N-17°-W	(土 器) (石器等) ⅢA3-1, ⅢA-1, ⅢB-1, ⅢB3, 曜;1	
-458	D-6-b	1.04×0.71	0.77×0.47	N-27°-W	(土 器) (石器等)	
-459	E-7-a	0.74×0.4	0.67×0.31	-	(土 器) (石器等)	
-460	E-7-a	0.55×0.32	0.48×0.2	-	(土 器) (石器等)	
-461	E-7-a	0.52×0.2	0.45×0.16	-	(土 器) (石器等)	

遺跡番号	調査区	規模 (m)		長軸方向	出土遺物	備考
		開口	幅底 長さ			
I P-462	E-6-a	0.57×0.5	0.51×0.42	0.35 (土器) (石器等) I A1b-1, ⅡB-1, ⅡB-3		
-463	D-6-b	0.42×0.32	0.37×0.21	0.6 (土器) (石器等) I A-1, ⅡB-1, X A-1		
-464	E-5-d	0.58×0.4	0.33×0.31	0.12 (土器) (石器等) ⅡB-1, X A-2, ⅡB-2		
-465	E-4-a	1.56×1.45	1.46×1.29	0.68 (土器) (石器等) I A6, ⅡB-1, ⅡB-2, ⅡB-3, ⅡB-4, ⅡB-5, ⅡB-6, ⅡB-7, ⅡB-8, ⅡB-9, ⅡB-10, ⅡB-11, ⅡB-12, ⅡB-13, ⅡB-14, ⅡB-15, ⅡB-16, ⅡB-17, ⅡB-18, ⅡB-19, ⅡB-20, X A-1, ⅡB-2		・縄文時代の土質
-466	D-4-a	1.22×0.96	0.77×0.75	0.48 (土器) ⅡB-1, ⅡB-2 (石器等) I A1b, I A3b, I A-1, ⅡB-2		
-467	D-3-d	1.12×0.96	1.01×0.89	0.65 (土器) ⅡB-1 (石器等) I A2b, ⅡB-4, ⅡB-5, ⅡB-6, ⅡB-7, ⅡB-8, ⅡB-9, ⅡB-10, ⅡB-11, ⅡB-12, ⅡB-13, ⅡB-14, ⅡB-15, ⅡB-16, ⅡB-17, ⅡB-18, ⅡB-19, ⅡB-20, ⅡB-21, ⅡB-22, ⅡB-23, ⅡB-24, ⅡB-25, ⅡB-26, ⅡB-27, ⅡB-28, ⅡB-29, ⅡB-30, ⅡB-31, ⅡB-32, ⅡB-33, ⅡB-34, ⅡB-35, ⅡB-36, ⅡB-37, ⅡB-38, ⅡB-39, ⅡB-40, ⅡB-41, ⅡB-42, ⅡB-43, ⅡB-44, ⅡB-45, ⅡB-46, ⅡB-47, ⅡB-48, ⅡB-49, ⅡB-50, ⅡB-51, ⅡB-52, ⅡB-53, ⅡB-54, ⅡB-55, ⅡB-56, ⅡB-57, ⅡB-58, ⅡB-59, ⅡB-60, ⅡB-61, ⅡB-62, ⅡB-63, ⅡB-64, ⅡB-65, ⅡB-66, ⅡB-67, ⅡB-68, ⅡB-69, ⅡB-70, ⅡB-71, ⅡB-72, ⅡB-73, ⅡB-74, ⅡB-75, ⅡB-76, ⅡB-77, ⅡB-78, ⅡB-79, ⅡB-80, ⅡB-81, ⅡB-82, ⅡB-83, ⅡB-84, ⅡB-85, ⅡB-86, ⅡB-87, ⅡB-88, ⅡB-89, ⅡB-90, ⅡB-91, ⅡB-92, ⅡB-93, ⅡB-94, ⅡB-95, ⅡB-96, ⅡB-97, ⅡB-98, ⅡB-99, ⅡB-100, ⅡB-101, ⅡB-102, ⅡB-103, ⅡB-104, ⅡB-105, ⅡB-106, ⅡB-107, ⅡB-108, ⅡB-109, ⅡB-110, ⅡB-111, ⅡB-112, ⅡB-113, ⅡB-114, ⅡB-115, ⅡB-116, ⅡB-117, ⅡB-118, ⅡB-119, ⅡB-120, ⅡB-121, ⅡB-122, ⅡB-123, ⅡB-124, ⅡB-125, ⅡB-126, ⅡB-127, ⅡB-128, ⅡB-129, ⅡB-130, ⅡB-131, ⅡB-132, ⅡB-133, ⅡB-134, ⅡB-135, ⅡB-136, ⅡB-137, ⅡB-138, ⅡB-139, ⅡB-140, ⅡB-141, ⅡB-142, ⅡB-143, ⅡB-144, ⅡB-145, ⅡB-146, ⅡB-147, ⅡB-148, ⅡB-149, ⅡB-150, ⅡB-151, ⅡB-152, ⅡB-153, ⅡB-154, ⅡB-155, ⅡB-156, ⅡB-157, ⅡB-158, ⅡB-159, ⅡB-160, ⅡB-161, ⅡB-162, ⅡB-163, ⅡB-164, ⅡB-165, ⅡB-166, ⅡB-167, ⅡB-168, ⅡB-169, ⅡB-170, ⅡB-171, ⅡB-172, ⅡB-173, ⅡB-174, ⅡB-175, ⅡB-176, ⅡB-177, ⅡB-178, ⅡB-179, ⅡB-180, ⅡB-181, ⅡB-182, ⅡB-183, ⅡB-184, ⅡB-185, ⅡB-186, ⅡB-187, ⅡB-188, ⅡB-189, ⅡB-190, ⅡB-191, ⅡB-192, ⅡB-193, ⅡB-194, ⅡB-195, ⅡB-196, ⅡB-197, ⅡB-198, ⅡB-199, ⅡB-200, ⅡB-201, ⅡB-202, ⅡB-203, ⅡB-204, ⅡB-205, ⅡB-206, ⅡB-207, ⅡB-208, ⅡB-209, ⅡB-210, ⅡB-211, ⅡB-212, ⅡB-213, ⅡB-214, ⅡB-215, ⅡB-216, ⅡB-217, ⅡB-218, ⅡB-219, ⅡB-220, ⅡB-221, ⅡB-222, ⅡB-223, ⅡB-224, ⅡB-225, ⅡB-226, ⅡB-227, ⅡB-228, ⅡB-229, ⅡB-230, ⅡB-231, ⅡB-232, ⅡB-233, ⅡB-234, ⅡB-235, ⅡB-236, ⅡB-237, ⅡB-238, ⅡB-239, ⅡB-240, ⅡB-241, ⅡB-242, ⅡB-243, ⅡB-244, ⅡB-245, ⅡB-246, ⅡB-247, ⅡB-248, ⅡB-249, ⅡB-250, ⅡB-251, ⅡB-252, ⅡB-253, ⅡB-254, ⅡB-255, ⅡB-256, ⅡB-257, ⅡB-258, ⅡB-259, ⅡB-260, ⅡB-261, ⅡB-262, ⅡB-263, ⅡB-264, ⅡB-265, ⅡB-266, ⅡB-267, ⅡB-268, ⅡB-269, ⅡB-270, ⅡB-271, ⅡB-272, ⅡB-273, ⅡB-274, ⅡB-275, ⅡB-276, ⅡB-277, ⅡB-278, ⅡB-279, ⅡB-280, ⅡB-281, ⅡB-282, ⅡB-283, ⅡB-284, ⅡB-285, ⅡB-286, ⅡB-287, ⅡB-288, ⅡB-289, ⅡB-290, ⅡB-291, ⅡB-292, ⅡB-293, ⅡB-294, ⅡB-295, ⅡB-296, ⅡB-297, ⅡB-298, ⅡB-299, ⅡB-300, ⅡB-301, ⅡB-302, ⅡB-303, ⅡB-304, ⅡB-305, ⅡB-306, ⅡB-307, ⅡB-308, ⅡB-309, ⅡB-310, ⅡB-311, ⅡB-312, ⅡB-313, ⅡB-314, ⅡB-315, ⅡB-316, ⅡB-317, ⅡB-318, ⅡB-319, ⅡB-320, ⅡB-321, ⅡB-322, ⅡB-323, ⅡB-324, ⅡB-325, ⅡB-326, ⅡB-327, ⅡB-328, ⅡB-329, ⅡB-330, ⅡB-331, ⅡB-332, ⅡB-333, ⅡB-334, ⅡB-335, ⅡB-336, ⅡB-337, ⅡB-338, ⅡB-339, ⅡB-340, ⅡB-341, ⅡB-342, ⅡB-343, ⅡB-344, ⅡB-345, ⅡB-346, ⅡB-347, ⅡB-348, ⅡB-349, ⅡB-350, ⅡB-351, ⅡB-352, ⅡB-353, ⅡB-354, ⅡB-355, ⅡB-356, ⅡB-357, ⅡB-358, ⅡB-359, ⅡB-360, ⅡB-361, ⅡB-362, ⅡB-363, ⅡB-364, ⅡB-365, ⅡB-366, ⅡB-367, ⅡB-368, ⅡB-369, ⅡB-370, ⅡB-371, ⅡB-372, ⅡB-373, ⅡB-374, ⅡB-375, ⅡB-376, ⅡB-377, ⅡB-378, ⅡB-379, ⅡB-380, ⅡB-381, ⅡB-382, ⅡB-383, ⅡB-384, ⅡB-385, ⅡB-386, ⅡB-387, ⅡB-388, ⅡB-389, ⅡB-390, ⅡB-391, ⅡB-392, ⅡB-393, ⅡB-394, ⅡB-395, ⅡB-396, ⅡB-397, ⅡB-398, ⅡB-399, ⅡB-400, ⅡB-401, ⅡB-402, ⅡB-403, ⅡB-404, ⅡB-405, ⅡB-406, ⅡB-407, ⅡB-408, ⅡB-409, ⅡB-410, ⅡB-411, ⅡB-412, ⅡB-413, ⅡB-414, ⅡB-415, ⅡB-416, ⅡB-417, ⅡB-418, ⅡB-419, ⅡB-420, ⅡB-421, ⅡB-422, ⅡB-423, ⅡB-424, ⅡB-425, ⅡB-426, ⅡB-427, ⅡB-428, ⅡB-429, ⅡB-430, ⅡB-431, ⅡB-432, ⅡB-433, ⅡB-434, ⅡB-435, ⅡB-436, ⅡB-437, ⅡB-438, ⅡB-439, ⅡB-440, ⅡB-441, ⅡB-442, ⅡB-443, ⅡB-444, ⅡB-445, ⅡB-446, ⅡB-447, ⅡB-448, ⅡB-449, ⅡB-450, ⅡB-451, ⅡB-452, ⅡB-453, ⅡB-454, ⅡB-455, ⅡB-456, ⅡB-457, ⅡB-458, ⅡB-459, ⅡB-460, ⅡB-461, ⅡB-462, ⅡB-463, ⅡB-464, ⅡB-465, ⅡB-466, ⅡB-467, ⅡB-468, ⅡB-469, ⅡB-470, ⅡB-471, ⅡB-472, ⅡB-473, ⅡB-474, ⅡB-475, ⅡB-476, ⅡB-477, ⅡB-478, ⅡB-479, ⅡB-480, ⅡB-481, ⅡB-482, ⅡB-483, ⅡB-484, ⅡB-485, ⅡB-486, ⅡB-487, ⅡB-488, ⅡB-489, ⅡB-490, ⅡB-491, ⅡB-492, ⅡB-493, ⅡB-494, ⅡB-495, ⅡB-496, ⅡB-497, ⅡB-498, ⅡB-499, ⅡB-500, ⅡB-501, ⅡB-502, ⅡB-503, ⅡB-504, ⅡB-505, ⅡB-506, ⅡB-507, ⅡB-508, ⅡB-509, ⅡB-510, ⅡB-511, ⅡB-512, ⅡB-513, ⅡB-514, ⅡB-515, ⅡB-516, ⅡB-517, ⅡB-518, ⅡB-519, ⅡB-520, ⅡB-521, ⅡB-522, ⅡB-523, ⅡB-524, ⅡB-525, ⅡB-526, ⅡB-527, ⅡB-528, ⅡB-529, ⅡB-530, ⅡB-531, ⅡB-532, ⅡB-533, ⅡB-534, ⅡB-535, ⅡB-536, ⅡB-537, ⅡB-538, ⅡB-539, ⅡB-540, ⅡB-541, ⅡB-542, ⅡB-543, ⅡB-544, ⅡB-545, ⅡB-546, ⅡB-547, ⅡB-548, ⅡB-549, ⅡB-550, ⅡB-551, ⅡB-552, ⅡB-553, ⅡB-554, ⅡB-555, ⅡB-556, ⅡB-557, ⅡB-558, ⅡB-559, ⅡB-560, ⅡB-561, ⅡB-562, ⅡB-563, ⅡB-564, ⅡB-565, ⅡB-566, ⅡB-567, ⅡB-568, ⅡB-569, ⅡB-570, ⅡB-571, ⅡB-572, ⅡB-573, ⅡB-574, ⅡB-575, ⅡB-576, ⅡB-577, ⅡB-578, ⅡB-579, ⅡB-580, ⅡB-581, ⅡB-582, ⅡB-583, ⅡB-584, ⅡB-585, ⅡB-586, ⅡB-587, ⅡB-588, ⅡB-589, ⅡB-590, ⅡB-591, ⅡB-592, ⅡB-593, ⅡB-594, ⅡB-595, ⅡB-596, ⅡB-597, ⅡB-598, ⅡB-599, ⅡB-600, ⅡB-601, ⅡB-602, ⅡB-603, ⅡB-604, ⅡB-605, ⅡB-606, ⅡB-607, ⅡB-608, ⅡB-609, ⅡB-610, ⅡB-611, ⅡB-612, ⅡB-613, ⅡB-614, ⅡB-615, ⅡB-616, ⅡB-617, ⅡB-618, ⅡB-619, ⅡB-620, ⅡB-621, ⅡB-622, ⅡB-623, ⅡB-624, ⅡB-625, ⅡB-626, ⅡB-627, ⅡB-628, ⅡB-629, ⅡB-630, ⅡB-631, ⅡB-632, ⅡB-633, ⅡB-634, ⅡB-635, ⅡB-636, ⅡB-637, ⅡB-638, ⅡB-639, ⅡB-640, ⅡB-641, ⅡB-642, ⅡB-643, ⅡB-644, ⅡB-645, ⅡB-646, ⅡB-647, ⅡB-648, ⅡB-649, ⅡB-650, ⅡB-651, ⅡB-652, ⅡB-653, ⅡB-654, ⅡB-655, ⅡB-656, ⅡB-657, ⅡB-658, ⅡB-659, ⅡB-660, ⅡB-661, ⅡB-662, ⅡB-663, ⅡB-664, ⅡB-665, ⅡB-666, ⅡB-667, ⅡB-668, ⅡB-669, ⅡB-670, ⅡB-671, ⅡB-672, ⅡB-673, ⅡB-674, ⅡB-675, ⅡB-676, ⅡB-677, ⅡB-678, ⅡB-679, ⅡB-680, ⅡB-681, ⅡB-682, ⅡB-683, ⅡB-684, ⅡB-685, ⅡB-686, ⅡB-687, ⅡB-688, ⅡB-689, ⅡB-690, ⅡB-691, ⅡB-692, ⅡB-693, ⅡB-694, ⅡB-695, ⅡB-696, ⅡB-697, ⅡB-698, ⅡB-699, ⅡB-700, ⅡB-701, ⅡB-702, ⅡB-703, ⅡB-704, ⅡB-705, ⅡB-706, ⅡB-707, ⅡB-708, ⅡB-709, ⅡB-710, ⅡB-711, ⅡB-712, ⅡB-713, ⅡB-714, ⅡB-715, ⅡB-716, ⅡB-717, ⅡB-718, ⅡB-719, ⅡB-720, ⅡB-721, ⅡB-722, ⅡB-723, ⅡB-724, ⅡB-725, ⅡB-726, ⅡB-727, ⅡB-728, ⅡB-729, ⅡB-730, ⅡB-731, ⅡB-732, ⅡB-733, ⅡB-734, ⅡB-735, ⅡB-736, ⅡB-737, ⅡB-738, ⅡB-739, ⅡB-740, ⅡB-741, ⅡB-742, ⅡB-743, ⅡB-744, ⅡB-745, ⅡB-746, ⅡB-747, ⅡB-748, ⅡB-749, ⅡB-750, ⅡB-751, ⅡB-752, ⅡB-753, ⅡB-754, ⅡB-755, ⅡB-756, ⅡB-757, ⅡB-758, ⅡB-759, ⅡB-760, ⅡB-761, ⅡB-762, ⅡB-763, ⅡB-764, ⅡB-765, ⅡB-766, ⅡB-767, ⅡB-768, ⅡB-769, ⅡB-770, ⅡB-771, ⅡB-772, ⅡB-773, ⅡB-774, ⅡB-775, ⅡB-776, ⅡB-777, ⅡB-778, ⅡB-779, ⅡB-780, ⅡB-781, ⅡB-782, ⅡB-783, ⅡB-784, ⅡB-785, ⅡB-786, ⅡB-787, ⅡB-788, ⅡB-789, ⅡB-790, ⅡB-791, ⅡB-792, ⅡB-793, ⅡB-794, ⅡB-795, ⅡB-796, ⅡB-797, ⅡB-798, ⅡB-799, ⅡB-800, ⅡB-801, ⅡB-802, ⅡB-803, ⅡB-804, ⅡB-805, ⅡB-806, ⅡB-807, ⅡB-808, ⅡB-809, ⅡB-810, ⅡB-811, ⅡB-812, ⅡB-813, ⅡB-814, ⅡB-815, ⅡB-816, ⅡB-817, ⅡB-818, ⅡB-819, ⅡB-820, ⅡB-821, ⅡB-822, ⅡB-823, ⅡB-824, ⅡB-825, ⅡB-826, ⅡB-827, ⅡB-828, ⅡB-829, ⅡB-830, ⅡB-831, ⅡB-832, ⅡB-833, ⅡB-834, ⅡB-835, ⅡB-836, ⅡB-837, ⅡB-838, ⅡB-839, ⅡB-840, ⅡB-841, ⅡB-842, ⅡB-843, ⅡB-844, ⅡB-845, ⅡB-846, ⅡB-847, ⅡB-848, ⅡB-849, ⅡB-850, ⅡB-851, ⅡB-852, ⅡB-853, ⅡB-854, ⅡB-855, ⅡB-856, ⅡB-857, ⅡB-858, ⅡB-859, ⅡB-860, ⅡB-861, ⅡB-862, ⅡB-863, ⅡB-864, ⅡB-865, ⅡB-866, ⅡB-867, ⅡB-868, ⅡB-869, ⅡB-870, ⅡB-871, ⅡB-872, ⅡB-873, ⅡB-874, ⅡB-875, ⅡB-876, ⅡB-877, ⅡB-878, ⅡB-879, ⅡB-880, ⅡB-881, ⅡB-882, ⅡB-883, ⅡB-884, ⅡB-885, ⅡB-886, ⅡB-887, ⅡB-888, ⅡB-889, ⅡB-890, ⅡB-891, ⅡB-892, ⅡB-893, ⅡB-894, ⅡB-895, ⅡB-896, ⅡB-897, ⅡB-898, ⅡB-899, ⅡB-900, ⅡB-901, ⅡB-902, ⅡB-903, ⅡB-904, ⅡB-905, ⅡB-906, ⅡB-907, ⅡB-908, ⅡB-909, ⅡB-910, ⅡB-911, ⅡB-912, ⅡB-913, ⅡB-914, ⅡB-915, ⅡB-916, ⅡB-917, ⅡB-918, ⅡB-919, ⅡB-920, ⅡB-921, ⅡB-922, ⅡB-923, ⅡB-924, ⅡB-925, ⅡB-926, ⅡB-927, ⅡB-928, ⅡB-929, ⅡB-930, ⅡB-931, ⅡB-932, ⅡB-933, ⅡB-934, ⅡB-935, ⅡB-936, ⅡB-937, ⅡB-938, ⅡB-939, ⅡB-940, ⅡB-941, ⅡB-942, ⅡB-943, ⅡB-944, ⅡB-945, ⅡB-946, ⅡB-947, ⅡB-948, ⅡB-949, ⅡB-950, ⅡB-951, ⅡB-952, ⅡB-953, ⅡB-954, ⅡB-955, ⅡB-956, ⅡB-957, ⅡB-958, ⅡB-959, ⅡB-960, ⅡB-961, ⅡB-962, ⅡB-963, ⅡB-964, ⅡB-965, ⅡB-966, ⅡB-967, ⅡB-968, ⅡB-969, ⅡB-970, ⅡB-971, ⅡB-972, ⅡB-973, ⅡB-974, ⅡB-975, ⅡB-976, ⅡB-977, ⅡB-978, ⅡB-979, ⅡB-980, ⅡB-981, ⅡB-982, ⅡB-983, ⅡB-984, ⅡB-985, ⅡB-986, ⅡB-987, ⅡB-988, ⅡB-989, ⅡB-990, ⅡB-991, ⅡB-992, ⅡB-993, ⅡB-994, ⅡB-995, ⅡB-996, ⅡB-997, ⅡB-998, ⅡB-999, ⅡB-1000, ⅡB-1001, ⅡB-1002, ⅡB-1003, ⅡB-1004, ⅡB-1005, ⅡB-1006, ⅡB-1007, ⅡB-1008, ⅡB-1009, ⅡB-1010, ⅡB-1011, ⅡB-1012, ⅡB-1013, ⅡB-1014, ⅡB-1015, ⅡB-1016, ⅡB-1017, ⅡB-1018, ⅡB-1019, ⅡB-1020, ⅡB-1021, ⅡB-1022, ⅡB-1023, ⅡB-1024, ⅡB-1025, ⅡB-1026, ⅡB-1027, ⅡB-1028, ⅡB-1029, ⅡB-1030, ⅡB-1031, ⅡB-1032, ⅡB-1033, ⅡB-1034, ⅡB-1035, ⅡB-1036, ⅡB-1037, ⅡB-1038, ⅡB-1039, ⅡB-1040, ⅡB-1041, ⅡB-1042, ⅡB-1043, ⅡB-1044, ⅡB-1045, ⅡB-1046, ⅡB-1047, ⅡB-1048, ⅡB-1049, ⅡB-1050, ⅡB-1051, ⅡB-1052, ⅡB-1053, ⅡB-1054, ⅡB-1055, ⅡB-1056, ⅡB-1057, ⅡB-1058, ⅡB-1059, ⅡB-1060, ⅡB-1061, ⅡB-1062, ⅡB-1063, ⅡB-1064, ⅡB-1065, ⅡB-1066, ⅡB-1067, ⅡB-1068, ⅡB-1069, ⅡB-1070, ⅡB-1071, ⅡB-1072, ⅡB-1073, ⅡB-1074, ⅡB-1075, ⅡB-1076, ⅡB-1077, ⅡB-1078, ⅡB-1079, ⅡB-1080, ⅡB-1081, ⅡB-1082, ⅡB-1083, ⅡB-1084, ⅡB-1085, ⅡB-1086, ⅡB-1087, ⅡB-1088, ⅡB-1089, ⅡB-1090, ⅡB-1091, ⅡB-1092, ⅡB-1093, ⅡB-1094, ⅡB-1095, ⅡB-1096, ⅡB-1097, ⅡB-1098, ⅡB-1099, ⅡB-1100, ⅡB-1101, ⅡB-1102, ⅡB-1103, ⅡB-1104, ⅡB-1105, ⅡB-1106, ⅡB-1107, ⅡB-1108, ⅡB-1109, ⅡB-1110, ⅡB-1111, ⅡB-1112, ⅡB-1113, ⅡB-1114, ⅡB-1115, ⅡB-1116, ⅡB-1117, ⅡB-1118, ⅡB-1119, ⅡB-1120, ⅡB-1121, ⅡB-1122, ⅡB-1123, ⅡB-1124, ⅡB-1125, ⅡB-1126, ⅡB-1127, ⅡB-1128, ⅡB-1129, ⅡB-1130, ⅡB-1131, ⅡB-1132, ⅡB-1133, ⅡB-1134, ⅡB-1135, ⅡB-1136, ⅡB-1137, ⅡB-1138, ⅡB-1139, ⅡB-1140, ⅡB-1141, ⅡB-1142, ⅡB-1143, ⅡB-1144, ⅡB-1145, ⅡB-1146, ⅡB-1147, ⅡB-1148, ⅡB-1149, ⅡB-1150, ⅡB-1151, ⅡB-1152, ⅡB-1153, ⅡB-1154, ⅡB-1155, ⅡB-1156, ⅡB-1157, ⅡB-1158, ⅡB-1159, ⅡB-1160, ⅡB-1161, ⅡB-1162, ⅡB-1163, ⅡB-1164, ⅡB-1165, ⅡB-1166, ⅡB-1167, ⅡB-1168, ⅡB-1169, ⅡB-1170, ⅡB-1171, ⅡB-1172, ⅡB-1173, ⅡB-1174, ⅡB-1175, ⅡB-1176, ⅡB-1177, ⅡB-1178, ⅡB-1179, ⅡB-1180, ⅡB-1181, ⅡB-1182, ⅡB-1183, ⅡB-1184, ⅡB-1185, ⅡB-1186, ⅡB-1187, ⅡB-1188, ⅡB-1189, ⅡB-1190, ⅡB-1191, ⅡB-1192, ⅡB-1193, ⅡB-1194, ⅡB-1195, ⅡB-1196, ⅡB-1197, ⅡB-1198, ⅡB-1199, ⅡB-1200, ⅡB-1201, ⅡB-1202, ⅡB-1203, ⅡB-1204, ⅡB-1205, ⅡB-1206, ⅡB-1207, ⅡB-1208, ⅡB-1209, ⅡB-1210, ⅡB-1211, ⅡB-1212, ⅡB-1213, ⅡB-1214, ⅡB-1215, ⅡB-1216, ⅡB-1217, ⅡB-1218, ⅡB-1219, ⅡB-1220, ⅡB-1221, ⅡB-1222, ⅡB-1223, ⅡB-1224, ⅡB-1225, ⅡB-1226, ⅡB-1227, ⅡB-1228, ⅡB-1229, ⅡB-1230, ⅡB-1231, ⅡB-1232, ⅡB-1233, ⅡB-1234, ⅡB-1235, ⅡB-1236, ⅡB-1237, ⅡB-1238, ⅡB-1239, ⅡB-1240, ⅡB-1241, ⅡB-1242, ⅡB-1243, ⅡB-1244, ⅡB-1245, ⅡB-1246, ⅡB-1247, ⅡB-1248, ⅡB-1249, ⅡB-1250, ⅡB-1251, ⅡB-1252, ⅡB-1253, ⅡB-1254, ⅡB-1255, ⅡB-1256, ⅡB-1257, ⅡB-1258, ⅡB-1259, ⅡB-1260, ⅡB-1261, ⅡB-1262, ⅡB-1263, ⅡB-1264, ⅡB-1265, ⅡB-1266, ⅡB-1267, ⅡB-1268, ⅡB-1269, ⅡB-1270, ⅡB		

道槽序号	调查区	宽 度 (m)			长轴方向	出土遗物	備 考
		渠口	渠底	渠宽			
-481	E-4-a	0.54×0.48	0.43×0.41	0.2	N-63.5°-E	{土 器} {石器等} ⅡB2	
-482	D-4-b	0.57×0.5	0.53×0.39	0.22	N-80.5°-W	{土 器} {石器等} ⅡB6	
-483	D-4-b	0.8×0.68	0.63×0.51	0.29	N-2.5°-E	{土 器} {石器等} ⅡB1	
-484	D-3-c	0.55×0.43	0.5×0.35	0.2	N-61.5°-E	{土 器} {石器等} ⅡB9	
-485	D-4-a	0.8×0.75	0.64×0.42	0.33	N-6.5°-E	{土 器} {石器等} ⅡB3, XA1, ⅡB1	
-486	D-4-b	1.15×0.7	0.98×0.5	0.27	N-56.5°-E	{土 器} {石器等} ⅡB7, ⅡB1	
-487	D-4-b	0.61×0.54	0.28×0.24	0.32	N-65.5°-E	{土 器} {石器等} ⅡB2	
-488	D-3-d	0.77×0.7	0.66×0.54	0.48	N-12°-W	{土 器} {石器等} ⅡA1, ⅡB16, XA2	
-489	D-4-a	1.02×0.97	0.86×0.84	0.36	N-81°-W	{土 器} {石器等} ⅡB3, XA2	
-490	D-4-a	1.18×1.09	0.97×0.85	0.37	N-30.5°-W	{土 器} {石器等} ⅡA1a1, XA11	
-491	D-4-b	0.7×0.55	0.4×0.33	0.32	N-55.5°-W	{土 器} {石器等} ⅡB30, ⅡB3	
-492	D-4-c	0.84×0.8	0.74×0.64	0.25	N-2.5°-W	{土 器} {石器等} ⅡA-1, ⅡB4, ⅡB2	
-493	D-4-b	0.76×0.71	0.6×0.58	0.26	N-27.5°-W	{土 器} {石器等} ⅡB2.1, ⅡB9, XA4, ⅡB2	
-494	D-3-c	0.92×0.38	0.53×0.27	0.38	N-82°-E	{土 器} {石器等} ⅡB3, ⅡB1, ⅡB1	
-495	E-4-a	1.40×1.0	1.27×0.95	0.38	N-13.5°-E	{土 器} {石器等} ⅡA2, ⅡA1a3, ⅡA1a, ⅡA3, ⅡA-1, ⅡA1a, ⅡB3a, XA4, ⅡB4	
-496	D-3-d	0.91×0.87	0.75×0.72	0.45	N-81°-E	{土 器} {石器等} ⅡB2.1, ⅡB10, XA1, ⅡB1	
-497	D-3-c	0.87×0.72	0.71×0.55	0.35	N-88.5°-E	{土 器} {石器等} ⅡB16, ⅡB2	
-498	D-3-b	0.8×0.72	0.6×0.58	0.32	N-76.5°-E	{土 器} {石器等} ⅡB2	

道路番号	調査区	坑			坑口	縦断		延長	長軸方向	出土遺物	備考
		横口	横断	深さ							
IP-499	D-3-b	0.9	0.78	0.65	0.55	0.47	N-22.5°-W	(土器) 石器等	青B11, 青B23, Y A-1		
	D-3-c	0.6	0.0.3	0.38	0.15	0.3	-	(土器) 石器等	青B1		
-501	D-2-e	0.82	0.68	0.85	0.49	0.46	N-11.5°-W	(土器) 石器等			
-502	D-3-a	0.48	0.38	0.21	0.2	0.19	N-30°-W	(土器) 赤土1 石器等			
-503	E-6-d	-	-	-	-	0.58	-	(土器) 石器等	青B5, Y A-5		
-504	D-3-c	0.6	0.5	0.36	0.32	0.5	-	(土器) 石器等	青B-11, 青B-4, 磁1		
-505	E-4-d	0.92	0.65	0.85	0.6	0.25	N-38.5°-E	(土器) 石器等	I A1b-1, 青B 10, 磁3		
-506	E-5-d	-	-	-	-	0.3	-	(土器) 石器等	青B-2, Y A-1		
-507	D-3-c	0.76	0.6	0.41	0.37	0.32	N-41.5°-W	(土器) 石器等	青B-10		
-508	D-3-b	0.56	0.45	0.5	0.38	0.2	N-35.5°-W	(土器) 石器等	青B-9, 磁1		
-509	D-3-e	0.6	0.53	0.36	0.25	0.39	N-56.5°-E	(土器) 石器等	青B-8		
-510	D-3-c	0.48	0.34	0.38	0.13	0.19	N-61.5°-E	(土器) 石器等			
-511	D-3-b	0.76	0.62	0.53	0.5	0.33	N-15.5°-W	(土器) 石器等	I A3-1		
-512	D-4-c	2.65	1.82	2.23	1.57	0.66	-	(土器) 赤土1, 磁1 石器等	I A1b-2, I A2-3, I A2-2, I A-2, 青A1b, 青A1c, 青A1d, 青A1e, 青A1f, 青A1g, 青A1h, 青A1i, 青A1j, 青A1k, 青A1l, 青A1m, 青A1n, 青A1o, 青A1p, 青A1q, 青A1r, 青A1s, 青A1t, 青A1u, 青A1v, 青A1w, 青A1x, 青A1y, 青A1z, 青A1aa, 青A1ab, 青A1ac, 青A1ad, 青A1ae, 青A1af, 青A1ag, 青A1ah, 青A1ai, 青A1aj, 青A1ak, 青A1al, 青A1am, 青A1an, 青A1ao, 青A1ap, 青A1aq, 青A1ar, 青A1as, 青A1at, 青A1au, 青A1av, 青A1aw, 青A1ax, 青A1ay, 青A1az, 青A1ba, 青A1bb, 青A1bc, 青A1bd, 青A1be, 青A1bf, 青A1bg, 青A1bh, 青A1bi, 青A1bj, 青A1bk, 青A1bl, 青A1bm, 青A1bn, 青A1bo, 青A1bp, 青A1bq, 青A1br, 青A1bs, 青A1bt, 青A1bu, 青A1bv, 青A1bw, 青A1bx, 青A1by, 青A1bz, 青A1ca, 青A1cb, 青A1cc, 青A1cd, 青A1ce, 青A1cf, 青A1cg, 青A1ch, 青A1ci, 青A1cj, 青A1ck, 青A1cl, 青A1cm, 青A1cn, 青A1co, 青A1cp, 青A1cq, 青A1cr, 青A1cs, 青A1ct, 青A1cu, 青A1cv, 青A1cw, 青A1cx, 青A1cy, 青A1cz, 青A1da, 青A1db, 青A1dc, 青A1dd, 青A1de, 青A1df, 青A1dg, 青A1dh, 青A1di, 青A1dj, 青A1dk, 青A1dl, 青A1dm, 青A1dn, 青A1do, 青A1dp, 青A1dq, 青A1dr, 青A1ds, 青A1dt, 青A1du, 青A1dv, 青A1dw, 青A1dx, 青A1dy, 青A1dz, 青A1ea, 青A1eb, 青A1ec, 青A1ed, 青A1ee, 青A1ef, 青A1eg, 青A1eh, 青A1ei, 青A1ej, 青A1ek, 青A1el, 青A1em, 青A1en, 青A1eo, 青A1ep, 青A1eq, 青A1er, 青A1es, 青A1et, 青A1eu, 青A1ev, 青A1ew, 青A1ex, 青A1ey, 青A1ez, 青A1fa, 青A1fb, 青A1fc, 青A1fd, 青A1fe, 青A1ff, 青A1fg, 青A1fh, 青A1fi, 青A1fj, 青A1fk, 青A1fl, 青A1fm, 青A1fn, 青A1fo, 青A1fp, 青A1fq, 青A1fr, 青A1fs, 青A1ft, 青A1fu, 青A1fv, 青A1fw, 青A1fx, 青A1fy, 青A1fz, 青A1ga, 青A1gb, 青A1gc, 青A1gd, 青A1ge, 青A1gf, 青A1gg, 青A1gh, 青A1gi, 青A1gj, 青A1gk, 青A1gl, 青A1gm, 青A1gn, 青A1go, 青A1gp, 青A1gq, 青A1gr, 青A1gs, 青A1gt, 青A1gu, 青A1gv, 青A1gw, 青A1gx, 青A1gy, 青A1gz, 青A1ha, 青A1hb, 青A1hc, 青A1hd, 青A1he, 青A1hf, 青A1hg, 青A1hi, 青A1hj, 青A1hk, 青A1hl, 青A1hm, 青A1hn, 青A1ho, 青A1hp, 青A1hq, 青A1hr, 青A1hs, 青A1ht, 青A1hu, 青A1hv, 青A1hw, 青A1hx, 青A1hy, 青A1hz, 青A1ia, 青A1ib, 青A1ic, 青A1id, 青A1ie, 青A1if, 青A1ig, 青A1ih, 青A1ii, 青A1ij, 青A1ik, 青A1il, 青A1im, 青A1in, 青A1io, 青A1ip, 青A1iq, 青A1ir, 青A1is, 青A1it, 青A1iu, 青A1iv, 青A1iw, 青A1ix, 青A1iy, 青A1iz, 青A1ja, 青A1jb, 青A1jc, 青A1jd, 青A1je, 青A1jf, 青A1jg, 青A1jh, 青A1ji, 青A1jj, 青A1jk, 青A1jl, 青A1jm, 青A1jn, 青A1jo, 青A1jp, 青A1jq, 青A1jr, 青A1js, 青A1jt, 青A1ju, 青A1jv, 青A1jw, 青A1jx, 青A1jy, 青A1jz, 青A1ka, 青A1kb, 青A1kc, 青A1kd, 青A1ke, 青A1kf, 青A1kg, 青A1kh, 青A1ki, 青A1kj, 青A1kk, 青A1kl, 青A1km, 青A1kn, 青A1ko, 青A1kp, 青A1kq, 青A1kr, 青A1ks, 青A1kt, 青A1ku, 青A1kv, 青A1kw, 青A1kx, 青A1ky, 青A1kz, 青A1la, 青A1lb, 青A1lc, 青A1ld, 青A1le, 青A1lf, 青A1lg, 青A1lh, 青A1li, 青A1lj, 青A1lk, 青A1ll, 青A1lm, 青A1ln, 青A1lo, 青A1lp, 青A1lq, 青A1lr, 青A1ls, 青A1lt, 青A1lu, 青A1lv, 青A1lw, 青A1lx, 青A1ly, 青A1lz, 青A1ma, 青A1mb, 青A1mc, 青A1md, 青A1me, 青A1mf, 青A1mg, 青A1mh, 青A1mi, 青A1mj, 青A1mk, 青A1ml, 青A1mm, 青A1mn, 青A1mo, 青A1mp, 青A1mq, 青A1mr, 青A1ms, 青A1mt, 青A1mu, 青A1mv, 青A1mw, 青A1mx, 青A1my, 青A1mz, 青A1na, 青A1nb, 青A1nc, 青A1nd, 青A1ne, 青A1nf, 青A1ng, 青A1nh, 青A1ni, 青A1nj, 青A1nk, 青A1nl, 青A1nm, 青A1nn, 青A1no, 青A1np, 青A1nq, 青A1nr, 青A1ns, 青A1nt, 青A1nu, 青A1nv, 青A1nw, 青A1nx, 青A1ny, 青A1nz, 青A1oa, 青A1ob, 青A1oc, 青A1od, 青A1oe, 青A1of, 青A1og, 青A1oh, 青A1oi, 青A1oj, 青A1ok, 青A1ol, 青A1om, 青A1on, 青A1oo, 青A1op, 青A1oq, 青A1or, 青A1os, 青A1ot, 青A1ou, 青A1ov, 青A1ow, 青A1ox, 青A1oy, 青A1oz, 青A1pa, 青A1pb, 青A1pc, 青A1pd, 青A1pe, 青A1pf, 青A1pg, 青A1ph, 青A1pi, 青A1pj, 青A1pk, 青A1pl, 青A1pm, 青A1pn, 青A1po, 青A1pp, 青A1pq, 青A1pr, 青A1ps, 青A1pt, 青A1pu, 青A1pv, 青A1pw, 青A1px, 青A1py, 青A1pz, 青A1qa, 青A1qb, 青A1qc, 青A1qd, 青A1qe, 青A1qf, 青A1qg, 青A1qh, 青A1qi, 青A1qj, 青A1qk, 青A1ql, 青A1qm, 青A1qn, 青A1qo, 青A1qp, 青A1qq, 青A1qr, 青A1qs, 青A1qt, 青A1qu, 青A1qv, 青A1qw, 青A1qx, 青A1qy, 青A1qz, 青A1ra, 青A1rb, 青A1rc, 青A1rd, 青A1re, 青A1rf, 青A1rg, 青A1rh, 青A1ri, 青A1rj, 青A1rk, 青A1rl, 青A1rm, 青A1rn, 青A1ro, 青A1rp, 青A1rq, 青A1rr, 青A1rs, 青A1rt, 青A1ru, 青A1rv, 青A1rw, 青A1rx, 青A1ry, 青A1rz, 青A1sa, 青A1sb, 青A1sc, 青A1sd, 青A1se, 青A1sf, 青A1sg, 青A1sh, 青A1si, 青A1sj, 青A1sk, 青A1sl, 青A1sm, 青A1sn, 青A1so, 青A1sp, 青A1sq, 青A1sr, 青A1ss, 青A1st, 青A1su, 青A1sv, 青A1sw, 青A1sx, 青A1sy, 青A1sz, 青A1ta, 青A1tb, 青A1tc, 青A1td, 青A1te, 青A1tf, 青A1tg, 青A1th, 青A1ti, 青A1tj, 青A1tk, 青A1tl, 青A1tm, 青A1tn, 青A1to, 青A1tp, 青A1tq, 青A1tr, 青A1ts, 青A1tt, 青A1tu, 青A1tv, 青A1tw, 青A1tx, 青A1ty, 青A1tz, 青A1ua, 青A1ub, 青A1uc, 青A1ud, 青A1ue, 青A1uf, 青A1ug, 青A1uh, 青A1ui, 青A1uj, 青A1uk, 青A1ul, 青A1um, 青A1un, 青A1uo, 青A1up, 青A1uq, 青A1ur, 青A1us, 青A1ut, 青A1uu, 青A1uv, 青A1uw, 青A1ux, 青A1uy, 青A1uz, 青A1va, 青A1vb, 青A1vc, 青A1vd, 青A1ve, 青A1vf, 青A1vg, 青A1vh, 青A1vi, 青A1vj, 青A1vk, 青A1vl, 青A1vm, 青A1vn, 青A1vo, 青A1vp, 青A1vq, 青A1vr, 青A1vs, 青A1vt, 青A1vu, 青A1vv, 青A1vw, 青A1vx, 青A1vy, 青A1vz, 青A1wa, 青A1wb, 青A1wc, 青A1wd, 青A1we, 青A1wf, 青A1wg, 青A1wh, 青A1wi, 青A1wj, 青A1wk, 青A1wl, 青A1wm, 青A1wn, 青A1wo, 青A1wp, 青A1wq, 青A1wr, 青A1ws, 青A1wt, 青A1wu, 青A1wv, 青A1ww, 青A1wx, 青A1wy, 青A1wz, 青A1xa, 青A1xb, 青A1xc, 青A1xd, 青A1xe, 青A1xf, 青A1xg, 青A1xh, 青A1xi, 青A1xj, 青A1xk, 青A1xl, 青A1xm, 青A1xn, 青A1xo, 青A1xp, 青A1xq, 青A1xr, 青A1xs, 青A1xt, 青A1xu, 青A1xv, 青A1xw, 青A1xx, 青A1xy, 青A1xz, 青A1ya, 青A1yb, 青A1yc, 青A1yd, 青A1ye, 青A1yf, 青A1yg, 青A1yh, 青A1yi, 青A1yj, 青A1yk, 青A1yl, 青A1ym, 青A1yn, 青A1yo, 青A1yp, 青A1yq, 青A1yr, 青A1ys, 青A1yt, 青A1yu, 青A1yv, 青A1yw, 青A1yx, 青A1yy, 青A1yz, 青A1za, 青A1zb, 青A1zc, 青A1zd, 青A1ze, 青A1zf, 青A1zg, 青A1zh, 青A1zi, 青A1zj, 青A1zk, 青A1zl, 青A1zm, 青A1zn, 青A1zo, 青A1zp, 青A1zq, 青A1zr, 青A1zs, 青A1zt, 青A1zu, 青A1zv, 青A1zw, 青A1zx, 青A1zy, 青A1zz, 青A1aa, 青A1ab, 青A1ac, 青A1ad, 青A1ae, 青A1af, 青A1ag, 青A1ah, 青A1ai, 青A1aj, 青A1ak, 青A1al, 青A1am, 青A1an, 青A1ao, 青A1ap, 青A1aq, 青A1ar, 青A1as, 青A1at, 青A1au, 青A1av, 青A1aw, 青A1ax, 青A1ay, 青A1az, 青A1ba, 青A1bb, 青A1bc, 青A1bd, 青A1be, 青A1bf, 青A1bg, 青A1bh, 青A1bi, 青A1bj, 青A1bk, 青A1bl, 青A1bm, 青A1bn, 青A1bo, 青A1bp, 青A1bq, 青A1br, 青A1bs, 青A1bt, 青A1bu, 青A1bv, 青A1bw, 青A1bx, 青A1by, 青A1bz, 青A1ca, 青A1cb, 青A1cc, 青A1cd, 青A1ce, 青A1cf, 青A1cg, 青A1ch, 青A1ci, 青A1cj, 青A1ck, 青A1cl, 青A1cm, 青A1cn, 青A1co, 青A1cp, 青A1cq, 青A1cr, 青A1cs, 青A1ct, 青A1cu, 青A1cv, 青A1cw, 青A1cx, 青A1cy, 青A1cz, 青A1da, 青A1db, 青A1dc, 青A1dd, 青A1de, 青A1df, 青A1dg, 青A1dh, 青A1di, 青A1dj, 青A1dk, 青A1dl, 青A1dm, 青A1dn, 青A1do, 青A1dp, 青A1dq, 青A1dr, 青A1ds, 青A1dt, 青A1du, 青A1dv, 青A1dw, 青A1dx, 青A1dy, 青A1dz, 青A1ea, 青A1eb, 青A1ec, 青A1ed, 青A1ee, 青A1ef, 青A1eg, 青A1eh, 青A1ei, 青A1ej, 青A1ek, 青A1el, 青A1em, 青A1en, 青A1eo, 青A1ep, 青A1eq, 青A1er, 青A1es, 青A1et, 青A1eu, 青A1ev, 青A1ew, 青A1ex, 青A1ey, 青A1ez, 青A1fa, 青A1fb, 青A1fc, 青A1fd, 青A1fe, 青A1ff, 青A1fg, 青A1fh, 青A1fi, 青A1fj, 青A1fk, 青A1fl, 青A1fm, 青A1fn, 青A1fo, 青A1fp, 青A1fq, 青A1fr, 青A1fs, 青A1ft, 青A1fu, 青A1fv, 青A1fw, 青A1fx, 青A1fy, 青A1fz, 青A1ga, 青A1gb, 青A1gc, 青A1gd, 青A1ge, 青A1gf, 青A1gg, 青A1gh, 青A1gi, 青A1gj, 青A1gk, 青A1gl, 青A1gm, 青A1gn, 青A1go, 青A1gp, 青A1gq, 青A1gr, 青A1gs, 青A1gt, 青A1gu, 青A1gv, 青A1gw, 青A1gx, 青A1gy, 青A1gz, 青A1ha, 青A1hb, 青A1hc, 青A1hd, 青A1he, 青A1hf, 青A1hg, 青A1hi, 青A1hj, 青A1hk, 青A1hl, 青A1hm, 青A1hn, 青A1ho, 青A1hp, 青A1hq, 青A1hr, 青A1hs, 青A1ht, 青A1hu, 青A1hv, 青A1hw, 青A1hx, 青A1hy, 青A1hz, 青A1ia, 青A1ib, 青A1ic, 青A1id, 青A1ie, 青A1if, 青A1ig, 青A1ih, 青A1ii, 青A1ij, 青A1ik, 青A1il, 青A1im, 青A1in, 青A1io, 青A1ip, 青A1iq, 青A1ir, 青A1is, 青A1it, 青A1iu, 青A1iv, 青A1iw, 青A1ix, 青A1iy, 青A1iz, 青A1ja, 青A1jb, 青A1jc, 青A1jd, 青A1je, 青A1jf, 青A1jg, 青A1jh, 青A1ji, 青A1jj, 青A1jk, 青A1jl, 青A1jm, 青A1jn, 青A1jo, 青A1jp, 青A1jq, 青A1jr, 青A1js, 青A1jt, 青A1ju, 青A1jv, 青A1jw, 青A1jx, 青A1jy, 青A1jz, 青A1ka, 青A1kb, 青A1kc, 青A1kd, 青A1ke, 青A1kf, 青A1kg, 青A1kh, 青A1ki, 青A1kj, 青A1kk, 青A1kl, 青A1km, 青A1kn, 青A1ko, 青A1kp, 青A1kq, 青A1kr, 青A1ks, 青A1kt, 青A1ku, 青A1kv, 青A1kw, 青A1kx, 青A1ky, 青A1kz, 青A1la, 青A1lb, 青A1lc, 青A1ld, 青A1le, 青A1lf, 青A1lg, 青A1lh, 青A1li, 青A1lj, 青A1lk, 青A1ll, 青A1lm, 青A1ln, 青A1lo, 青A1lp, 青A1lq, 青A1lr, 青A1ls, 青A1lt, 青A1lu, 青A1lv, 青A1lw, 青A1lx, 青A1ly, 青A1lz, 青A1ma, 青A1mb, 青A1mc, 青A1md, 青A1me, 青A1mf, 青A1mg, 青A1mh, 青A1mi, 青A1mj, 青A1mk, 青A1ml, 青A1mm, 青A1mn, 青A1mo, 青A1mp, 青A1mq, 青A1mr, 青A1ms, 青A1mt, 青A1mu, 青A1mv, 青A1mw, 青A1mx, 青A1my, 青A1mz, 青A1na, 青A1nb, 青A1nc, 青A1nd, 青A1ne, 青A1nf, 青A1ng, 青A1nh, 青A1ni, 青A1nj, 青A1nk, 青A1nl, 青A1nm, 青A1nn, 青A1no, 青A1np, 青A1nq, 青A1nr, 青A1ns, 青A1nt, 青A1nu, 青A1nv, 青A1nw, 青A1nx, 青A1ny, 青A1nz, 青A1oa, 青A1ob, 青A1oc, 青A1od, 青A1oe, 青A1of, 青A1og, 青A1oh, 青A1oi, 青A1oj, 青A1ok, 青A1ol, 青A1om, 青A1on, 青A1oo, 青A1op, 青A1oq, 青A1or, 青A1os, 青A1ot, 青A1ou, 青A1ov, 青A1ow, 青A1ox, 青A1oy, 青A1oz, 青A1pa, 青A1pb, 青A1pc, 青A1pd, 青A1pe, 青A1pf, 青A1pg, 青A1ph, 青A1pi, 青A1pj, 青A1pk, 青A1pl, 青A1pm, 青A1pn, 青A1po, 青A1pp, 青A1pq, 青A1pr, 青A1ps, 青A1pt, 青A1pu, 青A1pv, 青A1pw, 青A1px, 青A1py, 青A1pz, 青A1qa, 青A1qb, 青A1qc, 青A1qd, 青A1qe, 青A1qf, 青A1qg, 青A1qh, 青A1qi, 青A1qj, 青A1qk, 青A1ql, 青A1qm, 青A1qn, 青A1qo, 青A1qp, 青A1qq, 青A1qr, 青A1qs, 青A1qt, 青A1qu, 青A1qv, 青A1qw, 青A1qx, 青A1qy, 青A1qz, 青A1ra, 青A1rb, 青A1rc, 青A1rd, 青A1re, 青A1rf, 青A1rg, 青A1rh, 青A1ri, 青A1rj, 青A1rk, 青A1rl, 青A1rm, 青A1rn, 青A1ro, 青A1rp, 青A1rq, 青A1rr, 青A1rs, 青A1rt, 青A1ru, 青A1rv, 青A1rw, 青A1rx, 青A1ry, 青A1rz, 青A1sa, 青A1sb, 青A1sc, 青A1sd, 青A1se, 青A1sf, 青A1sg, 青A1sh, 青A1si, 青A1sj, 青A1sk, 青A1sl, 青A1sm, 青A1sn, 青A1so, 青A1sp, 青A1sq, 青A1sr, 青A1ss, 青A1st, 青A1su, 青A1sv, 青A1sw, 青A1sx, 青A1sy, 青A1sz, 青A1ta, 青A1tb, 青A1tc, 青A1td, 青A1te, 青A1tf, 青A1tg, 青A1th, 青A1ti, 青A1tj, 青A1tk, 青A1tl, 青A1tm, 青A1tn, 青A1to, 青A1tp, 青A1tq, 青A1tr, 青A1ts, 青A1tt, 青A1tu, 青A1tv, 青A1tw, 青A1tx, 青A1ty, 青A1tz, 青A1ua, 青A1ub, 青A1uc, 青A1ud, 青A1ue, 青A1uf, 青A1ug, 青A1uh, 青A1ui, 青A1uj, 青A1uk, 青A1ul, 青A1um, 青A1un, 青A1uo, 青A1up, 青A1uq, 青A1ur, 青A1us, 青A1ut, 青A1uu, 青A1uv, 青A1uw, 青A1ux, 青A1uy, 青A1uz, 青A1va, 青A1vb, 青A1vc, 青A1vd, 青A1ve, 青A1vf, 青A1vg, 青A1vh, 青A1vi, 青A1vj, 青A1vk, 青A1vl, 青A1vm, 青A1vn, 青A1vo, 青A1vp, 青A1vq, 青A1vr, 青A1vs, 青A1vt, 青A1vu, 青A1vv, 青A1vw, 青A1vx, 青A1vy, 青A1vz, 青A1wa, 青A1wb, 青A1wc, 青A1wd, 青A1we, 青A1wf, 青A1wg, 青A1wh, 青A1wi, 青A1wj, 青A1wk, 青A1wl, 青A1wm, 青A1wn, 青A1wo, 青A1wp, 青A1wq, 青A1wr, 青A1ws, 青A1wt, 青A1wu, 青A1wv, 青A1ww, 青A1wx, 青A1wy, 青A1wz, 青A1xa, 青A1xb, 青A1xc, 青A1xd, 青A1xe, 青A1xf, 青A1xg, 青A1xh, 青A1xi, 青A1xj, 青A1xk, 青A1xl, 青A1xm, 青A1xn, 青A1xo, 青A1xp, 青A1xq, 青A1xr, 青A1xs, 青A1xt, 青A1xu, 青A1xv, 青A1xw, 青A1xx, 青A1xy, 青A1xz, 青A1ya, 青A1yb, 青A1yc, 青A1yd, 青A1ye, 青A1yf, 青A1yg, 青A1yh, 青A1yi, 青A1yj, 青A1yk, 青A1yl, 青A1ym, 青A1yn, 青A1yo, 青A1yp, 青A1yq, 青A1yr, 青A1ys, 青A1yt, 青A1yu, 青A1yv, 青A1yw, 青A1yx, 青A1yy, 青A1yz, 青A1za, 青A1zb, 青A1zc, 青A1zd, 青A1ze, 青A1zf, 青A1zg, 青A1zh, 青A1zi, 青A1zj, 青A1zk, 青A1zl, 青A1zm, 青A1zn, 青A1zo, 青A1zp, 青A1zq, 青A1zr, 青A1zs, 青A1zt, 青A1zu, 青A1zv, 青A1zw, 青A1zx, 青A1zy, 青A1zz, 青A1aa, 青A1ab, 青A1ac, 青A1ad, 青A1ae, 青A1af, 青A1ag, 青A1ah, 青A1ai, 青A1aj, 青A1ak, 青A1al, 青A1am, 青A1an, 青A1ao, 青A1ap, 青A1aq, 青A1ar, 青A1as, 青A1at, 青A1au, 青A1av, 青A1aw, 青A1ax, 青A1ay, 青A1az, 青A1ba, 青A1bb, 青A1bc, 青A1bd, 青A1be, 青A1bf, 青A1bg, 青A1bh, 青A1bi, 青A1bj, 青A1bk, 青A1bl, 青A1bm, 青A1bn, 青A1bo, 青A1bp, 青A1bq, 青A1br, 青A1bs, 青A1bt, 青A1bu, 青A1bv, 青A1bw, 青A1bx, 青A1by, 青A1bz, 青A1ca, 青A1cb, 青A1cc, 青A1cd, 青A1ce, 青A1cf, 青A1cg, 青A1ch, 青A1ci, 青A1cj, 青A1ck, 青A1cl, 青A1cm, 青A1cn, 青A1co, 青A1cp, 青A1cq, 青A1cr, 青A1cs, 青A1ct, 青A1cu, 青A1cv, 青A1cw, 青A1cx, 青A1cy, 青A1cz, 青A1da, 青A1db, 青A1dc, 青A1dd, 青A1de, 青A1df, 青A1dg, 青A1dh, 青A1di, 青A1dj, 青A1dk, 青A1dl, 青A1dm, 青A1dn, 青A1do, 青A1dp, 青A1dq, 青A1dr, 青A1ds, 青A1dt, 青A1du, 青A1dv, 青A1dw, 青A1dx, 青A1dy, 青A1dz, 青A1ea, 青A1eb, 青A1ec, 青A1ed, 青A1ee, 青A1ef, 青A1eg, 青A1eh, 青A1ei, 青A1ej, 青A1ek, 青A1el, 青A1em, 青A1en, 青A1eo, 青A1ep, 青A1eq, 青A1er, 青A1es, 青A1et, 青A1eu, 青A1ev, 青A1ew, 青A1ex, 青A1ey, 青A1ez, 青A1fa, 青A1fb, 青A1fc, 青A1fd, 青A1fe, 青A1ff, 青A1fg, 青A1fh, 青A1fi, 青A1fj, 青A1fk, 青A1fl, 青A1fm, 青A1fn, 青A1fo, 青A1fp, 青A1fq, 青A1fr, 青A1fs, 青A1ft, 青A1fu, 青A1fv, 青A1fw, 青A1fx, 青A1fy, 青A1fz, 青A1ga, 青A1gb, 青A1gc, 青A1gd, 青A1ge, 青A1gf, 青A1gg, 青A1gh, 青A1gi, 青A1gj, 青A1gk, 青A1gl, 青A1gm, 青A1gn, 青A1go, 青A1gp, 青A1gq, 青A1gr, 青A1gs, 青A1gt, 青A1gu, 青A1gv, 青A1gw, 青A1gx, 青A1gy, 青A1gz, 青A1ha, 青A1hb, 青A1hc, 青A1hd, 青A1he, 青A1hf, 青A1hg, 青A1hi, 青A1hj, 青A1hk, 青A1hl, 青A1hm, 青A1hn, 青A1ho, 青A1hp, 青A1hq, 青A1hr, 青A1hs, 青A1ht, 青A1hu, 青A1hv, 青A1hw, 青A1hx, 青A1hy, 青A1hz, 青A1ia, 青A1ib, 青A1ic, 青A1id, 青A1ie, 青A1if, 青A1ig, 青A1ih, 青A1ii, 青A1ij, 青A1ik, 青A1il, 青A1im, 青A1in, 青A1io, 青A1ip, 青A1iq, 青A1ir, 青A1is, 青A1it, 青A1iu, 青A1iv, 青A1iw, 青A1ix, 青A1iy, 青A1iz, 青A1ja, 青A1jb, 青A1jc, 青A1jd, 青A1je, 青A1jf, 青A1jg, 青A1jh, 青A1ji, 青A1jj, 青A1jk, 青A1jl, 青A1jm, 青A1jn, 青A1jo, 青A1jp, 青A1jq, 青A1jr, 青A1js, 青A1jt, 青A1ju, 青A1jv, 青A1jw, 青A1jx, 青A1jy, 青A1jz, 青A1ka, 青A1kb, 青A1kc, 青A1kd, 青A1ke, 青A1kf, 青A1kg, 青A1kh, 青A1ki, 青A1kj, 青A1kk, 青A1kl, 青A1km, 青A1kn, 青A1ko, 青A1kp, 青A1kq, 青A1kr, 青A1ks, 青A1kt, 青A1ku, 青A1kv, 青A1kw, 青A1kx, 青A1ky, 青A1kz, 青A1la, 青A1lb, 青A1lc, 青A1ld, 青A1le, 青A1lf, 青A1lg, 青A1lh, 青A1li, 青A1lj, 青A1lk, 青A1ll, 青A1lm, 青A1ln, 青A1lo, 青A1lp, 青A1lq, 青A1lr, 青A1ls, 青A1lt, 青A1lu, 青A1lv, 青A1lw, 青A1lx, 青A1ly, 青A1lz, 青A1ma, 青A1mb, 青A1mc, 青A1md, 青A1me, 青A1mf, 青A1mg, 青A1mh, 青A1mi, 青A1mj, 青A1mk, 青A1ml, 青A1mm, 青A1mn, 青A1mo, 青A1mp, 青A1mq, 青A1mr, 青A1ms, 青A1mt, 青A1mu, 青A1mv, 青A1mw, 青A1mx, 青A1my, 青A1mz, 青A1na, 青A1nb, 青A1nc, 青A1nd, 青A1ne, 青A1nf, 青A1ng, 青A1nh, 青A1ni, 青A1nj, 青A1nk, 青A1nl, 青A1nm, 青A1nn, 青A1no, 青A1np, 青A1nq, 青A1nr, 青A1ns, 青A1nt, 青A1nu, 青A1nv, 青A1nw, 青A1nx, 青A1ny, 青A1nz, 青A1oa, 青A1ob, 青A1oc, 青A1od, 青A1oe, 青A1of, 青A1og, 青A1oh, 青A1oi, 青A1oj, 青A1ok, 青A1ol, 青A1om, 青A1on, 青A1oo, 青A1op, 青A1oq, 青A1or, 青A1os, 青A1ot, 青A1ou, 青A1ov, 青A1ow, 青A1ox, 青A1oy, 青A1oz, 青A1pa, 青A1pb, 青A1pc, 青A1pd, 青A1pe, 青A1pf, 青A1pg, 青A1ph, 青A1pi, 青A1pj, 青A1pk, 青A1pl, 青A1pm, 青A1pn, 青A1po, 青A1pp, 青A1pq, 青A1pr, 青A1ps,		

测点编号	测点区	埋 深 (m)		展 转 方 向	出 土 遗 物	备 考
		埋 口	埋 底			
I P-517	D-4-b	0.8 × 0.69	0.35 × 0.5	0.22	N-27°-E (土 器) (石器等) I A2-1, Ⅱ B5, X A-1	
-518	D-3-c	0.53 × 0.38	0.29 × 0.23	0.44	N-50.5°-E (土 器) (石器等) I A-1, Ⅱ B5	
-519	D-4-a	0.52 × 0.24	0.28 × 0.15	0.3	N-10°-W (土 器) (石器等) Ⅱ B3, Ⅲ B1	
-520	D-3-b	0.48 × 0.38	0.21 × 0.2	0.25	N-32.5°-W (土 器) (石器等)	
-522	E-4-d	-	0.31 × 0.22	0.27	(土 器) (石器等)	
-523	D-3-b	0.43 × 0.29	0.37 × 0.21	0.24	N-52.5°-E (土 器) (石器等) Ⅱ B2	
-524	D-4-a	1.08 × 0.57	0.74 × 0.51	0.44	N-24.5°-E (土 器) (石器等) Ⅱ B3-2, Ⅲ B38	
-525	D-3-e	1.75 × 0.63	0.67 × 0.46	0.47	N-65°-W (土 器) (石器等)	
-526	D-3-c	0.66 × 0.44	0.5 × 0.15	0.49	N-12.5°-W (土 器) (石器等) Ⅱ B12	
-527	D-4-b	0.7 × 0.56	0.31 × 0.49	0.14	N-15°-E (土 器) (石器等) I A-1, Ⅱ B15, Ⅲ B3	
-528	D-4-b	0.78 × 0.63	0.69 × 0.5	0.2	N-69°-W (土 器) (石器等)	
-529	D-4-b	0.35 × 0.3	0.27 × 0.25	0.8	N-0.5°-E (土 器) (石器等) I A-1, Ⅱ B2-1, Ⅲ B6, X A-1	
-530	D-3-c	0.55 × 0.49	0.41 × 0.32	0.3	N-38°-E (土 器) (石器等) Ⅱ B4, X A-1	
-531	D-3-a	0.58 × 0.47	0.25 × 0.22	0.41	N-48°-E (土 器) (石器等) Ⅱ B3-1, Ⅲ B-1, Ⅲ B2	

表5 IF出土遺物一覽

施土番号	出土地区	出土遺物	施土番号	出土地区	出土遺物
IF-1	E-11-a		22	D-6-c	
2	D-9-d		23	E-5-d	
3	D-13-a		24	E-6-a	
4	E-12-a		25	E-6-a	
5	欠番		26	E-6-a	
6	E-5-d		27	E-6-a	
7	E-5-d		28	D-6-c	
8	E-5-a		29	D-4-b	
9	E-7-a		30	D-4-a	
10	E-7-a		31	D-3-c	
11	E-7-d		32	D-3-c	〔石器等〕ⅢB3;1, ⅢB;2
12	E-7-d E-8-a		33	E-6-a	
13	D-7-c		表6 IIF出土遺物一覽		
14	D-7-c		施土番号	出土地区	出土遺物
15	D-8-b		IIF-1	D-13-c	〔土器〕VC;23 〔石器等〕ⅣA-2, ⅣB;9, ⅣB;1
16	D-7-c		2	D-13-c	〔土器〕VC;15 〔石器等〕ⅣA-2, ⅣB;8, ⅣB;3
17	E-6-a		3	D-13-c	
18	E-6-a D-6-b		4	D-13-c	
19	D-6-c		5	D-12-b	〔土器〕VC;198 〔石器等〕ⅣB;7, ⅣB;3
20	D-6-c		6	C-13-a C-13-b	〔土器〕VC;5 〔石器等〕ⅣB;2, ⅣB;10
21	D-6-c		7	C-12-c	
			8	E-14-d	〔土器〕VC;13

地土番号	出土地区	出土遺物			
9	D-13-b D-13-c	(土器) VC:20 (石器等) I A3:2, II B:6, X A:1	30	C-14-b	
10	E-12-d	(土器) VC:32 (石器等) II B:4	31	C-13-c	(土器) VC:1
11	D-13-d	(土器) VC:3 (石器等) II B:2	32	D-13-d	(土器) VC:4 (石器等) 礎:2
12	E-10-d	(石器等) I A3:1	33	D-13-d	(土器) VC:1 (石器等) II B:1, 礎:1
13	D-10-d	(土器) VC:3	34	D-13-a	
14	D-11-a	(土器) VC:8 (石器等) I A3:2, II B:1, X A:1	35	D-14-a	
15	D-11-a		36	D-13-c	(土器) VC:9 (石器等) I A3:2, II B:2, 礎:2
16	C-11-a	(土器) VC:7 (石器等) II B:1, 礎:1	37	D-12-a	(土器) VC:33 (石器等) II B:6, X A:1, 礎:2
17	C-10-d	(土器) VC:10 (石器等) II B:5	38	E-12-d	(土器) VC:38 (石器等) I A3:1
18	C-11-e		39	E-14-d	
19	D-11-d	(土器) VC:4 (石器等) II B:1	40	D-11-a	
20	E-14-d		41	D-11-a	
21	E-13-d	(土器) VC:1 (石器等) II B:1	42	D-11-a	
22	E-13-d	(土器) VC:1	43	E-14-a	(土器) VC:2 (石器等) II B:1
23	D-10-a	(土器) VC:2	44	C-12-c	
24	D-10-a	(土器) VC:1 (石器等) 礎:1	45	D-10-b	
25	D-10-b	(石器等) II B:1	46	C-11-b	
26	D-10-b		47	D-8-d	
27	C-12-b		48	D-8-d	
28	C-12-c				
29	C-11-b				

表7 SP出土遺物一覧表

遺物 番号	出土地区	出土遺物					
		土器	石器	銅器	鉄器	金銀器	その他
SP-1	E-8-d	VC2					
2	E-8-d	VC1	銅1				
3	E-8-d	VC1					
4	D-8-c	VC5			有		
5	D-9-a	VC1			有		
6	D-9-a	VC1	銅B31				
7	D-9-d		銅B1		有		
8	D-9-a				有		
9	C-9-b		銅B31, 銅B1				
10	E-8-d						
11	D-10-a						
12	D-9-d	VC1	銅B31, 銅B1				
13	D-9-a	VC9			有		
14	D-9-a	VC1			有		
15	D-9-a						
16	D-9-d						
17	D-9-d	VC1			有	ペン ガラ	
18	D-9-d	VC1			有		
19	D-9-d		銅B1		有		
20	D-9-d		銅B3		有	ペン ガラ	
21	C-9-b		銅B1				
22	D-9-d						
23	C-9-c						
24	C-9-c						
25	D-9-d						
26	D-9-d	VC28	銅B3		有		
27	D-9-d	VC1	銅B1				
28	C-9-c		銅B1				
29	D-10-a	VC9	銅B3, 銅1		有	ペン ガラ	
30	D-9-d	VC1	銅B1				
SP-31	D-9-d	VC2					
32	D-9-d						
33	D-9-d						
34	D-9-d		銅B3		有	有	
35	D-9-d	VC2					
36	D-9-a		銅B2				
37	D-9-a		銅B1			有	
38	D-9-d		銅B1			有	
39	D-10-a	VC1	銅B31		有		
40	D-9-d						
41	D-10-a	VC2					
42	D-10-a	VC1	銅B31, 銅B13				
43	D-10-a	VC18	銅B1				
44	C-9-b	VC18	銅B6		有		
45	D-9-a	VC14	銅B3		有		
46	D-8-d	VC20			有		
47	C-9-b	VC4	銅B1		有		
48	D-9-d	VC1	銅B31, 銅B1				
49	D-9-d		銅B1				
50	C-9-b	VC1					
51	C-9-b		銅B7				
52	C-9-b		I A1b1				
53	D-9-a	VC6	銅B3		有		
54	D-9-a		銅B3		有		
55	C-9-b	VC13	銅B4		有		
56	D-9-a		銅B31				
57	D-9-a						
58	D-9-a	VC4			有		
59	D-9-a	VC1					
60	D-9-a	VC4					

道 路 番 号	出土地区	山 土 産 物				
		土 器	石 器	等	焼物	其他物
52-61	D-9-a					
62	C-9-e		瓦B3			
63	D-8-d		瓦B4		有	有
64	D-9-a	VC2	瓦B2			
65	C-10-b		瓦B1, 瓦B1			
66	D-8-e	VC2				
67	D-10-a	VC1				
68	D-10-a					
69	D-10-a					
70	D-9-b					
71	D-8-e					
72	C-10-e					
73	D-10-d					
74	C-9-e	VC1				
75	C-10-e	VC2	瓦B5		有	
76	C-10-b	VC2				
77	C-10-e		陶1			
78	D-10-d	VC2	瓦B4			
79	D-10-d	VC2				
80	C-10-e		瓦B1			
81	C-10-b	VC2	瓦B2			
82	C-10-b	VC3	瓦B2		有	
83	E-13-a	VC2			有	
84	E-13-a					
85	E-9-a	VC2				
86	E-9-a	VC3				
87	E-9-a	VC5				
88	E-9-a	VC3				
89	E-9-a					
90	E-9-a	VC6	瓦B2			

道 路 番 号	出土地区	山 土 産 物				
		土 器	石 器	等	焼物	其他物
91-91	D-10-a D-10-b	VC2				
92	D-9-e	VC1				
93	D-9-e	VC1				
94	D-9-e	VC1				
95	D-9-e					
96	E-9-d	VC1				
97	D-9-e					
98	D-9-b	VC3				
99	D-9-e	VC1				
100	D-9-e	VC1				
101	D-9-b	VC1				
102	D-10-a	VC3	瓦B1		有	有
103	D-10-b	VC2				
104	D-10-b	VC1	瓦B1			
105	D-10-b	VC5				
106	D-10-b	VC13			有	
107	D-10-b	VC3			有	
108	D-10-b	VC2				
109	D-10-b	VC2				
110	D-9-e	VC2				
111	D-9-b	VC1				
112	D-12-d					
113	D-10-d	VC1				
114	D-10-b	VC73	陶A13, 瓦B4		有	
115	D-10-b	VC23	瓦B1		有	
116	D-10-b	VC32			有	
117	D-9-a	VC6				
118	D-10-b	VC3	瓦B1			
119	D-10-b	VC2				
120	D-10-b	VC1				

道 標 号	出土地区	出 土 遺 物						道 標 号	出土地区	出 土 遺 物					
		土 器	石 器	等	貨幣	銅貨	その他			土 器	石 器	等	貨幣	銅貨	その他
SP-121	D-10-b	VC12			有			SP-122	E-7-a	VC1	瓦B1				
122	D-10-b	VC2	瓦B2		有			123	E-7-a	VC14			有		
123	D-10-b		瓦B1					124	E-7-a	VC2					
124	D-10-a	VC1						125	E-7-a	VC3	瓦B2		有		
125	D-9-c	VC1						126	E-7-a	VC2	瓦B1				
126	D-12-C E-12-d	VC20	瓦B1		有			127	D-7-d		XA1				
127	D-12-e E-12-d	VC10	瓦B2, XA1		有	有		128	E-7-a	VC10					
128								129	E-7-a	VC4	瓦B2		有		
129								130	D-7-c	VC5	瓦B1		有		
131	D-8-d	VC1						131	E-7-a	VC7	IA31, 瓦B2		有		
132	D-8-d				有			132	D-7-b	VC1			有		
133	C-8-c		瓦B1					133	D-7-c	VC2	瓦B3		有		ペン ガラ
134	C-8-c		瓦B1					134	D-7-c	VC4	瓦B3				
135	C-8-c	VC3			有		ペン ガラ	135	D-7-c	VC4	瓦B5		有		
136	C-8-c	VC1						136	E-7-a						
137	C-8-c	VC2	瓦B1		有			137	D-7-d	VC5	瓦B3		有		
138	D-8-a	VC1	瓦B2					138	D-7-d	VC6	VA12				
139	E-7-a	VC1	瓦B-1, VA21, 瓦B1					139	E-7-d		瓦B2		有		
140	D-7-b	VC1	IA31 NA-1, NA2a1		有	有		140	E-5-d		瓦B4		有	有	ペン ガラ
141	E-8-a	VC5	瓦B-1					141	D-5-b		瓦B31				
142	D-8-a	VC2	瓦B1					142	E-5-d		瓦B1		有	有	
143								143							
144	D-8-a	VC5						144	E-5-d	VC3	瓦B1				
145	D-7-d	VC1						145	E-5-d		XA1, XB1		有		
146	D-7-c	VC5						146	E-5-a E-5-d		瓦B31		有		
147	D-7-b		瓦B2					147	E-5-a		瓦B3		有		
148	D-7-d	VC2	瓦B31					148	E-5-d	VC3	瓦B31, XB1		有		
149	E-7-d		瓦A1					149	E-5-a	VC1	瓦B3		有		
150	E-7-a	VC1	NA-1		有			150	E-8-a		VB1				
151	E-7-d	VC2			有			151	D-5-c	VC2			有	有	

道 路 番 号	出土地区	出 土 遺 物					
		土 器	石 器 等	焼 骨	灰 皿 等	その他	
SP-182	E-5-a		灰B-1				
183	D-4-b	VC42	1 A1a1, 灰B5				
184	D-4-b	VC46					
185	E-4-a	VC4		有			
186	E-4-a	VC7	1 A2a1, 灰B2a1 灰B3a1	有			
187	E-4-a		灰B1	有	有		
188	D-4-c	VC2	灰B3				
189	D-4-c	VC4	1 A3a1	有	有		
190	D-4-a	VC11	灰A-1 灰B3a1, 灰B1				
191	E-4-a		灰B1		有		
192	E-4-a		灰B4, 1 A1		有		
193	D-4-b			有	有		
194	D-4-c		灰B1	有	有		
195	D-4-c	VC2					
196	D-4-b	VC1					
197	D-4-b		灰B1	有			
198	D-3-d	VC3		有	有		
199	D-3-d	VC4		有			
200	D-2-c				有		
201	D-2-c	VC1	灰B3				
202	D-2-c	VC5			有		
203	D-4-c		焼1	有	有		
204	D-4-b	VC4	灰B2	有			
205	D-4-b		灰B1				
206	D-4-b		灰B1, 焼1				
207	D-3-b		焼1				
208	D-3-b	VC11	灰B3a1 灰B5, 1 A1	有	有		
209	D-4-b				有		
210	D-3-b	VC3					
211	D-3-c		灰B2				
SP-212	D-4-a	VC3	灰B3		有		
213	D-3-a	VC4			有		
214	D-3-a	VC4					
215	D-3-b	VC2			有		
216	D-3-a		灰B5				
217	D-3-c		1 A1		有		
218	D-3-b	VC3			有		
219	D-3-b	VC15	灰B4		有		
220	D-4-b	VC3	灰B1		有		
221	D-3-c	VC7	1 A1a1, 灰B3a1 灰B3, 1 A1	有	有		
222	D-3-c	VC2	灰B3				
223	D-4-c	VC3			有		
224	D-4-b	VC2			有		
225	D-4-a					有	
226	E-3-a	VC3					
227	D-4-b	VC5	灰B1, 焼4				
228	D-4-d	VC2				有	
229	D-3-d	VC2				有	

通するものと思われる。2つの焼土跡からは遺物は出土していない。

2) 遺物

i 土器

本遺跡出土の縄文晩期の土器を整理するにあたって、土器の部分の名称および器形の名称については甲野勇氏の見解³¹を、土器の分類に関しては当センターの従来の分類を基本とし、新たに細分を行った³²。

器形については、深鉢と浅鉢の中間にある大きさのもの(縦全長と最大幅の比がほぼ1対1)を鉢とし、新たに付け加えた。浅鉢は、大小があるので、一応口径 cm 以上のものを大型浅鉢以下のものは小型浅鉢と呼ぶことにした。舟形土器は、鉢が特殊化したもので舟形鉢というべきものかもしれないが古くから使われている名称なので、これによった。舟形土器は、鷹野光行氏が述べているように、「上から見た口縁部の形が楕円形又は太い紡錘形をなしており横から見た時に口縁部の両端がはね上がった形で、舟というと舳先と櫓の部分が明瞭に認められる鉢形の器形のもの」をさす³³。

土器の部分の名称については、在地系土器³⁴の深鉢、鉢、浅鉢は、頸部がはっきりしていないものが多いが、基本的には口縁部、胴部、底部の名を使用する。壺、舟形土器および亀ヶ岡系土器に関してはこの限りではない。

文様の名称については、図版45を参照されたい。そのなかで、説明を要するものについてだけ簡単にふれておくことにする。

円弧文とは、沈線による括弧状の文様をさす。下地には平行沈線、刻線、縄線が施文されている例が多い。鋸歯文は、鋸の歯状の沈線文で、頂点が鋭角に尖る。その施文は、単に沈線をジグザク状に連続させているのではなく、逆八の字形の文様を交互に近接させたものである。蛇行沈線文は、東となった数条の波状沈線が口縁から垂直に付されるもので、その波頭はやや鋭く尖がる。

山形沈線文は、口縁に平行に山形の連続する沈線がめぐるので、頂部と谷底の高低差が曲線文に比べて低いものである。

弧線文は、弧が連続せず、互い違いに向い合うもの。

曲線文は弧線が連続して波形になすもので、山形沈線文とは異なり、波頭が尖らない。

土器の分類について

本遺跡における層位の事実、文様の変遷および他の遺跡の土器群との比較から、以下のよう
に分類した。分類の根拠についてはまとめの項を参照していただきたい。分類するにあたって、そのメルクマールとしたモチーフは主に深鉢を対象としている。なお、I群、II群土器は、Ta-c層より下層のII黒層から、III～V群はその上層のI黒層から出土している。

- | | | |
|-----------------------------------|---|------|
| I群……縄線文を主体とする土器群 | } | II黒層 |
| II群……円弧文・鋸歯文を主体とする土器群 | | |
| III群……平行沈線文を主体とし、格子目文をメクマールとする土器群 | } | I黒層 |
| VI群……平行沈線文を主体とし、蛇行沈線文をメクマールとする土器群 | | |
| V群……弧線文・曲線文を主とする土器群 | | |

I群（図 128-1・2、9-11、18・19、21-47、図版 23、24）

縄線文・刺突文・刻線文・S字文・爪形文・条痕文などの文様をもつ土器であるが、それらのなかでは、口縁に平行して数条の縄線がめぐるもの（以下縄線文土器という）が主体を占める。

縄線文土器は、縄文地に長い懸糸を口縁に沿って押圧して施文したもので、縄線のみによって構成されるものが多く、稀に刺突文と組み合わせる例もある。

深鉢・鉢・浅鉢などの器種で構成され、壺・舟型土器は伴わない。深鉢・鉢の底部の形は不明であるが、大型浅鉢は平底・小型浅鉢のそれは丸底にちかい。浅鉢は、すでに大型・小型の両者が揃っている。口唇断面の形態は、深鉢・鉢・浅鉢とも平形が多く、明瞭な切り出し形をなすものは少ない。口唇の外縁に刻みをもつ例が多く、口唇上に縄線文をもつものは少ない。前者は、深鉢・浅鉢に多く、後者は鉢に限られる。深鉢・鉢の胴部は、ややふくらむがII群の深鉢（図 127-3）のように胴部のふくらみが口径より大きく張り出すものはない。深鉢・鉢・浅鉢の胴部に施文される縄文はRLが多い。

刺突文は鉢に多く用いられ、半截竹管状の施文具の切先を器面に対して斜めに突くかあるいは押しつけて施文されている。丸棒状の施文具による例はない。

刻線文が施文されている土器は、鉢が主で口縁部がやや屈曲し、肩部をもつ。口縁部には、無文帯を残し、その部分に横走する先の尖った細い棒状の工具による細い刻線が施される。口唇の形態は前例とは異り、切り出し形をなすものかほとんどである。口唇上に縄文圧痕の例がある。

亀が岡系土器は、極めて少ないが、雲形文をもつ壺（39）の破片と思われるものと、条痕文をもつ胴部破片（38）がある。条痕文土器は、桃内貝塚・高砂遺跡出土の土器群に類著に認められる類である。

深鉢（図 128-1・2、21-25）

縄線文の施文されたものが多数を占める。胴部は、ややふくらむが胴部最大径が口径より大きくなる例はない。なかには、1と23のように口縁直下がやや屈曲する例がある。縄線文が施文される口縁部に磨消帯をもつ例（22）あるいは、口唇上に縄文が施文される例（1・24）などがある。また、25のように無文の例もある。14は、半截竹管状の施文具で半歯状文の文様を描出しているもので、I群のなかでは古い文様要素をもつものである。

鉢（図 128-9・26-37、40-43）

鉢は、口縁部がゆるやかに立ち上がるもの(29~31・40~43)とくの字形に屈曲するもの(9・26~28・27~37)とがある。前者には、刺突文の施される例(29~31)、縄線文をもつ例(40~43)がある。40は口縁に山形突起をもち、突起に2個一対の円形刺突文の施された貼付帯が縦に付けられている。31は刺突文の施された例で口唇上に「ハの字」の刻みをもつ。後者には、9・26~28のように特異な器形をもつものもある。9は、鉢の復元された唯一例で胴部に丸味をもつたもので、底は揚底をなす。屈曲した口縁部に、半截竹管状の施文具で2条一対の平行沈線を上下にひき、その間に弧線を互い違いに描いている。この器形に似たものに26~28がある。26~28は、同一個体で口縁部と頸部が明瞭に分化する唯一の例である。頸部に2段の沈線で縁どった磨消帯をもち、その上段に偏平なS字文を連続させた文様を施す。なお、32・33に施文された刻線は、断面観がU字形をなすのに対して、34・35のそれはV字形である。36の刻線は、条痕にちかい。37は、口唇上に縄線がめぐられる唯一の例で、胴部の縄文は縦走する。

浅鉢(図128-19・20、44~47)

浅鉢は、大型と小型のものがある。前者(19、20)は、いずれも平底で、口縁に山形突起を作らせ、口唇直下に爪形文が施される。後者(44~47)は、底部が張り出す例はなく丸底にちかい。ほとんどの胴体が口縁に数条の縄線がめぐられる(45・46・47)。45・46は、底部にそれぞれ縄線文、刺突文が施文されている。44は、縦走する縄文のみで縄線文の浅鉢と異なって底部がややすぼむ。10は、揚底になる。11は、平底の無文土器である。

II群(図128-3~8、14~18、48~110、図版25~28)

本群は、口縁直下に横走する平行沈線・刻線あるいは縄線と括弧状の文様(以下円弧文)あるいは逆八字状の文様(以下鋸歯文)などが組み合わさった文様をもつ土器である。鋸歯文・格子目文は、円弧文の抽象化したものとして把握することができることから、円弧文を本群に特徴づけるモチーフとした。円弧文は、括弧状の文様が単独で施文される例は少なく、ほとんどが平行沈線および刻線と組み合わせる。

なお、平行沈線文をもつ土器は極く少量である。また、I群の縄線文は主たる文様ではなくなり、下地の文様として残るのみとなる。

円弧文・鋸歯文などは、例外なく口縁部に横走する平行沈線・刻線あるいは縄線を施文してから括弧状・逆八字状の文様が描かれている。平行沈線は、半截竹管状の、刻線は、櫛歯状の施文具で施文される。

主な器種はI群と同様、深鉢・鉢・浅鉢で、壺が少量見られること、大型の浅鉢が増えていることなどが異なる。口唇断面の形態は、切り出し形が多くなる。

深鉢は、胴部のふくらみが口径より大きくなり、口縁が内反する例が顕著になる。口縁に冠状あるいは山形の突起をもつ例が多くなる。深鉢の口縁・胴部に磨消帯あるいは無文帯をもつものが多くなり、その帯の両側には必ず刺突文がめぐらされる。底は、平底になる。鉢は、くの字に屈曲するものではなくゆるやかに立ち上がる例がほとんどである。

浅鉢は、小型のものに文様をもつものが多く、大型には文様が施行される例は極めて少ない。Ⅲ群土器のように、大型浅鉢の口縁裏側に文様が施文される例は全くない。大型浅鉢の底部は、丸底になるものと尖底に近いものがある。後者には屈曲部が張り出す例が多い。小型の浅鉢は、丸底で張り出すものはない。

壺は、わずか2後体でいずれも頸部の屈曲がはっきりしな例である。

亀ヶ岡系土器は、浅鉢と壺のみで深鉢・鉢は出土していない。

深鉢 (図 128-3-8、14、48-69)

深鉢は、口縁が内反するもの (3・8・48・49・53・58・62)、斜めに立ち上がるもの (50・54・57・59・63-68)、ほぼ真直ぐに立ち上がるもの (4・7) とがある。これらのうち、4・6・7・51・55・64・66・68 が磨消帯をもつ。指頭によって施文されている。5 は、無文帯を残した例である。66・68 は、指頭によって円弧状の文様を描いている。

深鉢の口縁部の下地になる文様は、刻線文 (51・63・64・66・68)、縄線文 (54・58・60・68) 以外は、平行沈線である。63 は、刻線による V 字形の文様が施された稀な例で、この文様帯の下位に山形沈線がひかれる。同種の例は、52 にも見られる。48・56・64 は、口唇上に縄線文がめぐる。67・69 は、平行沈線のみのものである。65 は、円弧の間に短い波形沈線が垂れる唯一の例で、Ⅳ群に多出する蛇行沈線文を考えるうえで重要な資料である。また 14 は平行沈線の上に短い沈線を縦に重ねて格子目状の文様 (以下格子目文と呼ぶ) を描いた例でⅢ群の格子目文のものとなる。

鉢 (図 128-70-81)

胴部は屈曲するものではなく、斜めに立ち上がるものが大部分を占める。それらには、口唇直下がくびれるもの (71-75・78・80・81) と口縁がやや内反するもの (76・77・79) とがある。71 は、口縁から胴部にかけて指頭による磨消帯をもつ。72-76 は、渦巻状、円弧状の文様が、単独で施文されている例である。72・74 は口唇上に縄線、75 は、ボタン状突起に渦巻状の縄線が施文される。地文の縄文のみの鉢は、やや大型のものが多く。

浅鉢 (図 128-15-18、82-110)

大型の浅鉢には、平底のもの (18・84・86・88・90・92・94・96・100) とやや尖底のもの (15-17・85・87・89・91・93・101) とがある。後者には屈曲部がやや張り出す例 (87・89・91・93・95・101) がある。大型の浅鉢の器表面には、文様はほとんど施文されないが、口唇上に縄線文がめぐられるもの (18・19・95・97・98・99・102) が多い。82・83 は、文様が施文される例で前者は磨消帯と刺突文が組み合わさったもの、後者は沈線によって曲線が描かれたものである。口縁につけられる突起は、山形 (82-85・91・93・96・97・100) とボタン状のもの (83・101・102) とがある。

小型の浅鉢は、平底のもの (103・106・110) が多く、丸底・尖底は少ない。103・104 は、円弧状の文様を作り出したもの、105 は、V 字形の文様に刻点を加えたものである。107・108 には、平行沈線文が施される。96 は、吊耳状の把手が胴部に貼り付けられたものである。102 には、

ボタン状突起に馬蹄形の縄圧痕が施され、その下に2個一対の丸い孔を作出している。

壺(図128-111、112)

2個体しか出土していない。112には、肩の張り出しがない。115は、胴部が「く」字に屈曲する。いずれも、沈線による文様が施されている。

亀ヶ岡系土器(図128-12、13、113、114)

器種は、壺と浅鉢しか出土していない。壺は、頸部がく字に屈曲するもの(13)と長頸になるもの(113、114)とがある。12は、浅鉢で底を欠く。胴部から底部にかけて連携入組文が施文されている。

Ⅲ群土器(図129-1~20、43~139 表版29~33)

本群は、Ⅱ群土器の主体を占めていた円弧文が消滅し、わずかに鋸歯文が残るのみとなる。

また、Ⅱ群土器では下記の文様として残っていた縄線文もなくなり、稀に、浅鉢の裏面に施されるのみとなる。これらの文様に代って、口縁直下に数条の平行沈線のみがめぐる土器(以下平行沈線土器という)が主体を占める。その他に少量ではあるが平行沈線の上に数条を単位とした短い平行沈線または波状沈線を縦に重ねる文様(典型的には図128-1参照)が新たに出現する。この格子目状の文様(これも格子目文に含める)は、Ⅳ群土器を考えるうえで重要なモチーフとなる。なお、磨消帯は残るが、主に平行沈線間にはさまれる例が多い。また、平行沈線文には、刺突文が組み合わさる例が少量ある。

平行沈線土器の沈線は、ほとんどが半截竹管状の施文具によって引かれたもので、沈線の間には必ず「まくれ」が残っているのが特徴である。その点は亀ヶ岡系土器の沈線と好対照をなす。

器種は、深鉢、鉢、浅鉢によって構成され、Ⅱ群土器と変わらないが、ただ鉢に吊耳の用途をもつと思われる2個一対の孔をもつ例が新たに加わる。口唇の形態は、切り出し形が大半であるがその先端が折れ曲がるものが顕著になる。

深鉢は、口縁から胴部にかけてふくらむ例が少くなり、口縁が外反する例あるいは斜めに反り立つ例が多くなる。深鉢の口縁部に指頭による磨消帯をもつ例が少量あるが、Ⅱ群の深鉢のように入組んだ磨消帯をもつものはない。口縁が内反する例は主に平行沈線と縦に走る波状沈線の組み合わせた文様に見られる。鉢は、口縁がく字型に屈曲する例と斜めに真直ぐ立つ例とがある。縄文地のみのが圧倒的に多い。浅鉢は、大型のものが多く、小型は少ない。両者とも器表面に文様が施文される例は全くない。大型の浅鉢は、口縁にM型の突起を作出し、口縁の裏側に沈線あるいは縄線によって様々な文様を描き出すことが多い。Ⅱ群で見られるようなボタン状の突起はない。

深鉢(図129-1~5、9、10、20、43~91)

鋸歯文あるいは平行沈線に縦に走る波状沈線を重ねる深鉢(43~53)は、口唇直下がくびれる例(45~47、49~53)、ふくらむ例(43、44、48)がある。この深鉢の口唇には、刻みをもつ

のが大半で、46~50、52は縄文圧痕、45は指頭による押圧痕である。

平行沈線文をもつ深鉢(54~83)は、口縁がややふくらむ例(54~60、72、77)とくびれる例(61~71、73~76、78~83)とがある。口唇の刻みは、いずれも縄文圧痕が圧倒的に多い。67は、指頭による押圧痕である。平行沈線文と刺突文が組み合わさる例(77~79)は、少ない。88は、断面が凸部になっているので、竹管状の施文具で施文されたものと思われる。それ以外は丸棒状の施文具である。磨消帯をもつ例(72~76)は、沈線と沈線の間を指頭によってひいたものである。75は、波形の沈線に沿ってひいている稀な例である。なお、10、91~93は、波形の沈線を施した例で、その数は少ない。10、81、82は、丸棒状の施文具をコンパスのように左右すに動しながら施文されたものと思われる。

縄文地のみの深鉢(84~91)は、口唇直下がくびれる器形が多い。口唇の形態は、切り出し形が多い。少量、平形の例もある(84、85)。口唇に刻みをもつ例は少ない。86、87は、指頭による押圧、90は縄文圧痕である。

鉢(図129-6~8・12~14、92~114)

鉢は、口唇縁部が屈曲するもの(98・99・106)と屈曲しないものがある。前者のうち、98は口縁部に2条の縄線文がめぐる稀な例である。後者には、口縁に向き合った2個の山形突起の真下1.5cm前後に径5mmの孔をもつ特殊な例(107~1714)がある。6が、その典型的な例である。この突起をもつ鉢には、刻みをもつ例は少ない。

浅鉢(図129-11・15~19、115~139)

浅鉢は、大型のものが大部分で、小型のものは少ない。底部は、復元された例がないため不明な部分が多いが、IV群の復元された浅鉢を参考にする、平底(129、137、138)、丸底(120、124、130、133)尖底(127、139)などが揃っている。大型の浅鉢は、底の形態にかかわらず、口縁の裏側に沈線による幾何学的な文様(115~119、121、122)、縄線による文様(120、123、125、126)などが施文される。また、両者にはM型突起が口縁に作出される例がほとんどある。口縁の裏側に文様の施されない例(129~139)には、主に山形突起が作出される。なお、124は、突起の下に把手状の貼瘤がある。127は、無文で、指頭による数条の磨消帯を口縁から底部にかけて作出している。

亀ヶ岡系土器(図129-140~169)

亀ヶ岡系土器は、注口土器、台付鉢以外の器種はすべて揃っている。結節沈線を主とする文様が多く、いわゆる工字文風の文様を描き出している例は少ない。結節沈線あるいは工字文風の文様を描く沈線は、在地系土器に施文される沈線と変らない。それらの土器は、亀ヶ岡系土器を模倣してつくられた可能性がある。その意味では、類大洞系土器と呼んだほうがよいのかもしれない。152は、頸部に工字文がつくりだされる例で、胎土、文様の施文方法において、極めて大洞A式土器に近い。鉢の154~156・158~159、壺の166~169に描かれている文様は、菱形文・曲線文のものになるもので、152よりは新しい要素をもっている。

IV群土器 (図 130-1~58、図版 34~36)

本群は、土器塚出土の土器群によって代表される。その主要なモチーフは、鉾行沈線文であるが、III群の主体をなす平行沈線文は引き続き見られる。その他に、少量、鋸歯文 (ただし下地の平行沈線・刺線はない) などがある。これらの文様は、半截竹管状の施文具を用いて描かれ、まくれを残している点は、III群と変わらない。器種は、III群の組成を受けつぎ、新たに舟形土器が加わる。しかし、その量は少ない。さらに、大型の浅鉢は、III群のそれより減少する。口唇の形態は、切り出し形をなすが多い。

深鉢は、胴部にふくらみをもつものかIII群より多くなる。底部は、平底あるいは丸底にちかいたものと思われる。口唇の形態は、断面観が尖る例が顕著になる。鉢は、口縁が屈曲するものではなく、大部分はほぼ直立する例である。山形突起の下に2個1対の孔のある鉢はない。浅鉢は丸底平底、尖底それぞれある。大型浅鉢には、丸底、尖底、小型浅鉢には平底が作出される。口唇は、切り出し形の例が多いが、少量平形のものもある。

深鉢 (図 130-1~3、11~47)

平行波状沈線文をもつ例 (11~28) は、口縁がふくらむもの (11、12、19、26、28)、外反するもの (13、14、20~25、27) とがある。17、18、19は逆八字形の文様を器面に数か所割りつけた後その間を平行沈線でうめている。20、21は、同一個体で、口縁部に幅の広い無文帯をもつ。無文帯の上半に4条の平行沈線、下半に縦走する波形の沈線が間隔をおいて施文される。上半の平行沈線は途中で山形沈線に変わる。平行波状沈線と刺突文が組み合わさる例 (1、2、11、14、21) がある。1、21は、半截竹管状の施文具で施文したと思われるが、11、14は、突いた跡が凸形になるので竹管状の施文具であろう。

平行施線文をもつ例 (29~46) は、口縁部がふくらむ例 (41~43、45)、外反する例 (29~35、37~40、43、46)、くの字に屈曲する例 (36、44) がある。口唇の形態は、大部分切り出し形であるが、31、39のように平形になる例もある。また稀に断面観が尖るもの (35) もある。口縁に山形突起をもつ例 (36、41) は少ない。

平行沈線文をもつ例のうち、31は、口縁に山形の貼付帯のうえに円形刺突を施したもので、その線に沿って沈線がひかれる。36、38、40、46は、刺突文と組み合わせた例で、38、40は、突いた跡がU形、36、46は凸形をなす。

鋸歯状の文様をもつ例 (3) は極めて少ない。3は2条1対の平行沈線の間にV字状の文様を連続させたもので、沈線は細く鋭い。

縄文地のみ例 (47、48) はいずれも外反する。48の胴部の縄文は鋸歯状になる。

鉢 (図 130-49~54)

平行沈線をもつ例 (49~51) と縄文地のみ例 (52~54) とがある。いずれも口縁部が外反する。前者の口唇は、断面観が丸味をもち、後者は切り出し形をなす。49は、口縁直下に刺突文がめぐる。刺突痕はU字形をなすので、丸棒状の施文具によるものと思われる。

浅鉢 (図 130-4、6、8、9、55~58)

浅鉢は、小型のもの（4、6）大形のもの（8、9、55～58）とがある。いずれも器表面に文様は施文されない。大型のものは、55、57、58のように口縁の裏面に文様が施される。58は、短い波形の沈線を並列させている例でⅢ群ではなかった文様である。

舟形土器（図130～10）

磨消帯によって口縁と胴部を分化させている。口縁部にはV字形の文様を近接させて波形沈線状の文様を施している。舳先の下に丸い孔が作出される。

V群土器（図129～170～250、図129～77～87、図版38～42）

本群は、Ⅳ群の虹行沈線文から変化したと思われる環状の文様になる例が少量残るが、大部分、弧線文を主体とする土器群である。その他に、曲線文、燃糸押印文、条痕文、綾結文、条痕文などがあるが、その数は、少ない。

器種は、深鉢、鉢、台付鉢、浅鉢、舟形土器によって構成される。深鉢が少くなり、舟形土器が隆盛する。新たに台付鉢が出現する。またⅢ群、Ⅳ群で顕著に見られた大型の浅鉢が極端に少くなる。なお、深鉢、浅鉢には口縁部に磨消帯をもつものはない。

本群は、全体に器厚が厚くなり、口唇の形態は切り出し形が極端に少くなり、平形が大部分を占める。深鉢は、口縁がやや内側に反りかえるものがほとんどで、口縁が極端に外反する例は極めて少ない。底部の形態は、不明である。口唇の上に指頭による押圧痕が作出される例が多くなる。口縁に突起が作出される例は減少する。鉢は、胴部がくの字に屈曲するものと胴部がくびれ、張り出すものとがある。口唇の形態は、へりに丸味をもつ平形が圧倒的に多い。底部は丸底になるものと平底になる例がある。浅鉢は、大型、小型を問わず、器表面に文様が施文される例が大部分で、口縁の裏面に文様が施されるものはない。底部は、丸底が多く、平底は少ない。口唇の形態は、へりに丸味をもつ平形が多い。舟形土器は、磨消帯によって口縁と胴部が分化される例がほとんどである。少量、磨消帯をもたないものもある。底部は、大部分丸底で、稀に平底がある。口唇は、丸味をもつ形態のものが多い。

深鉢（図129～22、23、170～190）

Ⅳ群の虹行沈線文の流れを汲む文様をもったもの（22、170～179）は、口縁がやや内側に反る例が多い。その口唇の形態は平形が多い。口縁は、平縁が多く、突起をもつ例（22、170）は少ない。171は、平行沈線と区画を設けた縦に走る沈線とが結びつき環状の文様になる。典型的には、173の口縁に描かれた文様になる。173は、一条の曲線の周曲部に弧線を描き、そのうえに4条を一単位とした短い沈線を重ねた文様を描き出している。

鋸歯文をもった例（178、179）は、少ない。178は、3条の短い沈線を一単位としてジグザグ状の文様を描き出している。口唇には、指頭による押圧痕が作出される。

曲線と弧線が組み合わさる例（180～182、184～190）は、口縁がやや内側に反るものが多い。稀に、186のように外反する例もある。口縁は平縁が多いが180、186のように山形突起をもつ例もある。口唇は、切り出し形が多い。187のように、断面視が尖がるものもある。これらの深

鉢は、1～2条の平行沈線によって区画を設け、その間に1条の曲線が描かれる。その曲線の周曲部に弧線を組み入れる。弧線は、弧を描くもの(180、184) 直線に近いもの(185)とがある。なお、183は、地文に条紋をもつものである。

鉢(図129～191～204)

鉢は、曲線文をもつ例は少ない(200、201、203)。これらには、直線と弧線とが組み合わせられた半月あるいは三日月状の文様が、曲線の周曲部に描かれる。

弧線文をもつ例(191～194、198)は、平行沈線間に弧線を互い違いに描いている。191は、弧が角張って三角形状になる。198は、弧線の代りにV字形の文様を描く。鋸歯文の流れを汲むものと思われる。なお、204は、V字形の沈線を連続させてジグザグ状の文様を描いている。鋸歯の間に交互に短沈線をいわれている。26も似たような手法を用いている。

台付鉢(図129～27、28、202、205)

口縁がほぼ直立し、胴部に張り出すもの(27、202)と斜めに直線的に上がるもの(28、205)とがある。27、28、202は、平行沈線間にはさまる2条の平行する曲線文が施行される。202は、胴部に磨消帯をもち底部にゆるやかな弧線文を描く。磨消帯直下に結節沈線をもつ稀な例である。

浅鉢(図129、207～213)

浅鉢は、丸底になるもの(206～209)、平底になる例(213、214)とがある。曲線文をもつ例はなく、弧線文を描く例(206、213)、菱形文(207)、変形工字文くずれの文様が描かれるもの(210～212)がある。215は、環状の沈線のなかに撫糸押瓦文を組み入れたものである。

注) 1. 甲野勇『縄文土器の謎』学生社 昭和28年

2. 細分に当たっての基本骨格は、大沼忠春氏の編年試案によっている。

3. 藤本 強、小林達雄編『縄文文化の研究』I 雄山閣 昭和57年

4. 北海道教育委員会、『美沢川流域群の遺跡』III 昭和55年

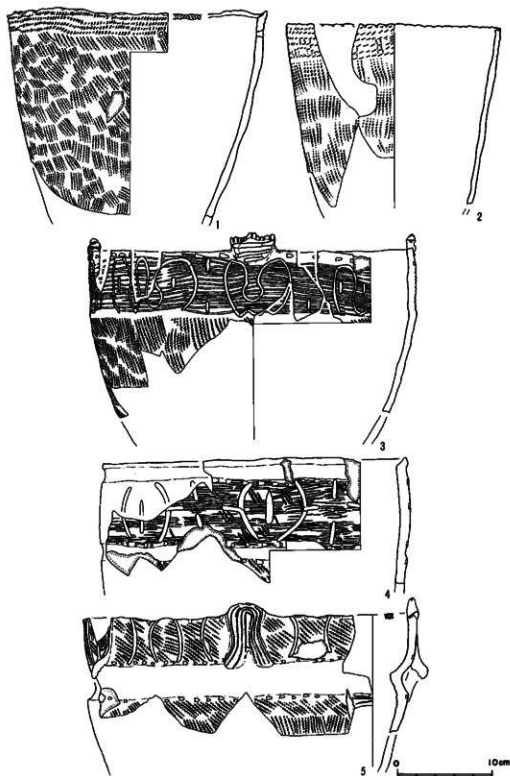


図128-1 II黒層出土の土器

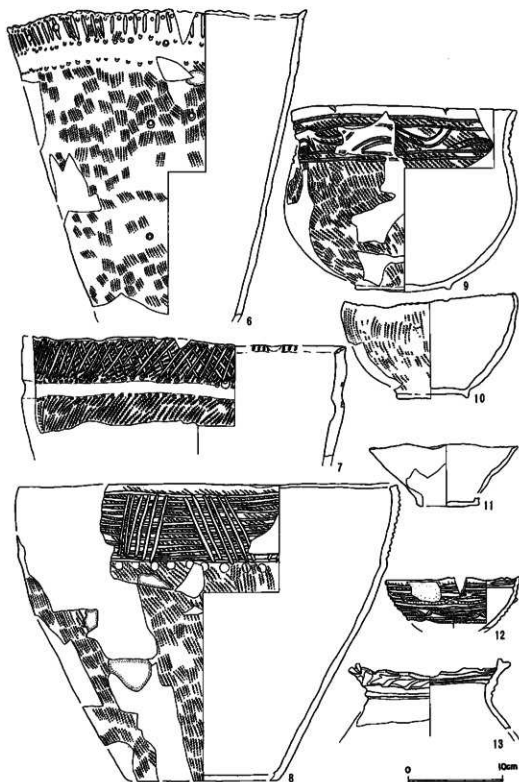


図128-2 II黒層出土の土器

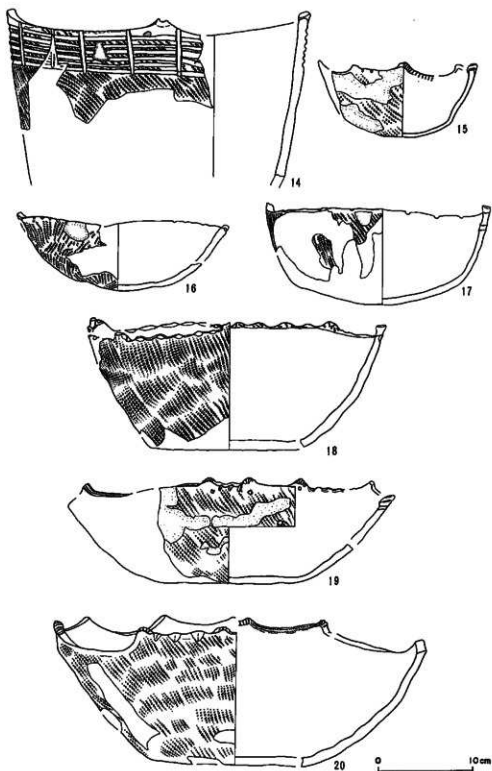


図126-3 II黒層出土の土器

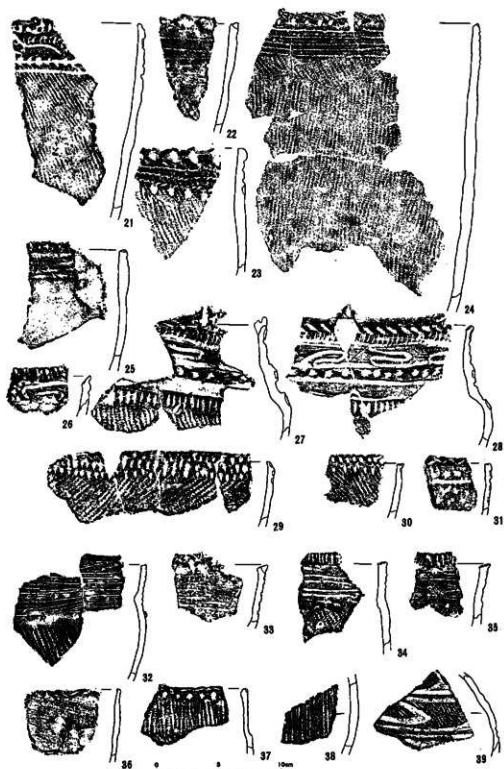


図128-4 II黒層出土の土器

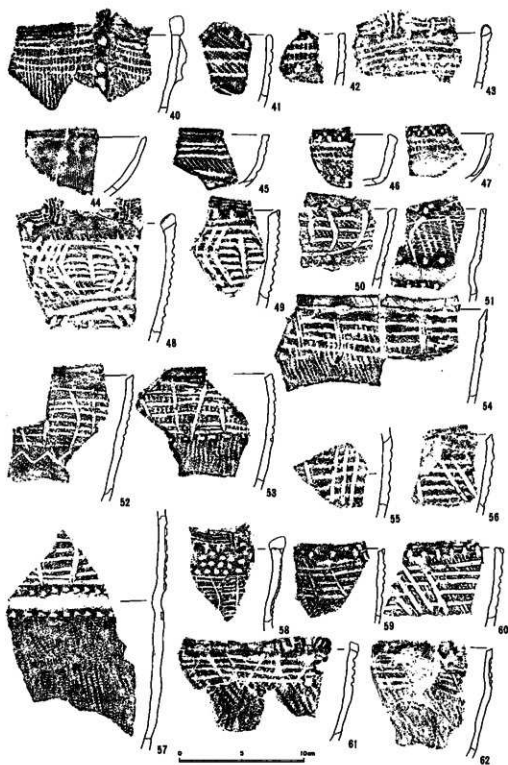


図128-5 II黒層出土の土器

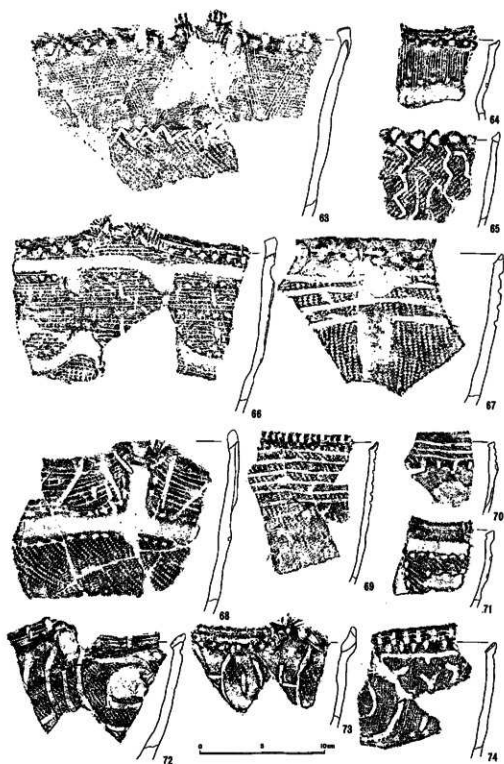


図128-6 II黒層出土の土器

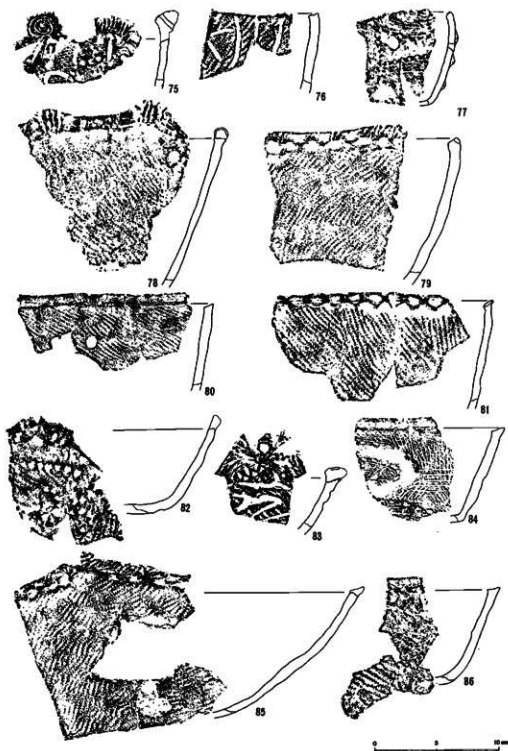


図128-7 II黒層出土の土器

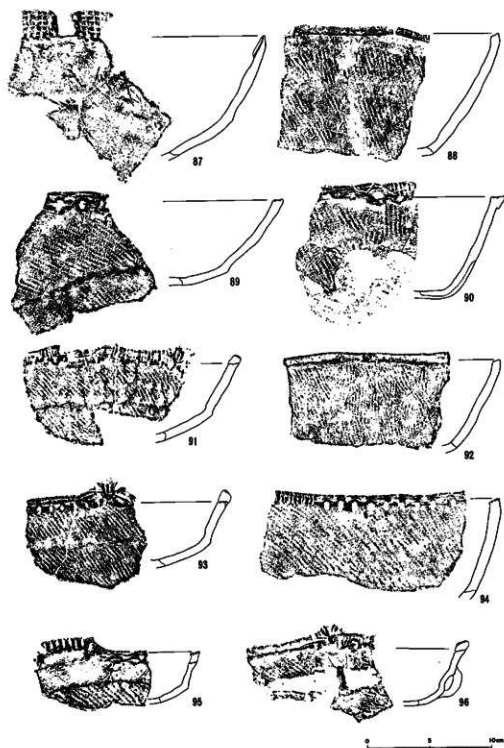


図128-8 II黒層出土の土器

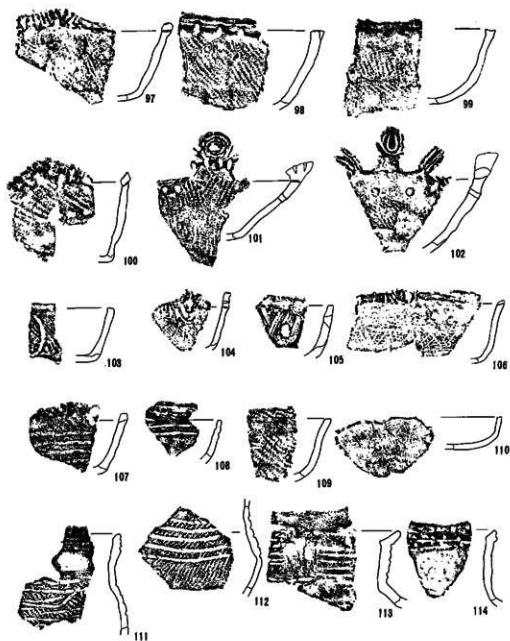


図128-9 II黒層出土の土器

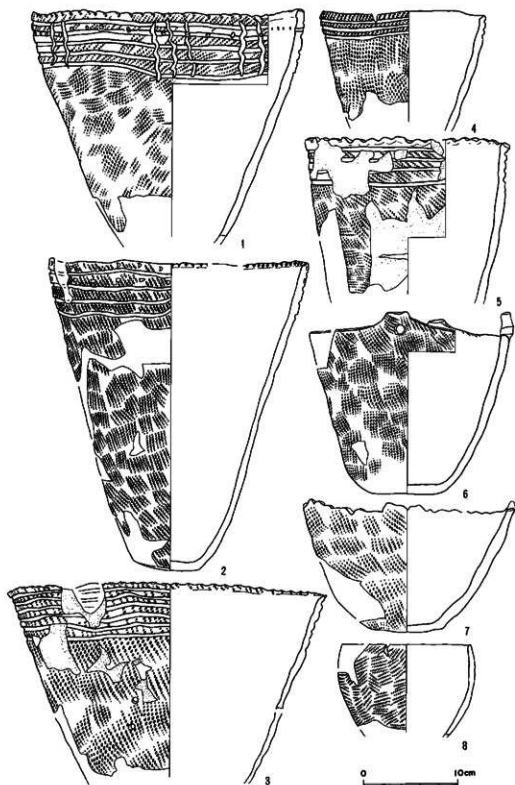


図129-1 I 黒層出土の土器

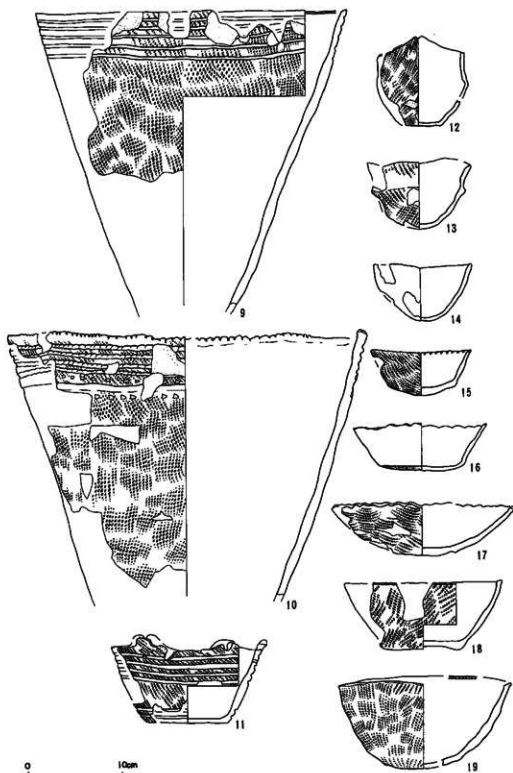


図129-2 I 黒層出土の土器

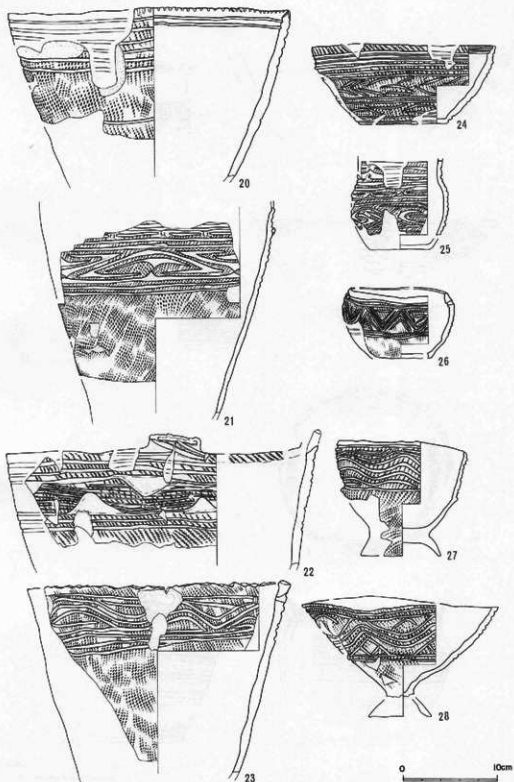


図129-3 I 黒層出土の土器

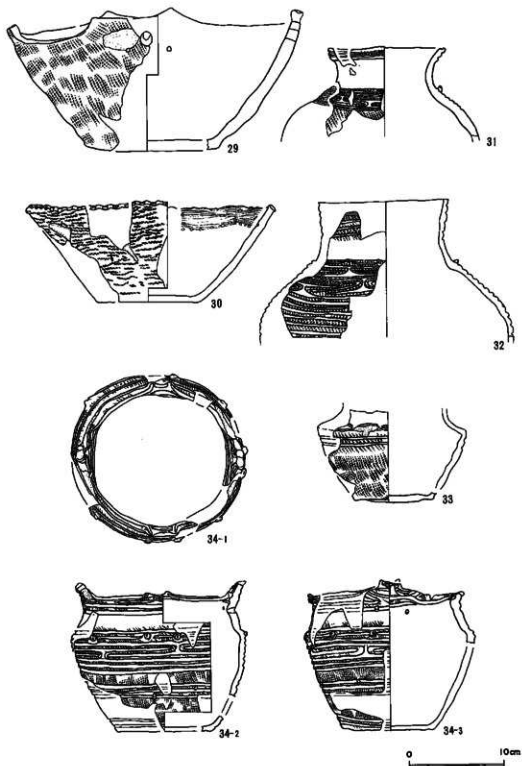


図129-4 I 黒層出土の土器

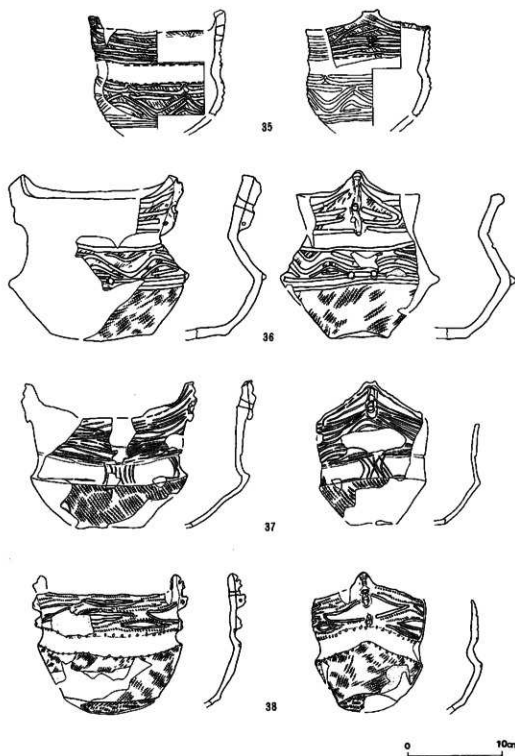
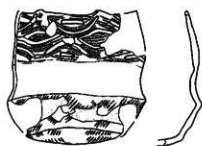


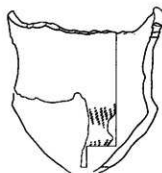
図129-5 I 黒層出土の土器



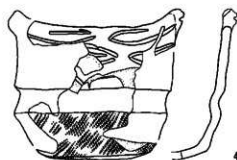
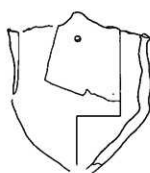
39



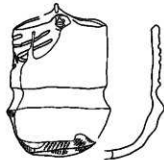
40



41



42



0 10cm

図129-6 I 黒層出土の土器

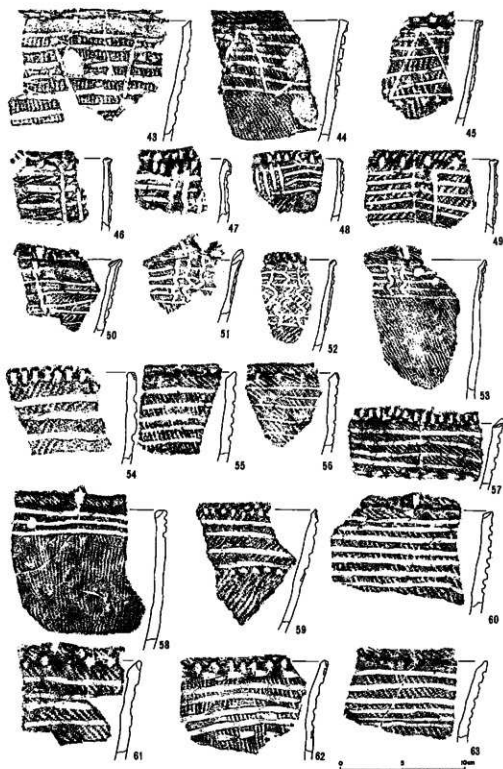


図129-7 I 黒層出土の土器

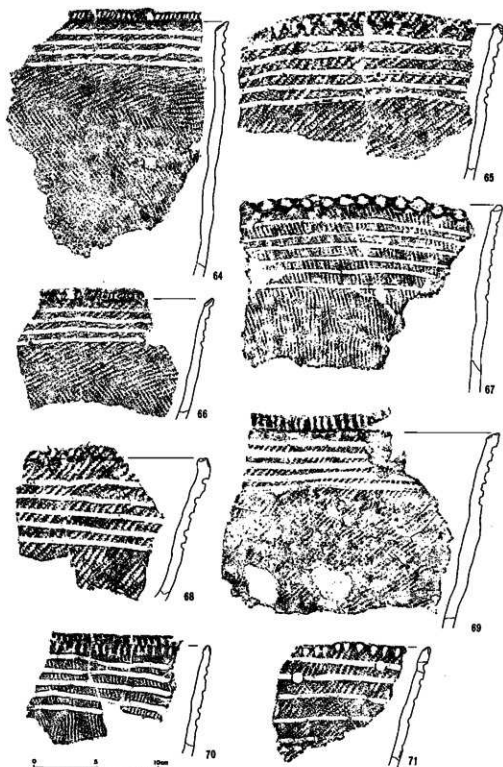


図129-8 I 黒層出土の土器

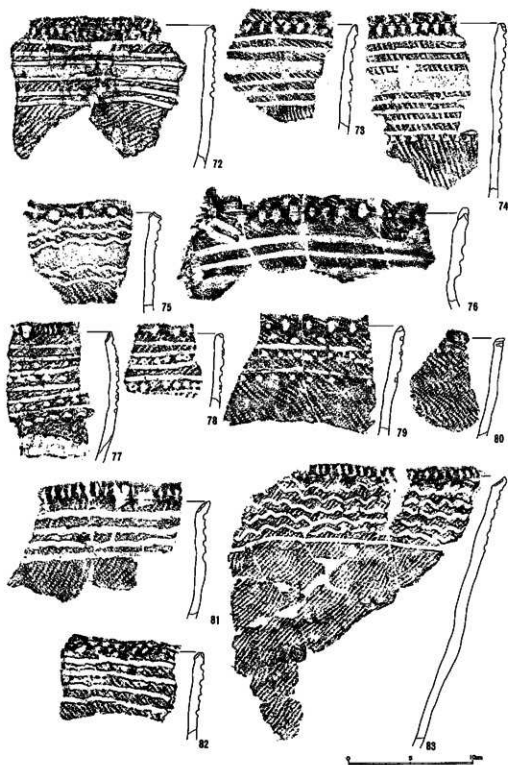


図129-9 I 層出土の土器

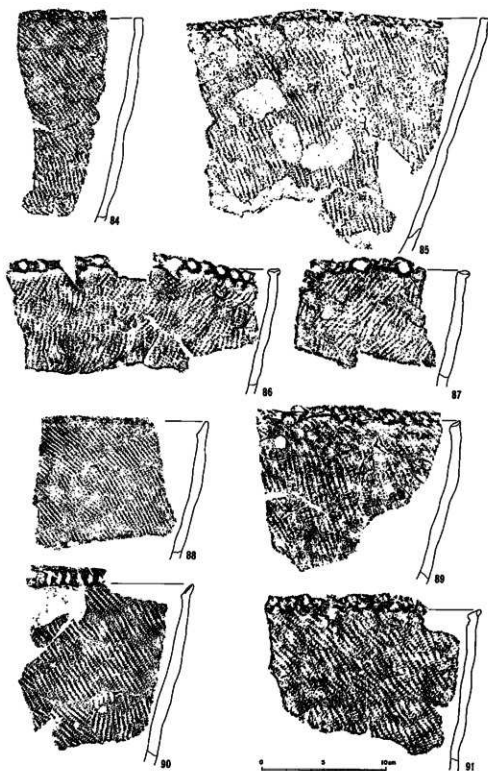


図129-10 I 黒層出土の土器

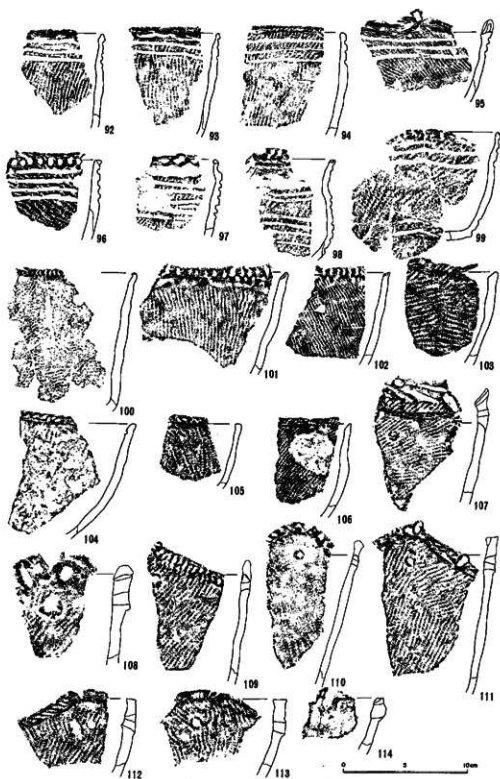


圖129-11 I 黒層出土の土器

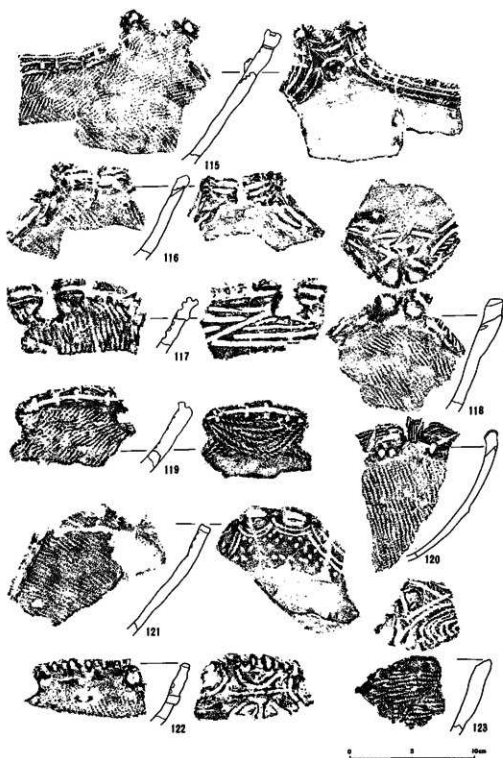


図129-12 I 黒層出土の土器

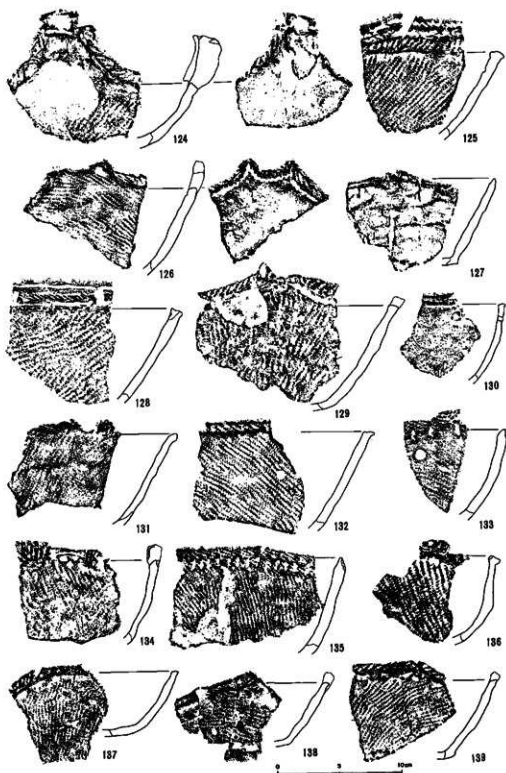


図129-13 I 層出土の土器

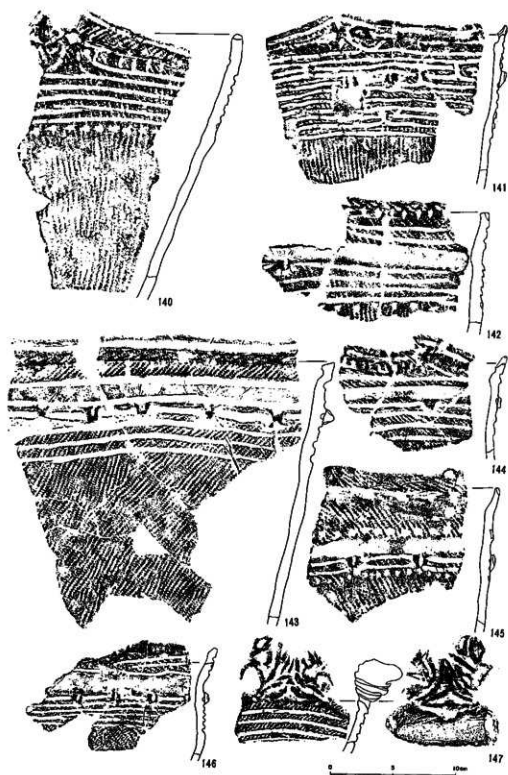


図129-14 【黒層出土の土器】

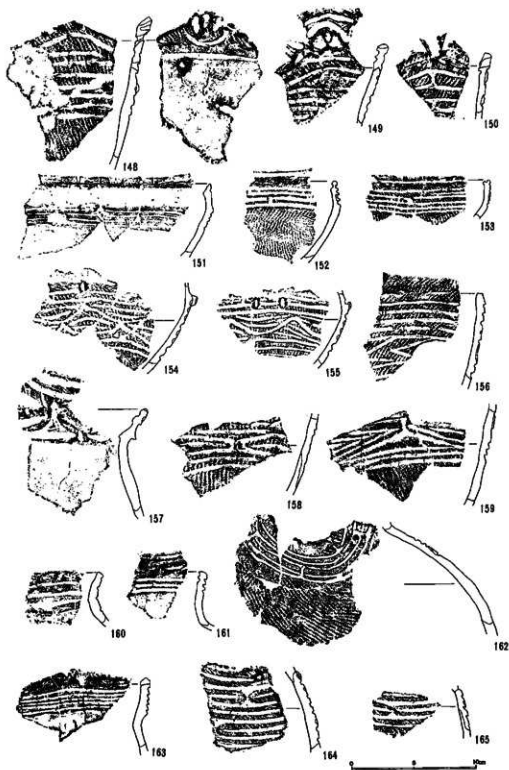


図129-15 I 黒層出土の土器

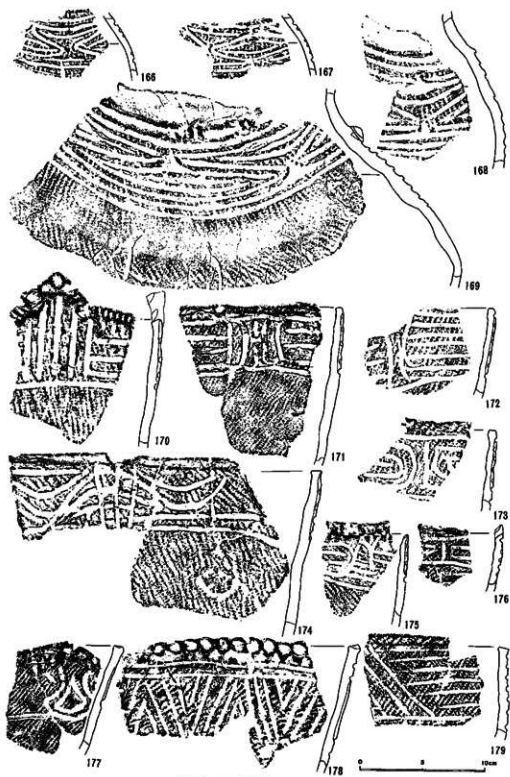


図129-16 I 黒層出土の土器

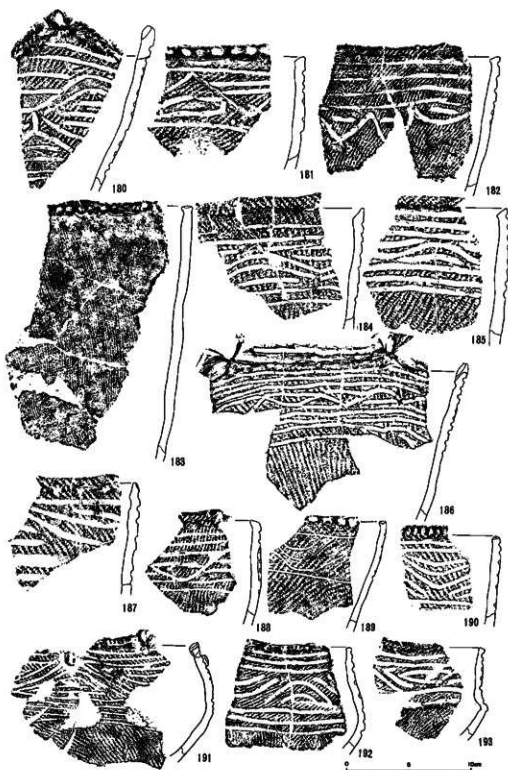


図129-17 I 黒層出土の土器

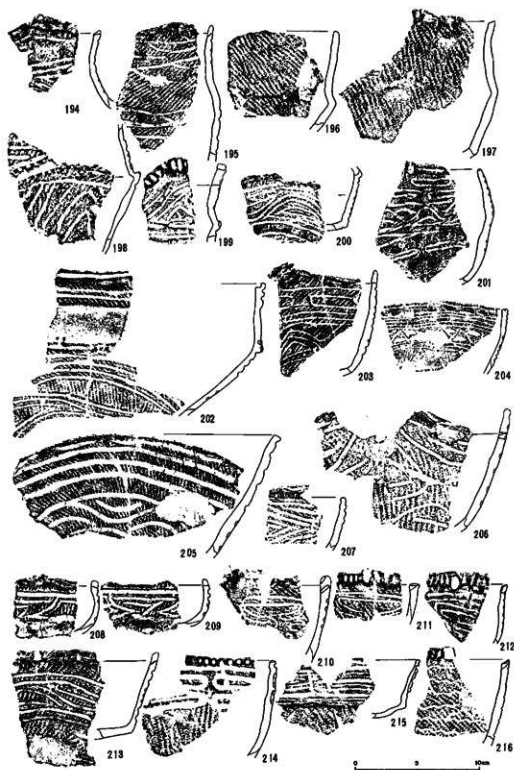


図129-18 I 黒層出土の土器

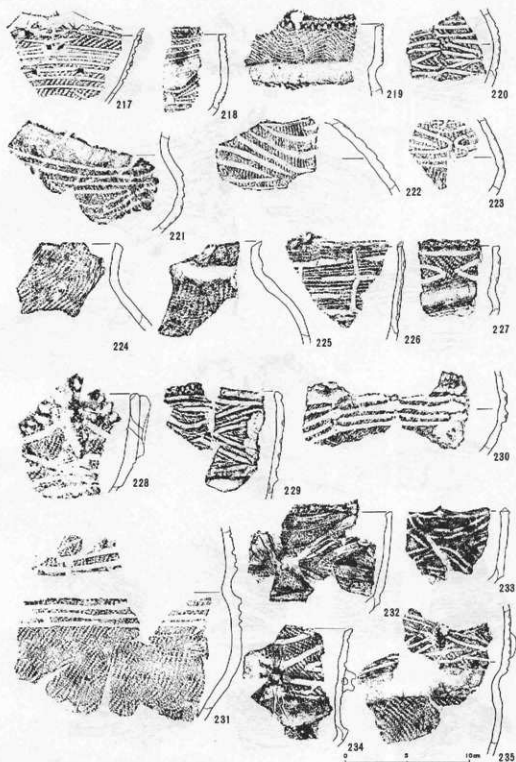


図129-19 I 黒層出土の土器

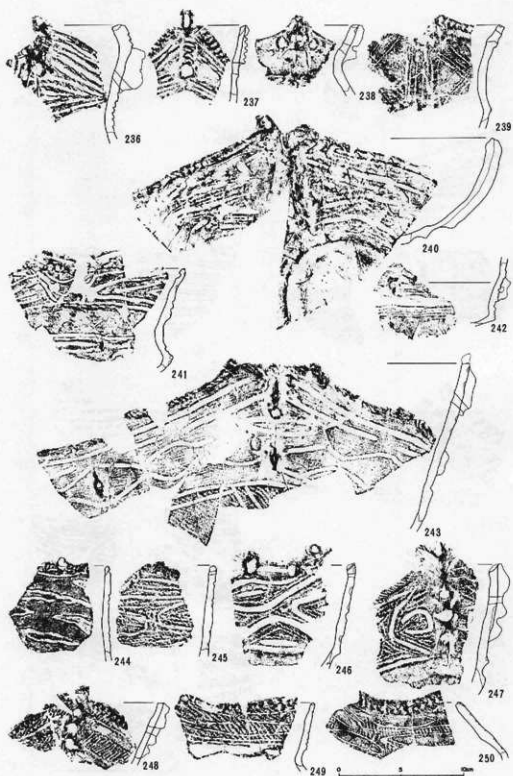


图129-20 I 黑层出土的土器

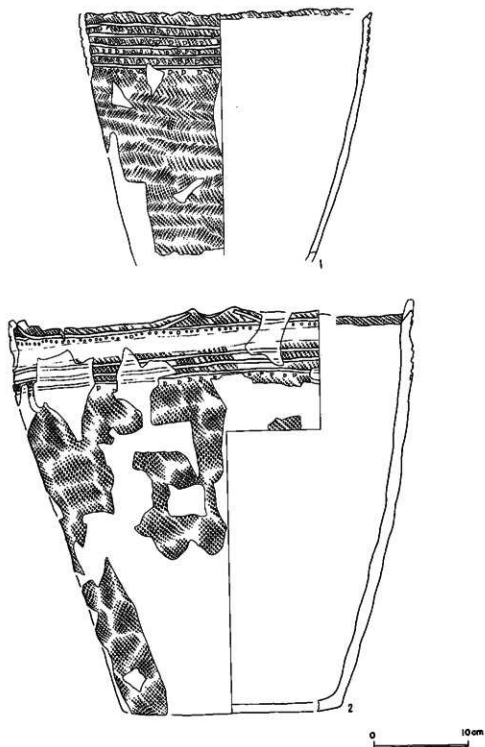


図130-1 土器塚出土の土器

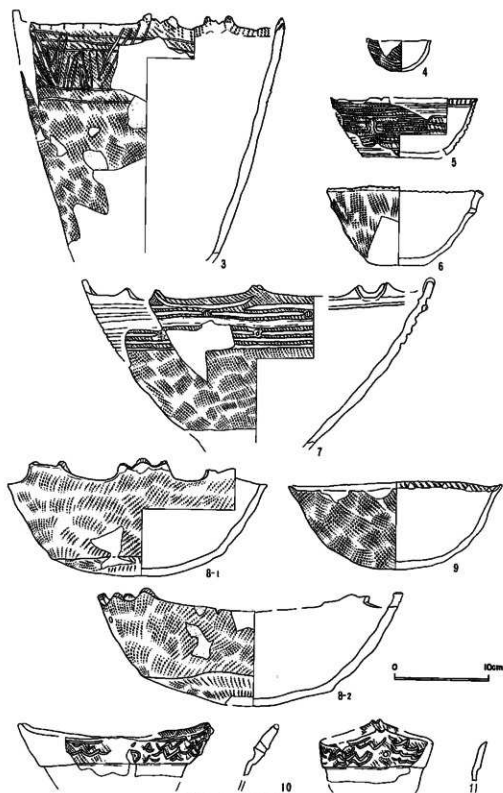


図130-2 土器塚出土の土器

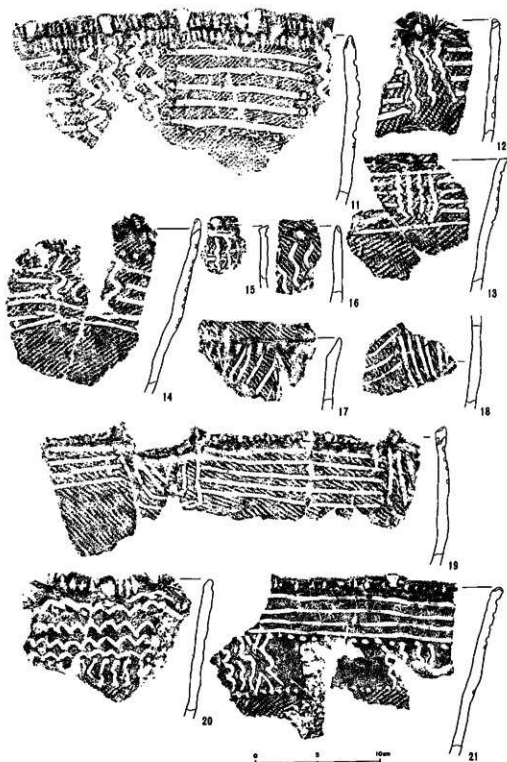


図130-3 土器塚出土の土器

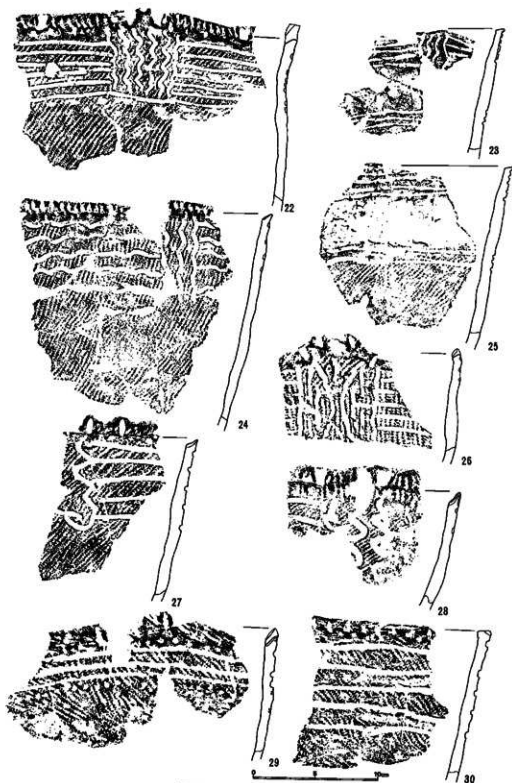


図130-4 土器塚出土の土器

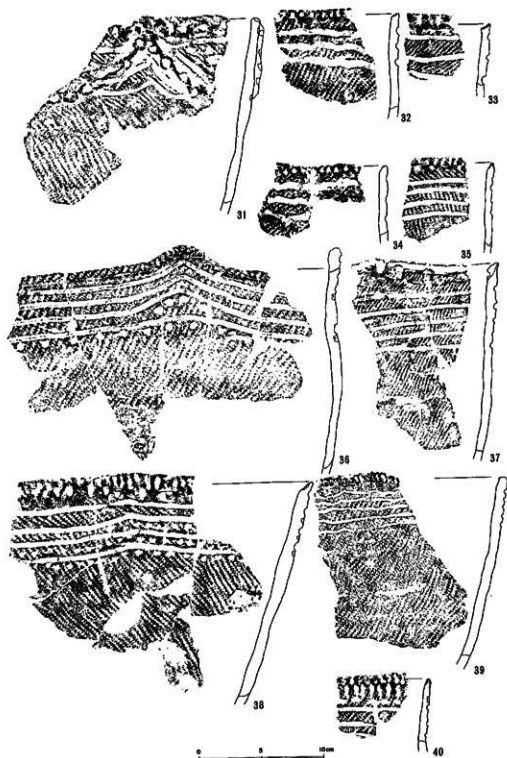


図130-5 土器塚出土の土器

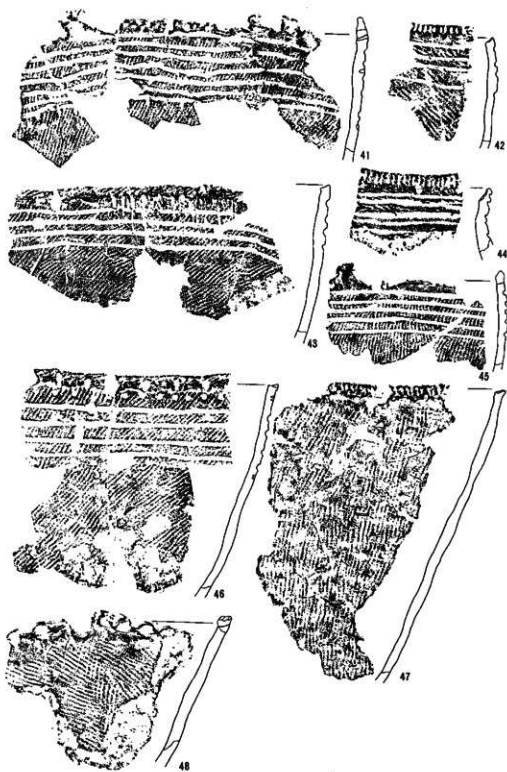


図130-6 土器塚出土の土器

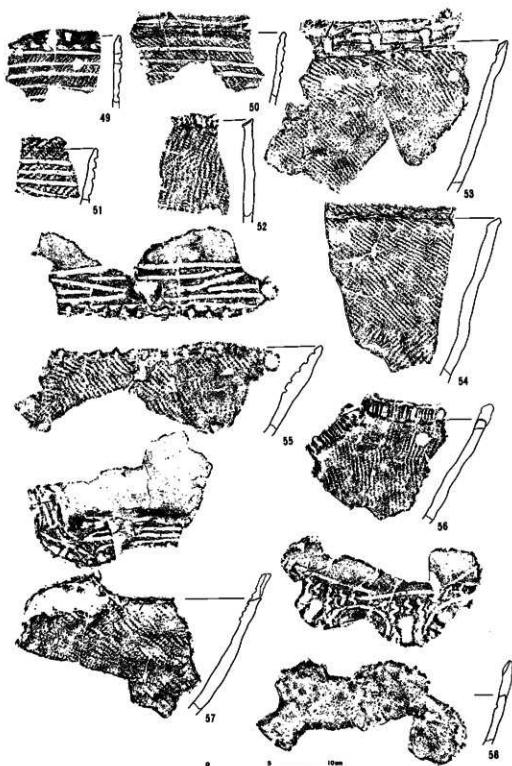


図130-7 土器塚出土の土器

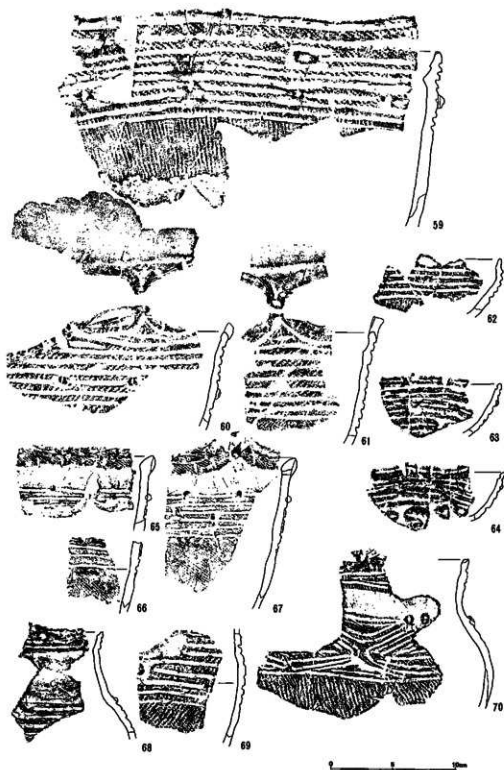


図130-8 土器出土の土器

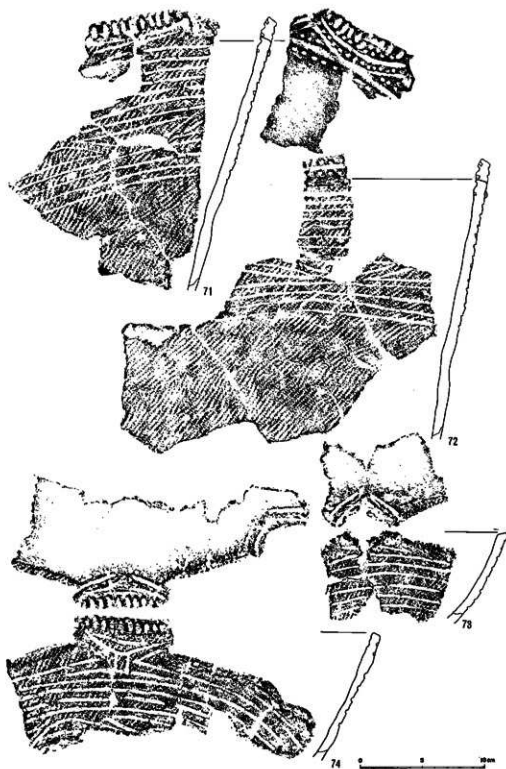


図130-9 土器塚出土の土器

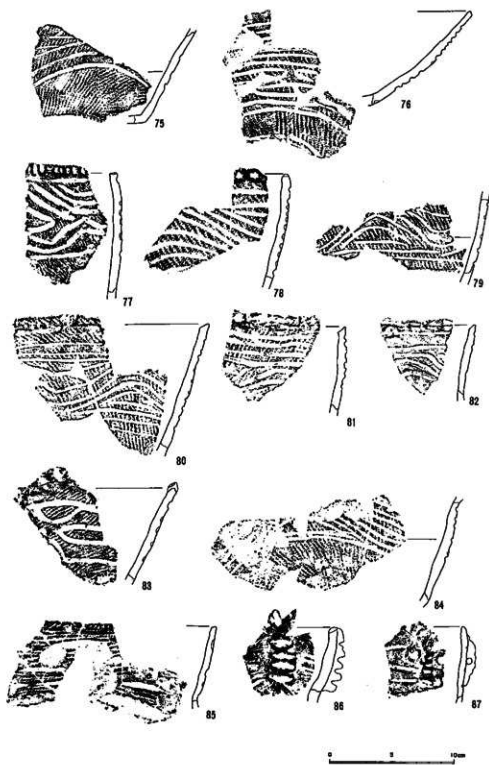


図130-10 土器塚出土の土器

表8 II 黒層出土の土器

番号	器種	発掘区	遺構名	番号	器種	発掘区	遺構名	番号	器種	発掘区	遺構名
1	深鉢	D-13-c	II P-46	39	壺	D-11-a	-	77	鉢	E-11-d	-
2	#	C-9-a	-	40	鉢	D-13-b	-	78	#	D-13-d	II P-119
3	#	D-12-c	-	41	#	D-14-c	-	79	#	C-11-b	II P-56
4	#	E-13-d	-	42	#	E-14-d	-	80	#	E-11-d	II P-147
5	#	D-10-d	-	43	#	D-10-b	-	81	#	D-12-c	-
6	#	C-11-b	-	44	浅鉢	E-14-d	-	82	浅鉢	D-11-a	II P-133
7	#	D-13-c	II P-119	45	#	D-12-a	-	83	#	D-10-d	-
8	#	D-12-b	II P-75	46	#	C-10-d	-	84	#	D-15-b	-
9	鉢	D-13-d	II P-98	47	#	C-10-d	-	85	#	-	-
10	#	D-13-d	-	48	深鉢	D-14-c	-	86	#	-	-
11	浅鉢	C-12-c	-	49	#	E-14-d	-	87	#	E-13-d	-
12	#	D-13-a	II P-119	50	#	D-10-d	-	88	#	D-13-b	-
13	壺	C-11-b	-	51	#	C-10-d	-	89	#	E-14-d	-
14	深鉢	C-10-c	-	52	#	C-13-c	-	90	#	E-14-a	II P-18
15	浅鉢	D-11-d	II P-135	53	#	D-11-a	II P-133	91	#	E-11-a	II P-128
16	#	D-14-c	-	54	#	C-13-c	II P-14	92	#	D-13-c	-
17	#	D-11-a	II P-133	55	#	表鏡	-	93	#	D-10-c	-
18	#	C-13-c	-	56	#	C-13-c	II P-23	94	#	D-12-c	II P-52
19	#	D-13-d	II P-27	57	#	D-11-a	-	95	#	E-13-a	-
20	#	C-11-c	-	58	#	D-13-a	-	96	#	E-11-a	II P-128
21	深鉢	D-12-a	II P-59	59	#	-	-	97	#	E-12-a	II F-38
22	#	D-13-c	-	60	#	E-10-d	-	98	#	E-11-d	-
23	#	D-13-d	II P-27	61	#	E-12-d	II P-50	99	#	E-12-a	II F-38
24	#	D-13-c	II P-16	62	#	D-14-c	-	100	#	D-12-b	-
25	#	D-14-b	II P-9	63	#	C-11-c	-	101	#	E-12-a	II F-38
26	鉢	D-12-d	-	64	#	E-10-d	-	102	#	C-11-a	II F-16
27	#	D-14-a	-	65	#	E-10-d	-	103	#	E-14-a	-
28	#	D-13-a	-	66	#	E-13-a	-	104	#	E-11-a	II P-128
29	#	D-14-c	-	67	#	D-12-b	II P-61	105	#	C-11-a	-
30	#	D-9-b	-	68	#	D-13-d	II P-119	106	#	E-13-d	II P-28
31	#	D-13-a	-	69	#	C-9-c	-	107	#	E-5-a	-
32	#	D-14-c	-	70	#	D-14-b	-	108	#	D-14-c	-
33	#	D-9-b	-	71	#	C-10-d	-	109	#	D-11-a	-
34	#	E-13-d	II P-20	72	#	D-14-c	-	110	#	E-12-a	II F-38
35	#	D-13-c	II P-26	73	#	E-13-d	II P-4	111	壺	C-9-c	-
36	#	D-13-a	-	74	#	D-10-b	-	112	#	C-9-d	-
37	#	D-14-c	-	75	鉢	D-14-a	II P-10	113	#	D-10-c	-
38	#	D-10-c	-	76	#	D-10-c	-	114	#	E-14-d	-

表9 I 黒層出土の土器(1)

番号	器種	発掘区	遺構名	番号	器種	発掘区	遺構名	番号	器種	発掘区	遺構名
1	深鉢	D-3-d	I P-474	46	深鉢	E-4-a	-	91	#	E-7-a	I P-344
2	#	D-8-c	I P-10	47	#	D-4-b	-	92	鉢	D-3-c	-
3	#	C-8-d	I P-318	48	#	E-3-d	-	93	#	D-3-c	-
4	#	D-8-c	I P-10	49	#	D-3-a	-	94	#	E-8-d	-
5	#	E-6-a	I P-415	50	#	E-5-d	-	95	#	D-6-c	-
6	鉢	D-8-c	I P-59	51	#	E-4-d	I P-512	96	#	D-4-a	-
7	#	D-9-b	I P-212	52	#	E-6-a	-	97	#	C-3-c	-
8	#	D-9-c	I P-153	53	#	D-3-c	-	98	#	D-11-a	-
9	深鉢	D-9-b	I P-213	54	#	D-3-b	-	99	#	D-8-c	-
10	#	C-13-b	-	55	#	D-11-c	-	100	#	D-12-a	-
11	浅鉢	D-12-d	-	56	#	D-3-a	-	101	#	D-4-a	I P-472
12	鉢	E-5-a	I P-420	57	#	E-12-a	I P-113	102	#	D-4-a	I P-472
13	#	E-9-a	I P-1	58	#	D-8-c	I P-10	103	#	E-4-d	I P-512
14	浅鉢	D-12-d	-	59	#	D-3-b	-	104	#	D-3-d	-
15	#	E-6-a	-	60	#	D-9-c	I P-201	105	#	D-9-b	I P-214
16	#	E-8-d	I P-13	61	#	D-14-a	I P-158	106	#	D-3-b	-
17	#	D-9-d	I P-2	62	#	D-3-d	-	107	#	E-9-a	I P-1
18	#	D-12-d	-	63	#	C-8-d	-	108	#	D-3-b	-
19	#	E-10-a	I P-232	64	#	D-3-b	I P-502	109	#	D-8-c	I P-420
20	深鉢	D-3-a	-	65	#	D-3-b	-	110	#	D-6-b	-
21	#	E-13-a	I P-251	66	#	D-3-b	-	111	#	D-4-d	I P-473
22	#	D-3-b	-	67	#	E-6-a	-	112	#	D-9-c	I P-150
23	#	D-9-b	I P-213	68	#	D-3-b	-	113	#	D-10-d	-
24	鉢	C-8-d	-	69	#	D-4-a	I P-466	114	#	C-9-c	I P-34
25	#	D-3-c	-	70	#	D-9-c	-	115	浅鉢	D-12-c	-
26	#	D-6-b	-	71	#	D-3-b	-	116	#	E-6-a	-
27	台付鉢	D-11-b	-	72	#	D-3-b	-	117	#	C-10-c	-
28	#	E-7-d	I P-339	73	#	C-13-b	-	118	#	D-12-d	-
29	浅鉢	D-9-c	I P-223	74	#	E-6-a	I P-444	119	#	D-3-d	-
30	#	D-8-a	I P-19	75	#	D-3-b	-	120	#	E-14-d	I P-206
31	壺	C-12-c	-	76	#	D-3-a	-	121	#	E-13-a	-
32	#	D-12-b	I P-106	77	#	D-6	I P-432	122	#	D-10-b	-
33	#	D-8-c	I P-4	78	#	D-3-a	-	123	#	D-6-b	-
34	身彩土器	D-3-a	-	79	#	D-12-b	-	124	#	C-8-a	-
35	#	E-6-a	I P-444	80	#		-	125	#	D-4-a	-
36	#	D-4-b	I P-529	81	#	D-3-a	-	126	#	D-3-b	-
37	#	D-9-b	I P-213	82	#		-	127	#	D-9-c	I P-201
38	#	D-4-a	-	83	#	D-12-d	-	128	#	D-5-c	-
39	#	D-8-c	-	84	#	D-8-d	I P-79	129	#	D-3	I P-494
40	#	E-6-a	-	85	#	D-10-b	I P-233	130	#	D-3-b	-
41	#	D-14-b	I P-127	86	#	D-4-c	I P-223	131	#	D-8	-
42	#	D-11-b	-	87	#	D-9-c	I P-201	132	#	D-3-b	-
43	深鉢	D-3-b	-	88	#	D-3	-	133	#	D-3-a	-
44	#	D-3-d	I P-467	89	#	D-4-b	I P-478	134	#	C-11-b	I P-197
45	#	D-12-a	-	90	#	D-3-b	-	135	#	E-9-a	I P-215

I 黒層出土の土器(2)

番号	器種	発掘区	遺構名	番号	器種	発掘区	遺構名	番号	器種	発掘区	遺構名
136	浅鉢	E-14-d	I P-209	175	#	.		213	#	E-5-a	-
137	#	D-3-a	-	176	#	E-6-a	-	214	#	D-6-c	I P-455
138	#	C-12-b	I P-178	177	#	D-6-d	I P-99	215	#	D-4-a	-
139	#	D-6-b	-	178	#	D-9-a	I P-67	216	#	E-6-b	-
140	深鉢	D-5-c	I P-423	179	#	E-7-a	I P-337	217	#	E-12-d	-
141	#	D-3-a	-	180	#	D-7-b	-	218	#	D-6-c	I P-455
142	#	D-3-b	-	181	#	D-8-d	-	219	蓋	D-9-c	S P-99
143	#	D-9-a	I P-62	182	#	D-10-a	I P-51	220	#	D-5-c	I P-423
144	#	-	-	183	#	D-6-c	I P-427	221	#	E-7-b	-
145	#	E-12-d	-	184	#	D-9-b	I P-208	222	#	D-3-c	-
146	鉢	D-9-c	I P-223	185	#	D-3-b	-	223	#	D-9-d	I P-78
147	#	D-10-b	-	186	#	D-3-c	-	224	粗製壺	E-3-d	-
148	深鉢	E-8-d	-	187	#	D-8-c	-	225	#	D-3-b	-
149	#	E-9-d	-	188	鉢	D-9-a	-	226	青彩土器	D-9-c	I P-223
150	#	-	-	189	#	D-6-b	-	227	#	C-8-d	-
151	鉢	D-3-d	-	190	#	D-7-d	-	228	#	D-11-b	-
152	#	C-9-b	I P-47	191	#	D-12-b	I P-104	229	#	E-9-d	-
153	#	C-8-c	-	192	#	D-3-a	-	230	#	D-3-d	-
154	#	C-13-b	-	193	#	E-9-d	I P-153	231	#	D-11-c	I P-125
155	#	C-9-a	-	194	#	E-8-d	-	232	#	E-6-a	-
156	#	D-11-b	-	195	#	C-13-c	-	233	#	E-4-a	-
157	壺	E-8-a	I P-271	196	#	-	-	234	#	C-8-d	-
158	鉢	E-6-d	-	197	#	E-6-a	-	235	#	D-9-d	I P-62
159	#	D-9-b	-	198	#	E-8-d	-	236	#	E-7-b	-
160	壺	D-5-c	-	199	#	D-8-a	-	237	#	D-4-a	I P-473
161	#	E-8-b	-	200	#	E-5-a	I P-447	238	#	D-3-c	-
162	#	D-12-b	-	201	#	D-3-d	-	239	#	D-3-b	-
163	#	E-6-a	-	202	#	D-3-b	-	240	#	E-8-d	-
164	#	E-6-a	-	203	#	E-8-d	-	241	#	C-8-d	-
165	#	D-4-a	I P-466	204	#	D-9-a	I P-72	242	#	E-6-a	I P-445
166	#	D-9-c	I P-201	205	#	E-8-d	-	243	#	D-4-c	-
167	#	D-9-c	I P-201	206	#	E-4-d	I P-513	244	#	D-12-d	-
168	#	E-6-a	I P-454	207	#	C-9-c	I P-43	245	#	D-3-b	-
169	#	D-7-d	I P-354	208	#	D-6-b	-	246	#	D-4-a	-
170	深鉢	C-8-c	I P-313	209	#	D-6-b	-	247	#	E-4-d	-
171	#	C-9-a	I P-494	210	#	D-4-b	-	248	#	D-13-b	-
172	#	D-6-b	-	211	#	D-4-b	-	249	#	D-8-c	-
173	#	-	-	212	#	-	-	250	#	E-4-a	I P-465
174	#	D-9-c	I P-151								

ii 石器等

本遺跡の石器群の分類については、使用痕・加工痕のある剥片・礫および石核を含めて、剥片石器と礫石器とに大別し、前者をⅠ～Ⅲ群に、後者をⅣ～Ⅶ群に分類した。主として形態から分類し、土製品・石製品・礫は分類から除外した。

〈Ⅰ群〉

A：石鏃

1：無茎

a：基底の平らなもの

b：基底が内湾するもの

2：有茎（ひし形・基底のまるくなるもの）

3：有茎（茎が明瞭にみられるもの）

（ⅠA-）：破片など

B：石槍

1：有柄

2：無柄

（ⅠB-）：破片など

〈Ⅱ群〉

A：石鏃

1：不定形剥片に刺突部を作り出したもの

2：棒状のもの

3：棒状のものにつまみがついているもの

（ⅡA-）：破片など

〈Ⅲ群〉

A：ナイフ状石器

1：太い柄を作り出した縦形のもの。靴形のもの

2：横形のもの

（ⅢA-）：破片など

B：スクレイパー類

1：石べらと称されるもの

2：円形・楕指状のもの

3：不定形剥片を調整したもの

（ⅢB-）：破片など

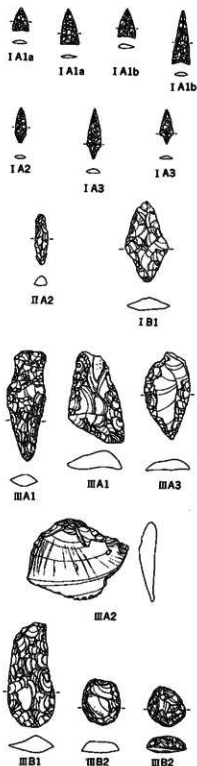


図131 主な石器

〈IV群〉

A：石斧

- 1：両側辺がほぼ平行なもの
 - a：基部断面が扁平なもの
 - b：基部断面が楕円形・厚みのある方形のもの
- 2：基端部が尖がるもの、または狭くなるもの
 - a：基部断面が扁平なもの
 - b：基部断面が楕円形・厚みのある方形のもの

(IVA-1)：破片など

B：石のみ

〈V群〉

A：たたき石

- 1：棒状の端部を主として利用しているもの
- 2：扁平レキの周辺や平坦面を利用しているもの
- 3：円レキを利用しているもの

(VA-1)：破片など

B：合石

〈VI群〉

A：すり石

(VIA-1)：破片など

〈VII群〉

B：砥石

- 1：研磨面に溝があるもの（矢柄研磨器も含む）
- 2：研磨面だけのもの

(VIB-1)：破片など

〈VIII群〉 石鏝

〈IX群〉

A：石核

B：フレイク

〈X群〉

A：加工痕・使用痕のある剥片

B：加工痕・使用痕のあるレキ

この他土偶・平玉・垂飾・オロシガネ状土製品など

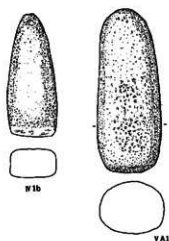


図132-1 主な石器

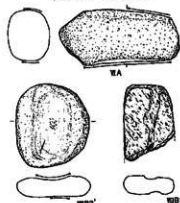


図132-2 主な石器

石器 (図 168~191)

当遺跡からはⅡ黒層・Ⅰ黒層および両層の遺構あわせて約 3,000 点の石器が出土していた。石器には、石鏃、石槍、ナイフ状石器、スクレイパー、石斧・たたき石・砥石などがある。剥片石器では石鏃・不定形のスクレイパー、礫石器では石斧・砥石が多い。前節で述べたように、当遺跡出土石器は縄文時代晩期のものが大部分であることから、これら石器群もこの時期に属するものと考えられる。

なお、石器群の計測値・石質等は 281~291 ページの一覧表にまとめておく。

Ⅱ黒層土壌出土の石器

1. 石鏃 (図 133-1~6)

Ⅱ黒層の遺構から出土した石鏃は 8 点で、うち 7 点が黒曜石製、他は頁岩製である。すべて有茎鏃で、逆刺の弱いものが多い。長さの平均値は 2.2 cm、重さの平均 0.9 g で、長さのわりに軽量である。全体に粗く仕上げたものが多く、これはこの層の石鏃の特徴でもある。両面加工が 2 点で、他は半両面加工である。1 は、乳白色の夏岩製である。この種の材を利用した石鏃はこのほか、Ⅰ黒の土壌墓に 1 点あるだけである。主として正面に調整を加えた半両面加工で、背面は周辺だけを調整し、大きく素材面を残している。なお、正面の稜は、摩耗して丸くなっている。2 は、両面に大きな素材面を残すもので、基部から尖頭部周辺に分けて浅い剝離が加えられている。3 は、厚みのある素材を利用したもので、尖頭部から基部にかけて厚さが一様である。4 は両面加工で両面の中央に大きさが同じくらいの素材を残す。基部の先端は丸くなっている。5 は正面の右側縁に調整を加えただけの粗雑なものである。なお、3・4・6 は同じ遺構 (IP-198) から出たものである。

石槍 (図 133-7)

2 点出土しており、いずれも有茎である。7 は、両側面から中央に向かって連続剝離し形を整えたものである。基部の一部は破損している。

石鏃 (図 133-8~10)

図示した 3 点で全例である。いずれも黒曜石製。8 は先端が破損しているか棒状のドリルであろうか。9・10 は剥片の一部に剝突部を作り出した剝突器で、横長剥片を素材としている。

石斧 (図 134-20~23) : 7 点出土しており、緑色泥岩製が多い。20 は両面とも入念に研磨されている。破損部周辺にはたたき痕があり、破損後、くさびとして再利用された可能性がある。また両面には研磨痕とは異なる深い線状の傷がついている。21 は全面研磨で、刃先が丸くなっている。22 は刃部が破損し、破損部周辺にたたき痕が残る。

たたき石 (図 134-24) : 2 点出土している。24 は扁平な礫の一部を利用しているものである。

砥石 (図 134-26-27) : 3 点出土している。26 は砂岩製で、ともに礫の平坦面を利用されている。

すり石 (図 134-28) : 2 点出土している。28 は緑色泥岩製で円礫の縁部を利用している。

このほか、29は扁平な軽石で下辺部に磨痕があるもので、31は大きさ15.8×10.6cm、厚さ6.4cm、重量1,470gの男根を模したと思われる石製品である。一端に幅1~1.3cmの溝がめぐっている。表面は磨かれている。なおこれと類似の資料が江別市吉井の沢遺跡、東神楽町沢田の沢遺跡から出土しており、後者は縄文時代晩期の土壌から出土している。

II 黒曜出土の石器 (図135・136)

石鏃 (図135-1~9) : 31点出土し、そのうち有茎鏃が22点である。また、頁岩製のものが1点だけで他はすべて黒曜石製である。1・2は形状が不整なひし形のものである。2は大ききから槍先とも考えられる。3~9は、いずれも逆刺の弱いもので、遺構出土のものと同様に大きな素材面を残し、簡単な加工だけのものがみられる。

石槍 (図135-10・11) : 5点出土しており、石質はいずれも黒曜石。10は両面加工で、左右がほぼ対称なひし形をしている。正面の左側辺に入念な調整が施されているが、その部分の刃こぼれも著しい。11は形状からスクレイパーとも考えられる。

ナイフ状石器 (図135-12~14) : 5点出土している。12は縦長剥片を素材とするもので、両面とも大きな剝離で調整している。下端部にやや細かな調整が加えられている。13は原石面を残すもので、両面とも左側辺に細かな加工を施している。14は頁岩製の、横長剥片を素材としている。正面の両側辺に浅い調整が加えられている。

スクレイパー (図135-15~22・図136-23~28) : 62点出土しており、大部分が黒曜石製である。円形または楕円形の形態をなすものが3分の1を占める。15は正面に原石面を三部残す石ペラである。打点以外に剝離調整が施されている。16~23は円形、だ円形のスクレイパーで、打面を残すもの (19・21・22) と打面に調整が及んでいるもの (16・18・20・23) がある。前者は縦断面がクサビ形になり、刃縁には鋸歯状の凹凸がある。17は、剝離痕の状態で石核とも考えられるが、使用による刃こぼれがあることからスクレイパーに分類した。24・25は縦長の扁平な剥片の側辺に調整を加えたものである。25は尖頭形でその先端に細い調整が施されている。

石斧 (図136-29~33) : 13点出土している。石質は泥岩・片岩である。29は片岩製で、両面の器面が剥落している。残っている器面の状態から全体を入念に磨いたものと思われる。30は緑色泥岩製で、長さが7cmの小型のものである。基部には細かなたたき痕が多くみられる。31は泥岩製で、基部が破損している。両面の器面中央部に細かな傷がついている。32・33は薄手のものではほぼ同じ大きさである。32は片岩製、33は緑色泥岩製である。両方とも全面磨製であり、33は30と断面形が類似しており、茎端が厚くなっている。

たたき石 (図136-34) : 8点出土しており、泥岩製が多い。34は原石の長辺を利用している。

すり石 (図136-35~37) : 4点出土しており、すべて安山岩製である。35・36は礫の稜を利用したものである。37は柱状の礫でひとつの面を主に使用している。

I 黒層土壌出土の石器

石鏃(図137-1~53):186点出土している。無茎鏃が111点、有茎鏃が19点、ひし形や基部が丸いものが18点出土している。無茎鏃と有茎鏃との比は約6:1である。石質は黒曜石が圧倒的に多く、他に珪岩、頁岩がある。

無茎鏃は、基部が平らなものが45点と、基部が鋸入るものが66点とに分けられる。前者は1~8・12~15・27・30で縁辺が直線的で二等辺三角形になるものが多い。正三角形に近いものは少なく長さとの比が、1.8~2.0に集中する。14・15は長さが4cmほどで、石鏃としては大型のものである。後者は、9~11・16~26・28・29・31・32・34~43である。基部の湾入が少ないものも多いが、34~37のように尖頭部が長く抉りが鋭いものもある。3・21は全体に火熱を受けている。最大巾が基底より上位にあるものは、15のように基部が厚いものが多い。8・31・37に残る原石面は棒状原石の表皮と同じものである。無茎鏃は全体的に調整が粗く、大きな剝離面を残すものが多い。

有茎鏃は、逆刺の弱いものが多い。51は尖頭部が正三角形になるもので、逆刺は丸く磨耗している。52は、縁辺に浅い剝離調整を加えただけのものである。

この他に、基部が丸いもの(33・45~47・49)、ひし形に近いもの(48・50)、柳葉形のもの(44)がある。33・45・47・49は基部の厚みが薄くなるように基底に剝離が加えられている。44は両面の左縁辺が上から下に向けて連続調整されている。53は火熱を受けてよくらんでいる。

石鏃(図138-54~57):12点出土しておりほとんどは黒曜石製である。54~56はドリルである。54は先端が磨耗して丸くなっている。57・58は剝片の一部に剝突部作り出した剝突器である。

ナイフ状石器(図138-59~71、図139-77~79):28点出土しており、黒曜石製が圧倒的に多い。59~65・70は縦長剝片を素材とし太い柄が作り出されたものである。59は刃部と柄部の区別が明瞭なものである。刃部の湾入は使用による磨耗と思われる。60は正面の左側縁に二次加工があり、背面には素材面が大きく残る。61は両側辺とも刃がつぶれており、とくに背面の右側辺が顕著である。62は全体に粗い調整で、背面に大きな素材面が残る。63は、刃部下方に打点がある剝片を用いたもので、正面の右側辺に二次加工が施されている。64は背面の左側辺に器厚を薄くする調整剝離を施し、急角度の刃部を作り出している。65は刃部が脹らんでいる側に深い剝離を連続させ、反対側には浅くて粗い剝離調整を加えている。打面は原石面で、棒状原石の表皮と類似している。また背面の柄部上端には細かな傷が多数ついており、着装により擦れた跡と思われる。66・67・70は破損品であり、67・70のように刃部と柄部の境目で見折れているものが多い。68・69は剝片の側面を刃部として加工したものである。71~76は幅広の刃部を作り出したもので、ウルナイフと呼ばれるものに類似している。71~75は横長剝片を素材とするものである。76は縦長剝片を素材とするものである。正面の右側側縁に浅い剝離を連続して作り出している。背面には粗い調整が加えられている。77~79は縦長剝片を素材とし、

刃部が尖頭形のものである。77・79は刃部が幅広の木葉形を呈し、正面だけ側縁加工を加えている。78は木葉形のものに柄が作り出されたものである。背面には柄部と刃部の境目に粗い刻線がある。

スクレイパー（図140・141・142～80～132）：総数750点出土しているがそのうち石ベラが4点、円形・だ円形ものが38点、剥片の1辺または2辺を刃としたものが109点で、残りの500点あまりは破片である。石質は黒曜石が圧倒的に多く、他に頁岩・珪岩がある。80～82は石ベラである。80は原石面を残し、未製品と思われる。82は下端の打点近くに粗い調整が加えられている。83～97は円形またはだ円形のものである。86・87・89は断面形がクサビ形で、打面と向い合う部分に細かな調整が施されている。98～117は剥片に簡単な刃を作り出したものである。99～100は両面に調整が施されたもので、98・99は側辺、100は下辺の刃がつぶれている。110～112は刃部が尖頭形に調整され、正面の左側辺が主として使用されている。113～116は剥片の一部に調整を加えたものである。117は原石面を大きく残す薄手の剥片の一部に調整を施したものである。原石面の下辺には多数の傷跡が残る凹凸がげしい。118～123は打面を残し片面加工のものである。124～132は打面を残し、剥片の1辺または2辺以上に調整したものである。これらの器面に残る原石面は黒曜石の棒状原石の表皮と同じものである。

石斧（図143～133～153）：36点出土しており、緑色泥岩製のものが多い。133～142は短冊形で薄手のものであり、143～145はやや厚手のものである。133～135・140は全面磨製である。他は素材の形を大きく変えることなく刃部を設けてきたもの。145はベッキングで整形されている。刃先は摩耗して丸くなり光沢がある。146～148は基端が狭くなり薄手のものであり、149～152は薄手のものである。148は周辺を打ち欠きによって整形されている。150は刃部に細かなベッキングが施されている。153は握り手のあるものである。

石のみ（図144～154）：本例だけである。154は全面磨製で、破損部にたたき痕がみられる。たたき石（図144～155～160）：12点出土している。石質は安山岩製のものが多い。155～159は棒状の礫の一端を使用している。156は、153の石斧と形態が類似している。160は棒状の礫の周辺を使用している。

礫石（図144～161～164、図145～165～171）：21点出土している。石材は凝灰岩製のものが多く、他に砂岩がある。161～168はいわゆる矢柄研磨器と呼ばれるものである。巾1 cm前後の浅い溝が1～2本直走する。169～168は砂岩製であり、いずれも平坦面が利用されている。

石鏟（図145～176）：本例だけである。179・178と同じ土壌墓から出土したものである。

その他、172～175は扁平な軽石の一部に擦り痕が残るものである。177～179はいずれも安山岩礫である。使用痕・加工痕はなく、用途不明である。

1 黒層出土の石器（図146～152）

石鏟（図146～1～48）：396点出土している。無茎鏟が316点、有茎鏟が41点、ひし形や基部が丸いもの39点で、無茎鏟と有茎鏟との比は約8：1である。石質は黒曜石が圧倒的に多く、

他に頁岩・珪岩がある。

無茎鐵は、基部が平らなものが147点と基部が湾入するものが169点とに分けられる。前者は1~14・32である。形態は縁辺がややふくらむ二等辺三角形のものが多く、1のように正三角形になるものは少ない。後者は15~31・33・34である。前者に比べ尖頭部が長いものが多い。形態は縁辺が直線的な二等辺三角形が大半である。22・33のように湾入が鋭いものは少数である。35・39~41は柳葉形、36~38はひし形のものであり、全体に粗く仕上げているものが多い。42~48は有茎なもので逆刺が弱いものが多い。長さ2.0~3.0 cm、幅1.0~1.6 cmの間に集中するものが多い。

石錐(図146~49~54): 32点出土している。石質は黒曜石が多く、他に黒色泥岩・頁岩などがある。49~52は、石錐様のもので尖頭部は摩耗して丸くなっている。

ナイフ状石器(図147~55~69、図148~70~74・78): 67点出土している。石質は黒曜石が多く、他に頁岩がある。縦長剥片を素材とするものが多い。55~65は太い柄を作り出しているもので、刃部が尖頭形のもの(55~57・59~63)と丸いもの(58・64・65)がある。刃潰れしているものが多いことから、尖頭形のものは丸くなったものを再調整した結果と思われる。70は横長剥片を素材とするものでいわゆる靴型石器と呼ばれるものである。

スクレイパー(図148~75~77・79~87、図149): 699点出土している。このうち不定形剥片の1に刃をつけたものと、その破片であるものが656点出土し、全体の9割以上を占めている。75~77は石ペラである。77はバルブのある側に調整を加えている。79~87は円形・楕円形のものである。79・80のように小型のものは他のものに比べ背が高い。88~103は不定形の剥片に刃をつけたもので、92・94~97のように側面に原石面を残すものが多い。

石斧(図150~104~117): 57点出土している。石質は泥岩・片岩などがある。器厚が厚いものはベッキングで整形しているものが多い、薄いものは磨製が粗く打ち欠いて整形しているものが多い。ベッキングで整形されているものは、整形後に磨かれているものが大半である。

石のみ(図150~118~119): 図示した2点だけ出土している。118・119とも全面磨製である。たたき石(図151~120~123): 42点出土している。石質は安山岩系泥岩のものが多い。120は使用面に細かな敲打痕が残る。123はメノウ質頁岩製で、たたき石としては本例だけである。

すり石(図151~124): 10点出土している。124は棒状の自然礫で、両側面を利用している。台石(図151~125・126): 4点出土しており、全部安山岩製である。125は破損しているが2.1 kgもあるもので平坦面には敲き痕がのこる。126は安山岩製のくぼみ石である。

砥石(図152~127~133): 25点出土している。石質は砂岩と凝灰岩がある。127・128は矢柄研磨器である。127は両側面を利用し、128と比べて使用部の溝の幅が広い。130は断面四角形の平坦面を全部使用している。133も器形は異なるが130同様に全面を利用している。

134は細長い礫の一端に敲き痕が残る自然礫である。135・136は黒曜石の棒状原石である。土製品・石製品(図153)、土器塚出土の石器(図154~155)およびSP出土の石器(図156~1・2)は一覧表を参照。

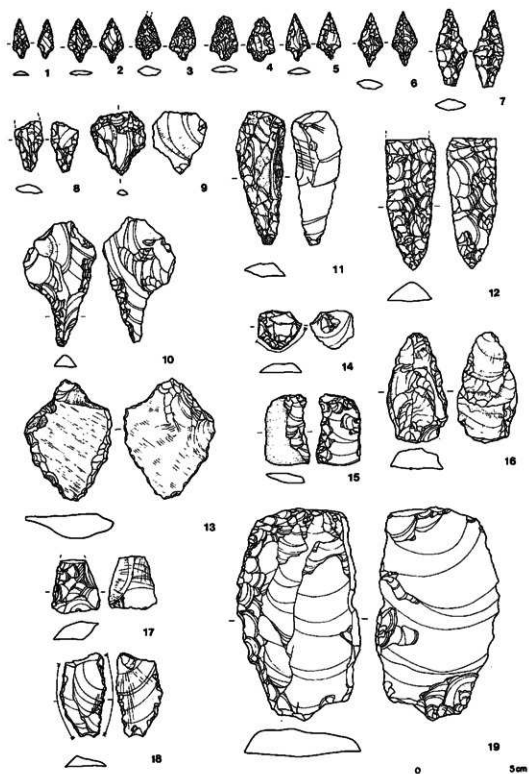


圖133 II黑層土壤出土石器 (1)

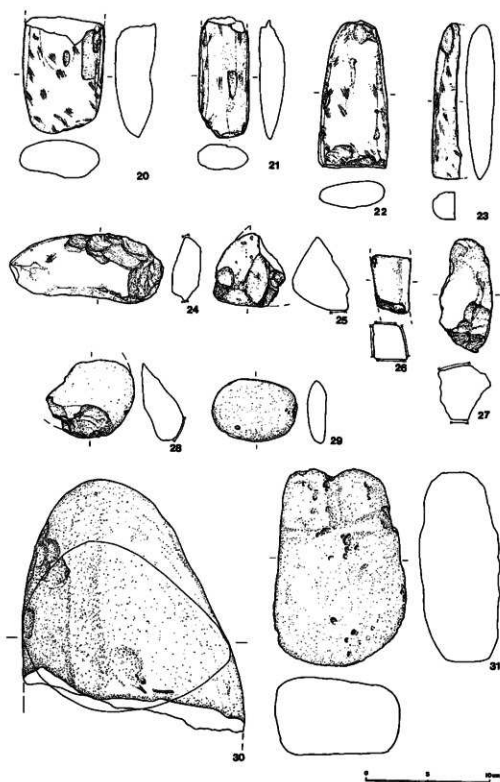


圖134 II黑層土坑出土石器(2)

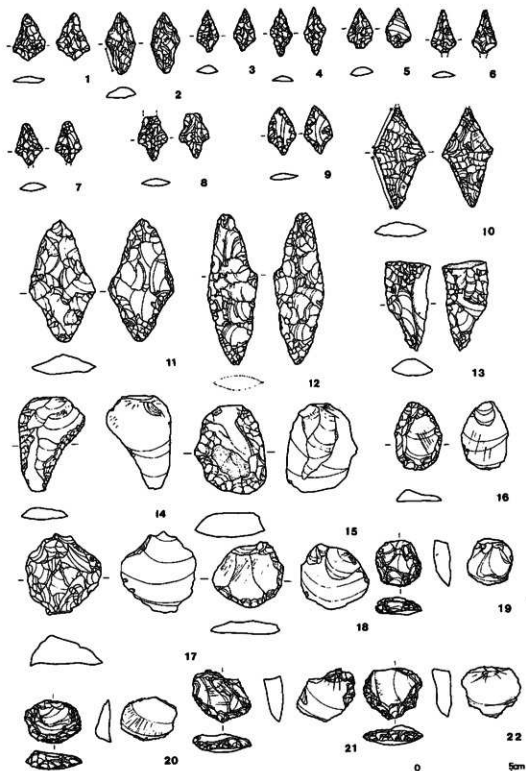


図135 Ⅱ黒層出土の石器(1)

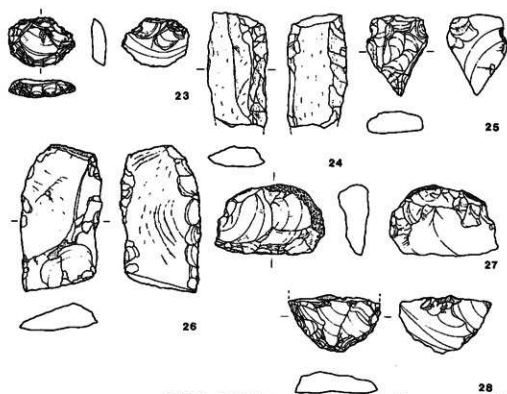


図 136-1 II 黒層出土の石器 (1)

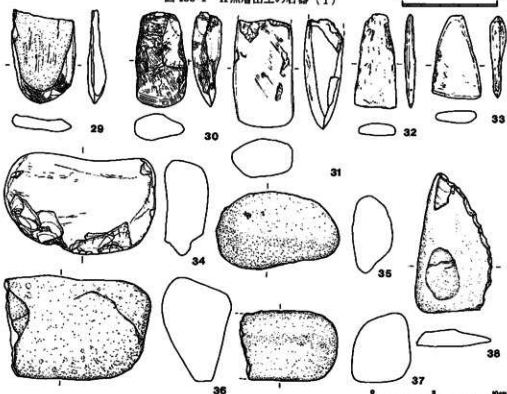


図 136-2 II 黒層出土の石器 (2)

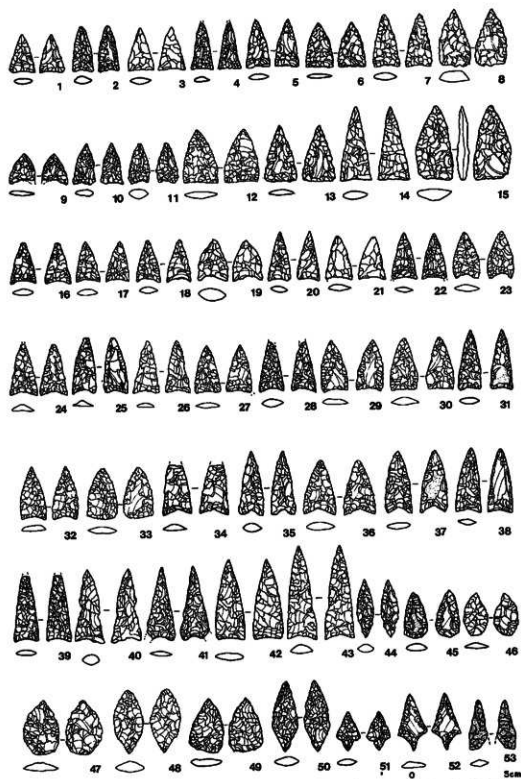


図137 I 黒層土墳出土の石器 (1)

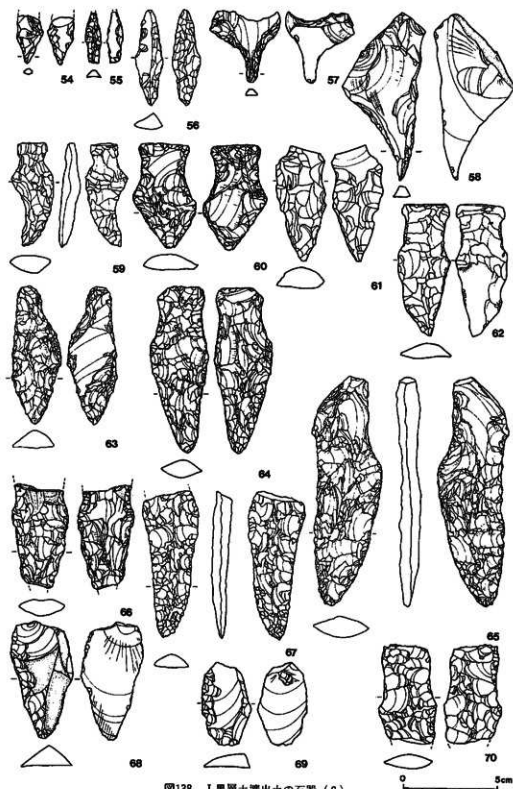


図138 I 黒層土層出土の石器 (2)

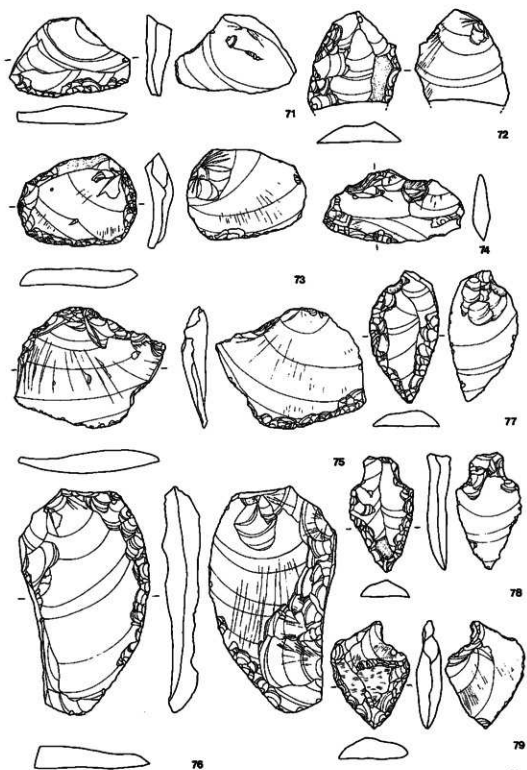


図139 I 黒層土墳出土の石器 (3)

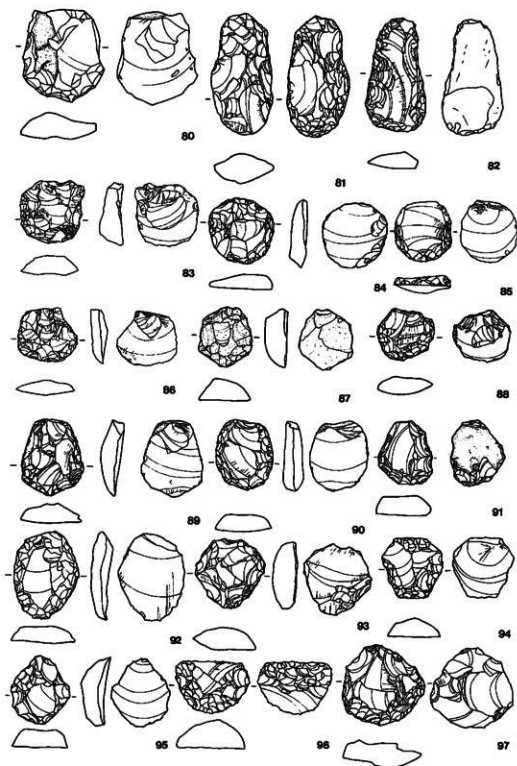


図140 I 黒層土壌の出土石器 (4)

0 5cm

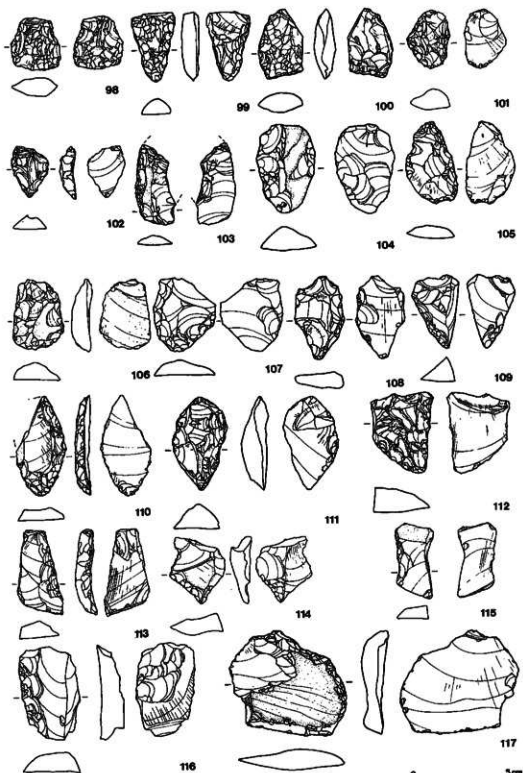


図141 I 黒層土壌の出土石器 (5)

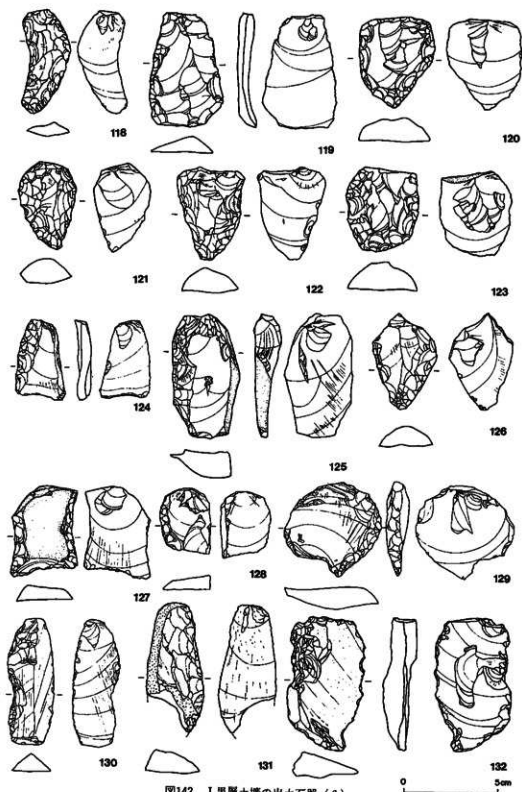


図142 I 黒層土壌の出土石器 (6)

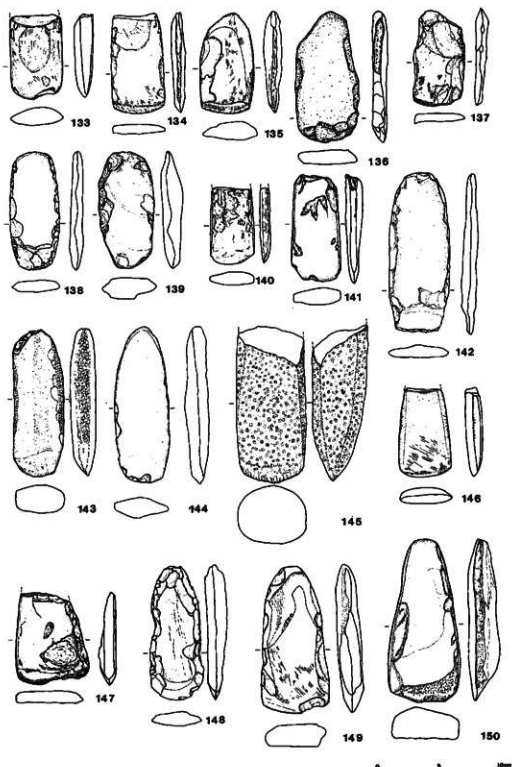


図143 I 黒層土壌の出土石器 (7)

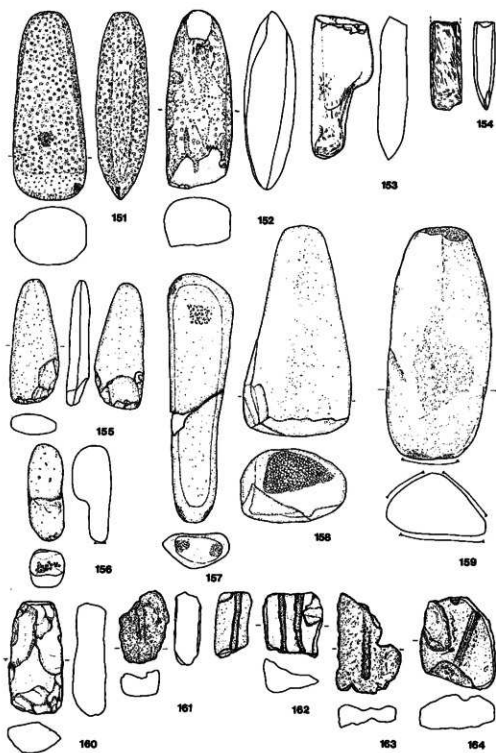


図144 I 黒層土壌の出土石器 (8)

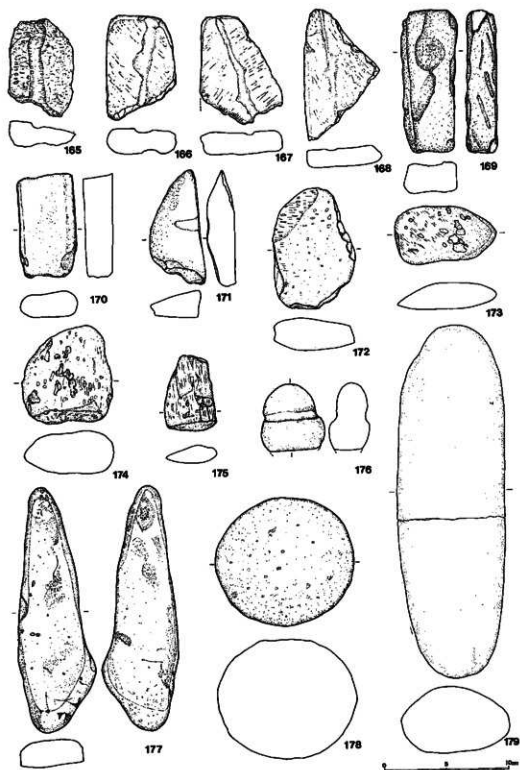


図145 I 黒層土壌の出土石器 (9)

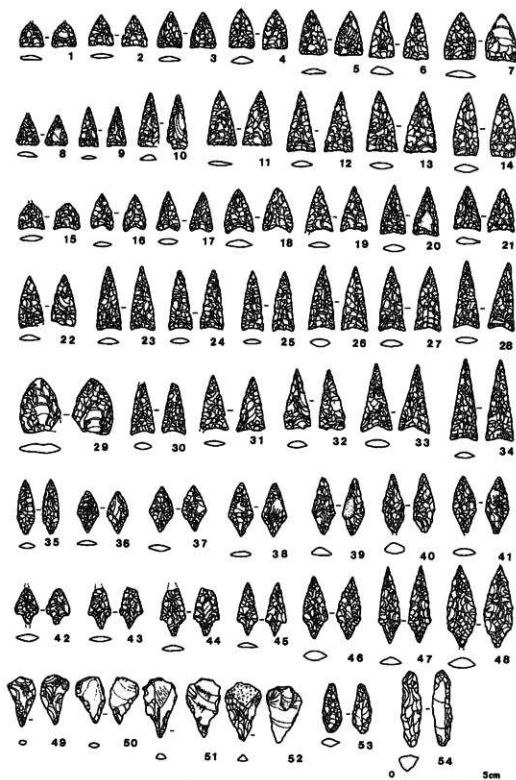


図146 I 黒層出土の石器 (1)

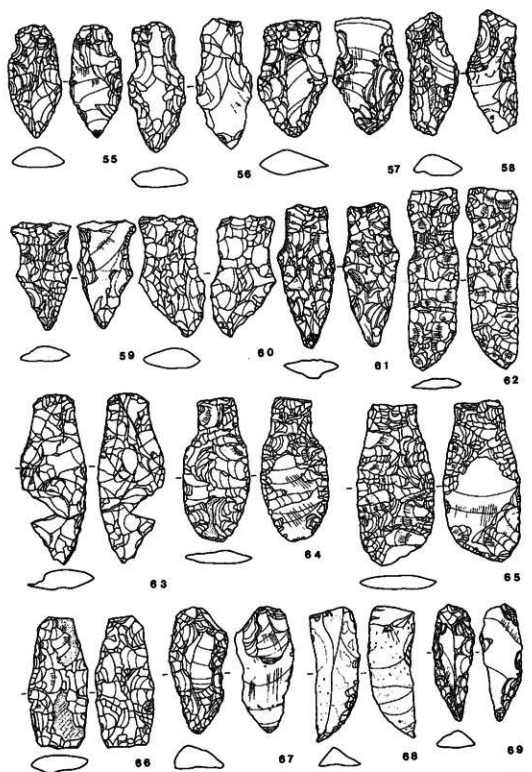


図147 I 黒層出土の石器 (2)

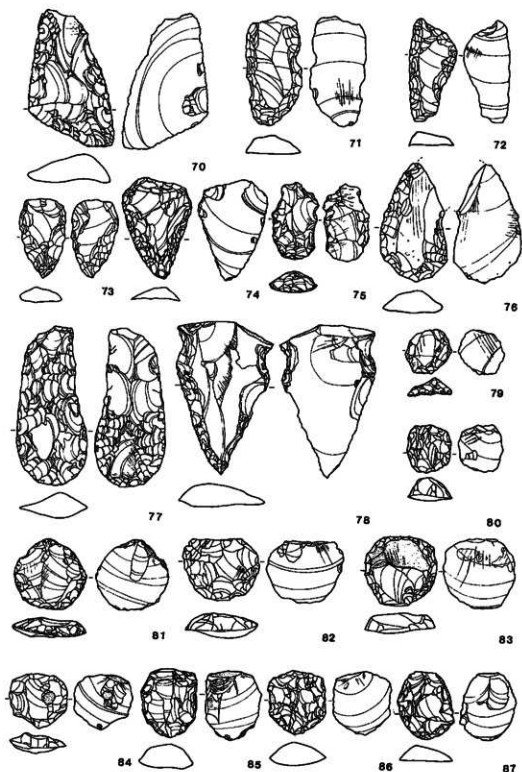


図148 I 黒層出土の石器 (3)

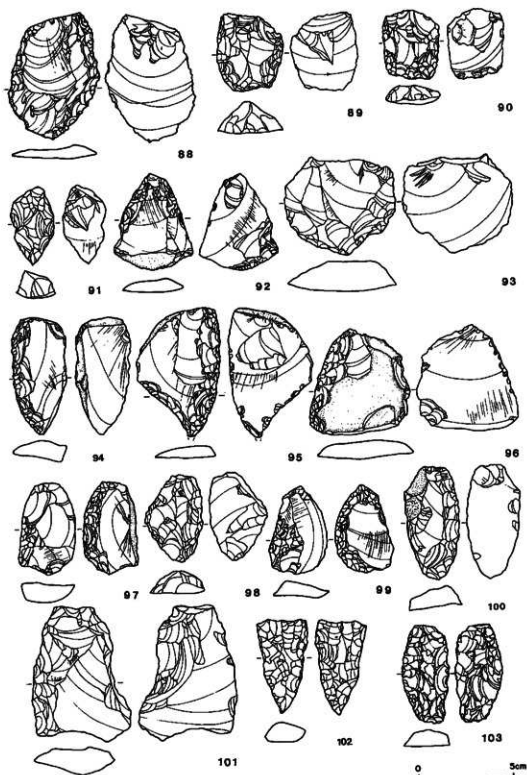
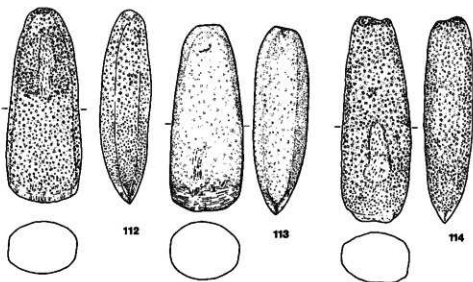
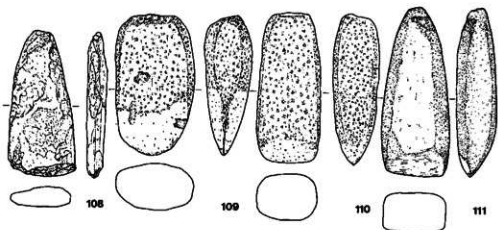
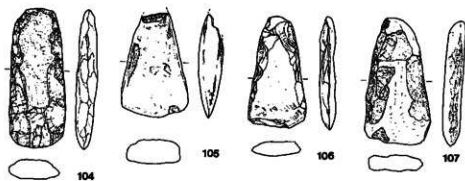


図149 I 黒層出土の石器 (4)



0 3 10mm

図150 I 黒層出土の石器 (5)

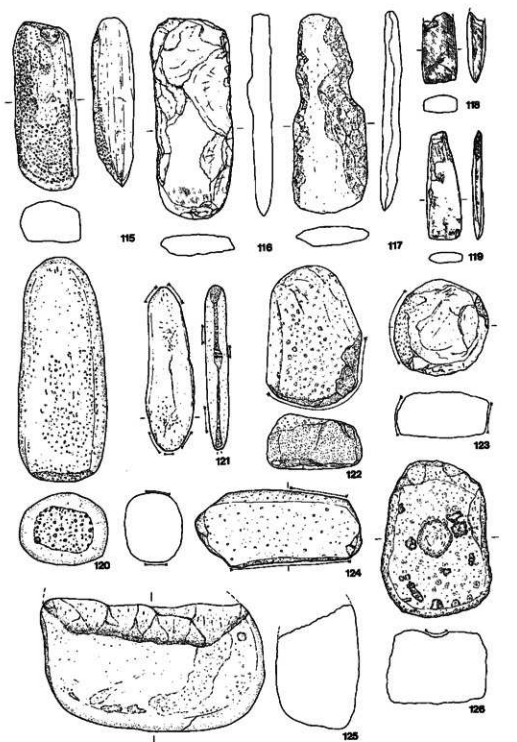


図151 I 黒層出土の石器 (6)

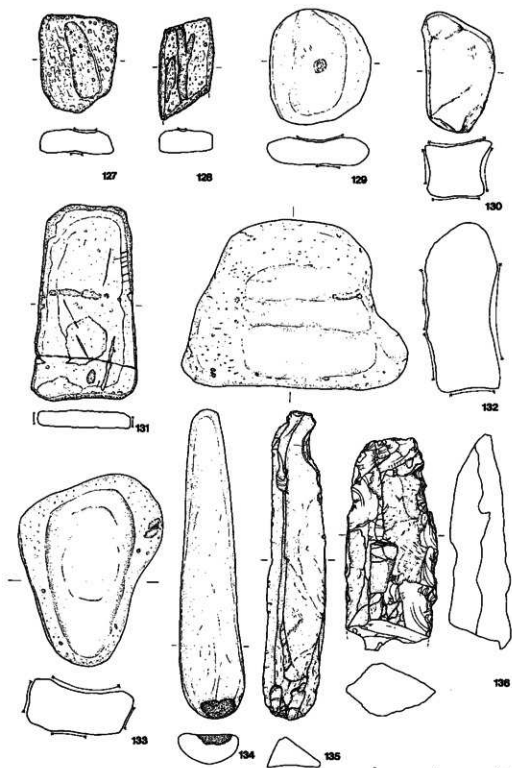
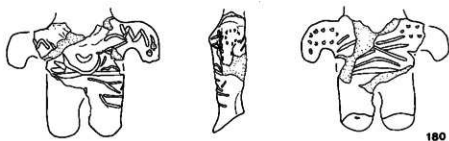
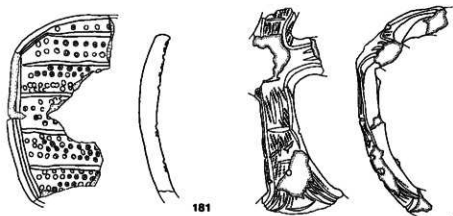


図152 I 黒層出土の石器(?)



180



181

182



183



184



185



図153 I 黒層出土の土製品・石製品

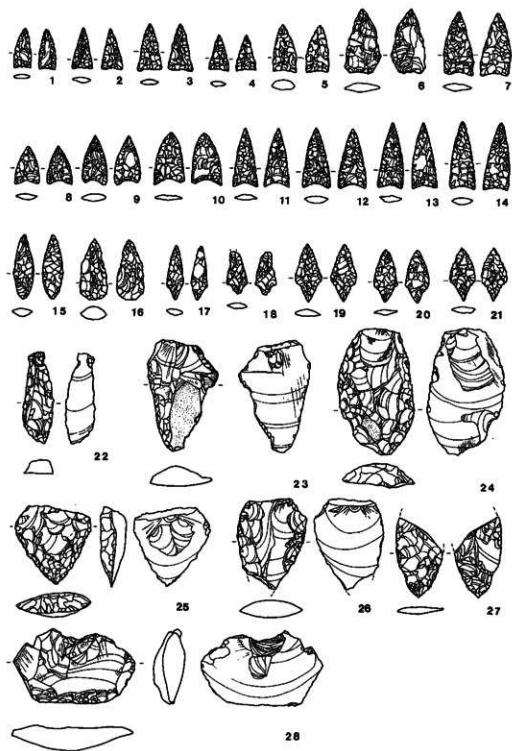


図154 土器塚出土の石器 (1)

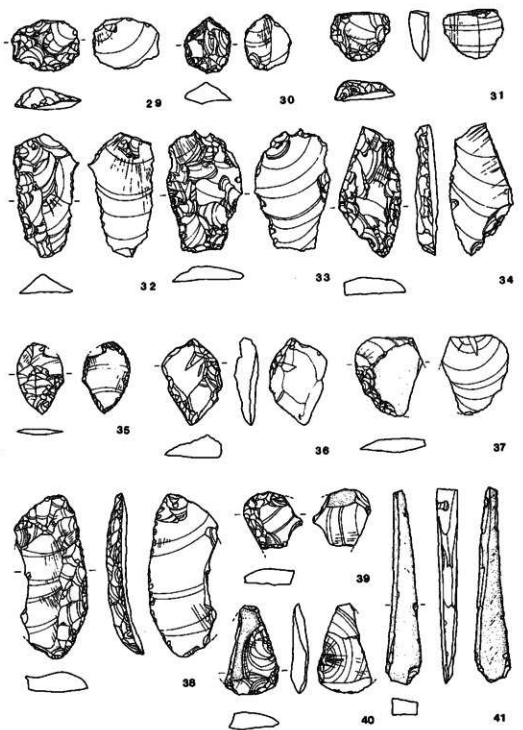


図155 土器塚出土の石礫（2）

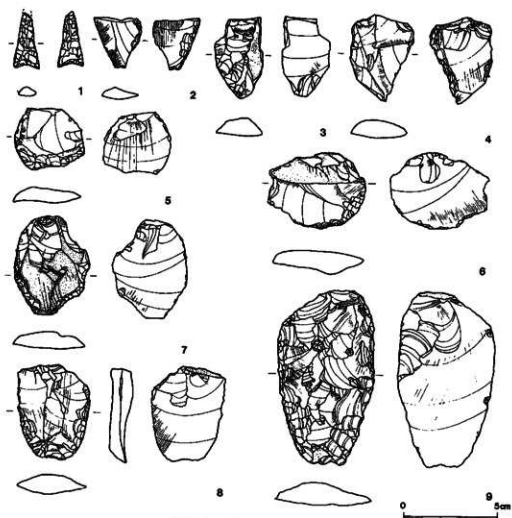


図156-1 小ビット出土の石器

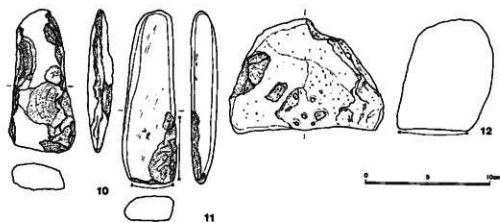


図156-2 小ビット出土の石器

表10 川黒層土層・土城層出土石器一覧

図録 番号	遺構	名	形	分	類	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	材質
1	39	石	鏃	I A3	2.1	0.9	0.2	0.3	Sh.	
2	54	石	鏃	I A3	(2.3)	1.2	0.3	(0.6)	Obs.	
3	104	石	鏃	I A3	2.2	1.3	0.5	1.3	Obs.	
4	104	石	鏃	I A3	2.3	1.3	0.2	1.2	Obs.	
5	20	石	鏃	I A3	2.3	1.5	0.5	0.7	Obs.	
6	104	石	鏃	I A3	2.8	1.3	0.5	1.3	Obs.	
7	40	石	鏃	I B1	4.0	1.6	0.7	3.7	Obs.	
8	20	石	鏃	II A-	(2.6)	(1.4)	(0.5)	(2.2)	Sh.	
9	149	石	鏃	II A1	3.2	2.9	0.7	5.2	Obs.	
10	51	石	鏃	II A1	6.6	3.9	1.3	20.0	Obs.	
11	56	ナイフ 石	ナイフ	III A1	7.1	2.5	1.2	15.9	Obs.	
12	123	ナイフ 石	ナイフ	III A1	6.8	3.1	1.2	21.7	Obs.	
13	122	スクレイパー	III B3	6.2	4.7	1.6	32.0	Sh.		
14	58	スクレイパー	III B2	2.2	2.3	0.6	2.8	Obs.		
15	85	スクレイパー	III B3	3.7	2.3	0.6	5.9	Obs.		
16	34	スクレイパー	III B3	5.7	3.1	1.1	15.5	Sh.		
17	134	スクレイパー	III B-	(2.8)	2.5	0.9	(6.4)	Obs.		
18	59	加工 あるフレイク	X A	4.9	2.4	0.7	6.6	Obs.		
19	144	スクレイパー	III B3	11.1	6.3	1.5	124.0	Obs.		
20	18	石	片	IV A1b	9.1	6.4	3.1	320.0	Gr-Mud.	
21	119	石	片	IV A1b	(96.0)	4.0	1.9	(131.2)	Sch.	

表11 川黒層出土石器一覧

図録 番号	出土地区	名	形	分	類	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	材質
1	D-10-a	石	鏃	I A2	2.5	1.8	0.4	1.5	Obs.	
2	E-13-d	石	鏃	I A3	3.2	1.6	0.5	2.0	Obs.	
3	E-13-a	石	鏃	I A3	(2.2)	1.1	0.5	(0.8)	Obs.	
4	E-14-d	石	鏃	I A3	2.5	1.2	0.3	0.4	Obs.	
5	E-14-d	石	鏃	I A3	2.1	1.3	0.3	0.8	Obs.	
6	D-14-b	石	鏃	I A3	(2.2)	1.3	0.4	(0.8)	Obs.	
7	D-14-b	石	鏃	I A3	(2.2)	1.5	0.5	(1.3)	Obs.	
8	D-14-c	石	鏃	I A-	(2.3)	1.6	0.4	(1.2)	Obs.	
9	E-13-d	石	鏃	I A3	2.6	1.5	3.5	1.2	Obs.	
10	D-14-a	石	鏃	I A2	(5.3)	2.8	0.8	(6.0)	Obs.	

図説 番号	出土地区	名 称	分 類	長 さ cm	幅 cm	厚 さ cm	重 量 g	石 質
11	D-14-b	石 槌	I B2	6.4	3.4	1.0	13.8	Obs.
12	C-13-c	ナ イ フ 切 刃	III A1	8.0	2.7	0.9	12.8	Obs.
13	E-13-a	ナ イ フ 切 刃	III A1	4.8	2.5	1.3	12.5	Obs.
14	D-14-a	ナ イ フ 切 刃	III A3	5.1	3.6	1.0	12.5	Sh.
15	C-10-e	スクレイパー	III B1	4.9	3.7	1.2	24.3	Obs.
16	E-14-d	スクレイパー	III B2	3.5	2.5	0.5	5.4	Obs.
17	E-12-a	スクレイパー	III B2	4.8	4.0	1.7	22.2	Obs.
18	D-13-c	スクレイパー	III B2	3.3	3.7	0.9	10.0	Obs.
19	D-4-b	スクレイパー	III B2	2.3	2.3	0.7	5.1	Obs.
20	D-13-d	スクレイパー	III B2	2.3	2.8	0.9	4.9	Obs.
21	D-14-c	スクレイパー	III B2	2.4	3.3	0.9	6.9	Obs.
22	D-16-a	スクレイパー	III B2	2.7	3.1	0.8	7.0	Obs.
23	D-10-d	スクレイパー	III B2	2.5	3.4	0.8	7.5	Obs.
24	C-11-c	スクレイパー	III B3	6.0	3.1	1.1	28.0	Sh.
25	C-10-d	スクレイパー	III B3	4.2	3.3	1.0	12.7	Obs.
26	C-14-a	スクレイパー	III B3	7.7	4.3	1.3	35.7	Sh.
27	E-14-b	スクレイパー	III B3	5.9	3.8	1.5	34.2	Obs.
28	C-13-e	スクレイパー	III B-	(2.9)	(4.9)	(1.2)	(16.4)	Obs.
29	D-10-a	石 斧	IV A1a	(6.9)	5.2	(1.1)	(65.0)	Sch.
30	D-13-d	石 斧	IV A1b	7.6	4.0	2.2	94.9	Gr-Mud.
31	C-11-b	石 斧	IV A1b	(8.6)	5.0	2.9	(109.5)	Mud.

図説 番号	遺 跡	名 称	分 類	長 さ cm	幅 cm	厚 さ cm	重 量 g	石 質
1	467	石 槌	I A1a	2.0	1.4	0.4	0.8	Obs.
2	343	石 槌	I A1a	2.4	1.1	0.4	1.0	Obs.
3	213	石 槌	I A1a	2.1	1.3	0.2	0.8	Obs.
4	351	石 槌	I A1a	2.4	1.2	0.3	0.6	Obs.
5	425	石 槌	I A1a	2.5	1.3	0.3	1.0	Obs.
6	351	石 槌	I A1a	2.3	1.5	0.3	1.0	Obs.
7	198	石 槌	I A1a	2.7	1.4	0.3	1.3	Obs.
8	197	石 槌	I A1a	2.6	1.3	0.5	4.9	Obs.
9	212	石 槌	I A1b	(1.5)	1.3	0.2	(0.4)	Obs.
10	465	石 槌	I A1b	2.1	1.2	0.3	1.0	Obs.
11	91	石 槌	I A1b	2.0	1.1	0.4	1.2	Obs.
12	198	石 槌	I A1a	2.8	1.7	0.4	1.7	Obs.
13	467	石 槌	I A1a	3.0	1.7	0.3	1.6	Obs.

図説 1 黒層土著・土壌部出土石器一覽

編號	遺構	名稱	分類	長さ	cm	厚さ	cm	重量	石質
14	216	石	竪	I A1a	3.8	1.5	0.4	1.8	Obs.
15	467	石	竪	I A1a	3.9	1.9	0.7	4.6	Obs.
16	72	石	竪	I A1b	(2.1)	1.2	0.2	(0.8)	Obs.
17	198	石	竪	I A1b	2.0	1.2	0.2	0.6	Obs.
18	465	石	竪	I A1b	2.2	1.3	0.4	0.8	Obs.
19	220	石	竪	I A1b	2.1	1.5	0.6	2.2	Sh.
20	425	石	竪	I A1b	2.6	1.2	0.4	1.0	Obs.
21	79	石	竪	I A1b	2.2	1.3	0.2	0.9	Obs.
22	467	石	竪	I A1b	2.5	(1.4)	0.3	(1.0)	Obs.
23	198	石	竪	I A1b	2.4	1.3	0.3	1.1	Obs.
24	197	石	竪	I A1b	2.8	1.6	0.6	2.8	Obs.
25	62	石	竪	I A1b	(2.8)	1.2	0.1	(0.9)	Obs.
26	198	石	竪	I A1b	2.6	1.2	0.2	0.6	Obs.
27	198	石	竪	I A1a	2.4	1.2	0.2	0.8	Obs.
28	232	石	竪	I A1b	(2.5)	1.2	0.3	(1.1)	Obs.
29	198	石	竪	I A1b	2.6	1.3	0.3	1.1	Obs.
30	198	石	竪	I A1a	2.7	1.4	0.3	1.5	Obs.
31	250	石	竪	I A1b	3.1	1.1	0.3	1.2	Obs.
32	198	石	竪	I A1b	2.7	1.3	0.2	0.9	Obs.
33	198	石	竪	I A2	2.6	1.5	0.4	1.4	Obs.
34	323	石	竪	I A1b	(2.0)	1.5	0.4	(1.5)	Obs.
35	297	石	竪	I A1b	3.2	1.3	0.6	2.2	Obs.
36	198	石	竪	I A1b	2.8	1.6	0.3	1.7	Obs.
37	201	石	竪	I A1b	3.1	1.3	0.2	1.3	Obs.
38	467	石	竪	I A1b	3.3	1.3	0.3	1.7	Obs.
39	219	石	竪	I A1b	(3.4)	1.2	0.3	(1.4)	Obs.
40	211	石	竪	I A1b	3.8	1.5	0.4	2.3	Obs.
41	293	石	竪	I A1b	3.8	1.5	0.3	1.2	Obs.
42	216	石	竪	I A1b	4.1	1.5	0.3	2.3	Obs.
43	198	石	竪	I A1b	4.5	1.5	0.3	2.5	Sh.
44	67	石	竪	I A2	3.0	0.9	0.3	1.1	Obs.
45	67	石	竪	I A2	2.4	1.2	0.3	1.4	Obs.
46	465	石	竪	I A2	2.2	1.3	0.4	0.8	Obs.
47	96	石	竪	I A2	2.8	1.9	0.4	2.1	Obs.
48	198	石	竪	I A2	3.2	1.6	0.4	2.1	Obs.
49	396	石	竪	I A2	2.7	1.8	0.3	1.6	Obs.
50	436	石	竪	I A2	3.7	1.4	0.5	2.0	Obs.
51	429	石	竪	I A3	2.0	1.2	0.4	0.6	Obs.
52	234	石	竪	I A3	3.0	1.5	0.2	1.1	Obs.
53	212	石	竪	I A-	(2.5)	0.9	0.2	(0.7)	Obs.
54	411	石	竪	II A-	(2.5)	1.4	0.6	(1.9)	Obs.
55	270	石	竪	II A-	2.6	0.9	0.4	0.9	Obs.
56	170	石	竪	II A2	4.8	1.5	0.7	4.2	Obs.

図版 番号	遺構	名称	分類	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	高さ cm	石	質
100	214	スクレイパー	III B3	(9.5)	2.4	1.1	(9.0)	Obs.	
101	196	スクレイパー	III B3	3.0	2.4	1.0	4.1	Obs.	
102	10	スクレイパー	III B3	2.7	2.0	0.8	3.5	Obs.	
103	214	スクレイパー	III B-	(4.1)	(2.0)	0.6	(5.6)	Obs.	
104	343	スクレイパー	III B3	4.7	3.1	1.4	18.0	Obs.	
105	212	スクレイパー	III B3	4.3	2.6	0.7	8.0	Obs.	
106	91	スクレイパー	III B3	3.7	2.7	0.9	4.9	Obs.	
107	466	スクレイパー	III B3	3.7	3.4	0.9	10.5	Obs.	
108	202	スクレイパー	III B3	4.5	2.6	0.8	9.6	Obs.	
109	368	スクレイパー	III B3	4.8	2.4	1.6	9.6	Obs.	
110	67	スクレイパー	III B-	(5.2)	2.7	0.6	(5.7)	Obs.	
111	202	スクレイパー	III B3	5.0	3.0	1.2	14.8	Obs.	
112	10	スクレイパー	III B3	4.4	3.2	1.3	16.5	Obs.	
113	196	スクレイパー	III B3	4.4	2.4	0.8	5.4	Obs.	
114	196	スクレイパー	III B3	3.5	3.0	1.0	4.5	Obs.	
115	151	スクレイパー	III B3	(3.7)	2.0	0.7	(3.9)	Obs.	
116	196	スクレイパー	III B3	4.9	2.8	1.0	7.6	Obs.	
117	212	スクレイパー	III B3	5.1	6.4	1.0	36.0	Obs.	
118	12	スクレイパー	III B3	5.3	2.5	0.6	5.4	Obs.	
119	415	スクレイパー	III B3	6.0	4.0	1.0	25.2	Obs.	
120	414	スクレイパー	III B3	4.8	4.1	1.4	28.0	Obs.	
121	512	スクレイパー	III B3	4.5	3.0	1.3	16.2	Obs.	
122	467	スクレイパー	III B3	4.9	3.5	1.6	26.0	Obs.	
123	443	スクレイパー	III B3	4.5	3.9	1.5	26.6	Obs.	
124	151	スクレイパー	III B3	(4.1)	2.7	0.6	(4.6)	Obs.	
125	531	スクレイパー	III B3	6.5	3.5	1.5	29.9	Obs.	
126	467	スクレイパー	III B3	5.2	3.3	1.1	14.8	Obs.	
127	415	スクレイパー	III B3	4.5	3.6	1.0	19.2	Obs.	
128	196	スクレイパー	III B3	2.8	0.7	5.0	36.6	Obs.	
129	13	スクレイパー	III B3	4.8	4.7	1.4	7.7	Obs.	
130	196	スクレイパー	III B3	6.8	2.5	1.0	7.6	Obs.	
131	10	スクレイパー	III B-	6.8	3.0	1.4	23.8	Obs.	
132	196	スクレイパー	III B3	7.0	4.1	1.0	41.2	Obs.	
133	178	石	片	WAla	(6.6)	4.2	1.5	(10.0)	Gr-Mod.
134	196	石	片	WAla	7.9	4.2	0.9	55.7	Gr-Mod.
135	196	石	片	WAla	8.4	4.4	1.4	74.5	Gr-Mod.
136	356	石	片	WAla	10.3	5.1	1.1	110.	Gr-Mod.
137	201	石	片	WAla	(7.6)	4.1	0.8	(41.0)	Mod.
138	196	石	片	WAla	9.4	4.0	0.9	61.8	Mod.
139	403	石	片	WAla	9.3	4.4	1.6	98.8	Mod.
140	214	石	片	WAla	(6.0)	3.6	0.9	(39.5)	Mod.
141	467	石	片	WAla	8.6	4.0	1.3	89.2	Sch.
142	196	石	片	WAla	12.7	4.9	1.0	103.1	Mod.

図説 番号	遺構	名	材料	分類	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 kg	石質
143	213	石	所	W/A1	11.7	4.1	2.1	183.2	Gr-Mud.
144	198	石	所	W/A1	12.4	4.4	1.8	141.2	Sch.
145	211	石	所	W/A1	(12.4)	5.6	4.6	(590)	Gr-Sch.
146	186	石	所	W/A2 a	7.0	4.2	1.2	67.7	Gr-Mud.
147	1	石	所	W/A2 a	(7.5)	6.0	1.0	(75.3)	Mud.
148	5	石	所	W/A2 a	10.7	4.3	1.5	102.3	Mud.
149	186	石	所	W/A2 b	11.8	5.5	1.8	210.0	Gr-Mud.
150	469	石	所	W/A2 b	13.1	5.7	2.3	230.0	Sch.
151	233	石	所	W/A2 b	14.9	5.9	4.2	580.0	Gr-Mud.
152	513	石	所	W/A2 b	14.1	5.2	3.8	450.0	Gr-Mud.
153	446	石	所	W/A-	11.8	5.0	2.3	215	Gr-Mud.
154	176	石の み	所	NB	(7.1)	2.5	1.7	(56.2)	Gr-Mud.
155	221	たたき 石	所	V A1	10.0	4.0	1.6	95.5	Gr-Mud.
156	263	たたき 石	所	V A1	8.7	3.3	2.8	111.0	And.
157	58	たたき 石	所	V A1	19.9	5.4	3.0	490	And.
158	188	たたき 石	所	V A1	16.8	8.6	5.6	1,100	And.
159	5	たたき 石	所	V A1	18.5	7.9	5.3	1,220	And.
160	343	たたき 石	所	V A2	9.0	4.5	2.6	178.0	Gr-Mud.
161	381	壁 石	所	W B1	6.1	3.9	2.1	29.4	Tu.
162	201	壁 石	所	W B1	5.0	5.0	2.8	34.0	Tu.
163	343	壁 石	所	W B1	7.9	5.1	1.8	34.0	Tu.
164	347	壁 石	所	W B1					Tu.
165	198	壁 石	所	W B1					Tu.
166	198	壁 石	所	W B1					Tu.
167	198	壁 石	所	W B1					Tu.
168	198	壁 石	所	W B1					Tu.
169	455	壁 石	所	W B1					Tu.
170	351	壁 石	所	W B2					Tu.
171	90	壁 石	所	W B2					Tu.
172	239	壁 石	所	W B2					Tu.
173	229	壁 石	所	W B2					Tu.
174	251	壁 石	所	W B2					Tu.
175	234	壁 石	所	W B2					Tu.
176	453	壁 石	所	W B2					Tu.
177	519	壁 石	所	W B2					Tu.
178	444	壁 石	所	W B2					Tu.
179	444	壁 石	所	W B2					Tu.
180	534	壁 石	所	W B2					Tu.
181	387	壁 石	所	W B2					Tu.
182	D-9-b	壁 石	所	W B2					Tu.
183	212	壁 石	所	W B2					Tu.
184	D-6-c	壁 石	所	W B2					Tu.
185	D-6-c	壁 石	所	W B2					Tu.

表13 I 黑層出土石器一覽

表18 I 黒部出土石器一覧

図版 番号	出土地区	名 称	分類	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石 質	
1	C-12-b	石	鏃	IAla	1.3	1.3	0.2	0.4	Obs.
2	D-10-b	石	鏃	IAla	1.5	1.2	0.2	0.4	Obs.
3	C-13-b	石	鏃	IAla	1.8	1.3	0.2	0.5	Obs.
4	D-10-a	石	鏃	IAla	2.0	1.3	0.4	1.0	Obs.
5	D-8-c	石	鏃	IAla	2.2	1.5	0.7	1.0	Obs.
6	D-8-c	石	鏃	IAla	2.5	1.2	0.8	1.2	Obs.
7	D-9-d	石	鏃	IAla	2.4	1.5	0.4	1.2	Obs.
8	E-8-d	石	鏃	IAla	1.5	1.1	0.2	0.2	Obs.
9	D-9-a	石	鏃	IAla	1.9	0.9	0.2	0.3	Obs.
10	E-10-a	石	鏃	IAla	2.9	1.1	0.3	0.8	Obs.
11	C-13-b	石	鏃	IAla	2.8	1.5	0.3	1.0	Obs.
12	C-9-c	石	鏃	IAla	3.1	1.4	0.3	1.1	Obs.
13	C-11-c	石	鏃	IAla	3.3	1.7	0.4	1.6	Obs.
14	D-8-d	石	鏃	IAla	3.3	1.4	0.4	16.0	Obs.
15	D-12-c	石	鏃	IAlb	1.3	1.3	0.3	0.2	Obs.
16	D-13-d	石	鏃	IAlb	1.6	0.8	0.3	0.4	Obs.
17	E-8-d	石	鏃	IAlb	2.0	1.2	0.3	0.7	Obs.
18	C-9-c	石	鏃	IAlb	2.2	1.4	0.4	1.0	Obs.
19	D-12-c	石	鏃	IAlb	2.4	1.5	0.3	0.6	Obs.
20	C-9-c	石	鏃	IAlb	2.5	1.2	0.3	0.9	Obs.
21	E-8-d	石	鏃	IAlb	2.3	1.4	0.3	0.9	Obs.
22	E-8-d	石	鏃	IAlb	2.6	1.2	0.3	0.8	Obs.
23	C-10-b	石	鏃	IAlb	3.3	1.2	0.3	1.0	Obs.
24	E-8-d	石	鏃	IAlb	3.1	1.1	0.3	0.9	Obs.
25	E-8-d	石	鏃	IAlb	3.1	1.1	0.3	0.9	Obs.
26	D-11-c	石	鏃	IAlb	3.1	1.2	0.2	1.4	Obs.
27	C-11-b	石	鏃	IAlb	3.4	1.4	0.4	1.3	Obs.
28	D-10-d	石	鏃	IAlb	3.5	1.3	0.3	0.9	Obs.
29	D-10-b	石	鏃	IAlb	2.3	(2.2)	0.4	(2.6)	Obs.
30	D-8-c	石	鏃	IAlb	2.1	1.3	0.4	0.9	Obs.
31	D-9-b	石	鏃	IAlb	3.0	1.5	0.3	0.8	Obs.
32	D-12-a	石	鏃	IAla	3.0	1.3	0.4	1.4	Obs.
33	D-9-a	石	鏃	IAlb	3.4	1.5	0.4	1.3	Obs.
34	D-8-c	石	鏃	IAlb	1.9	1.0	0.3	0.5	Obs.
35	D-9-a	石	鏃	IAla	2.8	0.9	0.4	0.7	Obs.
36	D-12-d	石	鏃	IAla	2.1	1.1	0.2	0.3	Obs.
37	C-13-b	石	鏃	IAla	2.3	1.3	0.3	0.5	Obs.
38	C-13-b	石	鏃	IAla	2.7	1.3	0.3	0.8	Obs.
39	D-9-a	石	鏃	IAla	2.9	1.2	0.4	0.9	Obs.
40	D-9-a	石	鏃	IAla	3.0	1.1	0.6	1.3	Obs.
41	D-9-a	石	鏃	IAla	2.9	1.2	0.4	1.0	Obs.
42	C-10-a	石	鏃	IAla	(1.9)	1.3	0.4	(0.7)	Obs.
43	C-13-d	石	鏃	IAla	(2.2)	1.2	0.3	(0.7)	Obs.

国原 番号	出土地区	名	検分	長さ	cm	幅	cm	厚さ	cm	重量	名	質
44	D-10-a	石	ⅢA3	2.4	1.3	0.4	1.0	Obs.				
45	D-9-c	石	ⅢA3	2.6	1.1	0.3	0.6	Obs.				
46	C-12-b	石	ⅢA3	3.3	1.3	0.5	1.4	Obs.				
47	E-9-a	石	ⅢA3	3.9	1.2	0.4	1.4	Obs.				
48	D-10-a	石	ⅢA3	4.2	1.6	0.6	3.3	Obs.				
49	D-4-b	石	ⅢA1	2.6	1.5	0.6	1.7	Obs.				
50	D-3-b	石	ⅢA1	2.4	1.5	0.7	2.1	Age-Sh.				
51	C-8-d	石	ⅢA1	3.1	1.9	0.4	2.1	Bl-Med.				
52	E-8-a	石	ⅢA1	3.1	1.9	0.9	4.3	Obs.				
53	E-8-d	石	ⅢA2	2.5	1.0	0.4	1.0	Obs.				
54	C-13-c	石	ⅢA2	4.0	1.0	0.7	3.4	Obs.				
55	D-3-b	石	ⅢA1	5.7	2.6	0.8	15.8	Obs.				
56	C-11-c	石	ⅢA1	5.3	2.3	0.6	10.0	Obs.				
57	C-13-b	石	ⅢA1	6.1	3.7	1.4	30.0	Obs.				
58	D-7-c	石	ⅢA1	6.2	2.3	0.9	17.4	Obs.				
59	D-11-b	石	ⅢA1	5.7	3.0	0.8	12.7	Obs.				
60	E-6-a	石	ⅢA1	6.4	3.3	1.2	21.0	Obs.				
61	D-8-d	石	ⅢA1	7.5	3.1	0.9	19.0	Obs.				
62	D-4-a	石	ⅢA1	9.8	2.1	0.6	21.4	Obs.				
63	D-0-b	石	ⅢA1	8.8	3.5	1.1	30.0	Obs.				
64	E-6-a	石	ⅢA1	7.6	3.6	0.7	20.5	Obs.				
65	D-8-b	石	ⅢA1	8.5	4.2	0.7	26.8	Obs.				
66	C-10-a	石	ⅢA1	6.9	3.2	0.9	22.4	Obs.				
67	E-8-d	石	ⅢA1	6.7	3.1	1.3	26.1	Obs.				
68	E-6-d	石	ⅢA1	7.1	2.4	1.3	19.4	Sh.				
69	E-12-d	石	ⅢA1	6.2	2.2	0.9	10.0	Obs.				
70	D-8-c	石	ⅢA1	7.7	4.1	0.85	35.8	Obs.				
71	C-12-b	石	ⅢA1	5.8	2.9	1.0	16.0	Obs.				
72	C-11-c	石	ⅢA1	5.3	2.3	0.6	10.0	Obs.				
73	E-12-a	石	ⅢA3	4.2	2.6	0.7	6.2	Obs.				
74	E-8-d	石	ⅢA1	5.0	3.7	1.0	11.0	Obs.				
75	E-8-d	石	ⅢB1	4.1	2.4	1.1	10.5	Obs.				
76	D-7-c	石	ⅢB1	6.1	3.4	1.1	25.6	Obs.				
77	D-9-d	石	ⅢB1	8.4	3.8	1.4	30.0	Sh.				
78	D-7-d	石	ⅢA1	7.9	4.9	1.5	50.0	Sh.				
79	D-10-c	石	ⅢB2	2.5	2.3	0.7	4.3	Obs.				
80	C-11-c	石	ⅢB2	2.6	2.4	1.2	7.1	Obs.				
81	C-10-c	石	ⅢB2	3.9	3.6	1.1	12.0	Obs.				
82	D-10-a	石	ⅢB2	3.3	4.1	1.2	12.0	Obs.				
83	C-9-b	石	ⅢB2	3.8	3.7	1.0	14.2	Obs.				
84	C-13-b	石	ⅢB2	3.1	2.9	0.8	6.3	Obs.				
85	D-9-d	石	ⅢB2	3.6	3.0	1.3	13.0	Obs.				
86	D-8-d	石	ⅢB2	3.3	3.2	1.2	13.0	Obs.				

図面 番号	出土地区	名	統	分	期	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石	質
87	C-10-c	スクレイパー	III B2			3.7	2.8	1.0	9.0	Obs.	
88	D-10-a	スクレイパー	III B3			6.9	4.6	0.8	20.0	Obs.	
89	不明	スクレイパー	III B3			4.2	3.6	1.7	22.3	Obs.	
90	E-9-d	スクレイパー	III B3			3.6	3.1	1.1	12.3	Obs.	
91	E-9-a	スクレイパー	III B3			4.1	2.3	1.3	12.0	Obs.	
92	C-13-b	スクレイパー	III B3			5.1	4.2	0.7	16.0	Obs.	
93	C-12-c	スクレイパー	III B3			5.9	5.0	1.6	55.0	Obs.	
94	D-9-a	スクレイパー	III B3			6.0	2.9	1.0	19.0	Obs.	
95	D-9-a	スクレイパー	III B3			6.7	4.5	1.2	27.0	Obs.	
96	D-8-d	スクレイパー	III B3			5.7	5.0	1.0	30.0	Obs.	
97	C-9-c	スクレイパー	III B3			4.8	2.9	1.1	10.0	Obs.	
98	C-12-b	スクレイパー	III B3			4.7	3.1	1.3	20.0	Obs.	
99	C-12-c	スクレイパー	III B3			4.6	2.9	0.8	11.0	Obs.	
100	C-9-c	スクレイパー	III B3			5.9	2.9	1.2	18.0	Obs.	
101	D-9-b	スクレイパー	III B3			(7.1)	5.1	1.6	(50.0)	Obs.	
102	D-3-c	スクレイパー	III B3			5.0	2.7	1.0	12.5	Obs.	
103	E-9-a	スクレイパー	III B3			5.1	2.6	0.9	10.5	Obs.	
104	E-3-d	石	IV A1a			11.1	4.6	1.5	130.0	Gr-Mud.	
105	D-4-a	石	IV A2a			(8.4)	5.5	1.9	(110.0)	Mud.	
106	E-6-a	石	IV A2a			8.9	4.6	1.3	87.0	Gr-Mud.	
107	E-12-a	石	IV A2a			10.0	5.4	1.3	116.3	Bl-Mud.	
108	D-10-a	石	IV A2a			11.5	5.5	1.3	149.5	Sch.	
109	D-6-c	石	IV A1b			11.3	6.3	3.9	420.0	Mud.	
110	D-8-d	石	IV A1b			12.0	5.1	3.7	420.0	Gr-Mud.	
111	D-7-b	石	IV A2b			13.5	5.8	3.2	410.0	Mud.	
112	D-11-a	石	IV A2b			15.5	6.2	4.2	590.0	Gr-Mud.	
113	D-12-a	石	IV A2b			15.0	5.9	4.5	670.5	Gr-Mud.	
114	E-13-a	石	IV A2b			15.4	5.8	4.2	680.0	Gr-Mud.	
115	E-5-d	石	IV A2b			13.6	4.8	3.3	410.0	Gr-Mud.	
116	C-8-d	石	IV A1a			16.0	6.5	1.8	260.0	Mud.	
117	D-6-b	石	IV A1a			15.6	5.8	1.5	245.0	Mud.	
118	E-6-a	石の 不明	IV B			(5.3)	2.7	1.4	(36.8)	Mud.	
119	不明	石の 不明	IV B			8.6	2.8	0.8	34.4	Sch.	
120	D-9-c	たなき石	VA1			17.9	7.0	5.6	650.0	And.	
121	E-3-d	たなき石	VA2			13.5	3.9	1.8	125.0	And.	
122	E-3-d	たなき石	VA2			11.2	7.7	4.9	700.0	Per.	
123	E-4-a	たなき石	VA3			7.6	7.5	3.9	330.0	Age-Sh.	
124	E-9-a	すり石	IV B			13.4	6.1	4.5	630.0	And.	
125	D-11-b	白石	VB			18.0	10.8	6.9	2,100.0	And.	
126	E-5-a	白石	VB			12.5	5.8	5.9	970.0	And.	
127	D-4-b	磁石	III B1			6.4	7.6	2.9	74.4	Tu.	
128	D-3-c	磁石	III B1			(8.2)	4.3	1.9	(40.7)	Tu.	
129	D-4-b	磁石	III B2			9.2	8.1	2.1	220.0	Sa.	

国庫 番号	出土地区	名	種類	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石質
130	E-9-a	磁石	ⅡB2	9.5	5.9	5.5	300.0	Sa.
131	D-12-d	磁石	ⅡB1	15.7	8.4	1.8	330.0	Tu.
132	D-12-a	磁石	ⅡB2	13.5	18.1	5.8	1,910.0	Sa.
133	D-8-d	磁石	ⅡB2	15.4	11.5	4.3	770.0	Sa.
134	D-11-d	使用部のある 磁石	XB	24.6	5.0	2.6	480.0	And.
135	E-13-a	神状原石	XB	24.8	4.6	2.4	320.0	Obs.
136	C-9-c	神状原石		16.6	7.2	4.5	610.0	Obs.

第14 土器出土石群一覧

国庫 番号	出土地区	名	種類	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	石質
1	D-10-b	石	I A1a	2.1	1.0	0.2	0.8	Obs.
2	D-10-b	石	I A1a	2.2	1.1	0.3	0.5	Obs.
3	D-10-b	石	I A1a	2.4	1.3	0.3	0.8	Obs.
4	D-10-c	石	I A1b	1.9	1.1	0.3	0.4	Obs.
5	D-10-b	石	I A1b	2.5	1.3	0.6	1.8	Obs.
6	D-10-c	石	I A1a	3.4	1.8	0.5	2.6	Obs.
7	D-10-c	石	I A1b	3.3	1.6	0.4	1.8	Obs.
8	D-10-c	石	I A1b	2.0	1.3	0.3	0.8	Obs.
9	D-10-c	石	I A1b	2.5	1.3	0.4	1.2	Obs.
10	D-10-c	石	I A1b	2.8	1.6	0.3	1.1	Obs.
11	D-10-c	石	I A1b	3.1	1.4	0.3	1.0	Obs.
12	D-10-c	石	I A1b	3.2	1.5	0.4	1.4	Obs.

13	D-10-c	石	ⅡA1b	3.4	1.4	0.3	1.2	Obs.
14	D-10-b	石	ⅡA1b	3.6	1.3	0.3	1.4	Obs.
15	D-10-c	石	ⅡA2	3.4	1.1	0.5	1.4	Obs.
16	D-10-b	石	ⅡA2	3.2	1.6	0.7	3.1	Obs.
17	D-10-c	石	ⅡA3	2.9	0.9	0.4	0.5	Sh.
18	D-10-c	石	ⅡA3	2.3	1.1	0.3	0.9	Obs.
19	D-10-b	石	ⅡA3	3.0	1.4	0.4	1.2	Obs.
20	D-10-b	石	ⅡA3	2.8	1.2	0.3	0.8	Obs.
21	D-10-b	石	ⅡA3	2.8	1.4	0.4	1.1	Obs.
22	D-10-c	ナイフ状 石	ⅢA1	4.8	1.6	0.7	6.1	Sh.
23	D-10-c	ナイフ状 石	ⅢA1	5.7	3.8	1.0	18.0	Obs.
24	D-10-b	ナイフ状 石	ⅢA1	6.7	4.0	1.1	30.3	Obs.
25	D-10-b	ナイフ状 石	ⅢA3	4.1	3.8	1.2	19.4	Obs.
26	D-10-b	ナイフ状 石	ⅢA3	(4.9)	3.7	1.3	(17.2)	Obs.
27	D-10-c	ナイフ状 石	ⅢA-	4.3	2.4	0.4	4.3	Obs.
28	D-10-c	ナイフ状 石	ⅢA2	4.0	6.5	1.2	30.1	Obs.
29	D-10-c	スクレイパー	ⅢB2	2.7	3.5	1.1	10.0	Obs.
30	D-10-c	スクレイパー	ⅢB2	2.9	2.5	1.1	7.1	Obs.
31	D-10-b	スクレイパー	ⅢB2	2.5	3.1	1.0	8.8	Obs.
32	D-10-b	スクレイパー	ⅢB3	6.5	3.5	0.9	22.0	Obs.
33	D-10-c	スクレイパー	ⅢB3	6.4	4.0	0.8	18.0	Obs.
34	D-10-b	スクレイパー	ⅢB3	6.9	3.3	1.1	22.9	Obs.

図面 番号	出土地区	名称	分類	長さ cm	幅 cm	厚さ mm	重量 g	材質
35	D-10-b	スクレイパー	III B3	3.6	2.5	0.3	2.7	Obs.
36	D-10-c	スクレイパー	III B3	4.5	3.0	1.3	14.8	Agg-Sb.
37	D-10-e	スクレイパー	III B3	4.1	3.5	0.8	11.0	Obs.
38	D-10-b	スクレイパー	III B3	8.6	(3.5)	1.0	(37.3)	Obs.
39	D-10-e	スクレイパー	III B-	(3.1)	(2.6)	(1.0)	(8.5)	Obs.
40	D-10-e	スクレイパー	III B-	(4.8)	(2.8)	(0.9)	(11.8)	Obs.
41	D-10-e	棒状原石		10.2	1.8	1.1	17.0	Obs.

表15 SP出土石器一覧

図面 番号	産地	名称	分類	長さ cm	幅 cm	厚さ mm	重量 g	材質
1	52	石 鏃	I A1b	(2.9)	1.3	0.4	(1.1)	Obs.
2	12	スクレイパー	III B3	2.6	2.3	0.6	3.3	Obs.
3	42	スクレイパー	III B3	4.1	2.5	0.9	9.4	Obs.
4	65	スクレイパー	III B3	4.2	3.3	0.8	12.8	Obs.
5	6	スクレイパー	III B3	3.2	3.6	0.8	10.4	Obs.
6	56	スクレイパー	III B3	3.9	5.2	1.1	38.0	Obs.
7	39	スクレイパー	III B3	5.2	4.0	1.2	22.3	Obs.
8	48	スクレイパー	III B3	5.0	4.9	1.1	19.4	Obs.
9	114	ナイフ 鏃	III A1	9.2	5.1	1.3	62.5	Obs.
10	140	石 斧	IV A1a	11.4	5.4	2.0	104.0	Mud.
11	168	たき石	VA1	13.8	4.3	1.8	220.0	Gr-Mud.
12	271	すり石	VI A	8.9	12.4	7.3	1,790.0	And.

VII ま と め

1. 土器について

本遺跡を調査した結果、非亀ヶ岡系の土器が圧倒的に多く出土したのに対して、亀ヶ岡系の土器は少量である。この非亀ヶ岡系土器(=在地系土器)²¹を深鉢に施文された文様と層位的事実を基にして分類を行った。まず、Ta-と層を鏡層として下層の土器と上層の土器に大きく分類し、次に下層の土器を縄線文を主体とする土器群と円弧文を主体とする土器に細分し、さらに上層の土器は、格子目文からの文様の流れによって、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ群にわけた。Ⅰ群からⅤ群にかけての文様の流れは、次のとおりである。

すなわち、Ⅰ群の縄線文は、円弧文の下地の文様としてひきつがれるがその量は少い。Ⅱ群で主体となる円弧文は、円弧が直線化して逆ハの字形(鋸歯文の祖型となる)あるいは格子目状の文様に変化する。Ⅲ群になると格子目状²²の文様は、縦に描く数条の沈線が一か所にかたまる傾向をもっとともにその沈線が波形になるものが新たに出現する。このような特色をもつ格子目文は、Ⅳ群に移行すると東になった波形の沈線を数か所に割りつけ、その間に数条の平行沈線を描く文様(=蛇行沈線文)に変化する。この蛇行沈線文は、Ⅴ群になると波形の沈線が直線化する。直線化した沈線と平行沈線が結びつき、環状の文様に変化する。しかし、この文様は、Ⅴ群全体のなかでは少数である。Ⅴ群の主体的な文様は、曲線文・弧線文である。この曲線文・弧線文は、Ⅳ群を構成する蛇行沈線文、平行沈線文から派生する要素をもっていない。これらの文様をもった在地系土器の器種組成および器種ごとの特徴を以下述べる。

在地系土器の器種組成は、深鉢、浅鉢によって基本的に構成され、壺が欠落している。その点は亀ヶ岡系土器と大いに異なる。

Ⅰ群からⅢ群にかけては深鉢・鉢・浅鉢という組成を保っていたが、Ⅳ群になると新たに舟形土器が出現してくる。この舟形土器の出現は、鉢にも影響を与えているようである。Ⅴ群では舟形土器が隆盛する。特にⅤ群は、器厚が厚く、口唇の形態が平行になるなど他群と大いに異なる。

- ①：深鉢は、大きくとらえると2つのタイプがある。ひとつは、逆ハの字形に反り立つものもう一方は、口縁から胴部にかけてふくらみをもち、口径より胴部の最大幅が大きいものがある。底部は、いずれも平底で丸底・尖底になるものはない。Ⅰ群では、反り立つものが大部分である。Ⅱ群になるとふくらむタイプが顕著になる。Ⅲ群ではふくらむタイプは少くなり、反り立つものが圧倒的に多くなる。特に後者は底部がすばまるものが目立つ。Ⅳ群ではまた胴部のふくらむ例が現われてくる。Ⅴ群ではふくらむ例より反り立つものが多くなる。

口縁は、平縁で、波状になるものはない。口縁に山形突起が出現してくるのは、Ⅱ群土

器以降である。山形突起が顕著に認められるのは、Ⅱ群土器である。口唇の形は、平形と切り出し形がある。切り出し形は、Ⅱ群から多く見られ、Ⅳ群まで引き続くが、Ⅲ群に切り出し形の変形化した断面観が尖がるものが現われる。Ⅳ群では尖がるものが多くなる。Ⅴ群になると切り出し形の伝統がきえ、平形が圧倒的に多くなる。

- ②：鉢は、深鉢を小型化したもので、亀ヶ岡系の鉢のように口縁部がくの字に屈曲して頸部をつくりだしているものはない。Ⅰ群で、すでに山形突起をもつ例が現われているが、特にⅢ群では2個一対の山形突起の下に吊耳的な機能をもつ孔が作出された鉢が現われその量も多い。Ⅳ群にもあるが、その量は減少している。そのような鉢はⅤ群にはなが頸部がくの字に張り出す舟形土器に似た器形が新たに現われる。
- ③：浅鉢は、大型と小型のものがある。特に大型浅鉢はすり鉢状の器形をなす特異なものである。平底と尖底に近い丸底とがある。特に後者の場合は底部に小さい張り出しをもつ例が多い。Ⅰ群では、すでに口縁に凸形の突起をもつ平底がある。しかし、尖底に近い丸底の例はない。Ⅱ群になると平底と尖底に近い丸底がともにある。そして、口縁にボタン状の突起をもち、渦巻状の縞条文が押圧される例が現われる。Ⅰ群・Ⅱ群とも口縁の裏側に幾何学的文様が施文される例はない。Ⅲ群になると口縁の裏側に文様が施文される例が出現すると同時に口縁に切り込みによって作出された凸形の突起が4個対角線上に並ぶ例が多くなる。平底よりも尖底に近い丸底が多い。Ⅴ群になると尖底に近い丸底がなくなると共に大型浅鉢それ自体が減少する。口唇の形態は、Ⅰ群からⅣ群にかけて切り出し形の例が多い。
- ④：舟形土器は、ⅣもⅤ群のみに伴う。磨消帯によって区分された胴部が、くの字に張り出す例と張り出さない例とに分けられる。舳先の直下に必ず丸い孔を作出して吊耳状の機能をもたせている。稀に、外耳をもつ例がある。このような吊耳状の丸い孔をもつ例は鉢にも類例がある。

以上、当遺跡では上記のような文様、器種組成の変遷をたどることができる。次に、本遺跡における層位的事実と他の遺跡出土の土器との関係で、Ⅰ～Ⅴ群の幅年について述べる。

まず、Ta-c層を境にして各群をわけると下層には、Ⅰ群・Ⅱ群、上層にはⅢ・Ⅳ・Ⅴ群土器が出土するという層位的事実がある。次にⅠ群とⅡ群とが分けられるのは以下の事実による。すなわち、縄線文土器を出土する社台1、美々7、柏原18、内藤遺跡において、口縁に数条の平行沈線、刻線あるいは縄線文の上に()状の文様を描く土器(円弧文土器)は伴っていない。また、最近、標津町のチシネ第1遺跡において、縄線文土器を混じえずに円弧文、鋸歯文をもつ一群が新たに発見されている。これらの事実を基にして、Ⅰ群とⅡ群をわけた。例えば、Ⅰ群における縄線文、刺突文、条痕文、刻線文の文様構成は、美々7遺跡Ⅱ黒層出土の土器群(図6-50土器6参照)柏原18、社台1遺跡などでも見られる。ただ、柏原18、社台1遺跡では、縄線文土器の占める比率は少く亀ヶ岡系土器²³が多いようである。また、オホーツク海沿岸の内藤遺跡出土のⅡ群土器は、縄線文、刺突文、瓜形文などが見られ、深鉢、鉢、浅鉢(すり鉢

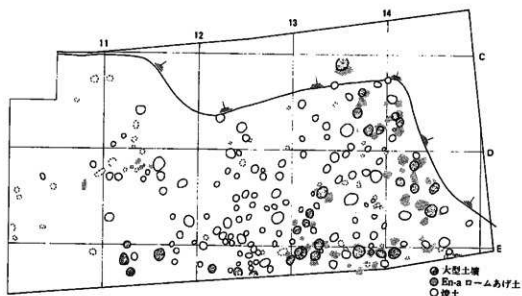


図157 II 黒層遺構関係図

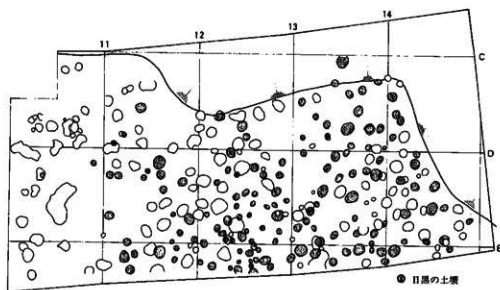


図158 東地区遺構配置図

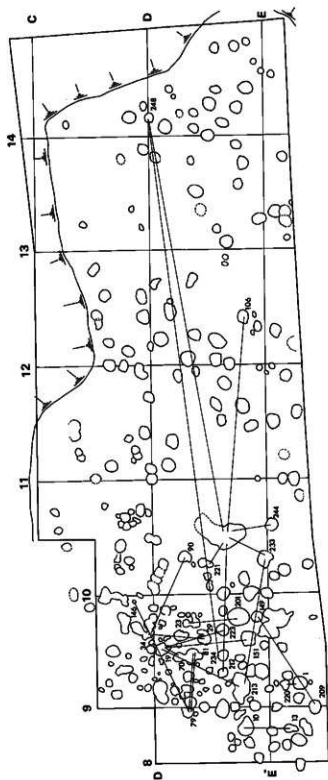


圖159 遺構出土器族合關係圖

I 黒 II 黒 器種組成

	浅鉢	深鉢	鉢	浅鉢 I	浅鉢 II	身部	不明	
I 黒	26 %	16 %	5 %	6 %	33 %			(総数 2,616点)
II 黒	2 %	1 %						
	14 %	28 %	15 %	20 %	20 %			(総数 475点)

深鉢

層	群	(%)	
I 黒	III	平行沈線文 80	15
	IV	平行沈線文 64	蛇行沈線文 36
	V	曲線文 79	環状文 18
			3
II 黒	I	縄線文 100	
	II	円弧文 75	格子目文 18
			7

深鉢

平行沈線文 57	平行深沈 沈線文 14	円弧文 14	曲線文 14	蛇行沈線文 14	縄線文 14	格子目文 14	環状文 14	不明 14
3221								

634

図160 器種別文様構成グラフ

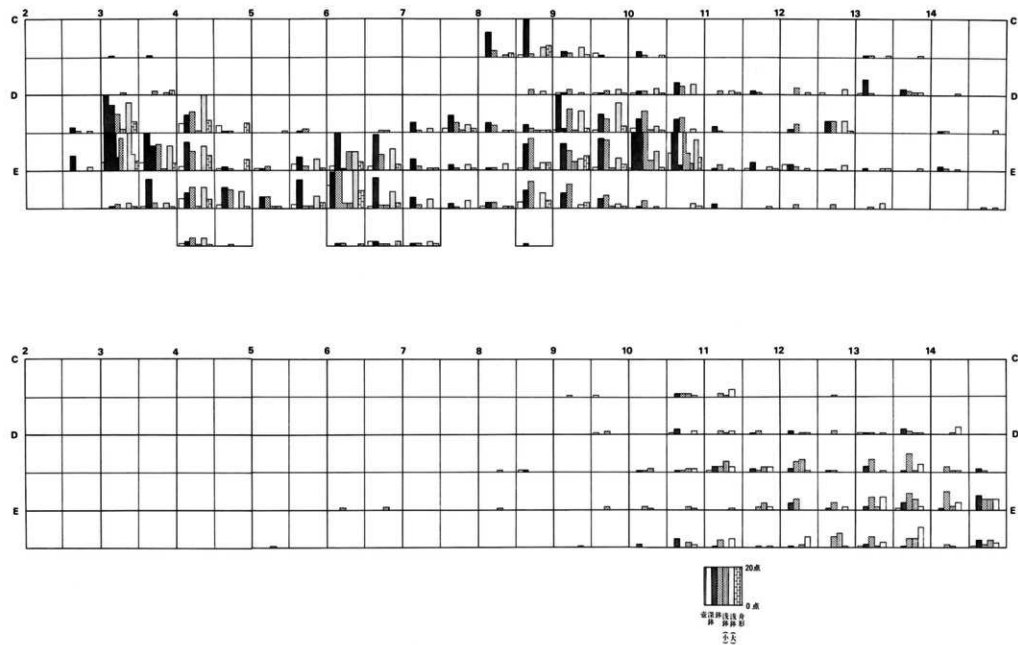
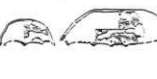
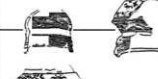


図161 グリット別器種組成グラフ

圖162 マナチ遺跡出土土器形状復元図

 群 I	 群 II	 群 III	 群 IV	 群 A
				
				
				
				

形の大形浅鉢がすでにある)という構成をもつ。このように文様構成、器種組成において当遺跡のⅠ群とほとんど変わらない。

第三点として、Ⅱ群とⅢ群との関係についてである。従来、Ⅱ群の主体をなす円弧文土器は美沢川流域の遺跡を調査した段階で、注目をあびるようになった。しかし、本グループは美々5遺跡ではTa-c層の上下から、美々6、美々7、美沢1の各遺跡ではTa-c層の下から出土し、大洞A式およびタンネトらし式に先行するものとしてとらえられていたが明確に型式区分できずにいた⁸⁴ものである。当遺跡では、層位的な事実とⅡ群における円弧文・鋸歯文・格子目文対平行沈線文との比率が、Ⅲ群になると両者の比率が全くに逆になるという文様構成の推移からⅡ群とⅢ群をわけることになった。Ⅱ群土器は、円弧文・鋸歯文・格子目文という文様構成をもち、大形浅鉢の突起などに渦巻状の摺系押圧文が施文され、ヌサマイ式土器の一部に共通する諸特徴をもっている。なお、ヌサマイ式土器には、日ノ浜式類似の精製土器が伴出する。他方、Ⅲ群土器は、縄線文が消え、格子目文・平行沈線文(斜突文が組み合わさったものも含む)などによる文様構成をなし、器種は、深鉢・鉢・浅鉢(特に大形浅鉢が口縁の裏側に幾何学文様が施される例)によって構成される。このような諸特徴をもっている土器群としてはタンネトウレ式土器があげられる。

第四点としては、Ⅲ群とⅣ群との区分である。Ⅲ群とⅣ群をわけた理由としては、次の点を考慮した。土器塚出土の土器群は蛇行沈線文が顕著に認められ、器種に舟形土器が新しく加わっている。これらの要素は、鳩山第3地点出土の土器群と極めて共通性をもっている。タンネトウ遺跡と鳩山第3地点出土の土器を較べると次の事実がわかる。すなわち、両者は、平行沈線文を主体とするが、前者には蛇行沈線文が出現していないこと、舟形土器がほとんどないこと、後者は格子目文はなく、曲線文がわずかに見られること。大形浅鉢が減少していることそして舟形土器が出現している。これらの事実と当遺跡において格子目文(特に縦の沈線が波形になるもの)から蛇行沈線文への推移が追えることから、Ⅲ群とⅣ群をわけた。

第五点としては、Ⅴ群の位置づけに関してである。Ⅳ群の主要なモチーフとなる曲線文、弧線文はTa-c層の上層から出土していることそして文様構成・器種組成においてとⅢ群とⅣ群の間には連続性があるのでその間に位置づけることができないこと、また、Ⅲ群の前にもっていくことはⅡ群とⅢ群の間にも文様の連続性があることから不可能であるなどの理由からⅣ群の後に位置づけた。

ところで、Ⅴ群を特徴づける弧線文は、文様の流れから考えるとⅣ群の蛇行沈線文・平行沈線文から生みだされてくる可能性は極めて薄い。すなわち、Ⅱ群の円弧文からⅣ群の蛇行沈線文の間には文様の推移が連続しているが、Ⅳ群とⅤ群の間には断絶がある。ところで、当遺跡に入組文あるいは沈線によって弧を描く独特の文様をもつ非在地系土器群がある。この一群は日ノ浜8号遺跡出土の土器にその系統を求めることができる。後者の土器群は聖山Ⅱ式に後続するグループと理解され、変形工字文を特徴とする大洞A'式土器は共伴していないが、大洞A'式に相当するものとして位置づけられている⁸⁵。当遺跡でも大洞A'式土器は伴っていない。し

かし、太平洋岸の水川遺跡では、大洞 A' 式土器が曲線文を主体とする在地系土器と共存すると
いわれている。ただ、水川遺跡では、大洞 A' 式そのものは少量で砂沢式が多いようである。こ
のような事実を考えると大洞 A' 式に相当すると思われる弧線文・曲線文をもつ V 群土器は、さ
らに細分される可能性をもっている。しかし、当遺跡では細分するに足りうる資料がないので
これ以上ふれることができない。いずれにしても、V 群のみならず、I ~ IV 群が大洞諸型式と
どのような対応関係にあるのかは今後の課題である。

- 注) 1. 土器を述べるに当って、在地系の土器は、亀ヶ岡系土器と異なり祭祀用のための土器を別個につく
るようになるのは、舟形土器を伴う IV 群以後である。在地系土器の場合、粗製と精製との区別がそも
そも成立していないところにその特徴がある。そこで墓と住居跡出土の土器あるいは遺構外土の土器
との区別をしないで論じることとする。
2. 格子目文あるいは蛇行沈線文をそれぞれ III 群・IV 群のメルクマールとしているが実際は、平行沈線
文が主体を占めている。正確に表現すると平行沈線文・格子目文そして平行沈線文・蛇行沈線文とい
う文様構成をとる。そこで平行沈線文がベースになっているので、特徴的な文様を取り出して、III 群
は格子目文、IV 群は蛇行沈線文を主要なモチーフとした。
3. 亀ヶ岡系土器は、粗製に条痕文をもつのが特徴である。この条痕文土器は太平洋岸では高砂遺跡、
日本海側では桃内遺跡などに顕著に見られるもので、東北北半の土器と対比され、大洞 C₂ 式併行に位
置づけられている。
4. 北海道教育委員会『美沢川流域の遺跡群』III
5. 石本省三 『尾白内』続縄文遺跡の調査報告 1981 森町教育委員会

2. 石器について

Ⅱ黒・Ⅰ黒の両包舎層と遺構から出土した石器等については器種ごとに説明を加えてきた。また、これらの石器群は縄文時代晩期中頃から終末にかけての時期に属するものであることは先に述べた通りである。

ここで、各器種の中でも特徴的なものについて若干の考察を加えたい。

石鏃

石鏃はⅡ黒層では有茎鏃が主体であり、無茎鏃はわずか1点である。Ⅰ黒層になると、無茎鏃と有茎鏃の比率は約3:1更に土器塚では、約4:1となり、Ⅱ黒・Ⅰ黒の両層では石鏃形態面で大きな変化がみられる。これと似た変化は、シビシウス第4遺跡と同第1・3遺跡の間にもみられる。すなわち、Ⅱ黒層とシビシウス第4遺跡は大洞C₂に相当する土器が出土し、Ⅰ黒層とシビシウス第1・3遺跡では大洞A~A'に相当する土器が出土するという土器層年上の新旧関係がある。つまり、先の石鏃の形態面での変化は、この土器の新旧に対応していると考えられる。また、石鏃の有茎・無茎の変化は遺跡部に限れば、晩期前半まで有茎鏃の割合が高く、後半になると無茎鏃が多くなるようである。したがって、当遺跡のⅡ黒→Ⅰ黒→土器塚という経過は、石鏃の形態が、有茎鏃が主体→無茎鏃が主で、有無鏃が^ミ従→無茎鏃が主体、という変化に対応するように思われる。土器と石器とではその変遷が同じではなく、遺跡部においては縄文時代前半までは無茎鏃が多い傾向にあることを考えると、無茎鏃が卓越するⅠ黒の石器群は晩期の中でも若干新しい時期に属する可能性があると思われる。

ナイフ状石器

ナイフ状石器と分類したものは、縄文時代晩期末葉から縄文時代にかけて道南から道央・道東で認められる、いわゆる「靴形石器」「石ナイフ」と呼ばれてきたものである。当遺跡では、主としてⅠ黒層・土墳墓から出土している(図138・139・147・148)。形態から3つに分類しているが、素材面では主として縦長剥片が利用された槍先型(図147-61など)・木葉型(図148-74など)と、横長剥片が利用された横型の2種に分けられる。

これらナイフ状石器は、主として縄文時代に多く認められ、主な遺跡には、西桧栂B₂遺跡・瀬棚南川遺跡・アヨコ遺跡・元江別1遺跡・紅葉山33号遺跡・宇津内遺跡などがある。これら各遺跡から出土したナイフ状石器について紹介している上野(1982)によると「ナイフ状石器に類似した資料は遺跡から道東の縄文時代晩期終末には認められ、その祖型は、遺跡部では大洞C₂式併行期の石狩町志美第4遺跡、道東では大洞B-C、C₁式併行期の可能性もある斜里町内藤遺跡でみとめることができる。』¹⁰⁾という。また、ナイフ状石器のタイプとしては、道東では、槍先型が多く、刃部の幅広のタイプは道南から道央にかけて広く認められるという。

さて以上のことから当遺跡のナイフ状石器をみると、先に述べたように、槍先型のものが多く、幅広タイプはわずか3点(図147-64・65、図148-70)しか出土していない。また、大洞C₂に併行すると考えられるⅡ黒層から出土するナイフ状石器(図134-12)はⅠ黒層出土

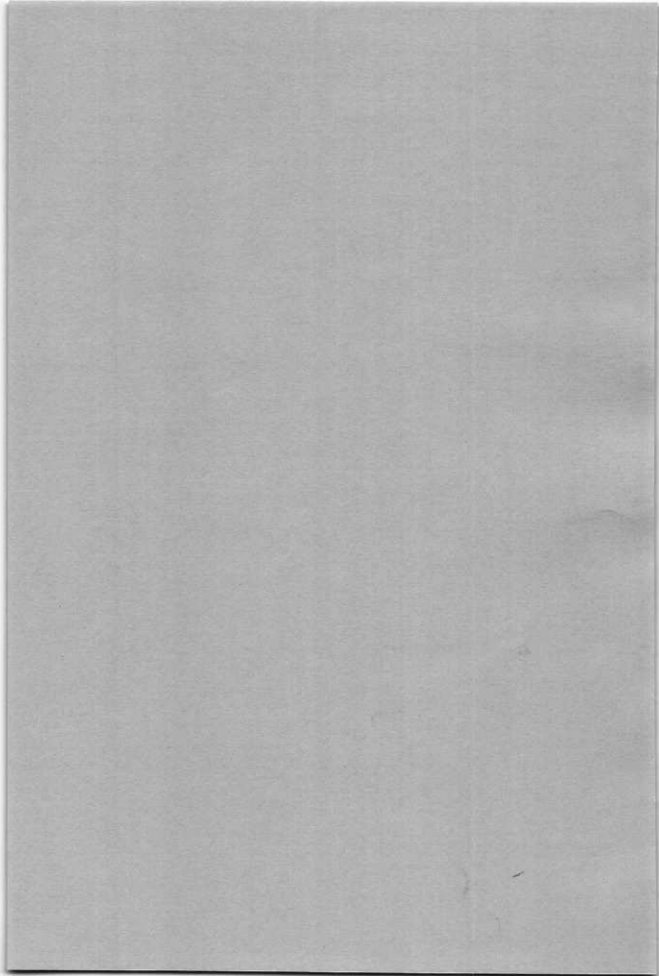
の槍型と同じものであり、志美第4遺跡にみられる幅広の祖型は見あたらない。すなわち、II黒層・I黒層を通して、ナイフ状石器は道東に広く認められる槍型が多く、道南の幅広タイプはごくわずかである。また槍型の形状は例えば中の島遺跡のA号遺構出土石器 (Fig. 18の18~22) 柴浦第2遺跡の第13号竪穴ホ号出土の石器 (Fig. 283-15)、宇津内遺跡B地点2号竪穴出土石器 (図版38の3)、興津遺跡出土の石匙・縦型石匙と分類されているもの、などに類似している。幅広タイプは、西梗桔B₂遺跡で靴型石器A₁類 (61図4~8) に分類されるものと類似している。また、木葉形に分類されている図148-78は、聖山遺跡 (図III-9の17) 出土のものによく似ている。

以上、主として槍型のタイプについてみてきたが、このナイフ状石器は縄文時代終末晩期から統縄文時代にかけて多く認められることから、その形態・調整の仕方などの変化を目安にして縄文時代と統縄文時代を区分できる可能性がある。石鏃のところで述べたように、石器の形態の変化だけの時代区分には問題がある。しかし、例に金盛 (1981) が考えているように、無茎鏃と両面加工エスクレイパー (当遺跡でナイフ状石器に分類しているもの) の存在が縄文時代と統縄文時代を区分するひとつの目安であるとなると、無茎鏃が主体でありかつ両面加工のナイフ状石器がみられるI黒層の石器群は、『統縄文文化的な要素を内包しつつも、基本的には縄文文化の石器群』 (金盛1981)²² であるといえるかも知れない。

注) 1. 上野秀一『縄文文化の研究』第6巻 統縄文・南島文化—石器—

2. 金盛典夫『斜里町文化財報告I』斜里町教育委員会

編 付



ママチ遺跡出土の動物遺存体

西 本 豊 弘
増 川 栄 一

ママチ遺跡より出土した動物骨はすべて焼骨であり、変形・縮小し小さく割れているものがほとんどである。I 黒層・II 黒層の遺構・包含層から重量にして約 19 kg 出土し、その内 I 黒遺構 4.4 kg (23%)、I 黒層 14.2 kg (7.4%) であり、大部分が I 黒層からである。

遺物の採集方法は、骨を含む土壌を採集し、水洗・選別する方法を用いた。時間的な制約のためにすべての資料を分類することは出来ないで、保存状態が比較的良好なものを抽出し、指骨を中心に分類することとした。指骨も火を受けて変形し、割れているものが多いので、近位関節部の数を数えることとした。なお指骨以外にもエゾシカ、イノシシ等の四肢骨の破片が多く含まれていることは言うまでもない。

出土状況

先にも述べた通り当遺跡から出土した焼骨はその大部分が I 黒層から出土したものである。全て細かく砕けた状態であり、残存状態の良いものは稀であり、このことは I 黒層の遺構(縄文時代晩期の土壌基等)についても同様である。まず I 黒層の出土状況をみてみよう。出土位置は調査区のほぼ全域に及んでおり、遺構の分布と関連する。特に D-3 区と D-10 区がいずれも 5 kg 以上出土し、調査区の中でも出土量が濃い地区の中核になっている。この同発掘区は包含層に、土器片が他の発掘区と比べて多量に出土したところでもあり、後者の D 10 区からは土器塚が出土している。

I 黒層全体では、焼骨の出土頻度と土壌の出土頻度は強い相関関係があり、土壌の周囲および土壌の少ない地区に広がる焼土跡からみて、獣骨は当遺跡で焼かれたことはまちがいない。

また、土壌基に副葬された土器、石器の出土状態のうち土器は意図的に割られ、かつ完形復元できるのは少ないことから、細かく割れて出土する焼骨も、土器片と同じ考えのもとに何らかの意味を付して砕かれたものであり、獣骨利用の葬送儀礼と理解して良いと思われる。

次に IP-339 であるが、表 1 にあるように、ヒグマの基節・中節・末節骨がシカ・イノシシと混じって出土している。土壌からこのような形で出土する例は少なく、獣骨を副葬する意味からしても興味深い。IP-339 は E-7-d 区に位置し、T a-c 層土面でプランが検出できたものである。確認面段階の土壌横口部から炭化したクルミが数個しており、さらに掘り下げた壕中から台付鉢土器の下からまとまって検出された。いずれも強く火熱をうけたもので、出土層位から一括土器と一しよに出土している。

分類の結果判明した種は、ホホジロザメ、ウグイ、ヒグマ、エゾオオカミ、イノシシ、エゾシカの 6 種である。ホホジロザメは下顎歯の歯冠部のみの破片が 1 例であり、基部は欠損しており、加工されたかどうか明らかではない。ウグイは、かなり大きな個体の椎骨が 9 個みられた。この種は多く捕獲されていたと推測される。哺乳類の出土量は、指骨を中心に第 1 表に示した。エゾシカが主体であることは北海道の遺跡として当然である。またヒグマ、エゾオオカ

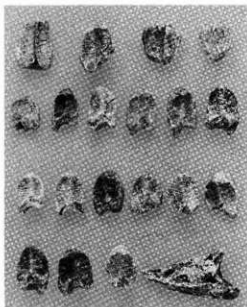
ミの出土も不思議ではないが、墓域からの出土という点は興味が引かれる。またイノシシがかなり出土していることは注目すべきことである。そこでイノシシについて若干考察を加えてみよう。

まず当遺跡での出土内容をもてみると、焼骨であることと、指骨が中心であるため性別、年齢構成などは定かではないが、成獣であること、かなり大きな個体も含まれていることは明らかである。またその出土量は、エゾシカと比べると少ないが、野生のエゾシカが豊富に生息していることを考えると、当遺跡でのイノシシの出土量はかなり多いと言わねばならず、イノシシが例外的に持ち込まれたのではなく、恒常的に利用されたものと思われる。イノシシの存在が墓に伴う意味で重要であったのか、または、かなり多く存在したために墓域でも出土したのかは当遺跡のところ定かではない。

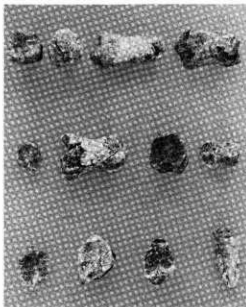
ところで北海道の遺跡でイノシシが出土することは古くから知られており、近年では千歳市美々4遺跡・白老町社台1遺跡などでも報告したことがある。現在では道南部の縄文時代後期中葉から晩期の遺跡の場合、動物遺存体が例外なく出土すると言ってよい状況である。しかし、このことから縄文時代後期中葉以後には道南部に野生化したとは考えられない。おそらく東北地方から持ち込まれただけではなく、幼、若獣が生きたまま北海道に持って来られ、若干の期間飼育された可能性が考えられる。ただし、イノシシの飼育の問題はイノシシの骨が、焼骨となって墓域に伴うことや、一般に縄文時代後期末から晩期に焼骨が墓域に伴う傾向があることに関連している可能性がある。晩期における焼骨と墓との相関という縄文社会上の一現象の解明の上でも今後、北海道のイノシシの問題を考えてみる必要があるであろう。

表16

地区	種名	基節骨			中節骨			末節骨			その他
		L	R		L	R		L	R		
C-8-d	シカ				1	1					シカ中足骨1
	イノシシ				1						足骨2、基節骨1
C-9-a	シカ				1						
	イノシシ										
C-13	シカ				2	1					ヒグマ基節骨1
	イノシシ										
D-3-a	シカ	2	1		1	6	1				ヒグマ中足・中節骨1、骨針1
	イノシシ	1									イノシシ中足・中節骨1
D-3-C	シカ	2			10	2	2	5			
	イノシシ				4	1	2				
D-3-C	シカ				4	2					
	イノシシ										
D-3-d	シカ				1						
	イノシシ										
D-4-b	シカ				1	4	1				
	イノシシ				1						
D-4-C	シカ										
地区	種名	基節骨			中節骨			末節骨			その他
		L	R		L	R		L	R		
D-6-C	イノシシ										イノシシ中足骨1
	シカ				1	1	1				
D-8	イノシシ					1					
D-9	シカ	1			1	1		2	1		ヒグマ中節骨1
	イノシシ					1		1			ヒグマ中足骨1
D-10-C	シカ							1	1		
	イノシシ								1		
D-10	シカ	4	2		7	2		2	2		
	イノシシ					1		2			
P304	シカ				1						
F339	イノシシ					1		1			
	シカ				1	2		1			ヒグマ中足骨1、中節骨5
P467	イノシシ				2						
P471	シカ				1						
P512	イノシシ					2					
	シカ					1					
II F38	イノシシ										ヒグマ中節骨1



シカ



イノシシ



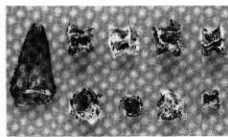
獣骨片



クマ

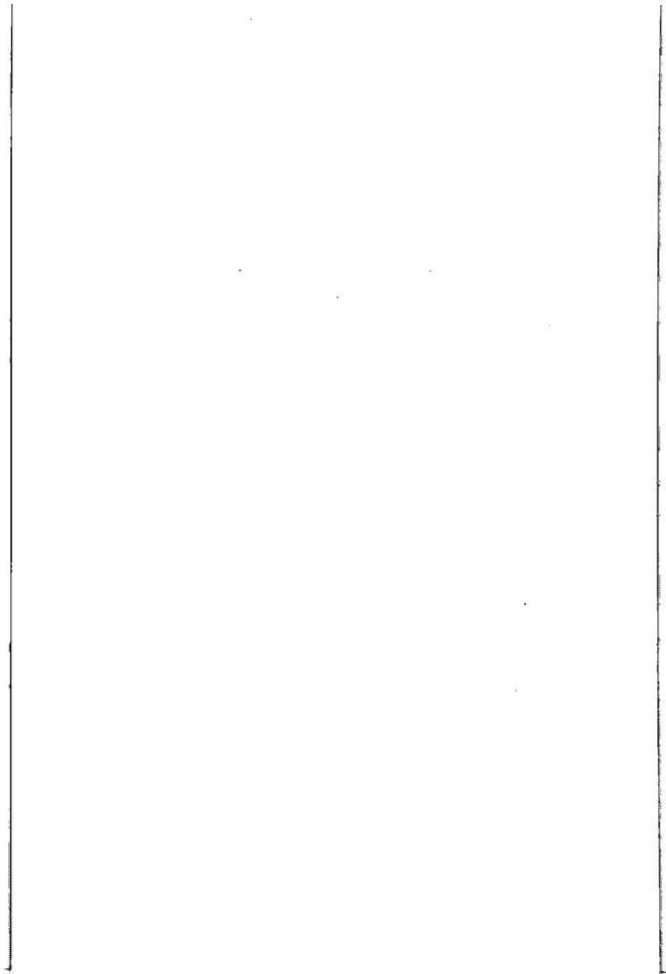


骨針



サメ

魚骨



ママチ遺跡出土の花粉分析

山 田 悟 郎

1. 試料

ここで取扱った試料は千歳市ママチ遺跡の発掘に際して土壌・住居跡埋土・旧河道右岸斜面より採取された14点の腐植土、泥炭質腐植土で、試料が採取された遺構および層位は次のとおりである。

H-2、第II層：縄文時代晩期の住居跡を埋積する、Ta-c火山灰や炭化物・獣骨がまじる暗茶褐色土。

P-496、第V層：縄文時代晩期の土壌を埋積する。粘性をもった黒褐色土。

P-465、第I～III層、V、VII層：擦文時代の土壌を埋積する腐植土である。I層、黒褐色土（試料No.1～3）、III層、苫小牧火山灰まじりの茶灰色土（試料No.4）、II層、Ta-c火山灰まじり暗茶褐色土（試料No.5）、V層、暗茶褐色土（試料No.6）、VII層、En-aローム質粘土まじりの黄茶褐色土（試料No.7～8）

旧河道右岸斜面：泥炭質暗褐色土（試料No.1～2）、泥炭質茶褐色土（試料No.3～4）

2. 処理方法および表示方法

試料の処理にあたっては、約1kgの土壌試料をピーカーにとり、次のとおり処理した。

KOH処理→水洗→混酸処理→水洗→比重分離→水洗→アトリシス処理→水洗→HF処理→水洗の順に行ない、グリセリンゼリーで封入し、マニキュア液でシールし、各3枚のプレパラートを作成した。

検鏡にあたっては樹水花粉が200個以上になるまでに出現した花粉・胞子を無作為に同定し、計数した。

表示にあたっては樹水花粉は樹水花粉総数を基数とした百分率で、草本花粉・胞子については総花粉・胞子数を基数とした百分率で表示した。

また、樹木・草本花粉・胞子のそれぞれの構成比も百分率で表示した。

3. 分析結果

14点の試料から樹水花粉25属1科、草本花粉3属21科、胞子4科の28属26科の花粉・胞子が検出された。

その内訳および想定される母植物は下記のとおりである。

針葉樹：Picea（トウヒ属：エゾマツ・アカエゾマツ）、Abies（モミ属：トドマツ）、Pinus（マツ属：ハイマツ）、Gymnomeria（スズキ属：スギ）

広葉樹：Alnus（ハンノキ属：ハンノキ・ケヤマハンノキ・ヤマハンノキ）、Carpinus（クマシデ属：サワシデ）、Betula（カバノキ属：シラカンバ・ウグイスカバ）、Corylus（ハンバミ属：ツノハシバミ）、Ficus（ブナ属：ブナ）、Quercus（コナラ属：コナラ・ミズナラ）、Juglans（クルミ属：オニグルミ）、Klmus（ニレ属：ハルニレ・オヒョウニレ）、Styrax（エゴノキ属：ハクウンボク）、Cornus（ミズキ属：ミズキ）、Fraxinus（トネリコ属：ヤチダモ・アオダモ）。

Magholia (モクレン属: ホウノキ・コブシ)、Tilia (シナノキ属: シナノキ・オオバボダイジュ)、Acer (カエデ属: エゾイタヤ・ハウチワカエデ・ヤマモミジ等)、Cercidiphyllum (カツラ属: カツラ)、Sorbus (ナナカマド属: ナナカマド・アズキナシ)、Phellodendron (キハダ属: キハダ)、Phus (ウルシ属: ヤマウルシ・ツタウルシ等)、Araliaceae (ウコジ科: ハリギリ・コシアブラ・タラノキ)、Salix (ヤナギ属:), Hydrangea (アジサイ属: ツルアジサイ・ノリウツギ等)、Sambucus (ニワトコ属: エゾニワトコ)

草本: Polygonaceae (タデ科: オオイタドリ・ミゾソバ・エゾノギシギシ等)、Fagopyrum (ソバ属: ソバ)、Chlorathaceae (セリウ科: ヒトリシズカ・ワタリシズカ)、Chenopodiaceae (アカザ科: シロザ等)、Caryophyllaceae (ナデシコ科: エゾカワナナデシコ・タチハコベ・ミミナグサ等)、Ranunculaceae (キンボウゲ科: ニリンソウ・カラマツソウ・アキカラマツ・ルイヨウショウマ・サラシナショウマ等)、Cruciferae (アブラナ科: オオバタネツケバナ・コンロンソウ等)、Rosaceae (バラ科: キンミズヒキ・オニシモツケ・ヤマアキショウマ・オオダイコンソウ・ワレモコウ等)、Leguminosae (マメ科: クサフジ・ヌスビトハギ等)、Haloragaceae (アリノトウグサ科: アリノトウグサ)、Umbelliferae (セリ科: エゾニユウ・シャク・ヤブジラミ・セリ等) Plantaginaceae (オオバコ科: オオバコ)、Artemisia (ヨモギ属: オオヨモギ)、Carduoideae (キク科: オオバキ・ヤマハハコ・ヨツバヒヨドリ・ハンゴンソウ・ヨブスマソウ・エゾノサワアザミ等)、Ualerinaceae (オミナエシ科: オトコエシ)、Geraniaceae (フウロウソウ科: チシマフウロウ・ゲンノショウコ等)、Labiatae (シソ科: エゾタツナミソウ・エビシロネ等)、Gramineae (イネ科: ススキ・ササ・ヨシ・エノコウグサ等)、Cyperaceae (カヤツリグサ科: エゾアブラガナ・スゲ等)、Typhaceae (ガマ科: ガマ)、Liliaceae (ニリ科: バイケイソウ・オオウバユリ・ユキザサ・タテギボウシ・エンレイソウ・マイズルソウ等)、Iridaceae (アヤメ科: ヒオウギアヤメ・ノハナショウブ)、Lysichiton (ミズバショウ属: ミズバショウ)

胞子: Osmundaceae (ゼンマイ科: ゼンマイ・ヤマドゼンマイ等)、Lycopodiaceae (ヒカゲノカズラ科: ヒカゲノカズラ等)、Monolate type spore (シダ類: オシダ・ヒメシダ等)、Pteridaceae (ワラビ科: ワラビ等)

全般に広葉樹花粉では Quercus・Alnus・Ulmus・Acer、針葉樹花粉の Piced・Abies、草本花粉の Gramineae・Polygonaceae・Ranunculaceae・Artemisia、胞子の Osmundaceae・Monolate type spore が多く出現する。

H-2、II層: 広葉樹の Quercus・Alnus・Acer・Betula・Fraxinus・Juglans・Phellodendron・Araliaceae・Salix と針葉樹の Picea・Abies・Pinus が多く出現するが、なかでも Quercus・Alnus が優勢である。

草本・胞子では Polygonaceae・Ranunculaceae・Rosaceae・Artemisia・Carduoideae・Gramineae・Osmundaceae・Monolate type spore が多く出現するが、なかでも Gramineae・Polygonaceae・Artemisia が優勢である。その他、Fagopyrum がわずかではあるが出現する。

P-496、V層: 広葉樹の Quercus・Alnus・Ulmus・Juglans・Fraxinus・Acer・Araliaceae・Salix と針葉樹の Picea・Abie・Pinus が多く出現するが、なかでも Quercus・Alnus・Abies・Ulmus が優勢である。

草本・孢子では Polygonaceae・Ranunculaceae・Rosaceae・Artemisia・Carduoideae・Cyperaceae・Osmundaceae・Monolate type spore が多く出現し、Gramineae・Artemisia・Carduoideae・Monolate type spore が優勢である。その他に 1% 弱ではあるが Fagopyrum と Chenopodiaceae・Caryophyllaceae・Cruciferae が出現する。

P-465. 試料 No. 1~8 : No. 8~1 にかけて広葉樹の Quercus・Alnus・Betula・Ulmus・Fraxinus・Acer・Araliaceae・Satix・Tilia・Juglans と針葉樹の Picea・Abies・Pinus が多く出現し、Alnus・Quercus が優勢である。針葉樹の Picea と広葉樹の Fraxinus・Salix が下位により上位にむけてわずかに増加し、Quercus・Ulmus・Acer・Tilia が減少する傾向をみせる。

草本・孢子では Polygonaceae・Ranunculaceae・Umbelliferae・Artemisia・Carduoideae・Gramineae・Cyperaceae・Osmundaceae・Monolate type spore が多く出現し、Gramineae・Polygonaceae が優勢を示す。Polygonaceae・Cyperaceae が下位より上位に向けて増加し、Ranunculaceae・Artemisia・Carduoideae・Gramineae が減少する傾向をみせる。

旧河道右岸斜面、試料 No. 1~4 : 広葉樹の Quercus・Alnus・Ulmus・Betula・Juglans・Fraxinus・Magnolia・Tilia・Acer・Araliaceae・Salix・Hydrangea と針葉樹の Picea・Abies・Pinus が多く出現し、Alnus・Quercus が優勢である。No. 3 で Abies・Picea も一時優勢となる。

草本・孢子では Gramineae・Polygoraceae・Ranunculaceae・Umbelliferae・Artemisia・Carduoideae・Cyperaceae・Osmundaceae・Monolate type spore が多く出現し、Gramineae・Monolate type spore が優勢を示す。

4. 古植生について

1). 遺跡周辺の古植生

試料を採取した住居跡・土壌・河岸の露頭により、樹木・草本花粉・孢子の出現率にわずかな違いがみられるが、優勢を示す花粉・孢子は概ね共通する。

花粉分析の結果確認された花粉群集をもとに、遺跡周辺の縄文時代晩期から権文時代の植生は次のように推定される。

遺跡の近くを流れるママナ川の流路沿いには、ハンノキにヤシダモ・ヤナギ類をまじえた低湿地林が形成され、湿地にはヨシ・各種のスゲ・ミゾソバ・アリノトウグサ等が繁るハンノキ・ヨシ群落が分布していた。低湿地に接した、いくぶん湿った地域にはハルニレ・オニグルミ林が分布し、林床にはハンゴンソウ・オオアキ・ヤマアキショウマ・オオウバユリ・タチギボウシ・ミヤマエンレイソウ・キンミズヒキ・オシダ・ヒメシダ・ヤマドリゼンマイ等が生育し、林の縁や遺跡の生活空間となっていた陽地にはオオイトドリ・オニシモツケ・エゾニユウ・オオヨモギ・スズキ・エゾノサワアザミ・アキカラマツ等がいくつかの高茎群落をつくって繁っていた。

台地の斜面にはミズナラ・サワシバ群落が形成され、ミズナラ・シラカンバ・イタヤカエデ・ヤマモミジ・ハリギリ・サワシバ・アズキナシ・カツラ・キハダ・ホウノキ・シナノキ・ヤマウルシ等が生育していた。

エゾマツ・トドマツ・ハイマツ・スギ等の針葉樹と、広葉樹のブナの花粉が検出されたが、スギは道内では自生分布しない針葉樹であり、ブナは道南の黒松内低地帯を自生分布北限とする広葉樹で、これら 2 種の花粉については風によってそれぞれ本州と道南から道搬されたもの

と考えられる。ハイマツは至高山帯に分布する植物であることから、周囲の山地から風によって供給されたものと考えられる。トドマツは台地上で広葉樹とわずかに混交し、エゾマツはハイマツ同様に周囲の山地から供給されたもので、遺跡周辺の低地にはこれらの針葉樹は分布していなかったと考えるのが妥当であろう。

ここで推定される植生は、現在の同地周辺で確認される植生⁹⁾とはほぼ一致するものである。

2). *Fagopyrum* 花粉について

縄文時代晩期の住居跡(H-2、第II層床面近く)、土壌(P-496、第V層~墳底)の試料から *Fagopyrum* 花粉が検出された。

いまのところ、縄文時代の遺跡で確認される *Fagopyrum* 花粉は後期・晩期より古くは、さかのぼらず、岩手県北上市九年橋遺跡³⁰⁾・青森県田子町石亀遺跡³¹⁾・北海道奥尻町東風泊遺跡³²⁾の晩期の遺跡³³⁾で確認されるほか、福島県福岡市板付遺跡³⁴⁾の約2,800年前の低湿地堆積物³⁵⁾・青森市月見野湿原の約3,200年前の堆積物³⁶⁾で確認されている。さらに、本道では統縄文時代の上磯町下添山遺跡³⁷⁾・奥尻町東風泊遺跡³⁸⁾・白老町アヨロ遺跡³⁹⁾・江別市西野幌1遺跡⁴⁰⁾・旧豊平川河畔遺跡⁴¹⁾、縄文時代の奥尻町青苗遺跡⁴²⁾・函館市鶴野2遺跡、千歳市三角山遺跡⁴³⁾・名寄市智東H遺跡⁴⁴⁾・小平町高砂遺跡⁴⁵⁾・天塩町天塩川口遺跡⁴⁶⁾でも *Fagopyrum* 花粉が確認されている。

縄文時代晩期の遺跡および同時期に相当する湿地性堆積物で確認されている *Fagopyrum* 花粉について塚田(1981)⁴⁷⁾は焼畑作物としている。事実、花粉のみではなく縄文時代晩期の埼玉県真福寺遺跡⁴⁸⁾と、縄文時代の北海道豊富町豊富遺跡⁴⁹⁾でソバガラが確認されソバが確実に存在したことを示している。

道内の遺跡で確認される *Fagopyrum* 花粉についても、遺跡周辺で栽培されたソバが母植物と考えられるが、現在のところ焼畑作物として栽培されたことを示す資料を得ているわけでもなく、その栽培形態については不明であるが、縄文時代晩期~縄文時代にかけてソバが栽培されていたことは確実である。

5. まとめ

ママチ遺跡の花粉分析を行った結果、次のことが明らかとなった。

1) 樹木花粉25属1科、草本花粉3属21科、孢子4科の28属26科の花粉・孢子が確認された。

2) 検出された花粉群集をもとに、縄文時代晩期から縄文時代にかけて、遺跡周辺にはハンノキ・ヤチダモ・ヤナギ・ヨシ群落、ハルニレ林が存在し、背後の傾斜地にはミズナラ・サワシバ林が分布していた。

3) 住居跡(H-2、第II層)、土壌(P-496、第V層~墳底)の覆土から *Fagopyrum* 花粉が検出され、縄文時代晩期頃にソバが栽培されていた。

6. 引用・参考文献

1) 寺崎昭紀(1978): 苗別流域における植生調査、千歳市文化財調査報告書II、千歳市教育委員会

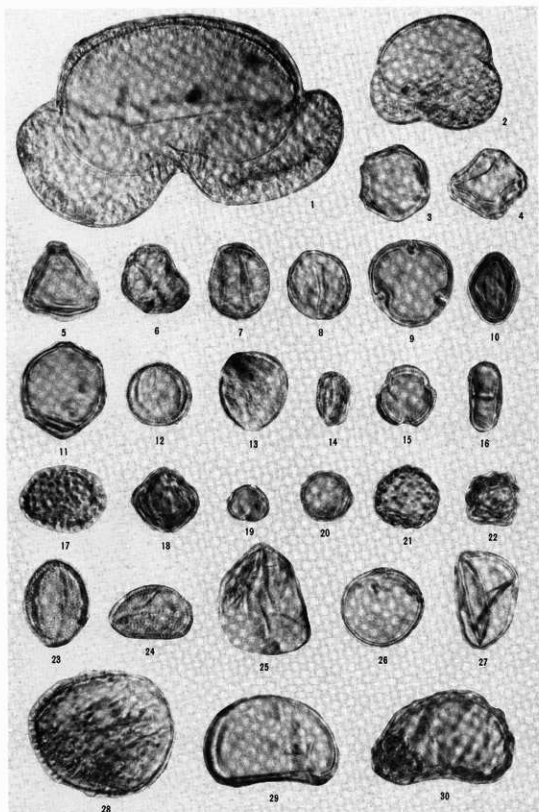
2) 山田悟郎(1980): 岩手県北上市九年橋遺跡の花粉分析について、北上市文化財調査報告書、第29集、北上市教育委員会

3) 那須考徳・飯田祥子(1975): 青森県石亀遺跡(縄文晩期)の花粉分析、青森県田子町石

亀道跡第二・三次発掘調査概報、平安博物館

- 4) 山田悟郎 (1980) : 縄文晩期層のソバ属花粉、どるめん、No. 27
- 5) 中村純 (1977) : 稲作の起源をさぐる一花粉分析一、数理科学、No. 170
- 6) 中村純他 7 名 (1979) : 稲作の起源と伝播に関する花粉分析学的研究、自然科学の手法による遺跡、古文化財等の研究、昭和 53 年度年次報告書、文部省科学研究費特定研究「古文化財」総括班
- 7) 山田悟郎 (1982) : 下添山、鶴野 2 遺跡の花粉分析結果、北海道における農耕の起源 (予報)、一文部省科学研究費による一
- 8) _____ (1980) : 花粉、アヨロ、白老町教育委員会
- 9) _____ (1980) : 西野幌 1 遺跡の花粉分析、北海道縦貫自動車道江別地区埋蔵文化財発掘調査報告書、北海道埋蔵文化財センター
- 10) _____ (1981) : 元江別遺跡群の花粉分析、江別市文化財調査報告書XIII、江別市教育委員会
- 11) _____ (1981) : 花粉分析、奥尻島育苗遺跡、奥尻町教育委員会
- 12) _____ (1978) : 住居跡内から検出された花粉について、千歳市文化財調査報告書、千歳市教育委員会
- 13) _____ (1977) : 名寄市智東遺跡の花粉分析、名寄市文化財調査報告書、名寄市教育委員会
- 14) _____ (1983) : オピラウシュベツ遺跡の古植生について、おびらたかきご、小平葉川河川改修工事に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書、小平男教育委員会
- 15) _____ (1975) : 天塩川口遺跡の花粉分析、天塩川口遺跡、天塩町教育委員会
- 16) 塚田松雄 (1981) : 過去一万二千年間、日本の植生変遷史II、新しい花粉帯、日本生態学会誌、31
- 17) 甲野勇 (1953) : 縄文土器のはなし、世界社
- 18) 河野広道 (1959) : 北海道出土の大型 U 字形鉄器について、北海道学芸大学考古学研究会連絡紙、19 号



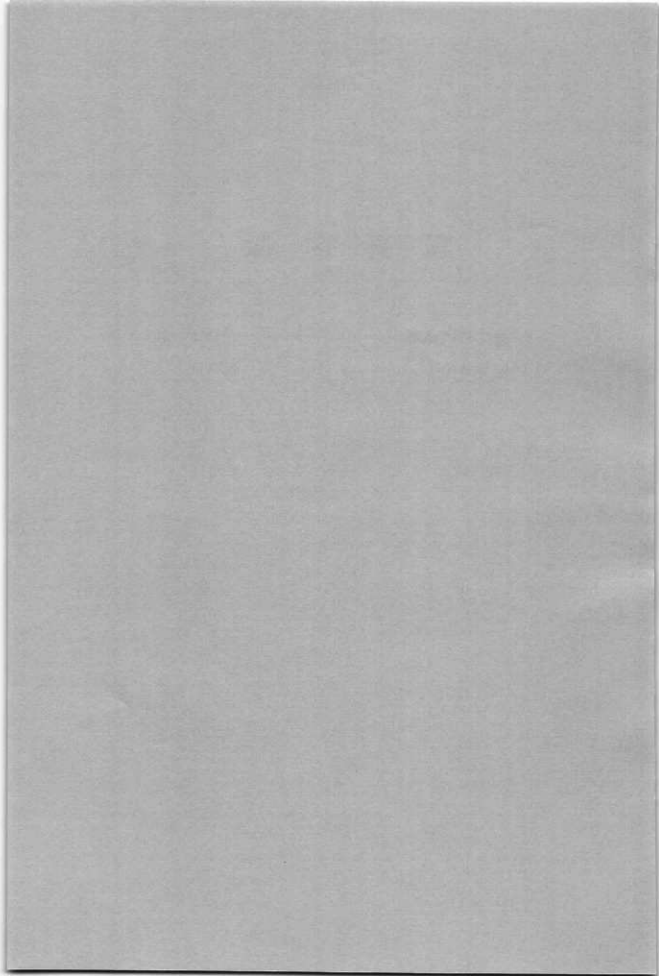


図版の説明

1・ <i>Abies</i>	6ライン北側, No.3
2・ <i>Pinus</i>	H-2, II層
3・ <i>Alnus</i>	P-496, II層
4・ <i>Alnus</i>	P-465, No.1
5・ <i>Betula</i>	6ライン北側, No.3
6・ <i>Quercus</i>	6ライン北側, No.3
7・ <i>Quercus</i>	H-2, II層
8・ <i>Ulmus</i>	P-496, V層
9・ <i>Tilia</i>	6ライン北側, No.2
10・ <i>Araliaceae</i>	6ライン北側, No.2
11・ <i>Juglans</i>	6ライン北側, No.4
12・ <i>Fraxinus</i>	P-496, V層
13・ <i>Acer</i>	H-2, II層
14・ <i>Salix</i>	6ライン北側, No.4
15・ <i>Artemisia</i>	H-2, II層
16・ <i>Umbelliferae</i>	P-465, No.5
17・ <i>Carduoideae</i>	P-496, V層
18・ <i>Rosaceae</i>	P-496, V層
19・ <i>Rosaceae</i>	P-496, V層
20・ <i>Ranunculaceae</i>	H-2, II層
21・ <i>Chenopodiaceae</i>	P-496, V層
22・ <i>Haloragaceae</i>	6ライン北側, No.2
23・ <i>Polygonaceae</i>	H-2, II層
24・ <i>Lysichiton</i>	P-465, No.3
25・ <i>Cyperaceae</i>	P-496, V層
26・ <i>Gramineae</i>	H-2, II層
27・ <i>Gramineae</i>	6ライン北側, No.2
28・ <i>Osmundaceae</i>	H-2, II層
29・ <i>Monolate type</i> spore	6ライン北側, No.4
30・ <i>Monolate type</i> spore	P-496, V層

写真図版

1. 縄文時代晩期……………図版 1～55
2. 擦文時代……………図版56



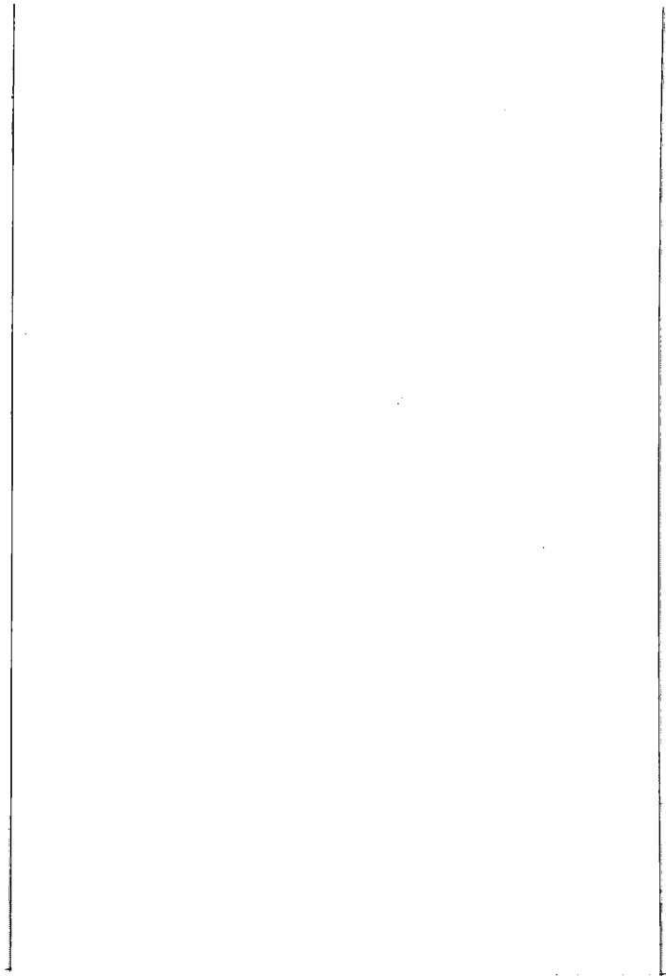
図版 1



II 黒層出土の上溝（II P-66）堆積状況



II 黒層出土の土嚢掘土堆積状況



圖版 2



遺跡全景 (1)



遺跡全景 (2)

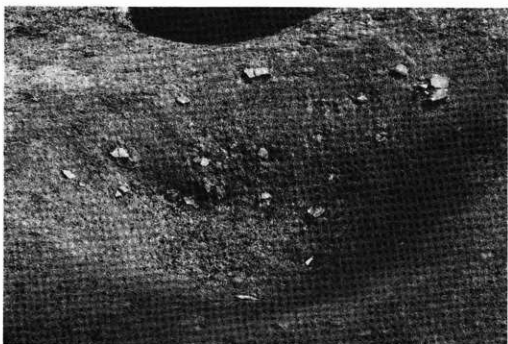


II 黒層の完掘風景 (1)



II 黒層の完掘風景 (2)

図版 4



II黒層の土壌 (II P-45)



II黒層の土壌 (II P-14)

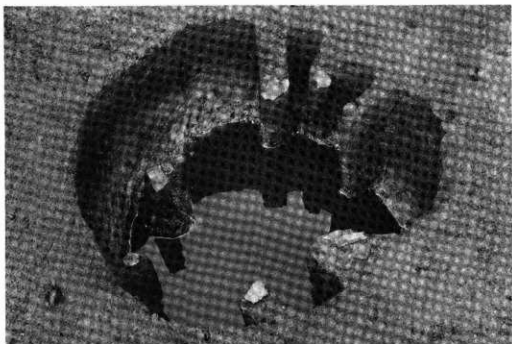
図版 5



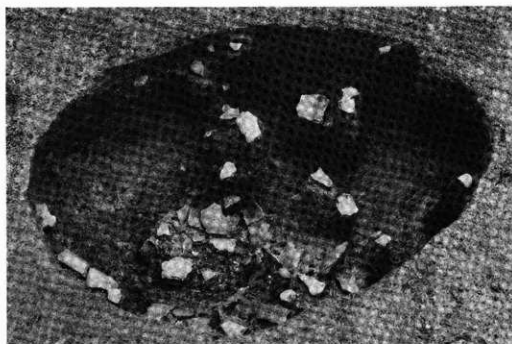
II黒層の土壌 (II P-20・18)



II黒層の土壌 (II P-40)



II黒層の土壌 (II P-41)



II黒層の土壌 (II P-98)



Ⅱ黒層の土壌（ⅡP-144）と土器出土状況



ⅡP-144完照

図版 8



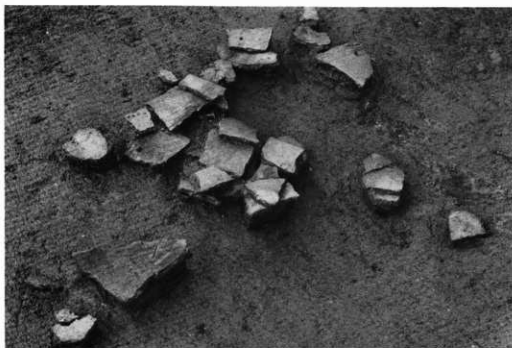
Ⅱ黒層の土器出土状況



Ⅱ黒層の土器出土状況



Ⅱ黒層の土器出土状況



II 黒層の土器出土状況



II 黒層の土器出土状況

図版10



I 黒層遺構の発掘風景 (56年度)



I 黒層遺構の発掘風景 (56年度)

図版11

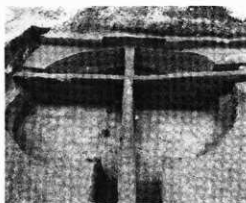


I 黒層遺構の完掘風景 (57年度)



I 黒層遺構の完掘風景 (57年度)

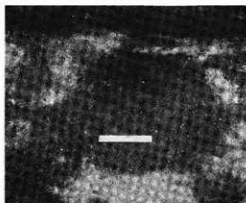
図版12: I 黒層の遺構 (1)



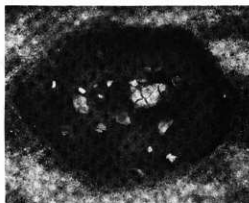
H-2 セクション



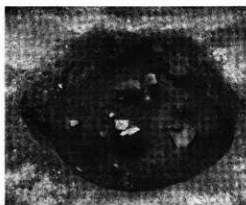
H-2 完掘



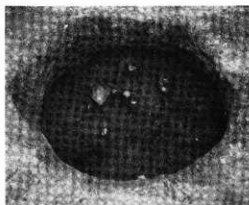
① I P-415 (確認面)



② I P-415 (-15cm)



③ I P-415 (-30cm)



④ I P-415 (-45cm)

図版13: I 黒層の遺構 (2)



I P-1



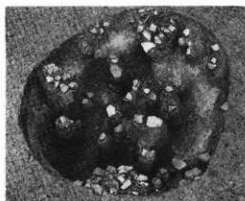
I P-3



I P-10



I P-10



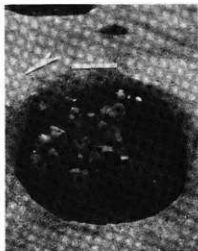
I P-145



I P-152・153・201



I P-201



I P-343



I P-215



I P-2



I P-439

図版15：縄文晩期の遺構（4）



I P-113



I P-233



I P-318



I P-339



I P-474



I P-478

図版16：縄文晩期の遺構（5）



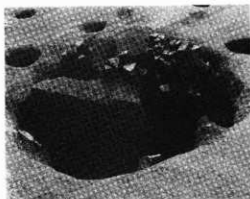
I P-416



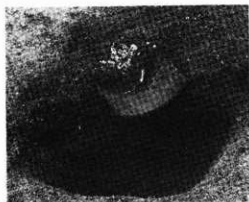
I P-414



I P-213



I P-223



I P-502



I P-529

図版17：縄文晩期の遺構（6）



I P-197（手前）・I P-198



I P-197（手前）・I P-198



I P-198（石器）



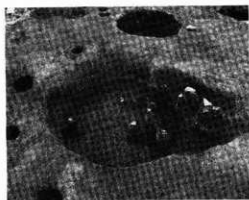
I P-198（副葬品）



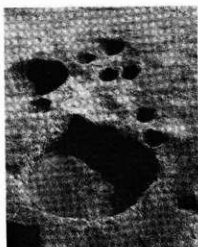
I P-198（エナメル質）



I P-198（副葬品）



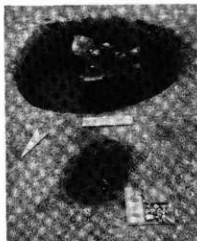
IP-4とSP



IP-166・163・187とSP



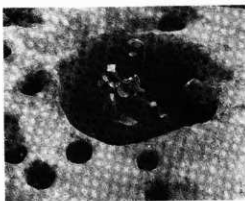
SP-150



SP-161



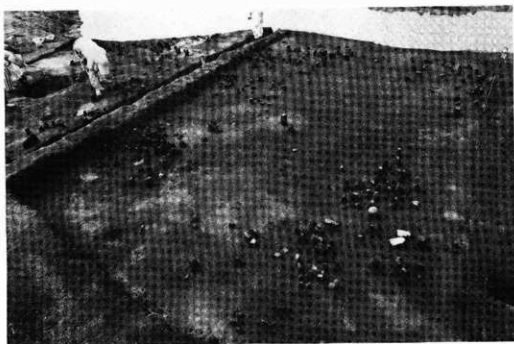
IP-478とSP



IP-239とSP

図版19：土器塚出土状況





D-6-a



D-3区

圖版21：遺物出土狀況



I 黑曜一括



P-213確認面 (Ta-c)



E-7-a

図版22：Ⅱ黒層出土の土器（1）



Ⅱ黒層出土の深鉢



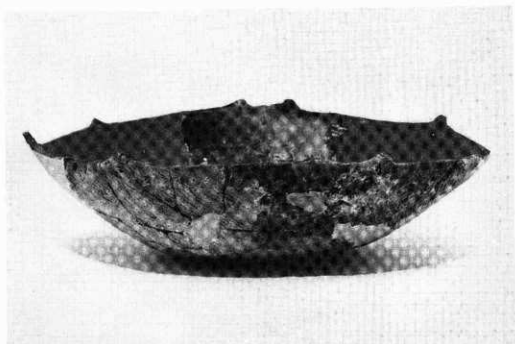
Ⅱ黒層出土の浅鉢



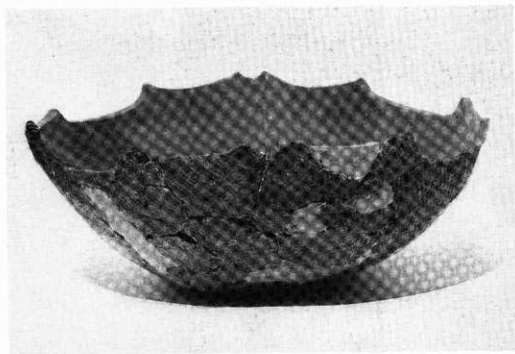
I 群（深鉢）



I 群（深鉢）



I 群（大型浅鉢）



I 群（大型浅鉢）

図版25：Ⅱ黒層出土の土器（4）

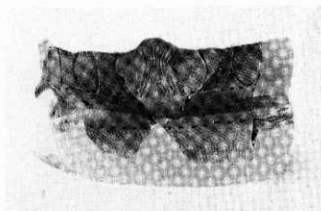


Ⅱ群（深鉢）

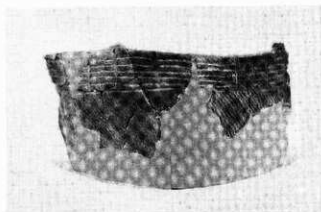


Ⅱ群（深鉢）

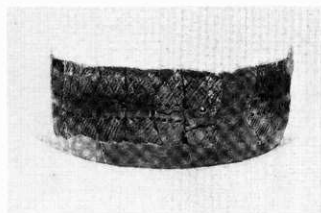
図版26：Ⅱ黒層出土の土器（5）



Ⅱ群（深鉢）



Ⅱ群（深鉢）



Ⅱ群（深鉢）

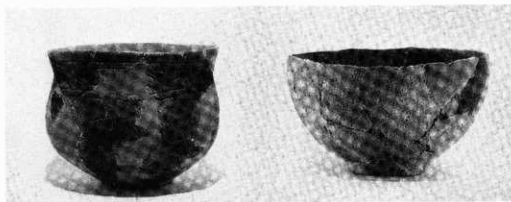
図版27：II黒層出土の土器（6）



II群（深鉢）



II群（大型浅鉢）



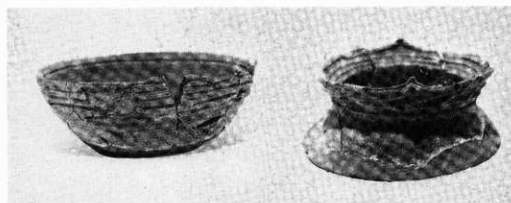
I 群（鉢）

I 群（浅鉢）



II 群（浅鉢）

I 群（浅鉢）



亀ヶ岡系（浅鉢）

亀ヶ岡系（蓋）

図版29：I 黒層出土の土器（1）

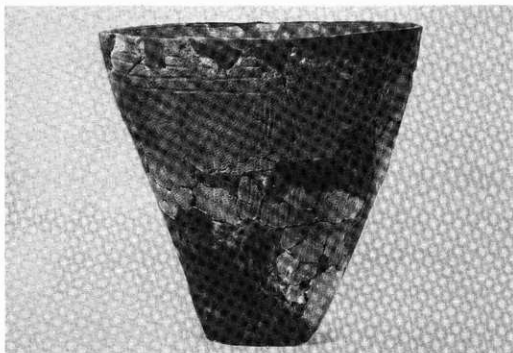


I 黒層出土の深鉢

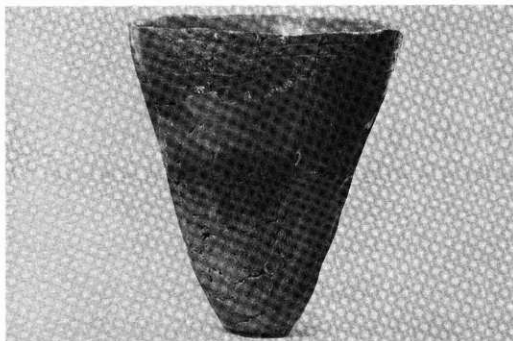


III群（深鉢）

図版30：I 黒層出土の土器（2）



Ⅲ群（深鉢）



Ⅲ群（深鉢）

図版31：Ⅰ黒層出土の土器（3）

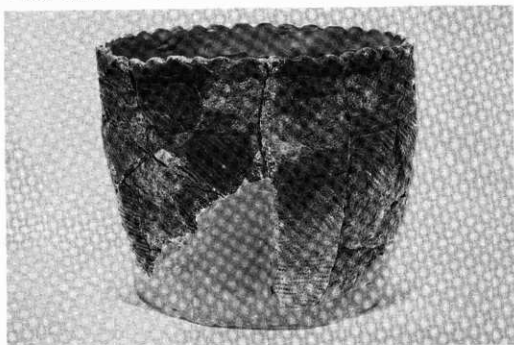


Ⅲ群（深鉢）

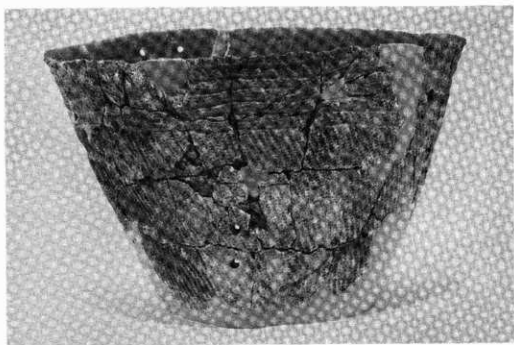


Ⅲ群（深鉢）

図版32：I 黒層出土の土器（4）



Ⅲ群（深鉢）



Ⅲ群（深鉢）

図版33：Ⅰ黒層出土の土器（5）



Ⅲ群（鉢）



Ⅲ群（大型浅鉢）

図版34：Ⅰ黒層・土器塚出土の土器（1）



土器塚出土の土器



Ⅳ群（深鉢）

図版35：I 黒層・土器塚出土の土器（2）

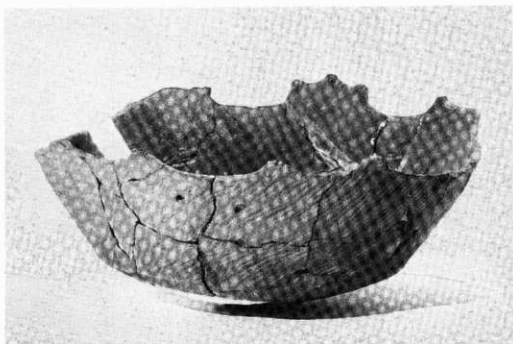


IV群（深鉢）

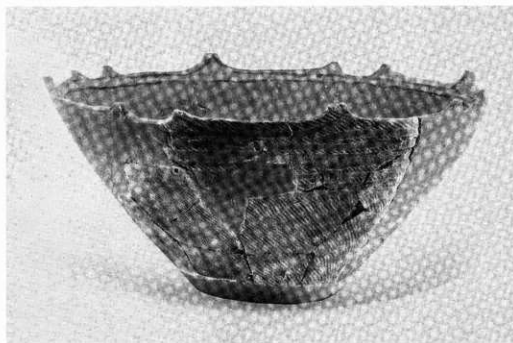


IV群（浅鉢）

図版36：I 黒層・土器塚出土の土器（3）



IV群（大型浅鉢）



非在地系（鉢）

図版37：I 黒層出土の土器（6）

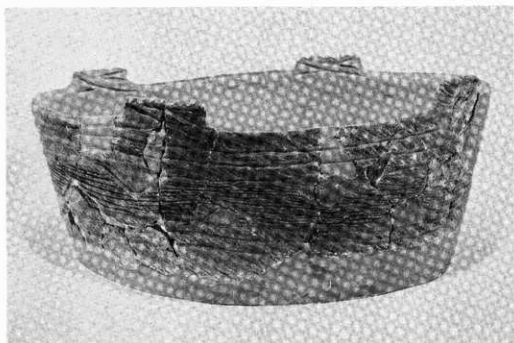


非在地系（深鉢）

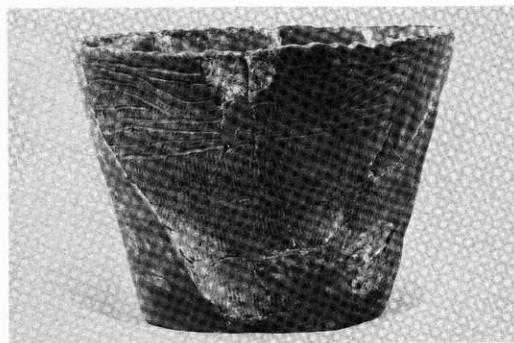


非在地系（鉢）

図版38：Ⅰ黒層出土の土器（7）



V群（深鉢）



V群（深鉢）



V群（台付鉢）

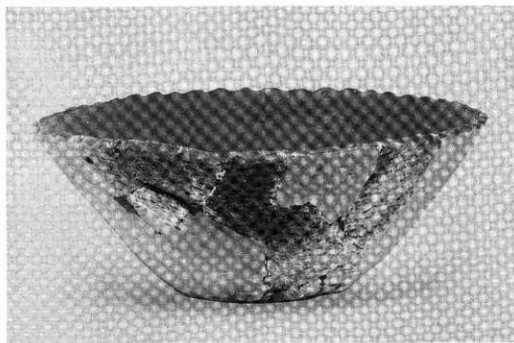


V群（台付鉢）

図版40：I 黒層出土の土器（9）



非在地系（浅鉢）



V群（大型浅鉢）

図版41：I 黒層出土の土器 (10)



非在地系 (鉢)



V群 (舟形土器)



V群 (舟形土器)

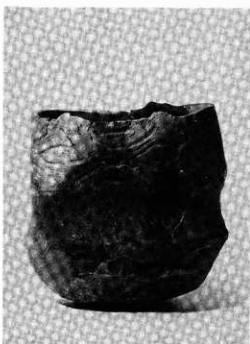


V群 (舟形土器)

図版42：Ⅰ 黒層出土の土器 (11)



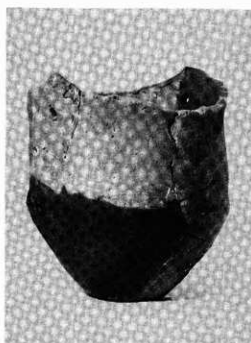
V群 (舟形土器)



V群 (舟形土器)



V群 (舟形土器)



V群 (舟形土器)

図版43：I 黒層出土の土器（12）



I P-213出土の土器



I P-10出土の土器

図版44：I 黒層出土の土製品



板状土偶



凹弧文



凹弧文



格子目文



蛇行沈線文



入組み文



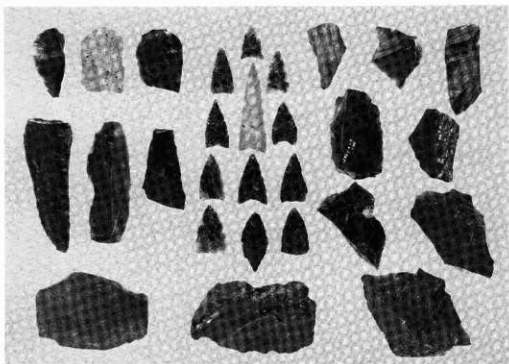
矢がすり文・弧線文



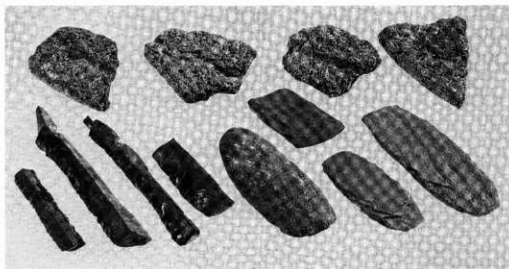
入組み文



弧線文

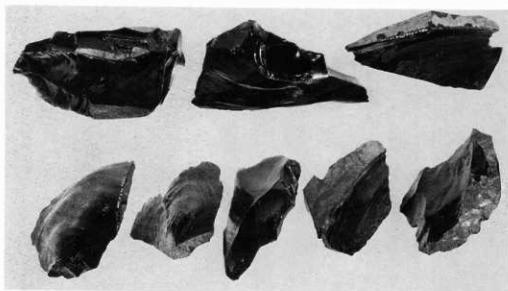


I P-198出土石器

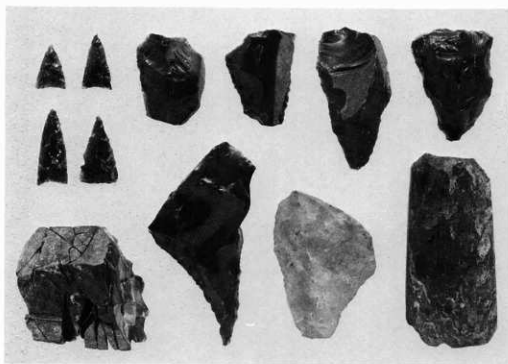


II P-198出土石器

図版47

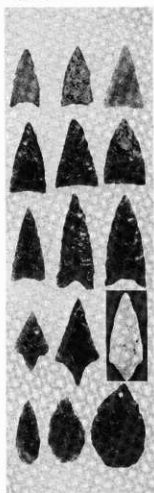


I P-414出土の大型剥片



P-467出土石器と剥片接合状態 (左下)

図版48



石鏃



ナイフ・スクレイパー類



I 黒層出土の遺構出土石器

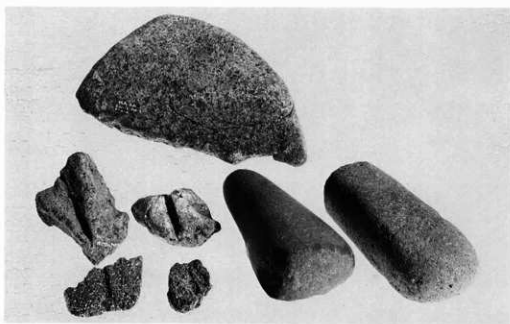
図版49



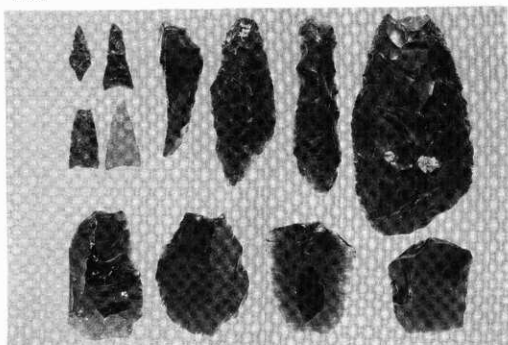
I 黒層遺構出土の石器



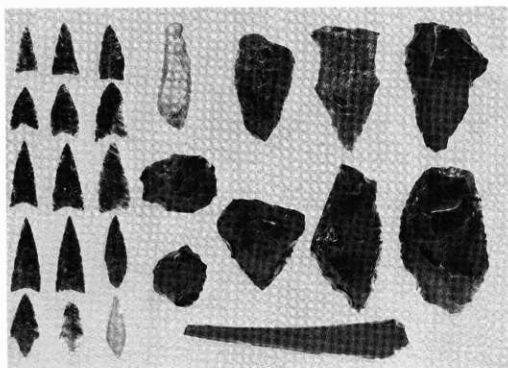
I 黒層遺構出土の石製品



I 黒層遺構出土の石器

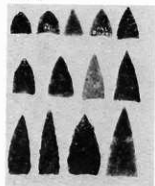


小ビット出土の石器



土器塚出土の石器

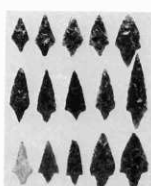
図版51



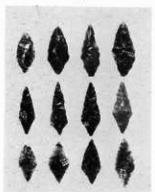
1



2



3



4



5



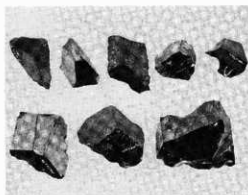
6



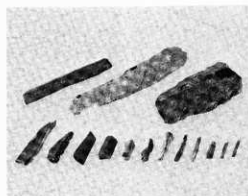
I 黒層出土の石器



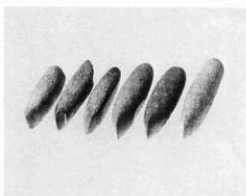
I 黒層出土の石器・石製品



I 黒層出土コア



I 黒層出土の棒状原石
(1本II黒層のものがある)



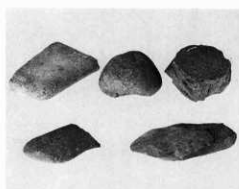
石 斧



石 斧



たたき石



すり石



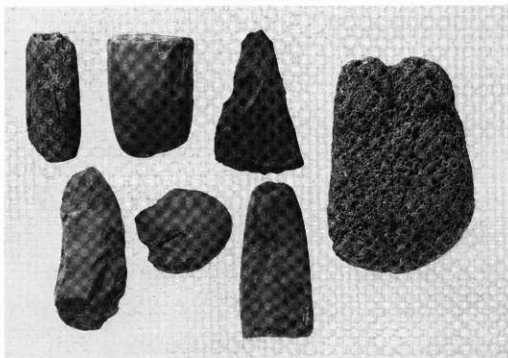
砥 石



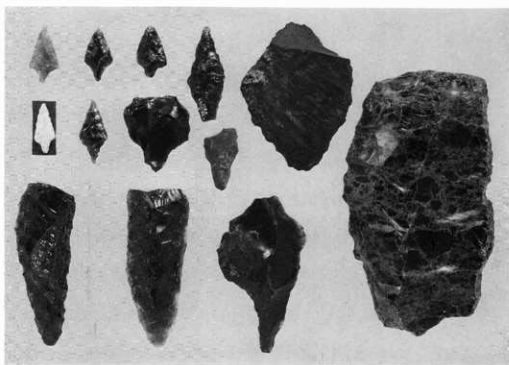
砥石 (矢柄研磨器)



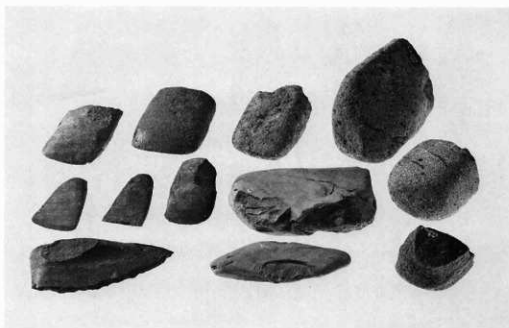
II黒層出土の剥片石器



II黒層土坑出土の礫石器・石製品

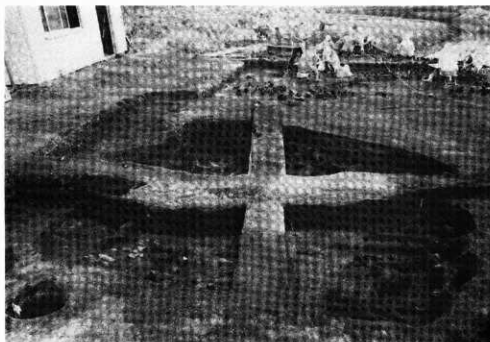


II黒層土墳出土の剥石石器

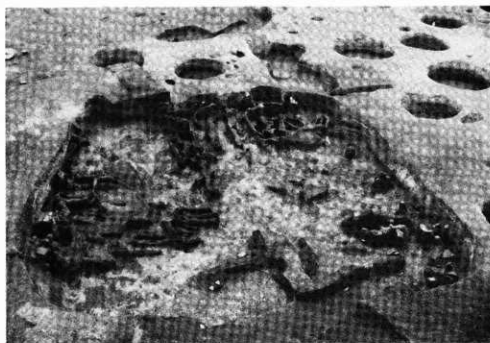


II黒層出土の礫石器

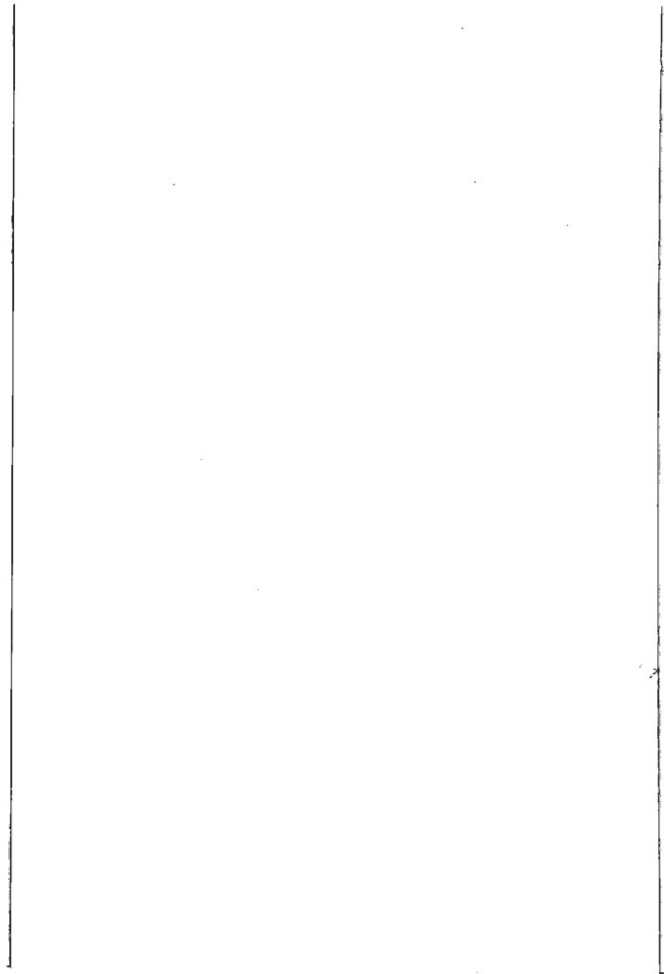
図版56：弥文期の遺構



H-1 セクション



H-1 炭化材出土状況



(財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第9集

マ マ チ 遺 跡

— ママチ川障害防止用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

昭和58年3月31日発行

編集・発行 財団法人北海道埋蔵文化財センター

〒064 札幌市中央区南15条西17丁目

TEL (011) 561-0067

印刷 第一法規出版株式会社

〒064 札幌市中央区北4条西6丁目

(毎日札幌会館)

TEL 05 (011) 281-6061

